

日に至る。
 ●境内二千七百六十六坪、堂宇中、金堂は桁行前五間後七間、椀間五間、重層、屋根四注造、本瓦葺にして現に國寶建造物なり。其天井に雲龍の畫あり、天文庚子冬十月日僧水怡筆と落款せり。以て寺傳の朝鮮移建設の誤謬を察知すべし。純然たる禪宗建築にして屋根の勾配極めて緩く、軒端反轉なく、形態低重なり。軒は上下共に二重扇垂木、組物上層は三手先の詰組、下層三斗組、椀間五間の内正面一間を開放せるは異色とすべし。内部總て桶彩色、後世の補修の痕を存するも、室町末期の優秀なる一遺構とすべし。金堂本尊木造聖師如來坐像一軀は總金箔置、面相圓滿にして衣紋頗る溫和、藤原時代の典型的彫刻として現に國寶に指定せらる。重層の樓門は寺傳に金堂と共に朝鮮より移建せしものと傳ふる遺構にして、現に尾樫木の末に朝鮮木、文縁三斗影り付けしものを諸所に存すと云ふ。寺寶中、聖德太子傳ふる銅製性鐘一口は國寶に指定せらる。形式通行の朝鮮鐘にして尾上神社所藏の鐘に比し粗製の感あり、向背二箇所の蓮華形推座間に更に二箇所の蓮華形の裝飾を施す。内に菩薩、其肩に信相菩薩と鐫出す。其他佛像・佛畫・古文書等に頁り所藏頗る多し。
 ●大藏日(五月八日)。

淨土寺 尾道市尾崎町。

●眞言宗泉涌寺派。

●轉法輪山大乘院と號す。寺傳に推古天皇二十四年、聖德太子の建立に係ると云ふ。弘安、正應年間、寺運頓衰して鐵かに無茶屋堂一字を存するのみなりしが、嘉元年中、僧定慶、金堂、五層塔、鐘樓、食堂、厨舎等を再興す。正中二年、回縁に罹り其後復興に努む。元弘年中、繪旨を下して新壽を命ぜらる。延元元年、足利尊氏致書に遣る、に際し、本寺に陳して近國の兵を招集す。同年四月、大軍を率ゐて再び東上するに方り、



(實圖) (堂 院 無 阿 寺 土 淨)

また本寺に泊し、寺僧道深並に諸將士と普門品念被傷を願とし和歌三十三首を誦じて法樂を修す。辨應元年、足利尊氏、同直義安國寺利生塔を建て、佛舍利を本尊となす。嘉祥年間より貞和元年に至る迄、金堂、

多寶塔等諸堂の重修成る。應安七年、足利義滿また本寺に宿す。正保年中、利生塔焼失す。明暦年間、高野山末寺を改めて泉涌寺に屬す。現に國寶特別格本山なり。

●寺境奇巖怪石突兀たる相瑞峯を負ひ、前面龍巖の碧潭に臨む。本堂・阿彌陀堂・多寶塔・文殊堂・開山堂・護摩堂・經堂・書院・庫裡・勸使門・鐘樓等軒楹を接す。就中、本堂、阿彌陀堂、多寶塔の三字は現に國寶建造物なり。本堂は境内に中央多寶塔と東西に對立して南面す。桁行五間、椀間五間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、嘉祥二年の建立に係る。機高く、入母屋稍々大に過ぐ。四方廻縁を繞らし、高欄を組み、前面一間の向拜を附す。内部虹梁、斗拱すべて唐様の手法に出で、和様の手法を混用す。横式鎌倉末期の特徵を認む。阿彌陀堂は本堂の傍にあり。桁行五間、椀間四間、單層、屋根四注造、本瓦葺、康永四年の建立なり。屋根の流れ長く且つ緩くして軒端相當の反轉あり、檼附や雄大、斗拱は出三斗を使用し、斗拱間に双斗を納めて中備とし、双斗の肘木に一種の花射木を用ひ、繪棟彫刻を施す。此點和様の構造に一種の天然の手法を混ぜしものと認めらる。頭貫下の双斗裏腹に至りては、播磨龍林寺の夫よりも意匠に於て甚だ奇拔複雑なり。其下板裏腹の形状優雅、之にも繪棟彫刻を施す等其手法法全く他に類を見ず、全般の形態整備し、権衡極めてよく、康永四年の建立と云ふも、寧ろ鎌倉時代建築の風調を存す。多寶塔は本堂の東に建ちて西面す。三間二層塔婆、本瓦葺、元徳元年の建立とす。下層三間三層塔婆に廻縁を繞らし、高欄を附す。軒は機組なる二重棟を分布し、斗拱比較的莊重の感あり。上層龜腹上に立ち下層と同じく高欄を繞らし、屋頂相輪を冠して四條の楹を以て臺の四隅に連結す。龜腹相・厚置にして

圓筒の首高きに過ぎ、上下屋蓋の權衡を失する爲め美觀に乏しと雖も、臺股、斗拱等に



(實圖) (蹟 眞 氏 井 利 足 齋 所 寺 土 淨)

明王院本尊十一面觀音立像と共に弘仁期に於ける優作

なり。定慶起請文中に「金堂一字(中略)本尊聖德太子御作身背金色十一面觀音像安置宮殿石坐像(中略)」とあるもの即ち本像なるべし。開山堂安置に係る木造聖德太子立像二軀の内一軀は桃爛の桶彩色像にして足の柄に乾元二年作の銘を存す。他の一軀は前者に比し稍々大にして亦同時代若しくは南北朝時代の作とすべし。寺寶中國寶に指定せられしものに、紺紙金銀泥法華經(卷第七)一卷(天曆三年の奥書を存す)・紙本墨書觀世音法變和歌一卷・同定慶起請文一卷(嘉元四年、附、一同家文簿簡一通)・同淨土寺文書(建武四年十月日寺領注文一通)・足利尊氏寄進狀外關係文書九通(卷一)等あり。就中、觀世音法變和歌は建武三年五月五日尊氏の撰詞を有し、尊氏九州より東上の途次、其一族の訣歌にして、尊氏手書して佛前に供せしものなり。起請文は本寺の再興を三寶に祈りしものにして奥に尚血の手判あるを以て俗に手印起と稱せらる。他に後醍醐天皇繪旨一通・後水尾、後柏原天皇繪輪・尊親親王聖光明會願文・足利直義利生塔遺發書等初め、佛像・佛畫・什器等に頁り、多数み藏す。

●天童子行列本尊大法會(舊一月十七日、十八日)、宗祖弘法大師降誕會(六月十五日)、緣日(毎月十七日、十八日)。

西國寺 尾道市久保町。

●古義眞言宗。

●摩尼山總持院と號し、御室末なり。天平年中、行基此地に來り、香水を以て佛像を手刻し、一寺を建立して安置すと云ふ。治暦二年、回縁に罹り、荒廢する事十有七年、白河天皇、御室性信法親王の弟子慶護に命じ再興して勸願所と定められ、數箇所の莊園を寄せ

らる。天仁元年、始して不審經の法を修せしむ。正和元年、花園天皇より尾道浦一圓知行の繪旨を賜はる。時に伽藍の規模宏壯、其整備せること西國第一たりしを以て、稱して西國寺と云ふと傳ふ。其後、再び回縁に遭ひ、住僧有尊、足利義教に請ひて之を重修す。義教即ち之を撥賣し、永享四年、再興の功を遂げ、門樓堂塔大いに具はる。近世福島氏の時寺領を失ひ、後三度火を失し、南大門、總門、仁王門等を焼失す。現に末寺二十五箇寺を有す。



(實圖) (堂 本 寺 國 西)

●堂宇中、本堂及び三重塔は現に國寶建造物なり。本堂は一に金堂と稱し、桁行五間、椀間五間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺にして、屋蓋の勾配稍々急、入母屋大きく垂入深からず、手法純然たる唐様を存し、要部二重虹梁を架し、大瓶束を置きて上虹梁を支承し、上虹梁上更に大瓶束を以て地柱を支持せる構造稍々見るに足る。外観權衡整備し、木割、手法等雄大の精神

を發揮し、和唐兩様を混和せる和様新派の建築として成功せる點恰も河内國觀心寺本堂を見る如き感あり。建立年次明瞭なれども、室町初期の風調を存す。三重塔は本堂後丘上にあり、三間三層塔、屋根本瓦葺にして、永享四年足利義教の遺詔に係る。二層、三層廻縁を繞らすも最下層に之を施さず、地長押は直挿小高き段組石壇上に建てる。當代建築として稀に見る手法に屬し、奈良興福寺五重塔、京都法興寺五重塔外敷基を存するのみなり。蓋し其形式古式を踏襲せるものと云ふべく、木割手法一般に雄大の性質を帯び、各層軒下、屋蓋に比し細長きに過ぐる體ありと雖も、當代塔



(寶蹟) (那重三寺西)

礎建築に於ける妊個の遺構たり。本堂本尊木造樂師如來坐像一軀・同釋迦如來坐像一軀は國寶なり。前者は寺傳に空海作とするも、永保年間遺作なりべく、刀法優秀なり。後者は安阿彌作と傳ふるも鎌倉末期の遺風を存す。光背龕座共に後世の補作に係る。寺寶中、銅製五站一口・攝杖一柄・菩提金泥金光明最勝王經十卷は國寶なり。其中、鈴は一に松虫の鈴と稱し、空海將來と傳ふ。六面に四天王、二菩薩を牛内に鑿出し、把柄に蓮華を刻し、獅口五站の爪を吐く形を成し、製作極めて優秀、晩唐時代のものに屬す。攝杖亦同時代

の支那製にして、双龍を相反に纏繞せしめ、頂上に三化佛を載す。同じく空海の將來と傳ふ。他に繪畫二通。覺深法親王筆西國寺屬額・小松宮彰仁親王筆摩尼山屬額古文書・勅進額・華嚴經論一卷・春日曼荼羅一幅等多數を藏す。金堂の前に名木榎松あり、蟠屈せる老松の幹上二箇所の空洞より八重櫻を生じて奇觀を呈す。●毘沙門天祭禮(一月三日)、正御影供(俗稱花供養、三月二十日、二十一日)、土砂加持會(永久元年より白河院の宣旨によりて修行し來る、八月一日・七日、宗祖降誕會(九月二十一日))。

光明寺

尾道市土堂町。

●淨土宗西山派。●清淨山寶藏院と號す。承和年中、圓仁の草創と傳ふ。建武三年、僧道宗、足利厚氏に従ひて當寺に到り其後、再び來り、名を聖海と改めて之に住す。其後住僧履順、毛利氏の恩遇を得、寺運隆盛に向へり。享保年中、寶鏡寺親王より帷幕、釣燈及び扁額を賜はりて新廟所となる。●本尊木造子手觀音立像一軀は國寶に指定せらる。副體一木造、面相犀利にして藤原末期の作と推知す。但し後補の部分多し。俗に瀧分觀音と稱せらる。庭前の老松、價數數十間に及び、地方の名松として來觀する者多し。

千光寺

尾道市土堂町。

●眞言宗泉涌寺派。●大寶山と號す。創建年代不詳。多田滿仲之を中興すと傳ふ。其後、再び衰頹せしを、貞享年中、堂宇を

重興し以て今日に至る。●寺境大寶山の中腹にあり、千光寺公園と稱し、脚下に尾道市街を俯瞰し、一帯帯水を距て、向島を眺め、且つ遙かに讃、豫二州の峯嶺を望み、推して玉浦第一の絶勝とせらる。堂宇に本堂・大悲閣・毘沙門堂・護摩堂・方丈・庫裡・榎松庵等を具へ佛閣雅麗なり。本尊十一面觀音は多田滿仲の念持佛たりしと傳ふ。堂前に高さ四丈餘の石岩ありて鳥帽子岩と稱す。傳云ふ、往昔岩頭に寶珠ありて毎夜光輝を放てり、玉の浦の稱茲に基くと。

光明院

(貞八寺) 佐伯郡最島町。

●淨土宗。●俗に以八寺と稱す。天正年間、安藝の小河及西、當時當國留錫の僧以八の遺業に隨依し、此地に一字を創し、以八を請じて開山となす。是れ當院の濫觴なり。●境域五百二十六坪、寺境最島神社後方小丘の半腹にありて臨望絶佳、本堂・庫裡・方丈・山門等を具備す。寺寶中、木造阿彌陀如來坐像一軀・絹本善色金彩彌陀三尊來迎圖一幅は國寶に指定せらる。阿彌陀如來像は通例の上品下生の印を結び、極彩色にして鐵金文様巧緻なる室町初期の作とす。其光背、龕座及び厨子亦當初の遺品として注目せらる。寺傳には以八の念持佛なりと云ふ。彌陀三尊來迎圖は肉身金泥にして、鎌倉末期の様式を存す。他に寫繪・佛畫・佛像等を藏す。附近に陶晴賢の遺跡あり。

大願寺

佐伯郡最島町。

●古義眞言宗。

●龜山山光院と號し、具さに本願大願寺と稱す。大覺寺末なり。延暦年中の草創に係る。もと天台宗に屬し、最島神社の供僧坊たりしが、空海來りて眞言宗に改む。中古大内氏の菩提所となる。文治年中、了海榮繁之を中興す。古來當町大聖院に次ぐの由緒たり。●最島神社境内にあり。境域廣潤にして風致佳なり。寺寶中、國寶となれるもの次の如し。木造樂師如來坐像一軀は藤原末期の作に係り、同釋迦如來坐像・同阿彌陀尊者立像・同迦葉尊者立像の三軀はもと大經堂(千疊敷)の本尊たりしものにて何れも寫實的作風に富みし鎌倉時代の遺作、運慶、快慶の影響を受けし新手法を示す。紙本墨書尊海渡海日記一巻は當寺の僧尊海、大藏經を將來せんが爲め、天文年中、朝鮮に航せし時の日記にして、八曲屏風に裏書す。表に瀟湘八景を圖す。筆致より見て朝鮮人の作かと推考さる。現に東京帝國博物館出陳中なり。尙に境内廣潤にして風致佳なり。應永四年建立の五重塔あり。庭内に小松内府重盛手植の松、小西行長手植の白檀樹等存す。



(門大寺願大)

●大聖院 佐伯郡最島町。●古義眞言宗。

●御室末、大同元年、空海の開創と傳ふ。往昔より最島の總本坊、別當職たるの故に座主坊と稱し、世々御室御所の院室即ち神門跡の稱號を與へらる。古來十二箇の塔頭を擁し、神社の祭司を掌る。天正年間、御室仁助法親王(後奈良天皇御猶子)此處に住し給ひ本坊に於て薨去せらる。明治維新神佛分離の詔、祭祀を停止し、爾後、彌山講堂の別堂として今日に至る。明治十八年、聖駕中國巡幸の際、當山を在所に充てさせらる。同二十年、同様に遺ひ大師堂の一字を残すの外堂宇、寶物等悉く焼失す。近年再建の工に着手し寺觀漸く改まらんとす。

光禪寺

佐伯郡五日市町五日市。

●寺境廣潤、内海に臨みて眺望最も佳なり。大師堂の他に、近年再建の勸願堂・御成門及び昭和七年十一月落成の本堂(桁行前九間、後十一間、奥行十間、入母屋、銅瓦葺)あり。客殿・庫裡等また近く成らんす。本堂には舊最島神社本堂本尊十一面觀音(傳行基作)を安置す。院傍より當院の奥ノ院たる彌山に登る道は伊藤博文陸軍統監たりし時、改修して登山の便を圖れるものにして之を統監道と云ふ。山頂松杉鬱茂して靈神の窟窟をなす。この樹間を點綴せる諸堂は當院の所屬たり。即ち彌山本堂(求聞持堂)・三鬼堂・鐘樓堂等なり。彌山本堂(桁行二十五間、梁間十五間)は大同元年十月、空海當山開創の際、求聞持滿座の靈跡にして、長享元年、再興ありしが、後焼失して近年の再建に係る。求聞持の燈火今に絶えざるより「消えずの火」と稱せらる。三鬼堂は絶頂の一崖にあり、毎朝彼の御山神鶴鶴を嘴みに來ると云ふ。鐘樓堂には治水三年平宗盛寄進の銅鐘懸れり。是等の諸堂附近に最島神社奥宮たる御山神社を初め多數の小社、小堂あり。頂上に到りて所謂頂上石に立てば、近く南方に志岐山の翠嶺、西空に輪馬ヶ岳の突兀横聳し、遠く巖波に煙

洞雲寺

佐伯郡觀音村大字佐方。

●曹洞宗。●長享元年、櫻尾城主教親、周防龍文寺僧金剛を招き、當寺を建營し、當郡千月村の内寺領五段を寄せ、又當村及び宮内、平瓦寺諸村の内位持料茶湯免の地を置き、最島山中の薪木の伐採を許す。後大内、毛利二氏の時、寺領先規に準ぜらる。福島氏の時、寺領大

いに減じ三十二石餘なる。
●本堂・方丈・開山堂・坐禪堂・鐘守堂・鐘樓・衆寮等を具備す。寺寶として寄進狀三十七通・大内氏制札四枚其他古器・古書に頁り多数あり。寺内に陶金妻の墳墓あり。

福王寺

安佐郡龜山村大字鏡ヶ谷。

古義眞言宗

●金龜山事眞院を號し、御室末たり。天長五年、空海の開創に係り、淳和天皇御堂を建立せしめらる。時に鏡ヶ谷、九品寺、大毛寺の三村を寄せられ、左右に四十八字の僧坊軒樓を接し、一偉觀なりしと傳ふ。後、漸次廢頽せしが、正和四年、河内國丹南の僧眞知、其廢址に就きて草廬を結び、本寺を中興す。時に當國權臣武田氏信家會を遣送す。後醍醐天皇開運の祈禱を命ぜられ、大勝金剛院の號を賜はりしと云ふ。足利尊氏亦五重塔を建營す。備長海代、朝廷より本寺を郡内の門首と定めらる。應永元年、足利義滿に至り御教書を下し、四時護摩供を修せしめ、時の住持寛隆、東寺の佛舍利並に大師の眞影を移す。同六年、奈具村を以て永く大佛堂燈燭料に附せらる。後花園天皇より事眞院の勅額を賜はる。毛利氏累代の崇敬厚く當國密宗の僧徒司らしむ。寶曆年間、僧學知有部律を中興し、御室より本寺を以て有部律專門道場と定めらる。安永八年、回縁に罹り、僧學堂字の再建を遂ぐ。
●墳城一萬八千六百坪、寺境海抜千六百尺の頂上にあり、老僧巨松齋壽として世に安藝高野と稱せらる。堂宇に本堂・持佛堂・御影堂・客殿・庫裡・鐘樓堂・定室・仁王門・鐘守堂・臥雲寮・三鬼神社・八十八番地藏等あり。本堂には佛堂海作生木大聖不動明王を安置し、

客殿には阿彌陀如來を安置す。寺寶として眞如觀王御筆弘法大師像・後花園天皇御下賜佛舍利塔及び福王寺緣起等あり。寺内に金龜池あり、池中に嚴島明神を祀る。尙ほ磯石(さざれ石)として伊勢物語に見ゆと稱する怪石を傳ふ。傳説に、後醍醐天皇御遺愛のものにして時の守護武田氏の所屬切なりしが勅許なし、觀應二年中納言公忠に下賜せられ、其年公忠勸諭を蒙て當國に左遷せらる。や、氏信、公忠に乞ひて此石を城中に移す。然るに鳴動して止まざりしより本寺に移す。後、豐臣秀吉築城を營むに方り、復び同所に移せしが、又大いに怪異ありしより再び本寺に返せしものと云ふ。
●正御影供(四月二十一日)、近郷を初め廣島市方面よりの發願者數萬に及ぶと云ふ。

敬覺寺

高田郡横田村。

眞宗本願寺派

●林鐘山を號す。草創年代不詳、もと禪刹なりしが、大永元年、乘道堂字を營建して爲安山千歲坊と稱し、眞宗に改む。慶長九年、照林坊の末寺となりて敬覺寺と改む。二世兼秋の時、毛利氏に從ひて廣島に佛堂を建て、長州移封の後本寺に歸住す。毛利氏夫人厚く本寺に歸依し、寺田二十町歩を寄す。元和二年、寛永十九年の兩度、内陣に化佛現れ、朝廷より佛現堂の稱を賜はりしと云ふ。
●本尊は往昔石見國海上に出現し給ふ所と稱し、爲靈の念持佛なりしと云ふ。寺寶として觀音附屬佛舍利、阿彌陀名號・佛菩薩摩訶薩三尊像・佛堂海軍大觀面等を藏す。

照蓮寺

賀茂郡竹原町。

眞宗本願寺派

●龍頭山を號す。草創年代不詳、もと禪刹にして定林院と稱せしを、慶長八年、淨喜、眞宗に改めて再興す。第二世宗味現稱に改む。小早川隆景幼時本寺にて習學せし緣故を以て朝鮮の銅鐘を寄進し今に存す。
●寺寶中、隆景寄進の銅鐘一口は一般朝鮮鐘の形式を具へ、隆景四年九月十八日云々の銘あり、高麗光宗時代の作にして、現に國寶なり。他に第八世基應、高松眞行寺より贈せる神農像・舟魂像・林燒角懸等を藏す。

國分寺

賀茂郡吉土貫村大字吉行。

古義眞言宗

●金岳山常行院を號し、御室末なり。天平年中、聖武天皇の勅額により行基の開創に係る。延喜式安藝國國分寺料三萬束と見ゆるは即ち本寺にして、住持堂塔甚だ盛大なりしが、寺傳に、源經頼平家討滅の爲め西國下向の儀、焚滅せらるると云ふ。後、頼房、現に常行院の一字を存し、寺號を傳ふるのみ。
●附近田圃の字に寺坊の遺名を傳ふるもの多し。

満舟寺

豊田郡御手洗町。

古義眞言宗

●南湖山を號し、御室末なり。保元元年、平清盛の建立に係ると傳ふ。寛永七年、大火の爲め堂宇悉く焼失し、本尊を假堂に納む。享保十一年三月八日、再建を遂げ南湖山満舟寺と公稱す。
●境内九千二百八十餘坪、寺域御許山中に在りて奇岩怪石四圍に屹立し、風致閑雅眞に塵外の靈域たり。佛殿は文化年中の再興に係り、桁五間、梁間五間、周及元より將來の華嚴會釋迦像を本尊とし、文殊普賢の二菩薩を脇侍とす。開山堂は一に含禪亭と稱し、應永十三年、慈徳庵主松岩尼の創建にして、明治九年の再建に係り、開山周及の塔所なり。周及の像を安ず。法輪藏は方三間、内に明の崇禎版一切經續經並に續附全部を藏む。文化十三年、塔頭水徳院十九世東陽の創建に係り、叢林經意大士不増不減童子を本尊とす。其他方丈・庫裡・禪堂・茶寮・鐘樓・寶藏・地藏堂・鐘守堂・不動堂・山神社・水創社等を具備す。寺寶中、絹本着色大通禪師像は自撰を有し、紙本墨書大通禪師墨蹟(丁亥四月一日)・同消息(十二月十五日)各一幅を附して國寶に指定せらる。其他夢窓國師書・佛通禪師書・檀子昂書三幅・文徵明筆十六羅漢圖十六幅・持野家の書及び諸家の寺田寄進狀並に古文書等多數を藏す。山内にマストボトケ、夫婦石、坐禪石或は壽僧雪舟の滯在せし御月庵の古跡、開山禪師手植の羅漢槐、雪舟の瀧りし瀧池等の名蹟存す。

●境内二百六十七坪、本堂(觀音堂)・庫裡・位牌堂・鐘樓堂等あり。本尊十一面觀音を安ず。三十三年毎に開扉の例なり。境内に芭蕉塚並に佛人楊堂の墳墓を存す。附近に菅公御手洗水の古跡あり。
●曹洞宗
●潮音山を號す。應永七年、生口城主守平氏の開創に係り、同十年、愚中周及此地唐土の徑山寺に相似せるを以て更に諸堂を増營し、彼地の景致を移せりと傳ふ。初め應濟宗なりしが、慶長十四年、曹洞宗に改む。
●境内九百八坪、堂宇中、三重塔は國寶建造物なり。三間三層塔婆、屋根本瓦葺にして、永享十四年正月十三日起工し、十月九日落慶供養せる旨一笑の向上寺塔婆記に見ゆ。京都八坂法親寺の塔と同時代の建築にして一般に和樣手法に出て細部に唐樣を混す。内部柱、承塵、天井並に極彩色を以て牡丹唐草、雲、鳳凰其他の模樣を描き、何れも時代の特色を示せり。尙ほ觀音堂後拜の板に傳野元信畫の四天王像あり。

向上寺

豊田郡瀬戸町瀬戸田。

曹洞宗

●古義眞言宗
●歌喜山を號し、御室末なり。天慶年中、藤原實買、藤原純友を討討し、功成るのち後醍醐天皇の勅を奉じて建立せりと傳ふ。往古山内十八坊、寺領七千貫を有せし巨刹にして、法持院、中齋院の二門主一山の寺務を統べたり。中古、土肥實平沼田の地頭となり、之に寺田若干を附す。梨羽家、竹原家より寺田の寄進ありしと云ふ。應永年間、法持院頼春天台を改めて眞言

樂音寺

豊田郡南方村。

古義眞言宗

●古義眞言宗
●歌喜山を號し、御室末なり。天慶年中、藤原實買、藤原純友を討討し、功成るのち後醍醐天皇の勅を奉じて建立せりと傳ふ。往古山内十八坊、寺領七千貫を有せし巨刹にして、法持院、中齋院の二門主一山の寺務を統べたり。中古、土肥實平沼田の地頭となり、之に寺田若干を附す。梨羽家、竹原家より寺田の寄進ありしと云ふ。應永年間、法持院頼春天台を改めて眞言

●境内二百六十七坪、本堂(觀音堂)・庫裡・位牌堂・鐘樓堂等あり。本尊十一面觀音を安ず。三十三年毎に開扉の例なり。境内に芭蕉塚並に佛人楊堂の墳墓を存す。附近に菅公御手洗水の古跡あり。
●曹洞宗
●潮音山を號す。應永七年、生口城主守平氏の開創に係り、同十年、愚中周及此地唐土の徑山寺に相似せるを以て更に諸堂を増營し、彼地の景致を移せりと傳ふ。初め應濟宗なりしが、慶長十四年、曹洞宗に改む。
●境内九百八坪、堂宇中、三重塔は國寶建造物なり。三間三層塔婆、屋根本瓦葺にして、永享十四年正月十三日起工し、十月九日落慶供養せる旨一笑の向上寺塔婆記に見ゆ。京都八坂法親寺の塔と同時代の建築にして一般に和樣手法に出て細部に唐樣を混す。内部柱、承塵、天井並に極彩色を以て牡丹唐草、雲、鳳凰其他の模樣を描き、何れも時代の特色を示せり。尙ほ觀音堂後拜の板に傳野元信畫の四天王像あり。

佛通寺

豊田郡高坂村大字許山。

應濟宗佛通寺派

●御許山を號し、本派大本山たり。應永四年十月、國主小早川春平の創建に係り、愚中周及(佛通大通禪師)を以て開山となす。是より先き應永二年、周及紀伊に遊化し龍門庵に住せしが、九州行化の途上當國に入りて周及其嗣法の師、支那の金山即休の號を採りて、寺を御許山佛通寺と號し、本寺の勸誘開山となし、自ら第二世となる。春平寺領四千石並に山林方二里を寄せて香積に充つ。同十六年、後小松天皇より紫衣の輪旨を賜はる。嘉吉元年十二月、文安元年十二月の再度、足利氏新願寺たるべき御教書を下し、爾後、新願護國寺と稱し、塔頭五十餘宇を並べ、末寺十二州に散在し、寺運極めて隆盛なりき。永祿年中、小早川隆景、殿宇を建營して寺門を伸張せしが、福島正則當國を領するに及び、一時寺領を没收せられしも、後三年にして二百石を附せらる。其後、淺野氏に至り、寺領安堵状を下し、且つ先規に準じて毎歲殿堂を修理す。寛政七年四月、同輪の災に罹りしが、文化五年七月、藩主淺野齊賢之を復舊す。近世は寺領五百石を有し、一山に信心、長松、正法、兩足、永徳の五院並に十四庵及

米山寺 豊田郡沼田東村大字納所。

曹洞宗。東山と號す。仁平三年、天台の僧賢願の開創なり。十二世の後西國探風土肥平當地に來り、建保初年、入道して當寺に入住せり。承久二年、歿するに及び本寺に葬る(本寺過去帳)。其嫡孫小早川茂平諸卿を再興して黒代の牌子を置き、巨匠山寺と改稱す。嘉祿四年、一條太政大臣其平政書を下し、鎌入兼野を開きて佛前燈油修理料田とし、不斷念佛堂を建立す。延文年中、小早川宣平七男藤原住持となりて應濟宗に改め、巨匠寺と號す。後小早川隆景米山寺と改む。隆景歿するや、亦當寺に移る。領主福島氏の代、寺領没收せられ、慶長七年、回祿の災に罹りて荒廢せしが、元禄年間に至り慈雲之を再興して曹洞宗に改む。延享四年、其法孫高直之を再興し、以て今日に至る。

堂宇には本堂・庫裡・經堂・山門・地藏堂・開山堂・仁王門・王子宮・寶座等あり。寺寶中、絹本着色小早川隆景像一幅は文祿三年の贊あり、國寶に指定せらる。境内には小早川家十七代の墓あり。

西光寺 豊田郡沼田東村大字末光。

眞宗本願寺派。

富榮山と號す。明應二年三月、越中守義政二男田坂新五郎發心して、本願寺實如に歸依し、善堂と改名して本寺を創建す。實如爲めに六字名號を與ふ。初め同村船越谷に在りしが、六世圓隆の時、今の地に移し舊地を興寺と稱したり。

本堂・庫裡・客殿・茶所・隱居室・經堂・鐘樓・山門等を具ふ。寺寶として觀覺聖六字名號石・蓮如筆に罹りて燒失し、今の講堂は復建築なり。塔城千五百五十五坪。山門は隆景山城の山門を寄せしものと云ふ。本尊釋迦如來及び脇侍文殊普賢兩菩薩を安置す。寺寶として福島正則、尾藤隆岐守等關係の古文書類を多く藏す。

妙正寺 御調郡三原町。

日蓮宗。

無量山正壽院と號す。延寶二年、日忠の開創に係り、もと米田山下に在りて福壽院と稱す。四世日寛の時、今の野畑山の半腹に移す。近世後野家の菩提所となり、寺領百石を有したり。

堂宇には本堂・庫裡・書院・玄關・鐘樓・山門・番神社・鎮守社等を具備す。本尊は題目寶塔釋迦多寶二如來、脇立は四菩薩・二大士・二明王・四天王なり。寺寶として日蓮念珠・日像製案・日蓮筆法華經開結・木村季林筆法華經・狩野制雲壽・忠義筆觀音・狩野常信筆觀音・廣長刀・麒麟蓋唐銅香爐等を藏す。尙ほ境域山海の勝景を一眸に集むるが故に、古來詞人文儒の來遊多く其寄題詠稿を卷子として藏せり。

松壽寺 御調郡赤崎町。

曹洞宗。

萬年山と號す。往古、三原町河原谷にありしが、應永二年、應濟宗の僧惟忠錫を駐めし以來、京都建仁寺に屬す。天正十年、僧全隱現今の地に移す。寛文五年、宗光寺第六世一雲入りて曹洞宗となす。

光明坊 豊田郡南生口村大字御寺。

古義眞言宗。

仙香山眞蓮寺三昧院と號し、御室末たり。創建年代不詳。寺傳に據れば、後白河法皇の皇女齋齋して尼となり法名如念と號せしが、松島鈴鹿の二侍女を伴ひ、當寺に寓居せし時、本尊佛白毫放光の奇瑞を現す。此事天聽に達せしより光明三昧院の勅額を賜ひ、當生口島を寺田に附せらる。如念尼、其師法然之に迎へし時、法然其眞像及び尼公の像を刻す。慶長十七年、京都黒谷金光明寺御影堂夫上の後法然眞像は彼堂に移安すと云ふ。

境内に十三層の石塔あり。長さ二丈八尺、水仁二年、僧忍性の所建にして、昭和二年四月、國寶建造物に指定せらる。寺寶中、水邊阿彌陀如來坐像一幅は高さ二尺七寸三分、寄木造、玉眼嵌入、鎌倉時代の製作に係り、現に國寶に指定せらる。尙ほ寺内に如念尼墓・松島墓・鈴鹿墓・法然手植白檀樹等あり。

觀音寺 御調郡三原町。

時宗。

海南山道場院と號す。康平年中、宗祖一蓮蓮化の途次、本寺を建立す。初め沼田に在りしが、其後、小坂村に移す。嘉慶年間、覺阿寺觀音を整備し、慶長年中、阿彌之を中興す。

寺境米田山麓に在り、本堂・庫裡・觀音堂・鐘樓・二軸等を藏す。境内に鐘樓松・觀音松・觀音堂あり。境内に鐘樓松・觀音松・觀音堂あり。境内に鐘樓松・觀音松・觀音堂あり。

正法寺 御調郡三原町三原。

古義眞言宗。

龜甲山延命尊院と號し、御室末なり。初め、藤州高山にありしが、天正年中、小早川隆景築城の際、現地に移轉す。元和年中、憲意之を中興す。

本堂・庫裡・客殿・護摩堂・毘沙門堂・鎮守社・小社等を具ふ。本尊千手觀世音は安阿彌の作と傳ふ。寺寶として傳空海筆大黒天・同筆阿字・同筆般若心經・同筆毘沙門天・傳最澄筆權現像・同筆三面大黒天・傳源信作地藏尊・傳圓珍作五大明王・宋謝復生筆大般若經・八宮重雅親王書・洞雪筆普賢菩薩・大久保伊豆守筆羅漢・古筆種子十三佛・以墨筆文殊菩薩・妙深筆不動明王・曾我東譽筆屏風・唐筆兩界曼荼羅・同十六番神等頗る多し。

宗光寺 御調郡三原町。

曹洞宗。

雲山と號す。天正五年、當國豊田郡本郷高山城主小早川隆景、其城内に創建して雲門山巨匠寺と號し、同家の菩提所となせしが、同十年、隆景三原城に移るに共に現地に寺基を轉じて七堂伽藍を建立し、寺領千石を寄附せり。時に寺額を改めて雲山宗光寺となし、美山芳有を住持せしめ、應濟宗を曹洞宗に改む。慶長五年、福島正則廣島に入城するや、寺領を百石に減じ、後野氏の時、更に五十石に減す。其後堂宇は大災

境内六百七十坪、堂宇には本堂・庫裡・承佛殿・禪堂・觀經閣・玄關・山門・經堂・鐘樓・樂師堂・鎮守堂等あり。本尊は釋迦如來坐像にして、腹中に康徳作の小像を安置す。禪堂千手觀音は春日の作、もと當寺福壽院の本尊なりしが、今は當寺に安す。寺寶に雲舟筆三聖人畫像一軸・隱元筆讀一軸・澤庵筆師筆讀一軸・永享筆一筆龍圖二軸等を藏す。境内に鐘樓松・觀音松・觀音堂あり。境内に鐘樓松・觀音松・觀音堂あり。

光源坊 世羅郡津名村大字長田。

眞宗本願寺派。

御塔山と號す。開創年代不詳。もと眞言宗なりしが、天文四年、林語眞宗に改む。寛永四年二月、本山より本佛尊像及び寺額を眞教寺と賜はりしも、國主故ありて改稱を許さず。仍りて任職の性を眞教寺と稱し、以て今日に至る。

國分寺 深安郡御野村大字下御領。

古義眞言宗。

唐尾山と號し、大覺寺末たり。天平年中、聖武天皇の勅額に依り、行基の開創に係る。古來備前寺尼寺の差別を傳へず。延喜式に寺料二萬束文殊會料二千束と見ゆるもの即ち本寺にして、後杉原氏の時、安部一郡課役して修葺せしめ、二十貫の地を附す。福島正則の時、寺額を悉く没收し、延寶元年、洪水の爲め機かに草堂一字を残して講堂流失せり。仍りて領主水野勝種、神邊綱村山の木材を寄せ、杉原氏の例に倣ひ、郡中に化縁して修葺をなし、同七年落成す。

安國寺 沼隈郡新町後地。

應濟宗妙心寺派。

草創年次並に沿革不詳。奉安の木造十一面觀音立像二軀は昭和三年八月十日、



(景公寺部松)

● 慶應二年、惠谷、足利氏の命に依り之を創建し、德忠(圓明國師)を開山として曹洞宗を奉ぜしが、天正初年、荒廢に墜せしを、惠理南禪寺より來寓し、毛利輝元を大檀越として再興し臨濟宗に改む。明和二年、阿部正右禪堂を修葺す。關ヶ原役後當寺徳川氏の忌憚する所となりて、漸次衰頹に陥り、寛政六年、京都妙心寺末となり、塔頭禪院、正法、勝音、慈徳、靜觀、小松の六箇寺輪番して漸く維持するに至れり。

● 釋迦堂(大雄寶殿)は桁行三間、檼間三間、單層、屋椽入母屋造、本瓦葺にして、名工左甚五郎の構築と傳へ、明和二年阿部正右の修營に係り、昭和二年四月國寶建造物に指定せらる。本尊釋迦坐びに脇侍二尊は惠理朝鮮より將來せしものと傳ふ。寺庭に老杉あり、輝元の侍臣三十六人に命じて各一本宛を植ふしめしものにして、今は僅かに二株を存するのみ。又、惠理遺愛の蘇鐵數株あり。

寶田院 沼隈郡千村大字常石。

● 眞宗大谷派。元應年間、本願寺覺如(一説に親鸞)の弟子明光房了圓の開創に係る。明光は關東六老僧の一にして、延慶二年佛光寺第六世を嗣ぐ。元應二年、當國に來り、當郡山南に光顯寺を創す。後之を門人慶願(明尊)に譲り、本寺を開きて止住す。化導に努むること約十年、覺如之を賞し、畫工に命じて明光の像を寫さしめ、自ら「若我成佛云々」の文を書して授く。後ら久しく光顯寺の隱居所たりしが、中世光顯寺と稱を生じ、大谷派の所屬となる。第十七世明徳開演に屬するを欲せず、新たに備中笠岡に淨心寺を創して之に住し、本願寺派に歸せり。

光顯寺 沼隈郡山南村大字中山南。

● 眞宗本願寺派。元應二年、關東六老僧の一たる明光房了圓の開創に係る。初め延慶二年、了圓佛光寺第六世となりしが、元應二年、寺務を空性了源に譲り、西國に遊化し、此地に到りて本寺を創す。時に鎌倉幕府山南庄を築入し、盛んに念佛門を弘通す。正慶年間、門人慶願(明尊)に譲る。時に國內に法華宗徒あり、妄に淨土の法門を誹謗す。二世慶願の代、慶應元年二月、京都本願寺より存覺を請じて國府守護の前に於て法門の對決を仰ぐ。時に存覺、決智録、報恩記を呈して大いに開闢する所ありしと云ふ。開七月を以て歸京せしこと存覺一記に見ゆ。慶願の後ら教空、教願、了空、賢祐等相繼ぐ。徳川時代に及びて寺運隆昌を極め、國

寶泉寺 沼隈郡千村大字常石。

● 寺寶に明光房畫像一幅(贊文覺如筆)。覺如筆光明本一幅・明光畫圖一卷等を藏す。

臨濟宗妙心寺派。

● 海潮山と號し、俗に阿伏見觀音の名を以て著聞す。天正年中、毛利輝元の創建にして、當地寶藏寺住僧建智を開山とす。後ら領主水野氏、僧坊、鐘樓、石垣等を増築せりと云ふ。

● 水濱より磴道を開き境寺臨翠絶佳、新橋、馬耳崎、矢の島、紅小島、田島内の浦の景を一時に收む。觀音堂、庫裡・鐘樓・山門等を具ふ。觀音堂は神萬觀音宮上にあり。本尊觀音石像は漁夫次郎左衛門と云へる者海中に感得せし靈像なりと傳ふ。

妙顯寺 沼隈郡本郷村。

● 本門法華宗。● 寶峯山と號す。草創年代不詳。往古、眞言宗に屬せしが、文和三年、大本山妙顯寺二世大覺(妙實)西國遊化の際、住持理有之に歸依し名を日蓮と改め、日蓮宗に歸す。即ち大覺を開山として、自ら二世となる。日蓮運化後、眞言宗に復歸せんとせしが、妙蓮寺八世日應(伏見宮御猶子)滯錫して、當寺三世に列し、大いに法運を復して今日に及ぶ。

妙顯寺 沼隈郡水香村。

● 日蓮宗。● 西龍華妙性山と號す。延文元年三月十五日、當村の開工三原一乘入道妙性の開創なり。初め元亨、正中年間、大本山妙顯寺二世大覺當國巡錫の御、當郷に來りて一乘の宅に宿す。一乘深く大覺に歸依し師禮の約を結び、後ら遊錫して弟子となり妙性と號し、本寺を創し、大覺を請じて開山となし、自ら二世となる。現に塔頭三坊を有す。

明王院(菘寺) 沼隈郡草戸村。

● 古義眞言宗。● 中道山圓光寺と號し、俗に菘寺と稱す。大覺寺末たり。大同年中、空海の開創に係ると傳ふ。其後、八百年を経て、元和七年、福山藩主水野野成堂塔を増築して輪奐の美を整へたり。往時は當國に於ける同宗の大坊にして、末寺四十六院を統轄したりと云ふ。

● 堂宇中、本堂・五重塔は國寶建造物に指定せらる。本堂は一に觀音堂と云ひ、方五間、單層、本瓦葺、大棟異常に高きも、大棟兩端反轉を有して輕快の感を與ふ。外部の柱に中央上は丹塗とし、以下胡粉塗とし俗感に墮せども、特に珍奇の手法を用ひず、木刻雄大、建立の年次明瞭なしと雖も、大略室町中期の建立に成れるが如し。内陣後方佛壇あり。本尊木造十一面觀音立像一軀を安置す。丈高四尺七寸、最澄の作と傳へ、而相容姿端麗、衣紋の纏轉、深淺優美にして剛健樸實の感あり、華座は後世の補作と云ふも壽原期を降らず、現に國寶たり。兩脇土不動毘沙門も亦同作なりと云ふ。五重塔は本堂左側小丘上に建ち、三間五層塔婆、屋根本瓦葺にして、飛騨工匠造營と傳へ、貞和四年の再興に係る。形懸桁々桷高の感あるも、各層屋根の勾配頗る緩く、權衡よく諧調を保てり。内部内陣柱に佛像を挿き、各部彩色を施す。寺傳に、巨勢全國其母菩提の



(寶蹟) (堂本院王明)

爲の楯く所と傳ふるも、構圖筆致等すべて室町初期の技法を示す。形懸桁々齊備し、細部の手法雄大、特に内部裝飾の華麗と相俟ち、當代塔婆建築中優秀なる遺構とすべし。本尊大日如來並に脇士不動愛染兩明王

明泉寺 廣島郡藤家村大字倉光。

● 眞宗大谷派。● 小原山白龍院と號す。推古天皇の朝、聖德太子の開創に係ると傳ふ。初め御調郡歌島(今の向島)に在りて天台宗に屬せしが、第三十五世惠安、關東に遊びて親鸞の化導を蒙り、建長三年三月、寺基を同郡小原村清水原に移し、眞宗に改む。解應元年三月、存覺當國巡化の御、本寺に留錫し、三十八世大信に淨土の法諱を授く。元龜、天正年中、織田信長大阪石山本願寺を攻むるに方り、四十四世智護、門徒二百餘人を率ゐ、糧食二百石を携へて石山に參じ、防戦して功あり。慶長元年二月、四十五世智箭の時、寺基を現地に移す。同十六年三月、領主福島正則、寺額百五十石を没收す。

保泉寺 甲奴郡吉野村大字有福。

● 臨濟宗永源寺派。● 慶雲山と號す。天平年中、行基の開創に係ると云ふ。もと天台宗なりしが、文和年中、智海元周の代、禪刹となる。元祿二年、大圓殊覺、城主小越左衛門尉元重の外護に依りて之を中興し、本堂、庫裡其他を再建す。慶應二年に至り鶴山祖珍西堂之を重興す。

照林坊

●眞宗本願寺派。
●明鏡山と號す。元應二年、本願寺覺如の弟子明光...

永明寺

●眞言宗醍醐派。
●石雲山と號し、俗に帝釋堂の名を以て著聞す。和...

功德寺

●曹洞宗。
●千秋山萬歳院と號す。大同元年、空海の開創に係...

徳雲寺

●曹洞宗。
●萬松山と號す。長祿元年、東條邑主宮下野守政盛...

圓通寺

●臨濟宗妙心寺派。
●慈高山と號す。元亨年中、山ノ内首藤左衛門尉通...

山口縣

龍福寺

●曹洞宗。
●翠雲山と號す。建永年間、領主大内高盛の創建に...

端坊

●眞宗本願寺派。
●松林山と號す。初め京都に在りて興正寺に屬す。...

常妙寺

●日蓮宗。
●到池山と號し、俗に壽寺の名あり。觀應元年、足...

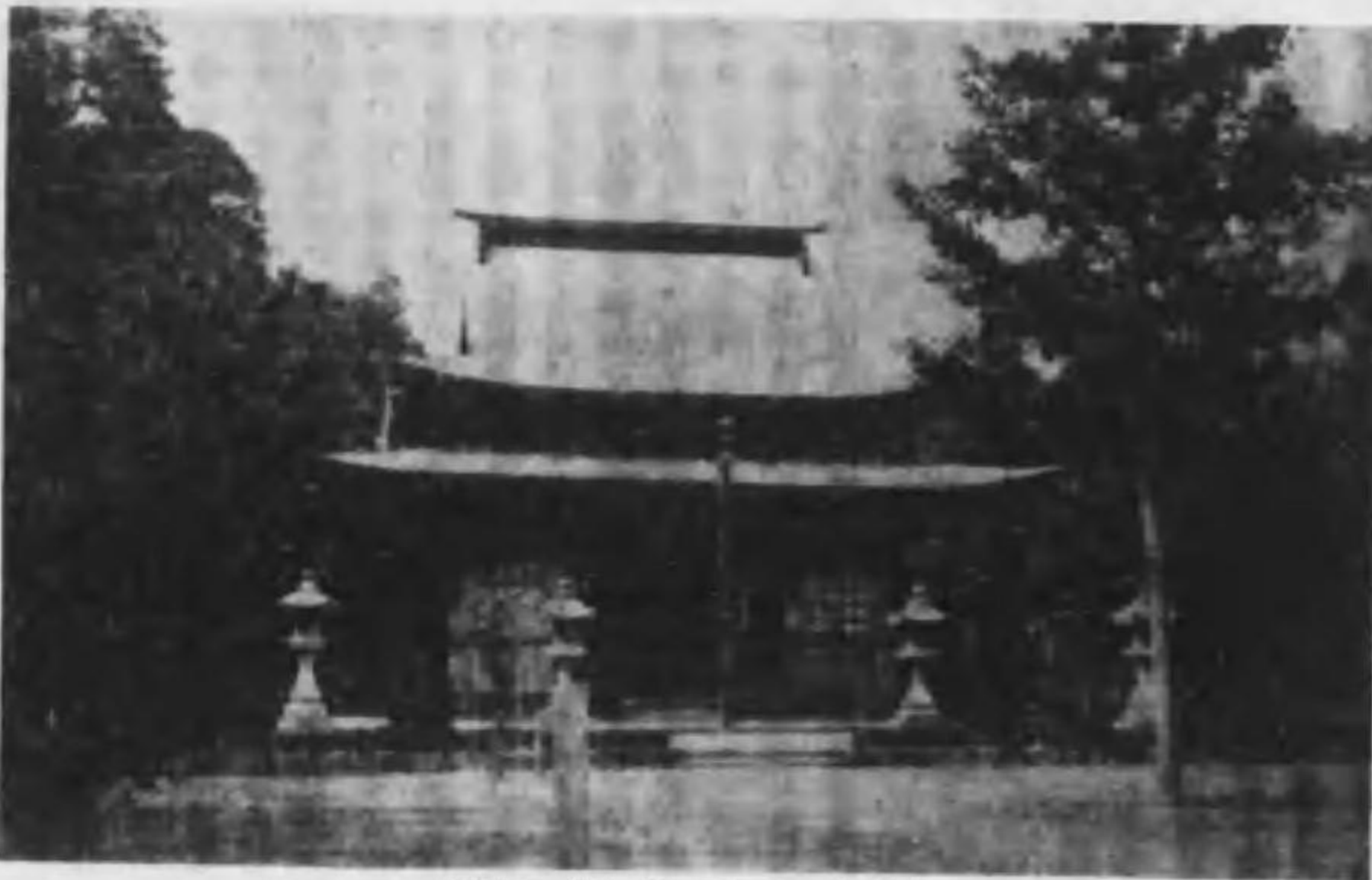
龍寺

●眞宗本願寺派。
●龍頭山と號す。文明十三年、明星尼の開創に係る...

洞春寺

●臨濟宗建仁寺派。
●正宗山と號す。毛利家歴代の塔所たり。元龜年間...

創以前、永享二年の建立なりと云ふ。様式亦略々之に一致す。其形式桁行三間、椽間三間、重層、屋根入母屋造、栴檀にして、下層屋根は上層の南を爲す。即ち



(寶蹟) (堂) 智觀寺 春洞

反轉強からず。下層亦三つの斗を組み齋輪を加へ、椽柱柱脚に礎盤を附し、石壇上に建つ。内外切は椽唐戸、火燈窓、板壁等を混用し、内部床土敷、内陣柱より下層欄柱に虹梁をかけ、内陣天井は天井、後壁佛壇上に元就念持佛と傳ふる本尊十一面觀音像を安置す。蓋し本堂は内外悉く唐様手法に則り、外観形態瀟灑にして均衡齊美、當代盛行唐様佛堂建築中の一遺構として看過すべからず。寺寶中、絹本着色維摩居士像(傳顯輝筆)一幅は國寶なり。圖は床上病軀を横へし居士を示し、肉體の描法細緻にして、着衣の線亦よく筆意を表す。京都東福寺藏新像に比し、製作年代大いに降るべく、元宋以降の作とす。他に木食上人自作像・天正十二年征韓役陣中制札・元就、輝元、義昭、秀吉筆蹟等多数を藏す。

●法華千部會(三月)。三百年來傳統の行事にして、毛利元就、百餘度の征伐中に陣歿せる自他の胸魂追弔の爲め、三原妙法寺に於て自ら願主となり、管内陣歿僧衆を請じ、法華千部の讀誦を修せしめしに創まること云ふ。

瑠璃光寺

山口市上宇野舎。

●曹洞宗。●保寧山と號す。寺傳に據れば、文明三年、陶弘房の創建に係り、僧須登を以て開山とすと云ふ。初め當國仁保村に在りて安養寺と號せしが、明應元年、境内狹隘の故を以て隣山に移し瑠璃光寺と改む。慶長七年、當寺塔婆を洞春寺に移す。元禄三年、更に大内氏黒代の菩提所たりし香積寺舊地に轉す。即ち現在の地なり。●境内地千二百餘坪、堂宇中、五重塔は國寶建造物にして、舊香積寺遺構の一たり。應永十一年の建立に



(寶蹟) (塔) 瑠璃光寺 史蹟

係り、明治末年、大正六、七年頃の兩度、大修理を加ふ。其形式三間五層塔婆、屋根檜皮葺、隅椽端風舞をかけて頗る輕妙の姿致を保つ。最頂相輪を冠して、軒二重繁徳、和様三手先斗拱を組み支輪を加へ、斗拱間斗束を配し、總圓柱とす。柱間各面中央板唐戸にして兩脇間は下層のみ欄干窓を配し他は板壁とす。下層二層は懸縁を施し、二層のみ唐様蓮蓮頭の高欄を設く。外部構造手法悉く和様に據れるに對し、高欄のみ唐様手法を示せるは、蓋し本塔婆の特色にして、下層内部の和様塔身に對し、唐様圓形須彌壇を用ふる、亦珍奇とすべし。然も總體の均衡極めて齊美、雄大の感深く、他方飽く迄輕妙の姿致を失せず、以て室町中期塔婆建築中の一異彩となすに足る。尙ほ明治四十三年、四年頃修理の際、塔の欄干型に「嘉吉二年二月六日此ふでぬし廿七」の墨書銘あるを見せりと云ふ。恐らく遺體或は修補時の戲書なるべし。

引接寺

下關市外濱町。

●淨土宗。●關龜山と號す。文祿三年、忠譽徳一の開創に係る。初め龜山社地にあり。慶長二年、來變の時、小早川隆

源現寺地を寄せて之に移る。三十一世德譽、萬里小路家猶子となり、華頂宮より院家の稱を賜ふ。明治二十八年、日清戦和の御、清使李鴻章等の泊所に充てらる。

●堂宇に本堂・釋迦堂・大方丈・小方丈・庫裡・鐘樓・山門等を具ふ。本堂には傳源信作引接、來迎、發遣の三阿彌陀如来像を安置す。尙ほ境内に笠松あり。

本行寺

下關市西之端町。

●本門法華宗。

●清照山と號す。初め當地稻荷町にありて妙福寺と號せしが、後ち官命に依りて現寺地に轉す。時に京都本能寺貫首伏見宮貞親親王子子承法親王此地遷化の途、當寺住僧の門に入り、本承院日圓と號して當寺に住し給ふ。次で元龜二年五月、寺號を清照山本行寺と改め、本能寺及び本興寺兩本山の末寺となる。即ち日圓を以て中興開山とす。享保二年四月、十二世日苗の時、祝融の災に罹り、堂宇、什寶、舊記等悉く灰上す。同十二年、十三世日啓、檀徒と勤力して之を再興す。即ち日啓は當寺中興二祖たり。

●堂宇に本堂・庫裡・番神堂・位牌堂・鐘樓・安喜門・帝釋天廟・清正公堂等を具ふ。

國分寺

下關市東南部町。

●古義眞言宗。

●現に開宗金剛峯寺末たり。寺傳に、西大寺觀尊に附せられし十九國分寺の一にして、延喜式に寺料一萬束を附すと見ゆるは即ち是れなりと云ふ。

●堂宇に金堂・講堂・東堂・西堂・北圓堂・愛染明

王堂・仁王門・寶塔二基等を具す。寺寶中、木造不動明王立像一軀、絹本着色安樂茶經圖一幅は國寶なり。前者は丈高二尺七寸餘、一木彫、腰部を右方に捻り左足を前方に踏出し右手劍を執りて胸に擬す。衣紋の刀法頗る深勁、軀幹亦重厚、よく弘仁彫像の特徴を發揮す。後者は中央不動尊、上下四隅に十二天を配し、不動禪定修法の際の本尊たり。此修法古來屢次行はれ、然も古畫の現存するもの頗る稀有なる中に、本圖は鎌倉末期の作に係り、儀軌に稍々異點あれども、尙ほ珍重の遺品たるを失はず、鍍金使用の手法等殊に精緻を極む。尙ほ金堂前に徑約三尺の火石若干あり、往古堂塔の礎址なりと云ふ。

専念寺

下關市西南部町。

●時宗。

●長樂山と號す。寺傳に據れば、推古天皇十九年、百濟聖明王第三子琳聖太子の開基に係り、初め福王寺と號す。後ち天台宗を奉ぜしが、弘長年中、一邇來りて當寺に留錫するや、住持顯長之に附依りて時宗に轉じ、寺號を一心専念寺と改む。應永七年、尊觀法親王諸國遊化の途、當山に於て薨去あり、當寺に奉斂して御廟を營む。依りて爾來、菊桐金紋の先箱、疊代傘、綱代輿、筋帯等を差許さる。後ち大内、毛利兩氏寺領を寄せ、且つ堂宇を改修する等其保護厚し。享保十二年、本堂再建成る。明治二十五年、更に庫裡を改築し、大正十四年、樂師堂成る。

●堂宇に本堂・樂師堂・納骨堂・庫裡・尊觀法親王廟・鎮守天神社等を具ふ。寺寶中、木造樂師如来立像一軀は國寶にして、一木彫成、藤原初期の作に係る。

永福寺

下關市觀音崎町。

●臨濟宗南禪寺派。

●重開山と號す。寺傳に據れば、推古天皇御宇、百濟琳聖太子入朝の御、此處に一字を建立して、其念持佛觀音像を安置せしに創まること云ふ。大同元年、藤原冬嗣勅命を奉じて大いに堂宇を造營す。初め天台宗を奉ぜしが、嘉祥二年、堂宇を擴築し、南禪寺三世平田慈均を請じ、改めて臨濟宗に轉す。



(堂) 永福寺 本

●境内地約八百坪、堂宇中、本堂(観音堂)は國寶建造物にして、一に観音堂と呼び、當寺々務所の背丘に南面して建ち、前面高き石階あり、寺傳に大同元年二月十八日藤原冬嗣建立と云へど、現在の堂宇は形式全く



(寶國)(堂本寺福本)

●境内地約八百坪、堂宇中、本堂(観音堂)は國寶建造物にして、一に観音堂と呼び、當寺々務所の背丘に南面して建ち、前面高き石階あり、寺傳に大同元年二月十八日藤原冬嗣建立と云へど、現在の堂宇は形式全く

は鋭く上方に尖反す。上層方三間にして、軒襷細なる二重扉を分布し、斗拱唐様三手先組物を用ひ末端細く断面五角形を成せる純唐様式尾棟を配し、蔭輪を載せ椽柱を立つ。上層椽下直ちに周圍一間の扉を作りて下層を成し、風櫃亦椽皮葺にして軒端反りあり、上層に比し稍々雄大なる單椽を配し斗拱出三つ斗、普通頭貫の代りに種切椽を施せる虹梁を架く。前面中央三間及び後面中央一間棧唐戸を設け、他は木造格子窓とす。内部床礎瓦敷、内陣來迎柱を立て天井鏡天井、虹梁、複雑なる斗拱の制等鎌倉期唐様建築の手法に形觸たるものあり、壇上本尊観音像を安置す。蓋し本堂は其外觀並に内部の手法全く鎌倉期唐様建築の特徵を發揮して、且つ新種建築中、最も別趣發達せる代表的遺構なりと云ふべく、殊に其形態の珍奇秀麗なる、古來、里人馬關關形御堂と稱して著聞する所なり。尙ほ本堂西北の庭園は文明年中、雪舟の築く所なりと云ふ。

三蓮寺 下關市伊崎町。

●淨土宗西山派。
●海光山深心院と號す。初め毛利氏臣内田主計願父子、大友氏と争ひて戦後、此地に墾りしが、天正八年、其末子入道宗順、父兄追福の爲め一字を削して深心院と號す。是れ當寺の濫觴なり。享保年中、豐浦郡岡牧村三蓮寺を併合して海光山深心院三蓮寺と改め、以て現在に及ぶ。
●本堂・觀音堂・庫裡・支圖・鐘樓・表門・長風・彌守廟等の堂宇を具ふ。本尊阿彌陀如來は源信の作な

り云ふ。観音堂には佐々木盛綱の念持佛と傳ふる十一面観音を安置し、古來道俗の信仰厚し。

宗隣寺 宇部市小串。

●臨濟宗東福寺派。
●松江と號す。寶龜八年、唐僧威光來朝して此地に七堂伽藍を創建し、風景居士の松江山に相似たりとて松江山普濟寺と號す。應仁の兵亂以後衰頹せしが、寛文十年十一月、領主福原隆成守廣俊、先代元俊の菩提所となし、雲庵宗道を請じて宗隣寺と改む。爾來累代寺縁を寄す。
●境内地三千坪、本堂・庫裡・觀音堂等の堂宇を具す。本尊無量壽佛は源信作、虚空藏菩薩像は行基作と傳記す。寺内の庭園は櫻楓の名にして、又堂後に三十三所観音靈場及び維新先覺者福原越後の墓を存す。因云、大阪靈松山瑞雲寺に現存する梵鐘は當寺普濟寺時代のものにして、永和五年の鐘に長州厚東郡宇部郡松江山普濟寺と載す。是れ東曹安帝の義興十年、鑄造せられたるものにして、高さ二尺四寸二分、徑一尺九寸五分、厚さ一寸八分の古鐘なり。

萩別院 萩市西田町。

●眞宗本願寺派。
●慶長年中、領主毛利輝元、直實清光院の爲めに此地に普華院を創して清光寺と號す。時に本願寺准如、准圓を遣して之に住持せしめ、爾來其福相繼ぎて法燈を傳へ、後世防長兩國の鎮所たり。慶應元年、故ありて准圓寺と改稱せしが、懸許もなくして寺號を他に移し、明治十三年、其舊基を以て改めて本山別院となし、萩別院と稱す。

常念寺 萩市下五間町。

●淨土宗。
●長榮山不斷光院と號す。天文元年、安部藤兵衛家貞の開基にして、單蓮社信譽西阿を請じて開山とし、家良法名に因みて萩津山常念寺と號す。慶長九年、毛利輝元萩城の朝、當寺を以て其陣屋に充つ。其由緒を以て一時普華院に擬し、寺額三十石を寄す。後毛利氏史に家臣渡邊飛騨等を當寺外護とし、山號を改めて長榮山と稱せしむ。寛文九年十二月、同様に稱りしが、毛利氏現寺地を寄せて之に移し、堂宇を再建す。當寺初め防長二州の禰頭たりしも、土地不便の故を以て慶長年間、長門一國の禰頭となり、以て明治維新に及ぶ。現に末寺四箇寺を有す。
●境内一千二百三十坪、本堂・堂舎・庫裡等の堂宇を具ふ。本尊阿彌陀如來立像は圓仁作、觀音勢至兩脇侍は康賴作と傳ふ。

東光寺 萩市橋東。

●黄髮宗。
●護國山と號す。初め厚狹郡松谷村にありしを、元藤四年、毛利吉就之を現寺地に移して諸堂を造營し、慧極道明を請じて中興開山となす。爾來同氏累代の廟所たり。當時伽藍の構造配置、宇治黄髮山を模寫し、大小四十餘棟ありしも、明治十五年、現狀に改む。近世毛利氏寺領八百五十石を附し、二十三箇の末寺を稱して、陸前大寺、因幡興禪寺と共に黄髮三叢林と稱

せられたり。
●寺城廣瀬にして堂宇に大雄寶殿・方丈・書院・庫裡・寶樓・山藏・山門・漢門等を具ふ。
●寺寶として光嚴寺軍五百羅漢圖五十幅、隱木即書三幅、對・費隱及懸門筆蹟等多數を藏す。境内に毛利氏靈廟、甲子殉難士墓等あり。



(門山寺受東)

大照院 萩市橋。

●臨濟宗南禪寺派。
●靈椿山と號す。寺傳に據れば、もと月輪山觀音寺と號して天台宗を奉じ、桓武天皇御宇、勸願所と定めらるると云ふ。元弘、建武の頃、鎌倉建長寺義新來りて大椿山歡喜寺と改め、臨濟宗に轉す。慶安四年、領主毛利秀就受するや、本寺に墾り、其法諱に因みて大照院と改め、南禪寺官知圓道を請じて中興開山とす。爾

南明寺 萩市橋。

●天台宗。
●草創年代並に沿革詳ならず。
●寺寶中、木造觀音立像一軀、同于手觀音立像一軀は國寶に指定せらる。共に藤原初期の作に係り、後者は今大破す。

西蓮寺 大島郡屋代村。

●淨土宗。
●觀緣山九品院と號す。舊く中善寺と稱し、曹洞宗を奉ず。中世荒廢に墮せしを、藝州佐伯郡島光院院西譽岸宗の弟子藤原松來りて之を再興し、現狀に改む。享保十年、本堂、庫裡等を再建す。現在の堂宇即ち是れなり。
●本堂・庫裡等の堂宇を具ふ。本尊彌陀三尊は源信作と傳ふ。

金剛寺

玖珂郡柳井町。

古義眞言宗。白雲山と號し、現に同宗御室末なり。國主大内氏の創建に係る。初め天台宗を奉じて、清泰院金剛寺と號し、寺領千石、一山十二坊を擁し、大内氏累代の祈願所として寺門隆昌を極めしが、同氏滅亡後、全く荒廢に歸す。寛文四年、當地菩提寺中興教念の法弟教全、領主吉川監物の命に依り、之を現地に再興して新たに一字を營む。元禄四年、藩命に依り清泰院院を岩國に移して日蓮宗の寺院を建立す。

瑞相寺

玖珂郡柳井町。

淨土宗。放光山と號す。永正十三年、一蓮社法譽の開山に係る。貞享二年十月十五日、十四世全譽常念佛を開唱す。二十一世想譽教長、華頂宮尊法親王の準院家となり、岩國城主吉川監物の時、領内一圓周宗の願頭を勤む。寶曆年中、本堂を再建す。近世末十四箇寺を擁する中本寺たりしが、現に末寺として白濁心光寺、宮本正行院、向地阿彌陀堂、伊陸院、片野淨慶院の五箇寺を有し、且つ檀家二千三百餘戸、信徒五千餘を擁し、寺門尙ほ隆盛なり。

誓光寺

玖珂郡柳井町。

眞宗本願寺派。

極樂寺

玖珂郡高森町用田。

古義眞言宗。二井山と號し、一に新寺と呼ぶ。現に同宗仁和寺末なり。寺傳に據れば、天平十六年、玖珂大領兼皆足の創建に係り、聖武天皇の勅願所となると云ふ。當寺一山二十四坊を擁して寺觀頗る宏壯なりしが、後ら數度回祿の災に遭ひて寺運衰頹す。後白河天皇御宇、勅に依りて之を再興す。天文八年、後奈良天皇御旨を賜はりて永世勸願の靈場と定め給ふ。領主毛利氏亦寺領二百石を寄せて歸依厚く、元禄七年、岩國城主吉川廣紀堂宇を重修す。明治六年、本堂を再建す。現に當國三十三所第一番札所なり。

長樂寺

玖珂郡藤河村大字阿品。

眞宗宗。妙見山と號し、現に同宗仁和寺末なり。推古天皇御宇、百濟國麻栗太子當郡青柳浦桂木山の地に一字を創建して、其傳來の靈像妙見菩薩を安置す。後ら鸞頭山に移りて、上宮中宮を建て、上宮を星壇と稱し、北斗七曜石並に如意寶珠を納め、虚空藏菩薩を祀り、中宮には妙見尊を祀り、其後、太子の末裔大内氏累代の信仰頗る厚く、一山中之坊、宮之坊、關御井坊、寶財坊、寶積坊、寶泉坊等の別當七坊を具へ、衆徒多く隆昌を極めしが、慶長十三年、回祿に係りて七坊焼亡す。次で毛利氏歴代亦厚く崇敬し、新たに當寺を建立して別當とす。明治維新後、神佛分離し、同十三年現寺地に移建す。

關御井坊

都濃郡花岡村大字末武上。

古義眞言宗。華岳山と號し、現に同宗仁和寺末なり。古來花岡八幡宮社七坊の一にして、頗る隆盛なりしが、慶長十三年、回祿の災に罹りて堂宇鳥有に歸す。文化二年、住持慶應之を再建し、以て現在に及ぶ。

普賢寺

熊毛郡宇積町。

臨濟宗建仁寺派。嶺前山と號す。寺傳に據れば、一條天皇御宇、播州書寫山圓教寺開山性空當國巡錫の御、此地に普賢菩薩の出現に遭ひ、之を後世に傳へん爲め自ら一松を其海岸に植ゆ。俗に之を對面松又は影向松と稱せり。後人靈像を大多和羅に安置せしが、後ら又現地に移して堂宇を營む。其後、現宗に改む。

正覺寺

熊毛郡高水村。

淨土宗。法王山光融院と號す。寛永年中、穴戸越前政尚、其室正覺院追福の爲め當寺を創建す。延享年中、眼養之を中興して今日に至る。

關御井坊

都濃郡長徳村大字長徳。

曹洞宗。鹿王山と號す。永享二年、陶越前守多々良盛政の本願に依り、僧在山の開創する所にして、鹿見島福嶋寺二世竹居を以て勸請開山とす。初め龍女出現の奇蹟に依りて龍門寺と號せしが、寶徳二年、三世器之の時、

彌山

往古彌山嶺に神祠ありしが、享保十三年、仰宗山麓に一寺を創建して、松尾山長樂寺と號し、被神廟を以て鎮守護法神となす。即ち當寺の靈廟たり。明和年中、大旱の際、村民雨を祈りて靈驗あり、法威四方に聞えて岩國藩主吉川氏の祈願所となる。天明年中、堂宇を再建す。安永九年、彌山神廟、拜殿等の改修成りて感應殿と稱せしが、明治四十二年、改めて彌山一山を境内に合併して彌山長樂寺と公稱す。

堂宇に本堂・地藏堂・庫裡・山門・彌山本所・鐘樓・休憩所及び藏守社鳥居(所在多田古市)等あり。彌山本所には所謂阿品彌山權現(地藏尊)を安置し、養者常に接應すと云ふ。

福樂寺

玖珂郡余田村。

古義眞言宗。狐鹿山と號し、現に同宗金剛寺末なり。天平十二年、行基此地に一字を創し、自刻の觀音像を安置せしに創まる。弘仁五年、空海之を再興し、又自ら本尊大日如來像を刻して安置す。當時山上に十二坊、山下に六坊ありて、中世之を各々上野寺、下野寺と稱せりと云ふ。元弘三年、地頭藤原經光、寺領六百石を寄す。明應三年、本堂再建成る。天正六年、毛利輝元亦先規に從ひて六百石の黒印狀を附す。寛永十二年、吉川氏觀音堂を再建す。維新前京都宮小路家祈願所たりき。

漢陽寺

都濃郡鹿野村。

臨濟宗南禪寺派。鹿苑山と號す。文中三年、大内左京大夫盛見の創建に係り、用堂明機を請じて開山とす。爾來一溪獨立の巨刹として、同氏累代の歸依厚く、末寺二百餘箇寺を擁せしが、天文十九年、同氏滅亡後、漸く衰頹す。後ら毛利氏の新願所となり、寛文三年、山口香積寺靈叟を請じて以て之を中興す。延寶五年、回祿に係りて什寶及び記録等悉く鳥有に歸す。明治維新後、一派獨立困難となり、遂に同五年、南禪寺の所轄に屬す。現に檀徒五百六十戸存す。

關御井坊

都濃郡花岡村大字末武上。

境内地約七百五十坪、佛殿・法堂・庫裡・大方丈・書院・地藏堂・對崎樓・觀音亭・洗佛堂・寶藏・鐘樓・山門等の堂宇を具ふ。寺寶として十六羅漢畫像十六幅、明機入唐將來龍の蓋・毛利氏黒印狀等を藏す。寺内に潮音洞と稱する水穴あり。往時里人岩崎想左衛門尉重友寺内及び附近の田地用水の甚だ乏しきを憂へ、承應三年、之を穿ちて用水に便せしものなりと云ふ。

關御井坊

都濃郡長徳村大字長徳。

曹洞宗。鹿王山と號す。永享二年、陶越前守多々良盛政の本願に依り、僧在山の開創する所にして、鹿見島福嶋寺二世竹居を以て勸請開山とす。初め龍女出現の奇蹟に依りて龍門寺と號せしが、寶徳二年、三世器之の時、

關御井坊

都濃郡花岡村大字末武上。

古義眞言宗。妙見山と號し、現に同宗仁和寺末なり。推古天皇御宇、百濟國麻栗太子當郡青柳浦桂木山の地に一字を創建して、其傳來の靈像妙見菩薩を安置す。後ら鸞頭山に移りて、上宮中宮を建て、上宮を星壇と稱し、北斗七曜石並に如意寶珠を納め、虚空藏菩薩を祀り、中宮には妙見尊を祀り、其後、太子の末裔大内氏累代の信仰頗る厚く、一山中之坊、宮之坊、關御井坊、寶財坊、寶積坊、寶泉坊等の別當七坊を具へ、衆徒多く隆昌を極めしが、慶長十三年、回祿に係りて七坊焼亡す。次で毛利氏歴代亦厚く崇敬し、新たに當寺を建立して別當とす。明治維新後、神佛分離し、同十三年現寺地に移建す。

更に現稱に改む。弘治元年、陶晴賢、毛利元就と争ひて宮島に敗る、其長子長房本寺に自及す。

岩屋寺

都農郡宮野村大字下上。

古義眞言宗

寶龜山と號し、現に同宗仁和寺末なり。寺傳に依れば、空海唐より歸朝の際、白檀を以て聖觀音を彫し、一字を建立して之を安置す。是れ當寺の靈廟なりと云ふ。

境内地

三百二十坪、堂宇に本堂・庫裡等を具ふ。

土砂加持法要

(春季)。

國分寺

佐波郡防府町東佐波令。

古義眞言宗

現に同宗高野末たり。天平年中、聖武天皇の勅願に依り建立せられし金光明四天王護國之寺の一なり。往時、境内頗る廣闊にして、老松古杉鬱蒼として幽邃を極め、堂塔亦莊嚴の靈地なり。應永二十八年、大内持世金堂を再建す。近世以降毛利氏の隨依厚く、屢次寺料寄進あり。元禄十五年、毛利吉廣仁王門、聖天堂を再建す。

堂宇に金堂(坐師堂)・聖天堂・仁王門等を具ふ。寺寶中、紺紙金泥後奈良天皇聖筆般若心經一巻、附、勅修寺光寶逆狀一通は國寶なり。他に聖武天皇聖筆心經を初め佛像・繪畫・古文書等多くを藏す。尙ほ金堂の東側に神影井と稱するあり、菅原道真左遷の途、當寺に詣り、井泉に映せし自像を寫して當寺に納めし遺跡なりと云ふ。今、當寺に藏する水鏡天神是れなり。

定念寺

佐波郡防府町宮市。

淨土宗

曹門山と號す。永祿年中、安藤社心譽の開創に係る。初め西念寺と稱せり。爾來數度回縁の災に罹り、寺運頗る衰頹せしが、天明年中、堂宇を再建し、明治四年、同宗正定寺及び當寺末院六箇寺を併合して定念寺と改む。

境内地二百二十坪、本堂・佛殿・庫裡・玄關・土藏・山門等の堂宇を具す。本尊は阿彌陀如来にして、佛殿に安置する三十三體の觀音像は、永祿年中、心譽の感得せしものと云ひ、源信作と傳ふ。文祿年中、毛利氏の請に依り長州萩の藤澤院に於て三十日間開扉し、又近世京都知恩院にて開帳し、更に京阪間に於て約一箇年間開扉せし靈傳とす。

阿彌陀寺

佐波郡平禮村。

古義眞言宗

現に同宗仁和寺末たり。文治二年、後兼房重源の開創に係る。初め養和元年、奈良東大寺大佛殿再建の講起るや、後白河法皇宣して重源を大勧進東大寺司に補し、周防一國を以て造營の料に充て給ふ。次で文治二年四月、重源國司に補せられて當國に下向するや、根郡山麓に一寺を創す。是れ當寺の靈廟なり。建久八年十一月、御遊造營の工成る。時に重源十三輪殿塔を鑄して本寺建立の額末並に東大寺大佛殿再建の年次を銘す。當時山内十坊の外一院一座を兼して、寺觀頗る宏壯なりしが、後兵燹に罹り、尙ほ本坊一字を除

きて堂宇悉く烏有に歸す。爾來文明五年に至る迄、四十五世の間、住職は勤命を以て補せられ、東大寺、法勝寺、戒壇院等の高僧之に隨るの制規ありて、皆當國國司を會つ。慶長以後獨住地となる。

堂宇

堂宇に本堂・大師堂・護摩堂・念佛堂・開山堂・龍堂・經堂・庫裡・鐘樓・土藏・仁王門等を具ふ。寺寶中、木造僧重源坐像一軀、紙本墨書阿彌陀寺田島注文並に免狀一巻、鐵製多寶塔一基、東大寺檀印鐵印一顆は國寶なり。重源像は極彩色等身像にして、奈良東大寺、兵庫縣淨土寺等に藏せるものと等しく、重源寂(建永元年六月四日)後、幾許もなくして成れるものなり。端坐合掌せる其容姿頗る寫實的にして、衣紋の刀法に運慶一派の豪放なる精神を示す。當寺田島注文並に免狀は正治二年十一月の日附を有し、重源の署名及び花押あり。多寶塔は九輪を除き高さ五尺三寸、圓形の圓に寶形式屋根を冠し、下に方形臺座を附す。中に五輪水精の舍利小塔を納め、臺座四面に長文銘を刻して、銘文中に之を多寶十三輪殿塔と稱す。蓋し殿塔四面に銘文を鑄出するは其例支那に見る所にして、恐らく重源入宋の際、接見せし彼地の實例に倣ひしものならむ。先づ當寺の四至及び淨土堂以下諸堂を記し、次に「右當山者是大和尙位南無阿彌陀佛末朝此城名地靈所造寺起塔其一也云々」と云ひ、末記に「建久八年丁巳十一月二十二日本願造東大寺大勧進大和尙位南無阿彌陀佛云々」として願主の名を列記し、更に東大寺建立の事及び、最後に鑄大工從五位下行豐後權守草部宿禰是次以下殿塔製作者並に執筆文字彫刻者の名を舉ぐ。即ち建久八年、重源自身の靈廟に依りて成れるは明かにして、阿彌陀寺並に重源事蹟に關する根本史料たり。但し塔の露盤以下は後世の補作に係る。鐵印は「東大寺」の三字を表せる長方形形印にして柄を

附了。大佛殿再建當時、其用材に捺印せしものなり。他に後兼房重源以下藏する所の古文書類多し。

極樂寺

佐波郡平禮村。

曹洞宗

瑞祥山と號す。創建年代詳ならずとも、舊く國分寺末にして眞言宗を奉ぜしが、天文年中、現宗に轉じて吉敷郡鳴鶴寺に屬す。天正年中、荒廢に歸せしが、後ち都農郡長穂村龍文寺十一世永州來りて之を再興す。寛永五年、五世水觀の代、毛利輝元の位牌を安じ、其法諱に因みて一時靈巖寺と改めしが、明治維新後舊稱に復す。

境内地

千五百餘坪、本堂・開山堂・位牌堂・觀音堂・庫裡・土藏・長屋・山門等の堂宇を具ふ。

天徳寺

佐波郡石田村。

曹洞宗

萬年山と號す。建久年中、源頼朝の開基に係ると傳ふ。申世、兵燹に罹りて衰頹し、幾かに一小庵を残すのみなりしが、寛永二年、毛利山城守元俱富國三丘より當地移住の際、先祖元政の墓所を當山に移して大いに堂宇を造營し、元政の法諱に因みて天徳寺と號し、寺田若干を附して其菩提所となす。

本堂・觀音堂・地藏堂・羅漢堂・位牌堂・禪堂・龍堂・庫裡・玄關・方丈・經藏・土藏・鐘樓・山門等の堂宇具はりて地方の大刹なり。境内に源頼朝の塚、毛利氏累代の廟等あり。

禪昌寺

吉敷郡小崎村大字下小崎。

曹洞宗

法幢山と號す。應永三年、領主大内義弘の創建に係り、慶應定額を請じて開山となす。同七年、堂宇七十三坊の造營成り、一山七百餘の僧徒を擁して、俗に西國高野山と稱せりと云ふ。後ち漸く衰頹し、慶應年間、尙ほ僧坊三十七字を残せしが、明治以後、悉く廢絶す。

境内地四千五百九十餘坪、本堂・阿彌陀堂・禪堂・書院・方丈・衆寮・庫裡・茶寮・經藏・寶藏・鐘樓・樓門・奥ノ院・禪定齋等の堂宇を具ふ。境内に山市の驛路・山本の書屏、南谷の郡房、深山の曉鐘、仙家の石船、虎溪橋、飛雲巖、龜尾峯、獅子洞、金剛殿等の勝景あり。所謂禪山十勝是れなり。

興隆寺

水(水上寺) 吉敷郡大内村大字御堀。

天台宗

水上山と號す。俗に水上寺と云ふ。百濟琳聖太子の創建に係ると傳へ、一に大内正恒の開創なりと云ふ。同氏盛時、山口五箇寺の隨一に列し、寺運頗る隆盛なりき。歴應年間、兵燹に罹りて一山燒土と化せしが、文明十七年、大内政弘法界門を建立す。其後更に釋迦堂・妙見堂、客殿、庫裡の再建なりて稍々舊觀に復せり。

境内地三千四百餘坪、寺寶として張思恭筆釋迦三尊・法界門聖額等を藏す。尙ほも文明十四年より天正年間に至る刻銘を存する法華經版本(所謂山口大内版の始)及び信慶筆大般若波羅密多經第四百八十六卷等を藏せしが、今、前者は山口縣立圖書館、後者は山口市作間氏の所管に歸す。

常樂寺

雲舟寺 吉敷郡宮野村大字宮野下。

臨濟宗東福寺派

香山と號し、俗に雲舟寺と云ふ。永祿七年、毛利元就、其子隆元善提の爲めに安藝國高田郡郡山の地に一字を創建し、其法諱に因みて廣利常樂寺と號し、山口上野野令國清寺住持善心を請じて開山となす。是れ當寺の靈廟なり。翌八年、正親町天皇より常樂廣利禪寺の勅額を賜ふ。時に寺領千五百石を有す。慶長五年、毛利氏防長二州に削封の關、當寺亦國清寺に併して合併し、寺領三百二十石を附す。明治二年、濁春寺を當寺地に移すに方り、當寺を妙壽寺内に移して、之を併せ、以て興國寺と改む。同二十一年九月、更に寺號を復舊して常樂寺を公稱す。大正十五年五月三日、山麓の民家火を失し、當寺樓門及び倉庫を除き堂宇悉く燬焼す。爾來専ら寺運回復に努め、現に堂宇再建の企てあり。

境内地千餘坪、一山の規模宏壯にして、殊に本寺の庭園は文明年中、大内政弘、落北金剛寺に擬し別業を營みし所にして、壽僧雲舟に命じ、假山水の後庭に築かしめしものなり。周圍の崖壁三十六處、庭園に引きて景景となす。此境支那嵩山の勝に埒觸たりとて雲舟は之に擬して最高峯を三呼嶺、天住の飛泉を揚壽溪、其流を五渡溪、池を無染池と名づけたり。丘阜泉水の形容、巖石樹木の布置、清雅幽邃を極む。現に史蹟名勝地にして、又本寺を雲舟寺とも稱する所以なり。

初瀬觀音堂

吉敷郡宮野村。

古義眞言宗

開山忌(九月三日)。

●初め大内氏の盛時、初瀬の地に創建せられ、堂塔伽藍壯麗を極めし、文祿十二年、大内輝弘の亂に山焼亡し、後ち現寺地に移りて再建成る。明治初年、獨立佛堂となり、現に山口市八幡馬場町古義眞言宗高野末神福寺の管理に係る。

●境内約千坪、堂宇に六角堂及び前殿あり。本尊木造十一面觀音立像一軀は國寶にして、丈高一尺七寸三分、楠材を用ひ、檀像の一種にして、琳瑯太子の百濟より將來せしものなりと傳ふ。寶髻高く、頂上化佛を戴き右手普施無畏の印、左手屈臂するも、今、其指先を缺きて形不明ならず。腰衣肩より前面二段に垂下し、又兩肩より珠璣を懸け、腰部に於て交叉し更に裾を繞りて後方に懸ふ。其直立せる體軀豐滿、手掌の肉亦厚く頗る重厚の感あるも、今、鼻頭脱落して大いに慈容を損ふ。様式法隆寺九面觀音、室生寺彌勒像等に近きものあり、或は彼地晚唐の作とも推考せられ、以て本縣第一の彫刻とすべし。尙ほ高く突出せし胡桃形蓮座は別木彫なるも、亦當初の作たるべく、其刀法頗る雄勁なるものあり。

養元寺 吉敷郡大蔵村大字矢原。

●眞言本願寺派。●弘長三年、僧西願の開創に係る。西願、俗名村上庄左衛門尉と云ひ、初め北越米山城主たりしが、觀覽北陸巡化の例、其弟子となり、弘長三年、信州水内郡の地に一字を創して養元寺と號す。是れ當寺の濫觴なり。永祿初年、住僧了玄の時、故ありて美作國石郡に移し、養元寺と號す。享保年中、十三世惠明の代、本山の命に依り更に當村教正寺内に移轉し、寺號亦教正寺と改めし。

正寺と改めしが、後ち舊號に復すと云ふ。●本堂・庫裡・玄關・茶寮・鐘樓・山門等の堂宇を具ふ。

清安寺 厚狹郡厚狹町。

●淨土宗。●意翁山と號す。初め眞言宗を奉じ、不動明王を本尊として明王山不動寺と號す。時に大内氏累代の新願所となり、寺門隆昌を極むと云ふ。中古漸く衰頹せしが、弘安元年、行宿梵阿之を再興して以て現宗に改め、阿彌陀如來を安置して本尊とす。永正十六年、大内義興、當寺不動尊に深く歸依し、不動堂を建立して寺領百石を寄す。其後、冷泉列官隆豐此地を要害となし、懇望して此處に轉じ、當寺を其菩提所と定めて寺領五十石、境内七十町の免除地を附す。天文二十一年、一山回縁に罹りて烏有に歸す。永祿五年、國主毛利元就九州發向の時、當寺不動明王に武運長久を祈り、凱陣後、財滿越前守に命じて堂宇を營建せしむ。天正年中、豐臣秀吉改めて寺地一町八畝二十八歩に譲す。寛永二年、冷泉隆豐の室毀するや、即ち當山に轉り、其法號に因みて寺號を清安寺と改む。

功山寺 豊浦郡長府町豊浦町。

●曹洞宗。●境内地千五百九十六坪、本堂不動堂庫裡等の堂宇を具ふ。不動堂本尊不動明王は春日作と傳へ、俗に日本三體の一日白不動と稱して、古來其靈驗を喧傳す。

●金山と號す。嘉曆二年、東福寺開山神圓の法孫處庵玄寂の開創に係る。初め長福寺と號して臨濟宗を奉ぜり。正慶二年、後醍醐天皇勅旨を賜ふ。建武年中、足利尊氏寺田を寄せ、觀應二年、足利直冬亦寺料若干を附す。爾來武門の崇敬を蒙り、國守大内氏の歸依殊に厚く、山門隆盛を極む。天文二十年、陶晴賢、大内義隆を弑するや、大友義長迎へられて山口に居りしが、



(寶蹟) (殿佛寺山功)

覺苑寺 豊浦郡長府町。

●黃檗宗。●元祿十一年、府中侯毛利綱元の創建に係り、支那福建省の僧悅山道宗を請じて開山とす。時に綾羅木村元亭山利濟寺の觀音像を之に移安置し、大殿には本尊母の最明寺釋迦如來を移せりと云ふ。●堂宇は支那式にして、土間本堂・二重屋根の黃檗流なり。寺寶として開山筆蹟五幅對を藏す。寺背には觀音像を安置し、巡拜道路百餘尺にはトネルを設け山の取付に成田不動明王を勧請す。其傍に男婦女體あり。尙ほ境内は和開闢實跡の遺蹟にして、現に史蹟に指定せらる。又古來樓の名所として著聞する所なり。

安養寺 豊浦郡黒井村大字厚母郷。

●曹洞宗。●草創年次第に沿革詳ならず。●寺寶中、木造阿彌陀如來坐像一軀は國寶にして、高さ九尺一寸八分、寄木造とし、藤原末期の作に係る。

藥師堂 豊浦郡神田村。

●淨土宗。●寺傳に據れば、大同元年、空海唐より歸朝の途、當國海士ヶ瀬にて風波に遭ひ、此地に漂着す。上陸後、里人久太郎宅に自刻の藥師如來像を安置せしが、後ち一字を建立して回春山東福寺と號す。即ち當寺の濫觴なりと云ふ。初め眞言宗を奉ぜしが、享保年中、改めて淨土宗となし、明治四年、寺號を廢して現稱に改む。

●當寺附近の來見山庭園には空海撰掛石及び住持當院遺蹟の碑、藥師像を安置せしと傳ふる礎石の天然奇石存す。又堂背後の丘陵は公園にして、櫻木の頃、遊覽を兼ねて賽者接應す。公園頂上殊に四圍の眺望雄大なり。

●藥師如來緣日(毎年五月七日・九日)。當日詣れば眼病、船舶危險等に靈驗ありと云ひ、近郷及び九州方面よりの參拜者數萬人に達すと云ふ。

修善寺 (御嶽觀音) 豊浦郡殿居村大字李路子。

●古義眞言宗。●別稱孫山國護院と號し、俗に御嶽觀音と云ふ。現に同宗仁和寺末たり。創建年次第詳ならず。文保元年、乘行之を再興し、元應二年、後醍醐天皇の勅に依りて堂宇を再建す。天正十六年、領主毛利輝元、寺料二百餘貫文、金二萬疋を寄せて大いに堂塔を修造す。其後、長府毛利氏の新願所となり、寺領七十石を附せられたり。

●境内地九十萬坪、寺地別留孫山腹に位置し、一山老樹鬱蒼として幽邃の地をなす。本堂・毘沙門堂・地藏堂・護摩堂・大師堂・通夜堂・經藏・庫裡・仁王門・寶物館・奥ノ院等の堂宇を具ふ。本堂は桃山期の建築にして、特に拜殿彫刻は壯麗を極む。寺寶として後白河天皇宸筆法華經・菅原道眞筆法華經・空海筆不動明王・源信筆三尊彌陀等を藏す。尙ほ伽藍附近に一本杉と稱する樹齡八百年以上の大木及び樹齡六百五十年以上と稱する大石楠花あり。

●涅槃會(三月十五日)、千日參り(八月十日)。

弘治三年、毛利元就之を改めて、義長遂に當寺佛殿に於て自盡す。其後一時堂宇荒廢に歸せしが、慶長七年領主毛利秀元之を修營し、寺領山金剛を請じて其菩提所と定め、且つ島州甘日市洞雲寺開山金剛を請じて以て中興開山とす。時に曹洞宗に改む。秀元歿後、其後諱に因みて功山寺と改稱す。爾來三百餘年、法燈連綿として、山陽名刹の一たり。

●堂宇に本堂・佛殿・大師堂・禪堂・衆寮・經藏・庫裡・書院・鐘樓・總門・山門・觀守廟等を具ふ。就中、佛殿は國寶建造物にして、寺内後方にあり、東面す。寺傳に嘉曆年間、建立の儘なりと云ひ、様式手法亦略々之に一致す。堂は桁行五間、椀間五間、重層、屋根入母屋造、檼瓦葺にして、上下兩層共勾配階々急、軒端反轉亦稍々著明なり。上層雄大なる單扉を分布し、五角斷面を有する尾座を出して唐樓四手先結組とし、頗る豪壯の氣に満つ。組物下直ちに下層屋根を突出し、軒上層に同じく雄壯なる檼座を配し斗拱を附して椽柱を立つ。今、下層軒端重量に堪へず、支柱を以て之を承く。前面中央三間棧唐戸を建て他悉く羽目板張とす。内部床處瓦敷、内陣來迎柱を置きて天井鏡天井、彫虹梁、複雑なる斗拱の制等鎌倉圓覺寺舍利塔の手法に似て下關永福寺本堂内部に形似たるものあり。蓋し本殿の内外共に純然たる唐樣形式に則り、細部の手法亦よく鎌倉朝の特徴を發揮し、一見上層の下層に比し隘小にして均衡稍々失するの憾なしとせすと雖も雄大高邁の精神四域に溢れ、以て地方屈指の遺構とすべし。尙ほ本堂には舊三條實美居間を存す。寺寶として後醍醐天皇勅旨・同天皇宸筆金山勅額・吳道子筆觀音像・明孝筆涅槃圖・毛利秀元筆轉役戰利品古類等を藏す。寺内に大友義長、毛利秀元、長府毛利氏累代の墓を存す。

大津寺

大津郡深川町深川湯本。

曹洞宗

瑞雲山又は東康山と號し、具さに大津護國禪寺と云ふ。應永年中、領主大内教弘の創建に傳り、石屋眞...

淨泉寺

大津郡美海村大字新別名。

興宗本願寺派

興宗本山と號す。明應年中、僧了專の開創に傳る。初め貞和年中、石州上山城主山六良左衛門高元、足...

鳥取縣

最勝院

鳥取市湯所町。

古義眞言宗

如意山と號し、高野末たり。法道仙人の靈蹟にして、天長九年、空海の開創なりと傳ふ。往古山頂に位...

興禪寺

鳥取市栗谷町。

眞覺宗

龍峯山と號す。元祿六年、僧千景(一に千景)之を開創して、瀧主池田光伸の菩提所とし、其法諱に因みて...

眞教寺

鳥取市川端一丁目。

淨土宗

天文十四年、了達の開創に傳る。初め城山水道谷城戸の内に在り。天正九年、吉川經家、豐臣秀吉に包...

大津寺

大津郡深川町深川湯本。

曹洞宗

瑞雲山又は東康山と號し、具さに大津護國禪寺と云ふ。應永年中、領主大内教弘の創建に傳り、石屋眞...

淨泉寺

大津郡美海村大字新別名。

興宗本願寺派

興宗本山と號す。明應年中、僧了專の開創に傳る。初め貞和年中、石州上山城主山六良左衛門高元、足...

鳥取縣

最勝院

鳥取市湯所町。

古義眞言宗

如意山と號し、高野末たり。法道仙人の靈蹟にして、天長九年、空海の開創なりと傳ふ。往古山頂に位...

興禪寺

鳥取市栗谷町。

眞覺宗

龍峯山と號す。元祿六年、僧千景(一に千景)之を開創して、瀧主池田光伸の菩提所とし、其法諱に因みて...

眞教寺

鳥取市川端一丁目。

淨土宗

天文十四年、了達の開創に傳る。初め城山水道谷城戸の内に在り。天正九年、吉川經家、豐臣秀吉に包...

常忍寺

鳥取市大字西品治。

日蓮宗

城峯山と號し、下總國正中山法華經寺の客末たり。紀州侯徳川頼宣の母養珠院當宗に歸依し、紀州に養珠寺を、甲州に本蓮寺を興し、尙ほ日常の生國たる當國に一字を建立せんとて果さず、池田氏室其遺言を奉じて當寺を草創す。

本尊は一尊四菩薩なり。寺寶中、絹本着色普賢十羅刹女像一軀は國寶に指定せらる。堅三尺四寸五分、幅一尺七寸七分を有し、鎌倉時代の製作にして、東京帝室博物館に出陳せらる。尙ほ經藏に大藏經二千四百部及び其他の佛書八千餘部を藏す。

感應寺

米子市大工町二丁目。

日蓮宗

常住山と號し、駿河並に紀伊の感應寺(各項參照)と共に本宗三感應寺と稱せらる。慶長七年、米子城主中村一忠の本願に依りて創建し、駿府感應寺第十一世日長を開山とす。同十四年、一忠卒し、當寺に葬る。當時寺領三百石を有せしが、元和三年、池田光政領主となるや、三十石に減せらる。後ち池田氏堂宇を再建せしが、舊觀に及ばず。

境内七百九十八坪、本堂・庫裡・祖師堂・御影堂等あり。寺寶として開基中村一忠の木像を藏す。

摩尼寺(帝釋寺)

岩美郡中ノ郷村大字覺寺。

天台宗

喜見山と號し、帝釋天を本尊となすを以て一に帝釋寺とも稱す。天長年中、鹿見長者なる者、帝釋天の奇蹟に感じて草創し、承和年中、圓仁此地を下して堂閣を造營すと傳ふ。中古陸奥守秀衡、持柄を本尊に祈りて驗あり、依りて更に伽藍を再建すと云ふ。天正八年、豊臣秀吉再度の鳥取城攻略の兵火に罹り、堂舎僧坊悉く灰燼に歸す。後ち國守池田光政之を再建す。近世寺跡二十六石を有す。明治四十五年七月、伊藤廣成信州善光寺分身如來を勧請す。



(景 寺 尼 摩)

城八百六十坪、摩尼の山肩に位し、渺々たる北海を瞰す。境内に本堂・位牌堂・開覽堂・三祖堂・客殿・庫裡・龍堂・仁王門・總門を具ふ。當寺より登る事十三町にして奥ノ院に達す。岩窟中に地藏尊を祀り、賽河原と通稱す。本堂前面に一大枯杉の根株あり。秀衡杉と稱せられしものにして、文久元年五月、藩

備前興隆文の「秀衡杉記」の碑あり。尙ほ巖子落しの瀧あり。又山麓に頼業氏談記の著者小泉友賢の墓あり。會式(舊六月二十七日、二十八日)

國分寺

岩美郡宇野村大字國分寺。

黃檗宗

景勝山と號す。天平年中、聖武天皇の勅願により行基の開創に係ると云ふ。延喜式に因幡國々分寺料三萬束、文殊會料二千束と見ゆるは即ち本寺なり。往時寺殿莊嚴を極めしが、中世兵亂に罹りて頽廢す。現に一草堂を存し寺號を傳ふ。

圓城寺

岩美郡宇野村大字谷。

天台宗

實生山と號す。大同元年の創建なりと傳ふ。天安年中、大江種輔當國に赴任し、觀世音に祈願して一女を娶ぐ。即ち和泉式部なりと傳ふ。元祿年間、回鑿に罹り、諸堂を燒燼す。天正年間、再び兵災に罹る。後ち樂師堂、長流寺の二字を併合し、以て今日に至る。本尊千手觀音を安置す。傳に云ふ、往古光明皇后安産祈念の爲め、行基に命じて諸寺に佛像を納進ありし時、南都興福寺西金堂に納め給ひ置像にして、後ち比叡山を経て本寺に移定せられしものとす。附近湖山村に和泉式部墓と傳へて鹿湯の井、鹿衣塚、大江氏屋敷跡等存す。

學行院

岩美郡成器村大字松尾。

眞言宗醍醐派

草創年次並に沿革不詳。水造法師如來及び兩脇侍坐像三軀・同吉祥天立像一軀は國寶たり。前者は中尊の高四尺、脇侍三尺二寸、光背、寶座又原作のまゝを遺存せるは珍とすべし。一般に温雅の相を有し、中に一抹の剛健性あり、藤原末期の秀作とす。寶座亦精巧の作にして、彫出せる寶相華に作者の優秀なる手腕を認む。後者は、丈高約四尺、前記三尊と同時代の作とすべし、現に彩色剥落せるは惜むべし。

西方寺

八頭郡若櫻町若櫻。

淨土宗西山派

不遠山と號す。天文年中、徳空寺の開創に係る。もと四宗兼學無本寺にして壽命院二尊寺と稱し、城主矢部山城守の祈願所たり。二世空伯李珍は朝鮮の人、豊臣秀吉朝鮮征討の際、之に隨侍し來り、播磨細千西方寺を開く。後ち當地に來る。慶長年中、城主木下氏、深く李珍に歸依し、境内一町四方並に堂宇を寄せ、山寺號を今の如くに改め、京都東山禪林寺、西山光明寺兩山末となる。後ち木下氏大阪四天王寺に自害するや、李珍其遺骸を當山に葬る。明治八年、當町の大火に類し堂宇什器悉く烏有に歸し、同三十一年、章空運文本堂を再建す。

青龍寺

八頭郡賀茂村大字下門尾。

眞言宗醍醐派

成田山と號す。和銅二年、僧行基の開創にして、

も城光寺と稱せりと云ふ。往古七堂伽藍、三十六坊舎を具へ、後醍醐天皇之を勸願寺に列し、山名師氏、名和長年等の諸將亦深く本寺に歸依せり。中古數回兵燹に罹り、快壽之を現地に移す。明治三十六年、成田山不動明王の分身を勧請して以來、中國の祈願所となる。本堂(五間、十間半)・庫裡等を具ふ。本尊聖觀音は行基の作と傳ふ。脇士木造多聞天立像一軀・同持國天立像一軀は國寶に指定せらる。丈高各二尺五寸、持國天の胎内には正安三年正月二十五日佛師開闢の墨書銘あり。多聞天に銘記無けれども、同時代の作なるべし。兩像共、奈良興福寺のそれの如き古樣を有せるも、部分的に尙ほ不調和を免れず。他に限石・圓湖の塔等を藏す。

大法會(四月一日)。

能引寺

八頭郡大伊村大字下野。

臨濟宗妙心寺派

虎石山と號す。貞應元年八月、觀山の僧忍山の開創に係ると云ふ。是より先き元久二年、曾我十郎祐成の妻遊君虎御前(貞觀尼)此地に來りて歿するや、其伯父忍山一字を建立し、尼の念持佛地蔵菩薩を安す。もと天台宗なりしが、應仁年間、京都建仁寺天隱來住の時、臨濟宗に改む。寺寶として往時時成傳來の弓・虎御前木像ありしが、慶安年中、盜竊に遭ふ。現に短刀一口を存す。附近に虎ヶ石、法華水等の古跡あり。

最勝寺

八頭郡國英村大字片山。

古義眞言宗

石山山嶺院と號し、創至未なり。和銅二年、行基當山に來り草庵を結びて修練す。是れ本寺の濫觴なりと傳ふ。後ち在原行平國守たりし時、更に一字を建立して妙善退除の祈願を行ふと云ふ。天曆元年、眞源伽藍及び四十二坊を造營し天台宗を奉ぜしが、快樂の時、眞言宗に改む。建久五年、源範賴の長子範國寺領五百石を附す。天正九年、兵火に全燒せしが、幾許もなく再建を遂げ、池田氏入國以來寺領若干を寄せらる。寺寶として眞源筆大般若經五十卷・同所持鐵鉢等を藏す。境内に源範賴の墓と傳ふるもの存す。

新興寺

八頭郡安倍村大字新興寺。

古義眞言宗

波羅密山と號し、高野末たり。當國順禮第九番の札所なり。草創年代不詳。古來、公家、武家の崇敬厚く、安元年中、四至榜示の記によるに「限東、金峯山金剛寺等得丸私部等、限西、大谷山鼻横道峰屋井口上町等、限南、武石八東河之小別府等、限北、石塔鷲倉山峯津墨堤」を見え、東西七十五町、南北四十町に亘り、堂塔、僧坊輪奐の美を極めしが、後世戰亂に遭ひて衰頹し、天正年中、豊臣秀吉の兵火に罹り、諸堂灰燼に歸す。後ち寺運愈々衰微せしが、正保年中、京都盛範此處に留錫し、眞言の法流を顯揚す。

最初本尊に延命、千手の兩觀音を安置せしが、後ち千手觀音は鳥取湯所金剛院に移せり。寺寶に建武二年足利尊氏御教書、應應二年同直義卿物・觀應元年今川賴貞進狀・貞和二年山名氏成許狀等の古文書其他院宣寫書・寺領證文等を藏す。

岩屋堂(黒皮不動) 八頭郡池田村大字岩屋堂

● 妙見山と號し、俗に黒皮不動と稱す。日本三不動の一にして高子の菩提寺なり。大同元年の創建と傳へ、往時七堂伽藍を完備して、四方に大門を具へしと云ふ。後ち源賴朝之を再興す。

● 寺境八東川の上、吉川谷の口なる山下に在り。窟は南向、高さ八間、横四間、奥行十間、其中に掛作りを以て岩屋堂と稱す。堂は方二間半、林下の楯によりて昇降す。本尊不動明王坐像は空海三十三歳の時の作と傳へ、俗に因幡の黒皮不動と稱せらる。東郡目黒不動、目赤不動と共に日本三不動と呼ばる。當堂の境内南の山下に平經盛一族の墓と傳ふるものあり、其城長三十三間餘、奥八九間に石垣を築き、其上に五輪の碑十一基並び建つ。此碑舊田土中におりしが、農耕の障害たるを以て就處の墓と同じく、此處に安置せりと云ふ。又堂前の岩上に就盛愛馬の墓あり。

大安興寺 八頭郡大村大字賢好

● 古義眞言宗。● 賢王山と號し、高野末なり。大化元年、天竺僧法道仙人の開創と傳ふ。和銅二年、行基當山に來住し、大安興寺の勸修を賜ふと云ふ。往時は寺領七十石を有し、國家國護の新願所たりしが、戰國時代兵亂相つぎて、寺運亦衰微す。池田氏入國の後再興せられ、以て今日に至る。

● 本堂・祖師堂・講堂・持佛堂等を具備す。寺寶として行基、空海、源信作と傳ふる佛像・佛空海軍法

華經・鳥羽法皇宮第五大尊圓等を藏す。● 古義眞言宗。● 宇谷山と號し、高野末なり。大同四年、眞雅の開創に傳り、往古寺院十二坊を有し、寺觀盛大なりしが、後ち衰頽す。

● 本尊は無量壽佛なり。寺寶中、木造毘沙門天立像一軀・絹本着色普賢菩薩像一軀・同楊柳觀音像一軀は國寶に列す。其中、毘沙門天立像は丈高二尺有餘、威風凛凛とし、藤原時代の傑作たり。普賢菩薩像は寺傳には唐畫と云へど、藤原末期の製作にして、幾全使用の精巧なる、龍目、唐草、七寶、石疊等の文様の細網たる、當代に於ける優れたる遺作なり。楊柳觀音圖は鐵線描より成り、其色調、相好の表現等胡元時代の作と見るべき京都大徳寺藏楊柳觀音と其趣を同じくするものあり。此種佛畫中の逸作として注目せられ、現に普賢菩薩像と共に東京帝室博物館に出陳せらる。他に十二天古畫・八祖畫像・金胎兩部受茶羅・東城軍山水圖等を藏す。

幸盛寺 氣高郡鹿野町鹿野

● 淨土宗。● 鹿野山と號す。寶徳年中、豐後房阿の開創なりと云ふ。初め鹿野西北の山麓に在りて、明照山持西寺と稱せしが、二十七日明應の代、山中鹿之助幸盛の覺、龜井武藏守意矩之を現地に移述して現稱に改め、幸盛の菩提寺とす。

三佛寺 東伯郡三徳村大字門前

● 天台宗。● 三徳山(一)に美徳山に作る。號す。寺傳に、往昔役小角、三徳の蓮花を空中に撒じ、願くば此蓮花佛教有縁の地に落つべしと念ぜしに、一は大和國吉野山に、一は伊豫國石見山に、一は此伯耆國の三徳山に落つ。仍りて慶應三年、小角當山に來り、自ら險阻を拓き、山上の巖壁中に堂宇を創建し、金剛藏王權現を安置す。今の奥ノ院投入堂即ち是れなりと傳ふ。後嘉祥二年、圓仁來りて山上に堂宇を營み、彌陀、釋迦、大日の三尊を安置す。建久七年、源賴朝寺領三千石を寄せ、



(寶圖) (堂投入寺佛三)

佐々木盛綱を奉行として、殿堂三十八宇、寺坊五百を造營せしむ。應安二年、足利義滿更に諸堂及び寺坊四十



(寶圖) (堂經納寺佛三)

九院を再建せしが、其後數度の兵災に罹り、堂坊數多く焼失せり。天正五年、國主兩條元禮、御供領片榮村奥兩谷共高五百石を寄附し、堂宇十八、坊十二を再興す。寛永十年、領主池田光仲、寺領百石及び山林境内東西五十町、南北三十町餘を附し、爾後累代國主大いに山上下の諸堂宇修營に勞む。天保十年、池田齊調本堂を再建す。● 維新後に至りては、堂舎漸く其數を減ぜり。大正三、四年古社寺保存法に依り投

地蔵堂・鐘樓・納經堂・觀音堂・元結掛堂・不動堂・奥ノ院投入堂等を具備す。就中、文殊堂、地蔵堂、納經堂、奥ノ院(投入堂)は現に國寶建造物に指定せらる。石階數十級を登れば本堂あり、彌陀、釋迦、大日の三尊を安置す。堂後を過ぎ、橋を渡り、峻坂を登攀すれば、文殊堂に達す。即ち行者道第一着の堂宇にして、桁行四間、梁間三間、單層、屋根入母屋造、柿葺、山腹丘上に建ち、前面千仞の豁谷に臨み舞臺造建築なり。其創立年代に就きて明徵を缺くも、附子舞臺具銘に「權那南條備前守天正八年三月吉祥日」とあり。屋蓋妻部を正面とし、後方入母屋に接して唐破風を設け形體に變化を興へ、勾配緩かに軒端反轉あり、外観野殿風に書院造を加味し、頗る清酒輕妙、山岳建築の美觀を遺憾なく發揮す。手法唐様に屬し、室町末期の遺物たる事疑ひなし。大聖文殊菩薩を本尊とす。更に山腹を登る事數町にして地蔵堂あり、桁行四間、梁間三間、單層、屋根入母屋造、柿葺、文殊堂と同じく山腹丘上に建つ舞臺造建築なり。構造様式全く文殊堂と其規を一にし略々同時代の建築にして亦山岳建築中の一傑作たり。本尊平安延命地藏菩薩を安す。此處より鐘樓を経て馬の背、牛の背の峻険を過ぎ納經堂に達す。一間、春日造、屋根柿葺、背面斷崖に接して建つ小宇にして、今法華塔一基を納め、納經堂と稱するも、當初は鎮守の小祠たるべし。舟形木の底面、方柱等皆大面取りにして其様式手法簡明且つ樸風、藤原期の遺物とせられ、本邦春日造神社建築中最古の遺構たり。此處より奥ノ院に至る間、觀音堂、元結掛堂、不動堂等の諸堂建つ。山頂奥ノ院は一に投入堂と稱し、北東面せる斷崖絶壁の上方淺き洞窟を作り、其窟内に建つ。巖の龜裂、瘤角を手懸りとし、如屈擬身し漸く堂上に達する當山中の最大窟所たり。堂は桁行一間、梁間一間、單層、屋根



(寶圖) (堂經納寺佛三)

聖觀音立像一軀・投入堂本尊藏王權現と大略同時代の遺作にして前記八幡宮國寶に指定せらる。寺寶中、銅鏡一面亦國寶なり。長徳三年九月二十日云々の銘を存し、表面に佛像を毛彫せしものなり。尙は大正四年投入堂修理の際、長押上より至徳三年僧眞宗書寫の法華經一部八卷出で、又昭和二年六月二日、本堂須彌壇下より奈瓦春日版なる大般若波羅密多經約二十卷發見せらる。附近に不動尊、阿彌陀尊、念佛尊、眞蛇尊、德院尊、鬼岩、鈴ヶ岩、伏見岩、三站岩、手附岩、仙人岩、鐘岩、佛岩、屏風岩、小齋松、養老松、天狗休松、夫婦杉等の名勝多し。

●例儀大會式(古例大講摩供並に庭儀法要執行、舊三月十七日、十八日)・開山會(舊三月二十八日)・傳教大師會(舊六月四日)・大般若會式(舊六月十七日、十八日)・天台大師會(舊十一月二十四日)・甲子會(甲子日)。

觀音堂 東伯郡北谷村大字長谷。

●不詳。
●草創年次並に沿革不詳。
●寺寶中、木造持國天增長天立像二軀は國寶たり。何れも一本彫成にして、觀衣の髣髴巧妙を極め、藤原時代の様式を具ふ。

定光寺 東伯郡社村。

●曹洞宗。
●金地細山と號す。應永年中、源義入道の草創にして、開山は長應(南條伯耆守貞宗二男なり)と云ふ。近世寺領十九石を有し、伯耆國鎮所二箇寺の一なりしと云ふ。現に當宗常恒會地として郡内の一名列なり。
●寺寶として梵鐘一口あり、天正二年十月、近江國住人川崎九郎右衛門家長の寄進に係る。他に尼子晴久、高橋・南條氏位牌二基あり。寺の後山に觀音像あり。一石面に三十三體を彫刻す。本寺二十世權玄鎮守の蓮池より發掘せし石佛と稱す。

大日寺 東伯郡高城村大字櫻。

●天台宗。
●勝金山と號す。僧源信の開創なりと云ふ。往古規模を高野に採り、大伽藍を營み、上院、中院、安養院

の三所に分ち、三百餘の坊舎軒櫓を接せしが、後ち廢頽す。元祿二年、秀榮之を中興し、以て現在に至る。
●本尊木造阿彌陀如來坐像一軀は高さ三尺七寸、胎内に嘉祿二年卯月の銘あり、以て製作年代を察知すべし。其左手を伸下せず、申邊にて印を結べるは異相とすべく、現に國寶に指定せらる。他に彌陀・觀音・樂師等の古佛木像あり。寺地を距る六町餘に大伽藍址と認めべき礎石多數殘存す。

退休寺 東伯郡上山村大字退休寺。

●曹洞宗。
●具さに金龍山退休護國禪寺と號す。延文二年八月、當國八幡郡岩井垣の城主荒津豐後守致忠、僧玄翁に請ひて亡妻の遺魂を濟度し、領地の毒龍を退治せしより、大いに其高徳を欽慕し、遂に東西六町、南北十五町の莊園及び若干の領地を附して一字を創建し、玄翁を請じて開山となすと云ふ。至徳二年、後小松天皇、之に紫衣並に金龍山退休護國禪寺の勅額を賜ふ。應永八年、荒津豐後守信清寺領を加増し、講堂を改修す。慶長十二年、祝願の災に罹りて諸堂悉く烏有に歸せしが、寛永十年、因伯國國の太守池田忠雄更に寺領を寄せて堂宇を再建す。爾來寺觀漸次整備し、現に常恒會地の巨刹たり。
●寺域二千餘坪、堂宇に本堂・庫裡・衆寮・僧堂・鐘樓堂・勅使門等あり。

大山寺 西伯郡大山村大字大山。

●天台宗。
●角聖山と號す。寺傳に據れば、養老年中、出雲國

玉造の後方なる者、出摩して金蓮と號し、其居宅を佛堂に改め、地藏菩薩を安置せしを當寺の遺蹟とす。後ち貞觀年中、圓仁其を此地に留めて堂宇を建立し、山徒に引聲の彌陀念佛を傳へ初めて大山寺と號す。仍りて圓仁を中興第一祖に推す。天承年中に至り堂宇を修營す。平治年間、榮西本寺に來り、住僧基好に就きて密業を修學せし事あり。承安元年七月二十八日、同縁の災に罹るや、本尊地藏尊亦此災に犯され、一山の僧侶相謀して其遺體を伯州の豪族紀成盛(通稱海六兵衛)に勸め、同二年、成盛、金銅地藏尊及び厨子を鑄造す。其鑄額厨子に西明院主大法師、南光院別當大法師、中門院座主大法師等の署名あるを見れば、此頃既に三院並びに院主、別當、座主等の職制定より、各院の諸坊を總管せしもの、如し。建仁二年、守護佐々木高綱、郡内の末吉、福本、稻吉三村に於て寺領若干を附す。元弘三年二月、後醍醐天皇應岐より當國船上山に遷幸せらるや、本寺の僧信房源盛、兄和長年の義舉を授け、僧坊同宿二十餘人を率ゐて行宮に馳参す。當時船上山上に昇檣院と呼ぶ寺あり。當寺の末寺たりしより、源盛は其山僧に命じて天皇に供御を進め奉らしめたり。山陰に於て出雲野洲寺衆徒と並び稱せられし大山寺衆徒は此頃より記録に見ゆ。源盛は後ち源忠顯の軍に従ひて京都六波羅を攻め、延元の亂には佛眞親王の麾下に屬し、遂に肥後八代に戰歿す。天文、弘治の際、尼子氏出雲に崛起して山陰を風靡するや、大山權現を厚く信仰し、衆徒亦其戰勝を祈願す。毛利氏起りて、尼子氏を攻むるや、衆徒毛利氏の爲めに尼子氏降伏の祈禱を修す。尼子氏滅亡の年、毛利氏當山會舎に修理を加ふ。永祿十二年六月、本寺の衆徒經悟院三百餘騎を率ゐりて尼子勝久の軍を援助す。斯くて山徒の強盛、觀山、吉野の僧兵にも匹敵せしが、天正以後

に至りて頓に衰ふ。徳川時代に至り、蒙園入寺して一山の法規を定め、幕府に上書して汗入、日野二郡に亘り二十三村三千二百八十五斗の寺領を附せられ、三院四十二坊を具へ、寺門を再興す。徳川時代に於ける本寺の職制は、初め年行事の上に學頭ありて一山の寺務を總管せしが、後ち學頭代を置き、一院一員を以て定員三人なりしより三學頭代と稱す。また當寺は延暦寺末たりしを以て、直接に大山寺座主となりて統率せし者少く、交關を第一世座主として、寶永七年、第八世大慈院正實まで、天台宗派の英傑を以て兼帶せしが、慈賢院法親王の支配となりてより、兼帶座主を置かず、留守居と稱し所屬の僧侶を派して、一山の寺務を總管せしめ、別に七社別當ありて智明權現等七社の神事を管したり。當山は是等の宗務の他に、土地人民を領有して政務の機關をも具へ、寶永以後特に其威四隣の諸侯を壓す。斯く寺門隆昌を極め、天保十三年、輪王寺法親王より京都、奈良の諸大寺と同格待遇の令旨を賜はる。是より先き明暦元年、萬治二年の兩度、祝融に罹り釋迦堂、觀音堂、鐘樓堂等喪失せしが、寛文八年、本坊、西樂院主胤海之が再興を遂ぐ。然るに幕末維新に際し、日光門主輪王寺宮、彰義隊に擄せらるる所となり、當寺亦其首領を失ひ、一山の動搖著しく其統一を缺き、三學頭代年行事、黨を樹て派を分けて相争ひ、三千石の大封も之を失ふに至る。加ふるに明治初年、神佛分離に際し、智明權現堂は三里餘の山下なる大神山神社の奥宮として神道に屬せしめ、大山寺寺號を廢し佛像佛具を悉く大日堂に移して地藏本堂と稱せられしが、明治三十六年、漸く舊號に復す。昭和三年、本堂燒失す。現に當宗別格寺にして洞明、金剛、蓮淨、法雲、清光、普明等の數院を統ふ。
●墳域五千二百十二坪、寺域高標五千六百尺、山陰



(寶圖) (堂院舊阿寺出大)

の雄峯大山の中間を占め、北方大山原を隔て、高麗山、鍋山の諸峯を望み、西北夜見ヶ濱、美保園を雲煙中に指呼し、風致字内に冠絶す。阿彌陀堂・觀音堂・鐘樓堂・金門・大鳥居等を具備す。就中、阿彌陀堂は一に常行堂とも稱し、桁行五間、梁間五間、單層、屋根四注造、檼、應永年間建立に係り、現に國寶建造

物たり。も密教修行の道場として建築せしものにして、堂は四注造と云ふも殆ど實形造に近く、正面一間の向拜を附す。其手法主風と一致せざる以て後世の補作なるべし。檼、斗拱、柱等何れも木割雄大、莊重にして、形彫削々齊美を缺くも鎌倉時代の風調を存す。内部後方佛壇に安置せる本尊木造阿彌陀如來及び兩脇侍像三軀は國寶に指定せらる。中尊の高さ八尺八寸七分、定印の象徴にして光背は後光の周圍に十一佛を配し、八角形三重の寶蓋座に坐す。脇侍の寶蓋は六角形蓮花にして、三軀共に面相優美温雅、藤原時代の逸作たり。寺記によると、天承年中、大法印真圓之を修理し、其後再三修繕を經しと云ふも、尙ほ製作當初の姿致を遺せり。寺寶中、銅造十一面觀音立像一軀・同觀音菩薩立像三軀・鐵製厨子一基(附、新羅文鑄出の鐵板三枚・鐵造地藏菩薩頭部)は國寶に指定せらる。其中、十一面觀音は丈高一尺二寸一分の小像にして六朝佛の形式を存す。觀世音佛亦各々丈高一尺一分、一尺五分、九寸七分の小像にして様式は同じく六朝式なり。厨子は高さ一尺九寸五分、徑一尺三寸四分、圓球形にして寶形の屋蓋に如意寶珠を置く。新羅文鑄出の鐵板を蔽の周圍に附す。之により紀成盛の奉納なる事を知る。又承安二年壬辰十一月二十日鑄像師延輝寺僧西上等の文字を鑄出す。尙ほ本寺にも紙本着色大山寺緣起十卷(卷第十二に應永五年八月一日了阿の奥書あり)を藏し、國寶に指定せられしが、昭和三年の火災に燒失し、今、大山寺緣起寫本上下二卷を存す。其他、佛像・書畫・古器物等所藏頗る多し。境内の大鳥居は銅製にして高さ二丈三尺、周圍四尺六寸あり。又重量二百二十貫の手洗鉢、信濃房源盛の記念碑等あり。
●出開扉運座供養(五月二十四日)、引聲會(輪縁鬼鳴名、舊七月十日)十六日。

安養寺 西伯郡五千石村大字福市。

●時宗。
●會見山西月院と號す。建武元年、後醍醐天皇第二十七皇女瓊子内親王の創建に係る。元弘二年、天皇隱岐遷幸の御、内親王隨侍して當國に到り給ひしが、御渡海に先ち、武家の人数改め頗る難なりしを以て、遂に當國守護佐々木氏の預り奉るところなる。後ち天皇還幸ありて勅使を以て之を迎へんとせられしが、内親王夙に出世の志を抱かれ、遊行第五世安國の門に入り、落飾して西月院安養比丘尼と號せらる。仍りて天皇、尼の爲め勅して坊舎を造營せしめらる。其後、數度回縁に羅り寺運衰微せしが、安永四年、天明七年、繪旨を以て之を復興せしめ給ふと云ふ。第十五世迄、尼住たりしが、後ち僧住持して今日に至る。
●境内二千九百二坪、本堂・庫裡・御影堂・稻荷廟等を具ふ。寺實に後醍醐天皇御尊影、御冠、御裝束・後白河天皇・瓊子内親王御眞蹟・御手許品・八條宮御文書・一巡軍蹟等を藏す。境内に石造五輪塔の瓊子内親王御墓所あり。
●開山忌(九月十二日)。

解脱寺 日野郡阿尾縁村大字下阿尾縁。

●日蓮宗。
●具さに法要山解脱寺と號す。南北朝の初め日野中將と云へる者、京都本願寺日靜に歸依し、宗祖の靈像を求め、阿尾縁の郷に歸りて一字を創し尊像を供養す。是れ本寺の靈廟なり。然るに中將出雲の三津氏と事により對陣し、堂宇一時克廢に陥りしが、慶安元年十一月二十九日、米子市本教寺日蓮靈夢を感じ、阿尾縁に來り、出雲松江の住人桔梗屋小左衛門並に善右衛門の投資を受けて之を再興し、身延山日境の弟子日感を請じて住持たらしむ。善右衛門小左衛門の二人、日感に歸依し各自日説と號す。即ち再興の功多き日要、日説の三人の法號を以て法要山解脱寺と號す。享保年中、池田家より三十石の寺領を寄せらる。
●堂宇には十間四面の本堂・客殿・庫裡・新察・山門・鐘樓・妙見堂・七面堂等あり。寺實には日蓮眞筆四幅及び池田家關係の書類等多數を藏す。境内に櫻樹多く、老木枝垂櫻殊に有名なり。
●會式(五月十二日、九月十二日)。



(堂本寺院解)

●醫雲山と號し、黒坂泉龍寺末なり。草創年代不詳。もと黒坂村崎の池の上に在りて、天台宗に屬し藥師寺と號せしが、文治年間、長谷部信連、當村に住して寺基を現地に移し、本尊藥師及び觀世音を安置す。天正年中、回縁の災に罹り藥師佛を除きて悉く焼失す。慶長年間、再建の工を遂げ、泉龍寺二世舎龍を請じて中興開山とす。
●本尊藥師如來及び兩脇侍像三軀・同見沙門天立像一軀は國寶に指定せらる。前者中尊は坐像にして蓮の樣式を具へ、温雅の中に寫實味を存す。脇侍は立像にして、三軀共に藤原末期の優作たり。見沙門天立像も同時代の製作に係る。境内に古碑一基あり。

●本尊不動明王は弘法大師の作と稱す。境内に芭蕉堂あり、桃青の木像を安置す。また觀月庵あり、藩主松平不昧公屢次臨席して茗を煮たりし所なり。庭内には松江の詩僧釋天崎、儒者桃節山の碑存す。
●古義眞言宗。
●尊照山金胎寺と號し、本宗大覺寺末なり。開創年代不詳。もと能義郡富田郷に在りしが、慶長十三年、堀尾吉晴、松江城を築くに方り、寺僧長海に請ひて地鎮の秘法を行ひ、城の鬼門を相して鎮守社を建て、天神、杵築、日御等の神及び辨財天を勧請し、次で本堂、護摩堂、藥師堂、玄關、鐘樓、十王堂を建造す。爾來國主代々の祈願所となる。延寶六年、火災に遭ひ寺寶殆ど焼失す。天和三年、松平綱近護摩堂を再建し、元禄十五年、鎮守辨財天社を建つ。
●寺實に經幢、御室兩宗の令旨、松平家藏文等あり。境域高嶽にして、市街を瞰下し、眺望甚だ佳なり。境内に明治二十七八年戦役記念に建立せし多寶塔あり。

島根縣

自性院 松江市米子町。

●古義眞言宗。
●麗寶山長久寺と號し、本宗大覺寺末なり。空海の開基に係り、もと能義郡高田郷に在りて、喜日山寶珠院と稱せり。堀尾吉晴、城を此の地に築くや、但馬の僧學鏡之を現地に移し、今の名に改む。
●護摩堂の本尊十一面觀音は行基菩薩の作と傳へ、松平綱隆の寄進に係る。鎮守不動明王坐像は長四寸二分、空海唐より歸朝の途次、船中祈願の爲に刻みたる天下二佛の一(一佛は高野山南院にあり)と稱し、靈驗著しく、殊に海上風波の難を救ふこと屢々なりしかば、世に波切不動と云ふ。尙ほ往昔、當院の東の堀塙池に吉田樂師あり、安阿彌の作なりと云ひ、靈驗多く諸人之を崇敬せしが、年経て堂宇破壊し、一度近江の佐々木道榮に依りて改建せられしも、再び破壊し、後ち何時しか當院に移され、其池は悉く埋没して今其所在を知らず。

普門院 松江市北田町。

●天台宗。
●松高山願榮寺と號す。堀尾吉晴の草創に係り、能義郡清水寺の僧賢清を開山とし、堀尾氏累代の祈願所たり。元禄年中回縁に罹りしが、國守松平綱近の命に依り、市外川津村より移し、坊舎を造營して、國家鎮護の道場となせり。

千手院 松江市奥谷町。

●古義眞言宗。
●尊照山金胎寺と號し、本宗大覺寺末なり。開創年代不詳。もと能義郡富田郷に在りしが、慶長十三年、堀尾吉晴、松江城を築くに方り、寺僧長海に請ひて地鎮の秘法を行ひ、城の鬼門を相して鎮守社を建て、天神、杵築、日御等の神及び辨財天を勧請し、次で本堂、護摩堂、藥師堂、玄關、鐘樓、十王堂を建造す。爾來國主代々の祈願所となる。延寶六年、火災に遭ひ寺寶殆ど焼失す。天和三年、松平綱近護摩堂を再建し、元禄十五年、鎮守辨財天社を建つ。
●寺實に經幢、御室兩宗の令旨、松平家藏文等あり。境域高嶽にして、市街を瞰下し、眺望甚だ佳なり。境内に明治二十七八年戦役記念に建立せし多寶塔あり。

萬壽寺 松江市奥谷町。

●臨濟宗妙心寺派。
●萬壽山と號す。もと長壽院と稱し、八束郡法吉村天倫寺内に在り。勸請開山を大光圓照禪師と云ひ、堀尾吉晴の歸依僧にして、吉晴の富田城を此地に移すや、圓照禪師の命に依りて松江と改むと云ふ。寛永二十八年、松平直政寺僧龍圖に寺風致を寄せ、現地に移して其中興たらしむ。
●本尊釋迦如來は行基菩薩の作と傳へ、尼子義久の

月照寺 松江市外申原町。

●淨土宗。
●歡喜山と號す。寛文年中、國守松平直政、母堂月照院殿の靈牌所を求めて此處に至り、其境地を賞し、寺基を興して榮光山月照寺と名じ、生蓮社長譽を開山となす。直政歿後、綱隆父の志を嗣ぎ、寛文六年堂宇を建立し、山號を今の如く改め、自ら額を書す。伽藍頗る壯麗なりしが、明治初年本堂を取毀ち、頗る荒廢す。同四十一年假本堂を取除き、現在庫裡を修繕して本堂に費用す。別に僅に唐門と鐘樓を存するのみ。
●寺域二千九百六十六坪、松平家累代の墓地は後林にあり、規模壯大なり。廟門を入れば、樞其他の老樹陰森として日光を遮り、泉池を湛へ、石橋を架し、數十基の石燈籠左右に述る。石の鳥居を過ぎて石段を上れば、正面小高き庭に石欄を繞らし、其内に始祖高眞公直政の花崗石大墓碑あり。是より右方に、七代不昧公、五代宣徳公、三代綱近公、九代齊賢公、二代綱隆公、八代齊恒公、四代吉遠公、六代宗行公等殆ど同一型の廟所相並ぶ。尙ほ天隆公廟所内には、有名なる天惠公平の大龜の石碑あり。

洞光寺 松江市新町。

●曹洞宗。
●金華山と號す。開創年代不詳なれども、尼子經久富田城に在り、僧顯雄を請じて、其開山となすと云ふ。經久の子晴久に至り、當國洞宗の僧録となす。其後毛利氏の領主となるや、數百貫の地を寄附す。慶長

年中堀尾氏、富田城を松江に移すや、本寺又これに従ひて現地を定め、以て現在に至る。

圖成寺 松江市柴町。

●臨濟宗妙心寺派。慶長年中、堀尾忠晴富田城の城安寺を島根郡荒井に移し、妙心寺大光圓照禪師を開山となし、龍翔山瑞應寺と改め、其菩提所となす。

佛谷寺 八束郡美保町美保園。

●淨土宗。龍海山と號す。聖德太子の開創と傳へ、後ら聖海七堂伽藍を建立して三明院と稱し、眞言の佛刹となす。

で元弘二年、後醍醐天皇鷹取の際又暫く皇居を定められしに依り、勅額記録等を藏せしむ、永祿天正年中、尼子毛利兩氏の兵火に罹りて堂宇と共に烏有に歸す。諸佛像は其難を免れしかば、一堂を營み、之を安置す。今の大日堂即ち是なり。



(寶園) (末如阿彌寺谷佛)

に係り、地方有数の古像なり。能義郡清水寺、藤川郡萬福寺の像と相通じて出雲地方特有の彫刻系統に屬し刀法稍々粗末なるも雄勁にして頗る地方色に富む。近年大修理施される。此外、藏する所の寺宇には大日如來像、毘沙門天像、松平氏寄進の九條袈裟等あり。尙ほ境内に古三地藏あり、八百屋お七江戸に於て火刺に處せられし後ら古三藏信じて廻顧し、名刺を尋ねて當寺に來り遂に入滅す。以て其塔墓の遺跡なりと傳稱す。また寺後の溪谷を廻眺が奥と云ひ、美津津の陵と傳ふる古碑あり、共に覽者絶えず。

天倫寺 八束郡法吉村大字園屋。

●臨濟宗妙心寺派。初め龍翔山瑞應寺と號し、慶長十六年、國守堀尾吉晴の開基に係り、妙心寺景龍を開山とす。寛永十五年、松平直政國守たるや、翌年信濃松本より僧市惠を請じ寺名を今の如く改む。東愚、直政の父越前秀康の御影み持來して直政に獻じ、直政又東愚の師河津の像を賜ふと云ふ。後ら南禪寺の堂を招き興福山本城寺と改めしが、元祿元年、松平嗣近に至りて、東愚の弟子唯山を仰ぎ、再び舊名に復す。唯山乃ら開山國師の靈牌を求め、再び先師歴代の法燈を掲げ、衆寮を結び經藏を構へ、遠く諸國の僧を招く。山河遼闊の要害の地なる爲め、毛利元就の白鹿城を攻むるや、本陣を此處に構ふと云ふ。



(景全寺倫天)

成相寺 八束郡古江村大字法成。

●古義眞言宗。延林山と號し、本宗大覺寺末なり。行基菩薩の開基と傳ふ。應永年間中興律秀實、堂塔伽藍を修葺す。もと當郡佐太村式内佐陀大社(現國幣小社佐太神社)の奥ノ院にして十二坊ありしも、今は其跡のみを遺す。毛利家代々の祈願所なり。

韋藏寺 (枕木山) 八束郡本庄村大字別所。

●臨濟宗南禪寺派。龍翔山と號す。一に枕木山王殿と稱す。天長二年智元の草創に係り、當時天台宗なりしが、明暦三年松江藩主松平直政、濟通を聘して再興せしめ、現宗に改む。往時は枕木十二坊と稱し、天台の靈場として隆盛を極めしが、戰國時代尼子毛利兩氏の兵燹に罹り、漸次衰頹す。後ら堀尾氏及び松平氏の新願所となり寺運漸く恢復す。降りて大正二年、樂師堂新築せらる。

滿願寺 八束郡古江村大字法成。

●古義眞言宗。金龜山と號し、大覺寺末にして、出雲札所三十一番なり。本尊は聖觀音菩薩高さ二尺三寸坐像にして、弘法大師の作と稱し、三十三年毎に開帳す。天長九年、空海巡國の際、竹葉大社へ參籠せんとて此山に宿し、四神相應の靈地なりとて右の觀音像を彫刻せしに、龍神感應して湖水より數尾の神龍出づ。仍りて四句の偈を掲げしに、龍神忽ち五色の大龜と變じ、金の蓋を負ひて空海に捧ぐ。神龍は即ち丹生津靈神なりと。依りて鎮守兼代明神に丹生神、高野、氣比、辨財天の四所を祭る。其後、正安年中、高野山の信目、信樂、觀音像

常樂寺 八束郡熊野村。

●曹洞宗。月窟山と號す。永正十五年尼子經久之子政久、父に代り反將阿用城主宗的を討ちて敗死するや、其臣森脇正遠將を擁して熊野不自味頭に移り、不自院殿華屋營榮大居士と號す。經久其靈を思めんが爲に、こゝに一字を建立して不自山常樂寺と號し、長州大宰寺の談山道忠を請じて開山とす。永祿年中、毛利元就出雲に入りて當寺に來遊するや、月光南照に入るの風色を賞し、山號を月窟山と改めしむ。

城主隆重奉し、法名を一筆圓月居士と號し、山内に其墓あり。

淨音寺 (觀音堂) 八東郡大庭村大字大庭。

●古義眞言宗。
●本宗高野末たり。沿革不詳。
●現今觀音堂一字あるのみ。堂内安置の木造十一面觀音立像一軀は舊神護寺の本尊たりしが、明治維新神佛分離の際、當堂に移置されしものにて鎌倉時代の製作に係り、現に國寶たり。

善光寺 八東郡乃木村大字乃木。

●時宗。
●一崎山と號す。正治二年の創建にして、開基を佐々木高綱(法名心洞院殿正阿法親王性居士)とす。弘安八年、宗祖一蓮巡教の關本宗に轉じ、藤澤遊行寺末となれり。尙は將軍乃木家が佐々木氏より出づ。依りて乃木將軍本寺を崇敬する事厚く、生前屢次本寺に詣り、又納物を寄せたり。
●本堂・庫裡・觀音堂・乃木希典廟堂寶物庫等あり。本尊阿彌陀如來は月蓋作、信州善光寺如來と同體の故を以て善光寺と稱す云ふ。觀音堂には高綱の守本尊觀音菩薩を安ずと云ふ。寺寶に高綱骨像及び杖・繪旨數枚、乃木將軍書翰等を藏し、境内にはまた高綱墳墓、乃木將軍遺髮塔等あり。

嚴倉寺 能義郡廣瀬町富田。

●古義眞言宗。
●輝虎山と號し、本宗大覺寺末なり。神龜三年行基

の開基に係り、もと山佐村に在りしが、文治三年現地に移すと云ふ。雲州三十三所中第十八番の札所たり。

●本尊木造觀音立像は丈五尺八寸五分、寺傳に見首錫摩の作と云ふも藤原朝の作なり。もと岩倉權寺の本尊たりしが、文治年中臨傳帝釋天と共に山坂より當地に移安する。同帝釋天立像は本尊より稍々後代の作、丈五尺一寸六分を有し、帝釋天と云ふも寧ろ毘沙門天と見るべきか、二軀共に國寶に指定せらる。境内に堀尾吉晴の墓と稱する高二丈五尺の大五輪塔あり。

城安寺 能義郡廣瀬町富田。

●臨濟宗南嶽寺派。
●雲龍山と號す。寛永十一年、京極若守守忠高の開基に係り、開山は源義全歸なり。又即光天覺を中興開山とす。舊寺領三十石を有したり。
●寺寶中、木造唐目天立像一軀・同多聞天立像一軀は國寶に指定せらる。兩者共に室町時代の作にして、前者は高さ三尺、極彩色にして鍍金模様の像、玉眼水晶、天冠鍍金銅製、光背は八幅輪・後光鍍金銅製なり。他に廣瀬藩の畫家堀江友筆月山古城繪巻物を藏す。寺域は月山の北麓、菅谷口なり。

雲樹寺 能義郡宇賀莊村大字清水。

●臨濟宗妙心寺派。
●瑞塔山と號す。元亨二年の開創に係り、開山は靈峯覺明(國濟三光國師)、開基は牧新左衛門入道善興居士なり。覺明は奥州會津の人、多年在元、歸朝の後左衛門持守雲山の命に従ひ當地に來りしに、郷士牧新左衛門其高徳を崇め宅地を奉り御堂となす。是れ當山の草創にして、時に元亨二年なりと云ふ。元弘の亂、



(實圖) (門) 雲樹寺 (四)

ふと云ふ。正平二年、後村上天皇亦或を受け給ひ、三光の勅號及び金剛の製袈を賜ふ。同八年當寺遺骸料として諸國に寺領を定め、勸願所となし給ふ。貞和五年、

小野高賢又師を崇信し字實莊南方花園名を寄進す。足利義政當山を檢断不入の地と定め、代々の國守寺領を免除地となす。覺明、後ち和泉大権寺に轉するや、古觀智講(佛心蓮燈國師)入りて二世となり、爾後二百餘年間は瑞塔より輪番住持せしが、大永年間善端入りて中興し、衰へたるを復す。寛文の初め末禪來り住してより妙心寺派となり、以て今日に及べり。往時は塔頭十八院を有し、御堂宏壯を極めしが、文政二年火災に罹り、山門、大門、藥師堂、鐘樓、寶藏、隱寮を除き堂宇の大半は燒失せり。現在の堂宇は温谷の再建に係るもの多し。

●城域四千五百坪、老樹蒼蒼たる清閑の地たり。堂宇中、大門は國寶建造物なり。四脚門、屋根切妻造、本瓦葺にして軒一重葺垂木、組物唐様三斗、紅檜形冠木の構造頗る珍奇にして兩袖に袖切りと肩刻を施す。四脚門として他に類を見ざる特異の遺構たり。大略室町中期の特質を具ふ。其他に山門・佛殿・方丈・庫裡・隱寮・寶庫・土藏・開山堂・鐘樓・藥師堂・勸使門・庫堂・容山軒・鎮守社等あり。本尊には釋迦如來、脇侍阿彌迦彌を安ず。寺寶中、絹本着色三光國師像一軀は末尾に「正平庚戌夏瑞前日」の文字あり。描法瀟灑、現に東京帝國博物館に出陳さる。又銅鐘一口は所謂朝鮮の形式を具へ、製作の銘無けれど高麗朝のものなるべし。高さ一尺九寸六分、慶安七年甲寅十月一日願主宗祖寄附の銘は我國將來後刻されしものなり。右の二者共に國寶に指定せらる。他に開山國師眞蹟、青銅製經筒、後醍醐天皇宮輪四通、後村上天皇繪旨二通を初めとして古文書數十通を藏す。尙ほ境内には三百數十株の藤蘿及び沙羅雙樹の珍木あり。
●佛忌(四月八日)、達磨忌(十月五日)、開山忌(五月二十四日)。

清水寺 能義郡宇賀莊村大字清水。

●天台宗。
●瑞光山と號す。用明天皇御宇僧尊隆當地に留錫せ



(實圖) (堂) 本寺水清

し時、山上に奇光を認めて之を尋ねしに十一面觀世音の像を得たり。乃ち留りて一字を結び増伽の密行を修す。推古天皇の朝新に本堂を營建して教興寺と稱し、寶田若干を附して勸願所と定めらる。其後二百

餘年を経て、天平年間盛縁此地に來り荒廢せる堂宇を修營す。大同元年其工成り、結構頗る莊嚴にして、寺號を今の如く改む。最澄歸朝して台宗を弘むるや、其法流に浴して現宗に轉す。次で圓仁來錫して大灌頂光明眞言會を起し、是れより圓密禪戒兼修の道場となり、雲州第一の御堂と稱せられしが、永祿年間兵燹に罹り御堂諸堂中、根本堂を除き僧坊三十六宇悉く烏有に歸す。毛利元就堂宇を重興し寺號を寄せ、又僧坊六院を置く。爾來寺門榮え以て今日に至る。

●境内六千坪、後方山を眞ひ、前方は斷崖に面し、頗る景勝の地たり。堂宇中本堂は一に根本堂と云ひ、國寶建造物にして、桁行七間、梁間七間、單層、屋根入母屋造、棟脊、前面二間を開放し外陣となし、内陣方五間にして後方に大須彌壇を設置す。外部欄干齊美にして規模雄大、細部に唐様の手法を混す。寺傳大同の遺構となすも、室町時代の建築なるべし。内に安置せる本尊木造十一面觀世音立像は兎首錫摩の作と傳へ丈五尺六寸天平末期の優作として國寶に列す。尙ほ常念佛堂の本尊木造阿彌陀如來及び兩脇侍坐像三軀は來迎三尊の形相にして藤原末期の手法を示せる佳作にして同じく國寶たり。中尊二尺八寸八分、脇侍二尺二寸五分。其他三重塔・護摩堂・轉財天堂・毘沙門堂・文殊堂・鐘樓・仁王門・鎮守社等を並べ、又頭塔に六寶坊、蓮華院、松井坊、覺善院、松蔭院、見住院の六坊あり。寺寶に空海鎗南嶽燈籠・尊圓法親王詩歌卷物・眞想親王詩歌卷物・三十六歌仙金屏風同小屏風・藤原觀音畫像・古代經卷・曲玉・假面・兩界曼荼羅、古文書等頗る多し。又寺下に正平十年二月八日の銘ある五輪石塔あり。斯かる邊鄙にして然も南朝の正朔を以て年號を記せるは注目に値す。或は之れ名和長年一族の塔墓なるか。境内、古樹鬱蒼として千年杉、老木

の櫻楓等あり。境外は悉く深林にして幽邃を極め、雲州三十三所第二十一番の靈刹たり。附近東南約十五町に靈樹寺あり。

●元日會(本尊開扉大般若經轉讀)(二月一日)、五穀祭(二月三日)、法華會式(御經)(四月十一日・十七日)、般若會式(本尊開扉大般若轉讀)(七月十七日)、光明會式(調通)(十一月十七日)、吉講御光焚祭(モッコ祭、講者に神酒を施與す)十二月十一日。

覺融寺 仁多郡龜田大字龜田。

●臨濟宗妙心寺派。

●運龍山と號す。龜田城主三澤爲長の開基に係り、僧同等を開山とす。初め三澤村に在りしが、天文二十二年、三澤爲清龜田城を築くや、現地に移し、南華を中興とす。昔時は本堂、方丈、庫裡、客殿、廊下、樓門等輪奐莊嚴し、寺運極めて隆盛なり。

●寺寶として古鏡・爲成、爲清の證文數通を藏す。鎮守稻荷社の傍に古廟あり、冷泉民部少輔朝経にて討死せしを、家臣其首を此處に葬りしものと傳ふ。寺城三面山に連り、南に清川の流あり。松樹相交り、花時頗る佳し。

岩屋寺 仁多郡横田村大字中村。

●古義眞言宗。

●金嶺山と號す。天正年中行基の開基に係り、聖武天皇の勅願所なりと云ふ。往昔、山上に二十一坊ありしが、享祿年中、尼子經久、三澤爲國合戦に際し、現存の堂宇の他は悉く焼失せり。寺號は本堂の北に長八間、横四間の岩屋在るに起因すと云ふ。

●本堂・彌陀堂・十王堂・鐘樓・仁王門・奥ノ院・鎮守堂・山門等あり。四所明神・熊野權現等あり。本尊十一面觀音は行基の作と傳へ、側に行基木像を安す。仁王門には傳行基作長各一丈の兩像を安置し、奥ノ院には僧阿本作空海像を安す。境内に聖武天皇の靈塔あり。又伊勢ヶ谷二十間餘の磐岩側に天照大神宮、南に天神祠あり。山上高約三間の青岩に六字名號を刻し、寺の後には高二間の梵字石あり、向は坂中に立てる二間許の岩にも阿尾羅野欠の五字を彫み、何れも曾空海の筆蹟と傳ふ。寺寶として張忠基筆楊柳觀音像(二位禪尼寄進)・空海筆法華經二卷・阿口(三澤氏寄進)・其他繪畫、勅制、古文書等十數通を藏す。境域、船深く水清く、諸峰羅立して、松柏楓杉鬱蒼し、無涯の幽境たり。

祥雲寺 大原郡大東町大東。

●淨土宗。

●福壽山と號す。元和年中、僧公感の創建に係る。其後二回の火災にて、古記録、什物多く焼失せり。

●境内四百七十二坪、堂宇に本堂(文久三年建造)、藥師堂・秋葉大權現堂・庫裡等あり。本尊阿彌陀如來は安阿彌作と傳ふ。

●觀世音開開會(四月十六日・十八日)、秋葉大權現會式(八月十八日)。

西方寺 大原郡春殖村大字飯田。

●臨濟宗妙心寺派。

●無量壽山と號す。もと眞言宗に屬し、清壽山圓成寺と號せしが、其後回祿に罹り、堂塔灰上せしかば、樂西の法孫三山之が中興となり、爾來臨濟宗に屬す。

●境内四百五十三坪、堂宇に本堂・庫裡・觀音堂・鎮守堂・山門等あり。本尊彌陀三尊は行基菩薩の作と傳へ、中尊を炸金佛或は額燒如來と稱し、其餘起に云ふ。昔當寺の門前に某あり、其下女此如來を信じて、密に朝夕の飯を分ちて供養せしに、一日主人の妻之を發見し、怒りて下女の面上に焼火箸を加へしに、痛も痛みなし。其夜夢、靈夢に如來の額より膿血出で、體て光明を放つを見、醒めて不思議に堪へず、當寺に來りて如來を拜すれば炸金の痕ありたりと。堂前の石地蔵は此下女の像なりと云ふ。

●阿彌陀教會ありて、毎年四月二十四日、大般若を轉讀して祈禱す。

普光寺 飯石郡一宮村大字給下。

●古義眞言宗。

●中嶺山阿含院と號し、御室末にして、俗に峰寺と云ふ。行役者の開創に係り、雲州三十三所中第九番の札所たり。

●本堂・客殿・庫裡・根本堂・行者堂・護摩堂・鐘樓・仁王門・鎮守堂・辨天・鬼神各小社等の堂宇あり。本尊には聖觀音を安す。鎮守藏王權現は大和吉野の藏王權現を役行者の勸請せしものと傳ふ。行者堂は毛徳四年の建立、役行者を祀る。鐘樓は寛永十七年の建造、辨天、鬼神の兩社は貞享元年の營造なり。尙ほ永祿七年三刀屋久扶、慶長三年毛利元就修造の棟札あり。寺寶中、絹本着色聖觀音坐像一幅は藤原時代の優作にして、國寶に指定せらる。もと山下に醫王大坊ありて山伏の住所たりしが、現在廢滅す。

大念寺 飯川郡今市町。

●淨土宗。

●佛光山榮休庵と號す。享徳四年の開創に係り、承應年中現地に移基し、寛文二年竣工す。

●本尊阿彌陀如來は惠心僧都、脇侍觀音、勢至は安阿彌、方丈安置の觀音は定朝の作と傳ふ。本尊はもと石見銀山極樂寺の本尊なりしが、俚氏の靈夢に依りて當寺に移すと云ふ。鎮守に稻荷を勧請せり。寺寶に當麻耆時受茶羅四歩一の圓(作者不詳)あり。境内老樹多く、遠望頗る佳なり。門前に流水あり、月向橋を架す。寺後に十六疊敷餘の石窟あり、地方有数の古窟として著る。

乘光寺 飯川郡大社町竹葉東。

●眞宗本願寺派。

●貞應年中、觀覺の孫弟乘光の開基に係る。建保二年、觀覺の弟子明光、師命を受けて常陸稻田を發し、途次近江の源海の草庵に逗留し、翌三年攝津三津の濱より乘船して備後に上陸し、常石、山南等諸所に寺宇を創し、同四年出雲國に到りて大社に詣り、社前の鏡輪松の下に宿す。時に社司出雲經孝其妻某と共に神告を蒙り、明光を請じて教化を受け、弟子となりて後信房乘光と稱し、鏡輪松の西、大社の境内に一寺を建て、乘光寺と號す。明光乃ち觀覺の阿彌陀佛畫像・同六字名號並に明光自作の自像等を授與す。時に貞應元年なりと。其後、明光は備、作、防、長、雲、石、伯の諸州を巡化し、安貞元年五月十六日山城にて寂し、乘光は寛喜元年九月九日本寺に寂すと傳ふ。

●寺寶に觀覺阿彌陀佛畫像一幅・同作觀覺木像一

永徳寺 飯川郡萩原村大字學頭。

●臨濟宗妙心寺派。

●龜山と號す。永徳二年の開創に係る。當時八十餘坊を有し、寺僧尼子氏を助けて、大に毛利氏を著めたりと云ふ。舊坊宇の遺跡として現に附近には寺床、神宮寺、大教寺、教具寺、東光寺等の地名存す。

●本堂・觀音堂・慈悲堂・寶庫・鐘樓・山門等あり。一たり。觀音堂には聖徳太子作丈三尺六寸の觀音立像を安す。寺寶に寶珠及び不昧公筆法華經二部等あり。本堂の後に經塚在り、六萬餘語の經文を小石に書寫して土中に埋むと云ふ。寺を去る一二町東に岩井と稱する清泉ありて、往古龜龜の遊び來りて岩を穿たりと傳へられしが、寶曆九年大洪水の爲め埋没す。

●觀音會(二月十八日)。

康國寺 飯川郡國富村大字國富。

●臨濟宗妙心寺派。

●富興山と號す。古昔、康國の居城たりしが、後ち孤軍覺明(三光國師)を請じて道場となし、其名を以て寺號とし、檀越なる。爾來寺門隆盛を極め、以て現在に至る。

●伽藍完備し、近在禪に見る巨刹たり。寺城飯伏山の麓を占め、風光絶佳にして、殊に楓樹を以て著る。曾て再中興伽藍、寺境八景を命名して凌霄峰、蒼蓋坂、

萬福寺 (大寺樂師) 飯川郡志保村大字東林木。

●淨土宗。

●護國山と號し、俗に大寺樂師と稱を以て著る。推古天皇の勅願に依り、觀瀾寺開山智春の開基に係ると云ふ。其後、僧行基諸國巡歴の朝、當寺に留連し、本尊樂師如來を初め諸佛像を彫み、十二間に七間の金堂及び附屬佛堂を建立安置せり。後、荒廢に陥りしが永祿年中、平田極樂寺の僧心樂、觀瀾寺より譲り受け、再興して淨土宗と改め、六間に四間の堂宇を建立せり。後、慶安初年洪水の爲め堂宇破壊し、佛像埋没の厄に遭ひ、僅かに三間半四間の寺宇を現在の地に再建し、今日に及ぶ。往昔大伽藍たりしかば、今尙は通稱を大寺と云ふ。

●所藏の本尊木造樂師如來兩脇侍像三尊、同觀世音菩薩立像二尊・同四天王立像四尊は何れも現に國寶に指定せらる。即ち樂師兩脇侍像は共に僧の一木彫にて、中尊は坐像、高さ四尺五分三分、其相好温雅なるも、尙ほ龜魂の趣あり。衣紋は勁健なる鱗波式にして弘仁期の作と推せらる。光背蓋座は後補なり。兩脇侍は高さ五尺三寸、刀法簡樸にして、本尊と略々同時代と見ゆ。二尊の觀音像、高さ一は四尺九寸、他は五尺二寸七分、共に一木彫、後補あるも、製作年代は前期本尊と同時代なるべし。四天王像亦同期或は藤原初期の作にして何れも約六尺、楠の一木造、刀法雄渾明快にして高貴的精神に富み、正に天平彫刻を見るが如し。以て地方稀有の優作となす。以上何れも大正九年大修理を加へられたり。

鯛淵寺(釣山) 蘇州郡鯛淵村大字別所。

●天台宗。
●眞瀛山(又は不老山)一乘院と號し、俗に釣山と云ふ。能義郡清水寺と並び稱せらる。當國の古刹にして雲州三十三所第三番の靈場たり。推古天皇の二年、僧智春の開創する所と傳ふ。即ち天皇御眼を病ませ給ひし時、智春不老湯の靈水を汲みて加持し奉りしに、龍眼忽ち癒えさせ給ひければ、眞感の餘り寺地を賜ひて勸願寺となし給ふと云ふ。鯛淵の名は、嘗て智春禪室に下りて佛具花瓶を洗ひし時過つて之を水庭に沈めしに、後ち鯉魚出で、花瓶を捧げしに基くと傳稱す。蓋し本寺の創立奈良朝以前なる事、寺藏國寶觀世音の銘文に徴して疑ひなきが如し。開創當時の本尊は、觀世音なりしが、延暦年中最澄の天台宗を傳へしより同宗に改め、本尊また藥師如來に更む。寛和二年、千手堂、藥師堂を造替せしが、永久元年燒



(寺 鯛淵)

失す。仁平三年、伊乃谷の合戦に罹災せしが、久壽二年遺棄成る。治承二年、千手堂、藥師堂等の諸堂回廊に罹り、後ち兩堂再建さる。弘安四年鎌倉より、當山領津沼郡の國司藤原隆房に侵略せられたりしを制止すると共に、供物を増加し、外寇鎮壓の祈禱をなすべき旨の傳達ありき。南北朝の頃には、南院と北院とに分れて、宮方、武家方に分属し、幾多の僧兵を擁して大に勢力を振ひ、殊に元弘年中後醍醐天皇臨御御遷幸に際し、南院の英僧佐々木頼源の如きは、率先して國分寺行宮に伺候し、義軍の御願文を賜はり、南朝方の參謀として劃策する所多かりき。當時に於ける當寺所領に關する寄進狀は、殆ど公家より出でたり。戰國時代に入るや始めは尼子氏、後には毛利氏に結託し、弘治三年、毛利元就當國に侵入するや、山内和田坊(先年燒失)を本陣となし、僧受勳を參謀とす。次で當國を略取するに及び、政令茲に統一し、寺領亦漸く整然たるに至る。然る



(古 寺 鯛淵)

に慶長五年堀尾吉晴當國の大守となるや、寺領直江、國富の二庄を沒收せり。徳川氏に至り、三百石の寺領と新田十五町とを附せられ、明治元年、更に新地二百石を寄附せられしが、同四年寺領悉く土地となる。往時は釣山四十二坊と稱して、寺運甚だ隆盛なりしが、今

は僅かに、根本堂の外、是心院、松本坊、等樹院の三坊を存するのみ。

●壇城二萬三千六百三十五坪、四方畢輪圍繞し、千年の老杉途を挟みて畫向は暗く、溪流瀟灑として俗塵を洗ひ、塞に幽邃無盡の別境たり。所在の堂宇、根本堂・法華三昧堂・常行三昧堂・講摩堂・山王七佛堂・常念佛堂・茶枳尼天堂・四衢四藏堂四字・摩多羅神社外敷社・鐘樓・仁王門・西之門・推古館(寶庫)等を連ね、根本堂は三百年前の古建築にして、天台管領一品公澄親王の寺額を掲げ、安壯なる朱塗の堂宇なり。寺寶中、國寶に指定せらるるものは、絹本着色山王本地佛像一幅・同毛利元就像一幅・同一字金輪受茶羅圖一幅・銅造觀世音菩薩立像二軀・紙本墨書醍醐天皇御願文(元弘二年八月十九日)一卷・同名和長年執達狀(建武三年二月九日)及び願文書(二通)の二卷なり。就中、山王本地佛像は彩色畫觀なる鎌倉期の作にして、一字金輪受茶羅圖は藤原式に則りし鎌倉初期の優作たり。觀世音立像二軀は高さ二尺六寸四分一尺四寸三分、前者八角古座の上縁に「壬辰年五月出雲國若狹郡徳大里爲父母奉作菩薩」の刻銘存す。壬辰年は舒明天皇四年が持統天皇六年の何れかなるべく、若狹郡は當時當地の豪族にして正倉院史書其他古文書二三に現る、所なり。像は總て唐風に依りし、一部日本化を認むべく、蓮花、蓮瓣に裝海文様鑿出さる。山陰邊郡の此地に斯の如き金銅佛の見出さる、事初期佛教美術傳播史上看過すべからざる事實なりとす。其他の寺寶、輪旨十二氣、古文書記録數百通等と共に推古館に所藏せらる。境内、根本堂の前面不老山の溪間に、不老湯(又浮瀝湯)あり、溪流を渡り、老杉の間を過ぎ、石段を登り、險路を過るこそ三四町にして瀑布に達す。瀧壺の上部岩窟内に藏王權現の小堂あり。其側に龍眼水と

高野寺(出雲高野) 蘇州郡久多美村大字野石谷。

●古義眞言宗。
●胎藏山と號し、俗に出雲高野と稱せられ、本宗大覺寺末なり。天長年中、空海の開基に係ると云ふ。仁治寛元の比、紀州高野山の法性阿闍梨當國に配流せらるゝや、入りて中興となる。天正年中尼子氏の兵燹に罹りて、堂塔燒失し、今は本堂、奥ノ院を存するのみ。●本尊地藏菩薩は行基の作、又胎藏界大日如來八尺餘の坐像は最澄の作、千手觀音長八尺の坐像は空海の作、四天王は定朝の作と傳ふ。奥ノ院の大佛御影堂には空海自作の像ありしに、賊の爲めに盜まると云ふ。境内廣潤を極め、古跡亦少からず。寺傍に三站の松あり。優婆石なる靈石ありて、高野山の御勒石を表し、病を断るに驗ありと云ふ。開御井の水あり、首にそそぎ眼を洗ふに靈驗ありとて、遠近の崇敬厚く、縁日には賽者雜沓す。奥ノ院には他宗寺院の建立せし五輪石塔多數存せり。又西高野と云ひて谷深き所に民家あり同所に風呂屋の跡なる礎を見る。山後に經塚あり、法性阿闍梨の廟となせり。

一畑寺(一畑樂師) 蘇州郡東村大字小境。

●臨濟宗妙心寺派。
●醫王山と號し、俗に一畑樂師の稱を以て著る。宇多天皇寛平六年、佐香村字赤浦の漁夫與市なる者、海中より出現せる樂師如來像を高一畑山に安置し、自ら出家して補陀と號し、茲に一字を創建して醫王寺と名づけ、天台宗に屬せしに始まると傳ふ。後醍醐天皇正中年間、臨濟宗となり、醫王山常樂寺と改む。其の後、靈元天皇延寶年中、復地名によりて一畑寺と改め、石雲之を再興す。之より先き寛正年間後花園天皇より天下疫癘退散、國家安穩の祈禱すべし勸書を賜はる。大永年間尼子經久、天文年間晴久より寺額を寄せられ、又永祿年間毛利元就、天正年間同輝元、吉川元春等同じく寺額を寄進す。寛永年間藩主松平直政より更に所領の寄附あり、且つ明治維新まで代々の祈願所となる。堂宇は、文化四年、明治二十一年三月の兩度の火災に諸堂灰燼に歸し、現今のものは同二十三年五月の再建に係る。●寺域三千五百七十餘坪、一畑山の山腹榎樹の間に在り、庭前に立てば、塙塙樹葉の尖道湖を前にして、伯耆大山(出雲富士)の景に接し、背後の山上に登れば遠く雲煙間に隱岐島を望見し得。山麓より石段數千級を登りて一山諸堂宇あり。本堂・龍堂・庫裡・禮拜堂・鐘樓堂・樂師堂・願堂・香堂・淨雲地蔵・仁王門等所在し、樂師堂本尊樂師如來は眼病の靈驗著しとて、一畑樂師と稱せられ、患者の參詣祈願するもの多く、毎月八日の縁日には通夜する者一千人の多きに達し、九月七日、八日の大會式には詣者數萬に及ぶと云ふ。日本一の寺として全國に喧傳せられ、目下一畑樂師教會講社員は三萬人に達す。本尊は秘佛にして三十三年毎

弘法寺 蘇州郡智村大字下古志。

●古義眞言宗。
●金剛頂山理樂院と號し、又興法寺と云ひ、同宗大覺寺末なり。空海の開基と傳ふる古刹にして、もと定光院なる奥ノ院及び寺中十二坊存し、寺運隆盛なりしが漸次衰頹、現に悉く廢絶す。寛永二十年、國守松平直政大師堂を再建す。●境内五千餘坪、本堂・大師堂・方丈・辨天堂・十王堂・鎮守殿島明神祠・仁王門・樓門等を具備す。本尊には十一面觀音を安じ、不動明王木像は空海作と傳ふ。鎮守殿島明神祠は池中の龜島に在り、空海の勸請に係ると云ふ。寺寶として後鳥羽天皇御筆不動像・空海筆不動三尊・愛染・鬼神二幅・尼子經久遺文・灌頂法具數種・其他唐佛畫數幅を藏す。●大師縁日(毎月二十一日、大師堂)遠近よりの詣者多し。奉幣湯立の神事(六月十七日、鎮守殿島明神)。

願樂寺 蘇州郡高松村大字白柱。

●眞言本願寺派。
●永正年中の開創に係り、寛永元年、本堂初め諸堂再建さる。弘治元年同縁に罹りし時、蓮如眞筆六字名號の初め二字燒失し、境り四字庭前の桑樹に懸れり。土俗拜して桑樹本尊と云ふ。近世九條殿祈願所となる。郡内の一巨刹にして、俗間出雲本山と稱す。●寺域一萬餘坪、本堂・客殿・庫裡・鐘樓・經藏・

大門等を具へ、規模宏壯を極む。寺實に觀覽第六字名號を始め、歴代宗主の筆畫多數を藏す。境内に寺中眞宗寺存す。

觀音寺

龍川郡四郷村大字渡橋。

●臨濟宗妙心寺派。

●補陀山と號し、出雲三十三所第四番の札所なり。佐々木義清の創建に係り、龍泉高良の再建する所なり。一説に往昔近隣松野下の土民廣戸六彌治、海濱を徘徊せしに、光明を見て十一面觀音像を得、己が宅邊に一字を結びて之を安置せしに始まる云ふ。もと圓成寺と稱せり。曾て尼子義久の室京極氏、毛利輝元の命にて當寺に住し、剃髮して圓光院宗主と號す。其後久しく荒廢せしが、慶安元年十月、國主松平直政、觀音の靈夢に感じて現存の講堂を再建す。爾來累世國主の崇敬厚し。

●本堂・庫裡・客殿・方丈・鐘樓・大門等を具ふる名巨刹なり。本尊十一面觀音坐像は聖德太子の作、方丈本尊佛如來は安阿彌作と傳ふ。寺實として妙心無著觀音寺緣起等を藏す。境内古杉老松鬱茂し、乾圃に圓光院の墓石あり。其側に御法松なる老樹ありて、古來の吟詠少からず。

●觀音緣日(六月十日)遠近よりの賽者にて雜音す。

神門寺

龍川郡鹽治村大字下鹽治。

●淨土宗。

●天竺山と號す。聖武天皇天平年中、行基の開基に係り、光仁天皇の勅願所なり。二世を最澄、三世を空海となす。空海本寺に於て伊呂波歌を作ると傳へし、

滿行寺

那賀郡大國村大字天河内。

●眞宗本願寺派。

●玉蓮山と號す。もと眞言宗にして西光寺(一説に玉泉寺、又照善坊)と稱へしが、寺僧照西の時、眞宗に改む。依りて照西を中興開山となす。中興第三世行西に至り滿願寺と改稱し、五世圓西の時、滿行寺と改めて今日に至る。

●本堂・客殿・庫裡・法義講所・寶堂・經藏・鐘樓・本門・西門等を具備す。本尊阿彌陀如來は安阿彌の作と傳ふ。

顯正寺

那賀郡濱田町。

●眞宗大谷派。

●龍谷山破那院と號す。眞宗二十四輩第二十二唯信房(轉谷次郎信傳)の開基に係る。貞水元年、常陸國保内の庄に創建し、初め覺念寺と稱せり。七世顯誓の時、佐竹氏の兵燹に罹りてより、下總高崎郡下川邊の庄に移りて顯正寺と改號す。天平年中、八世慶智の時、松平氏の歸依を受けて武藏國騎西城下に轉じ、後ち領主に從ひて、常陸の笠間、丹波の茶山、和泉の岸和田、播磨の山崎等に轉々す。慶安二年、遂に當地新町寺屋敷に移る。享保十一年大火に罹燒し、現地に再建す。●寺實として圓仁作佛像・觀覽第六字名號・同筆十字名號・蓮如筆六字名號・同筆十字名號・弘法大師筆蓮華名號・同筆經卷切等を藏す。

心覺院

那賀郡濱田町後井。

●淨土宗。

古來伊呂波波また假名寺とも稱せらる。爾來、眞言僧の住持する所なりしが、三十八世住持阿良空上落して深空の教戒を受け、淨土宗に改む。彌法、尼子、松平諸侯の保護厚く、境域廣潤、七堂具備し、規模頗る宏壯なりしが、數度の火災に依りて現に往昔の偉觀なしと雖も、尙ほ郡内屈指の巨刹たるを失はず。

妙傳寺

龍川郡鹽治村。

●本門宗。

●龍目山と號し、京都要法寺末なり。徳治元年、日大の開創にして、二世日頼より十二世日顯に至るまで、雲石二州の法領として其門派を統緒せり。もと十三箇末寺、六支坊を有せしが、現に寂光坊一字を存するのみ。

●境内一千五十餘坪、本堂・庫裡・垂迹堂・鐘樓・表門等を具ふ。本尊は六老僧の一日興より日尊へ授興したる曼荼羅の模寫彫刻なり。寺實として日蓮、日興、日大各筆曼荼羅・尊圓法親王筆和歌・其他佛像・經卷古文書等所藏多し。寺内に日顯殿記念堂あり。

安國寺

那賀郡上府村。

●臨濟宗東禪寺派。

●伊甘山と號す。初め福國寺と稱し、和銅年間の草創なり。後ち寺坊荒廢せしが、水久年間、時の國司大納言藤原國兼之を復興して天台宗となす。正和年間に至り國兼七世の高益田長長の妻阿忍、改めて禪刹となし、許多の田園を寄附し、七堂伽藍、塔頭五院を造營せり。茲に於て東福雙峰國師の的り、石門標表を請じて開山第一祖となし、阿忍を以て中興の標部となす。曆應年間、足利氏州毎に安國寺を寄進するや、本寺を以て當國安國寺に充て、河合南村を寄進し、以て祈禱所となす。仍りて安國の二字を冠し安國福國禪寺と號するに至る。永徳二年、足利義滿院諸山の列に置く。然るに應永十五年池魚の厄に遭ひ、堂塔五院及び寺實等悉く喪失す。其後漸次に復興し、現在に至る。

●境内二千餘坪、佛殿・庫裡・方丈・鐘樓・山門あり。

●春供養(三月中旬)、秋供養(十月一日・三日)特に薩摩守の恩人善雲院井戸平左衛門親恩の供養にて地方的に有名なり。

醫光寺

美濃郡益田町雲羽。

●臨濟宗東禪寺派。

●龍成山と號す。正和三年、國守益田兼弘の創建にたりし龍山の中腹に築かれ、碑面の六字は雲照律師の揮毫に成り、香煙常に絶えず。因みに道女の忠婢松田察女(俗に阿初と云ふ)の墓は今濱田港頭輪樂寺の墓地にあり。

大門等を具へ、規模宏壯を極む。寺實に觀覽第六字名號を始め、歴代宗主の筆畫多數を藏す。境内に寺中眞宗寺存す。

觀音寺

龍川郡四郷村大字渡橋。

●臨濟宗妙心寺派。

●補陀山と號し、出雲三十三所第四番の札所なり。佐々木義清の創建に係り、龍泉高良の再建する所なり。一説に往昔近隣松野下の土民廣戸六彌治、海濱を徘徊せしに、光明を見て十一面觀音像を得、己が宅邊に一字を結びて之を安置せしに始まる云ふ。もと圓成寺と稱せり。曾て尼子義久の室京極氏、毛利輝元の命にて當寺に住し、剃髮して圓光院宗主と號す。其後久しく荒廢せしが、慶安元年十月、國主松平直政、觀音の靈夢に感じて現存の講堂を再建す。爾來累世國主の崇敬厚し。

●本堂・庫裡・客殿・方丈・鐘樓・大門等を具ふる名巨刹なり。本尊十一面觀音坐像は聖德太子の作、方丈本尊佛如來は安阿彌作と傳ふ。寺實として妙心無著觀音寺緣起等を藏す。境内古杉老松鬱茂し、乾圃に圓光院の墓石あり。其側に御法松なる老樹ありて、古來の吟詠少からず。

●觀音緣日(六月十日)遠近よりの賽者にて雜音す。

神門寺

龍川郡鹽治村大字下鹽治。

●淨土宗。

●天竺山と號す。聖武天皇天平年中、行基の開基に係り、光仁天皇の勅願所なり。二世を最澄、三世を空海となす。空海本寺に於て伊呂波歌を作ると傳へし、

滿行寺

那賀郡大國村大字天河内。

●眞宗本願寺派。

●玉蓮山と號す。もと眞言宗にして西光寺(一説に玉泉寺、又照善坊)と稱へしが、寺僧照西の時、眞宗に改む。依りて照西を中興開山となす。中興第三世行西に至り滿願寺と改稱し、五世圓西の時、滿行寺と改めて今日に至る。

●本堂・客殿・庫裡・法義講所・寶堂・經藏・鐘樓・本門・西門等を具備す。本尊阿彌陀如來は安阿彌の作と傳ふ。

顯正寺

那賀郡濱田町。

●眞宗大谷派。

●龍谷山破那院と號す。眞宗二十四輩第二十二唯信房(轉谷次郎信傳)の開基に係る。貞水元年、常陸國保内の庄に創建し、初め覺念寺と稱せり。七世顯誓の時、佐竹氏の兵燹に罹りてより、下總高崎郡下川邊の庄に移りて顯正寺と改號す。天平年中、八世慶智の時、松平氏の歸依を受けて武藏國騎西城下に轉じ、後ち領主に從ひて、常陸の笠間、丹波の茶山、和泉の岸和田、播磨の山崎等に轉々す。慶安二年、遂に當地新町寺屋敷に移る。享保十一年大火に罹燒し、現地に再建す。●寺實として圓仁作佛像・觀覽第六字名號・同筆十字名號・蓮如筆六字名號・同筆十字名號・弘法大師筆蓮華名號・同筆經卷切等を藏す。

心覺院

那賀郡濱田町後井。

●淨土宗。

古來伊呂波波また假名寺とも稱せらる。爾來、眞言僧の住持する所なりしが、三十八世住持阿良空上落して深空の教戒を受け、淨土宗に改む。彌法、尼子、松平諸侯の保護厚く、境域廣潤、七堂具備し、規模頗る宏壯なりしが、數度の火災に依りて現に往昔の偉觀なしと雖も、尙ほ郡内屈指の巨刹たるを失はず。

妙傳寺

龍川郡鹽治村。

●本門宗。

●龍目山と號し、京都要法寺末なり。徳治元年、日大の開創にして、二世日頼より十二世日顯に至るまで、雲石二州の法領として其門派を統緒せり。もと十三箇末寺、六支坊を有せしが、現に寂光坊一字を存するのみ。

●境内一千五十餘坪、本堂・庫裡・垂迹堂・鐘樓・表門等を具ふ。本尊は六老僧の一日興より日尊へ授興したる曼荼羅の模寫彫刻なり。寺實として日蓮、日興、日大各筆曼荼羅・尊圓法親王筆和歌・其他佛像・經卷古文書等所藏多し。寺内に日顯殿記念堂あり。

安國寺

那賀郡上府村。

●臨濟宗東禪寺派。

●伊甘山と號す。初め福國寺と稱し、和銅年間の草創なり。後ち寺坊荒廢せしが、水久年間、時の國司大納言藤原國兼之を復興して天台宗となす。正和年間に至り國兼七世の高益田長長の妻阿忍、改めて禪刹となし、許多の田園を寄附し、七堂伽藍、塔頭五院を造營せり。茲に於て東福雙峰國師の的り、石門標表を請じて開山第一祖となし、阿忍を以て中興の標部となす。曆應年間、足利氏州毎に安國寺を寄進するや、本寺を以て當國安國寺に充て、河合南村を寄進し、以て祈禱所となす。仍りて安國の二字を冠し安國福國禪寺と號するに至る。永徳二年、足利義滿院諸山の列に置く。然るに應永十五年池魚の厄に遭ひ、堂塔五院及び寺實等悉く喪失す。其後漸次に復興し、現在に至る。

●境内二千餘坪、佛殿・庫裡・方丈・鐘樓・山門あり。

●春供養(三月中旬)、秋供養(十月一日・三日)特に薩摩守の恩人善雲院井戸平左衛門親恩の供養にて地方的に有名なり。

醫光寺

美濃郡益田町雲羽。

●臨濟宗東禪寺派。

●龍成山と號す。正和三年、國守益田兼弘の創建にたりし龍山の中腹に築かれ、碑面の六字は雲照律師の揮毫に成り、香煙常に絶えず。因みに道女の忠婢松田察女(俗に阿初と云ふ)の墓は今濱田港頭輪樂寺の墓地にあり。

百石を有せしが、萬壽三年海嘯の爲めに流失してより寺運漸く傾く。正和二年、遊行四代他阿吞海常國下向の禪、住僧福音深く之に倚依して徒弟となり、寺を以て時宗の道場と稱じ、他阿を請じて開山せり。其後長



(寶田) (堂本寺福萬)

法親王富國御親化の時留賜ありて大に堂宇に修理を加へ給ふ。依りて奉じて富山中興の祖師となす。東山天皇より奉明天皇まで、當寺の住僧に拜謁を賜ひ上人號を勅許せらる。明治二十三年十一月、内務省より保存資の内へ金一百五十圓を下附せらる。

●町の北方益田川の流城に位して境域千二百六十六坪、老樹蒼鬱たる幽邃境なり。本堂は文中三年再興の際の建築にして現に國寶なり。桁行七間、梁間七間、單層、屋根入母屋造、檜瓦葺、内外木造、外部舟肘木、内部組物唐檜出組、天井化粧檜板葺にして手法頗る簡古なり。本尊木造阿彌陀佛坐像は春日の作と傳ふ。寺寶中、絹本着色二河白道圖一幅は國寶に列す。風致優婉、運筆精細、室町時代の優品なり。裏書に天和三歳改裝とあり。其他に雪舟筆畫・尊親法親王御筆繪見觀音・探幽、周文等の繪畫等を藏す。堂後の庭園は畫僧雪舟の築く所として著れ、特に七五三の布置は奇觀とせらる。現に史蹟名勝地なり。本堂左方の丘上に益田兼見の墓あり。

●宗祖忌(十月二十二日―二十四日)。

永明寺

鹿足郡津和野町後田。

●曹洞宗。
●覺皇山と號す。應永七年、吉見頼弘の開基に係り、日因初性を開山とす。爾來吉見氏、龜井氏代々の菩提所なり。

慶天皇文中三年、今の益田に移り萬福寺と改稱す。時に領主益田越中守兼見本堂僧坊及び鎮守天滿宮の社殿等悉く之を再建し、寺領三十一石餘を寄附し、以て益田家の菩提院となす。後應永五年遊行十二代、尊親

四國地方

德島縣

東照寺

德島市福島本町。

●古義眞言宗。
●現に同宗大覺寺末たり。草創年次並に沿革不詳。
●德島縣より東十五町、德島橋を渡れば別ち當寺なり。本尊木造地藏菩薩半跏像一幅は國寶なり。高さ二尺八寸六分、右手錫杖を執り、左手寶珠を捧ぐる半跏の着色像にして、幾分形式化されたる寫實的衣紋を見する室町期の作なり。

興源寺

德島市下助任町。

●地濟宗妙心寺派。
●大雄山と號す。天正十四年、國主蜂須賀家政の開基に係り、東嶽百堂を請じて開山とす。初め南禪寺派に屬して福聚寺と號せしが、慶安三年、廣山玄加之を中興して現派に轉じ、以て興源寺と改む。近世寺領五百五十石を有し、蜂須賀氏累代の菩提所たりき。
●境内に家政墓あり。寛永十五年、攝津安住寺より移すと云ふ。

觀音寺

名東郡國府町觀音寺。

●古義眞言宗。

德島縣 (德島市・名東郡)

來、並に自彫木像及び「前武州太守中山道月大居士神儀」の位牌を安置す。寺寶として李龍藏筆十六羅漢圖、光嚴司筆涅槃像・黃慶版藏經等有名人なり。

國分寺

周吉郡中條村大字池田。

●眞言宗東寺派。
●天平年勅建國分寺の一にして、七堂伽藍堂をならべ頗る壯麗を極めしも、其後幾多の變遷あり、明治初年までは法時を總ぶ本堂・東禮・鐘樓堂・仁王門・寶藏等を殘せしが、維新の際當國一般殊に其害甚しかりし廢佛毀釋の厄に罹り、右の堂宇を初め寶物等悉く烏有に歸す。同十一年、再興に着手せしも、僅に假本堂一字を建立せしに過ぎず。目下本堂の再建準備中なり。當寺は元弘の昔、後醍醐天皇隱岐御遷幸の時の行在所たりしこと諸書に見ゆ。

●境内一千五百坪、假本堂一字。維新廢佛の厄を免れし本尊釋迦牟尼佛・四天王・仁王の諸像及び蓮華舞面・古瓦數種を藏す。
●正御影供(舊二月二十一日、舊七月二十日)

國分寺

名東郡國府町矢野。

●曹洞宗。
●靈王山金色院と號す。四國八十八所第十五番札所たり。天平年間、聖武天皇の勅願に依り諸國に建立せしめ給ひし金光明天王護國之寺の一にして、天正年間、兵燹に罹りて燒亡せしが、寛保元年、再建成り、以て現在に及ぶ。
●現在の堂宇狭小なりと雖も、古瓦廢礎等以て往昔の巨構を想はしむるに足るものあり。本尊佛如來の外、聖武天皇、光明皇后の寶牌を奉安す。當寺より北數町にして國分尼寺址を存す。

常樂寺

名東郡國府町延命。

●古義眞言宗。
●盛壽山と號し、俗に矢野の延命と云ふ。現に同宗御室末にして、四國八十八所第十四番札所たり。寺傳に據れば、弘仁年間、空海此地に一字を創建して、自刻の彌勒菩薩像を安置す。是れ當寺の遺構なりと云ふ。後ち真蹟久しかりしが、萬治二年、再興成る。

本願寺

名東郡加茂名町島田。

●古義眞言宗。

●現に同宗大覺寺末たり。草創年次並に沿革不詳。開基より今日に至る世葉十八代に及ぶと云へば大略徳川初期と推せる。

●境内地六百坪、堂宇に方丈・庫裡・離座敷・山門・殿室等を具ふ。離座敷は僧室離座の遺蹟にして顯龜室と稱す。寺寶中、紙本墨書聖德太子傳經二卷は、國寶にして、上巻は乾元二年、下巻は應永八年己巳二月二十一日の奥書を有す。他に傳宗意筆安流相承春日曼荼羅圖等を藏す。
●涅槃會(舊二月十四日、十五日)、十夜會(十月十四日、十五日)、大師降誕會(舊六月十五日)但し涅槃會及び十夜會は七年間に二回之を修す。

大日寺

名東郡上八万村大字一宮。

●古義眞言宗。
●大栗山花藏院と號す。現に同宗大覺寺末にして、四國八十八所第十三番札所たり。寺傳に據れば、空海の草創に係り、初め大日如來を安置せしが、後ち當地一宮社の別當となりて一宮寺と號し、以て同社本地佛十一面觀音を安置すと云ふ。三好氏領主の時、捨地十二貫、寺田一町三段を寄す。天正年間、兵燹に罹りしも、天文二年、堂宇の再建成り、以て現在に及ぶ。

井戸寺

名東郡南井上村。

●古義眞言宗。
●瑞瑞山眞福院と號す。現に同宗大覺寺末にして、四國八十八所第十七番札所たり。寺傳に據れば、往昔此地の水質劣惡にして著しく汚濁し且つ毒氣を含む。仍りて空海加持して井を掘らしむるに、瑞瑞の如き清

水淡々として湧出す。以て樂師如來有縁の地となし、空海自ら樂師如來像を刻みて之を安置す。是れ當寺の遺蹟なりと云ふ。初め妙顯寺と號せり。壽永年間、藤原成良の新願所となり、後ち源隆春之を再興す。天正年間、兵燹の災に罹りて堂宇烏有に歸せしが、慶長年間、住持眞龍之を再建す。大正五年、改めて井戸寺と號して現在に至る。

●本尊木造十一面觀音立像一軀は國寶に列せらる。丈高五尺九寸八分、總身淡彩を施し、頂上十一面を戴きて寶髮天冠冠を附し、木眼嵌入、白毫水晶、右手垂下し、左手屈臂して水瓶を執り、左肩より斜に袈裟を懸け腰部に裙を纏ふ。兩肩より垂下せる天衣は膝上下二段に懸り先端は兩肘に垂る。面觀頗る雄偉にして姿態亦整然、以て藤原期の優作とす。但し台座、光背、持物等悉く後世の補作なり。

恩山寺

勝浦郡小松島町田野。

●古義眞言宗。●母香山寶樹院と號す。現に同宗高野末にして、四國八十八所第十八番札所なり。寺傳に、天平年間、行基の草創に係り、自作の樂師如來像を安置し、以て大日山福生院密嚴寺と號す。是れ當寺の遺蹟なりと傳ふ。時に聖武天皇の勅願所と定めらる。延暦七年、空海當山に留錫し、傍ら母公に侍して孝養怠らず。因みて現寺號に改むと云ふ。次で弘仁年間、自作像を刻して大殿に置き、末世衆生の除厄を誓ふ。天正年間、兵燹に罹りて堂宇削房美上せしが、次で蜂須賀氏之を再建す。●境内地廣瀆にして山に倚り海に臨み、奇巖懸松、風光頗る佳なり。堂宇に本堂・大師堂・地藏堂・通夜

堂・鐘樓・方丈・庫裡・仁王門等を具へ、寺寶として空海自作像・鎌倉室町期諸板碑等を藏す。

如意輪寺

(中津藩觀音) 勝浦郡多家良村大字宮井。

●古義眞言宗。●俗に中津藩觀音と稱す。現に同宗大覺寺末にして、古來阿波三藩の一たり。草創年代詳ならず。南北朝の頃、兵燹に罹りて堂宇烏有に歸す。永正年間、當寺如意輪觀音の奇蹟あり、爾來四隣道俗の尊崇厚しと云ふ。慶長十四年、領主蜂須賀家政寺領を寄せ、元和年間、本堂を再建す。●境内地三千六百四坪、堂宇に本堂・大師堂・護摩堂・仁王門・鐘樓等を具ふ。本尊木造如意輪觀音坐像一軀は國寶にして、高さ三尺四寸五分、白毫に水晶を嵌裝し、肉身に金泥を纏り、玉眼嵌入、寶鬘高く、面觀美を極む。以て鎌倉末期の作とす。境内塔の尾、谷の坊は往昔堂宇の名稱を傳へ、其地又各處址なり。又山上に三重寶塔の礎石を存す。山中飛瀑三あり。鳴瀧、水柱瀧、大慈瀧と名づけ、松楓之を繞りて水煙萬丈の絶景を繪る。●大初會式(一月十七日・十九日)、百味供養會(十月十八日)。

丈六寺

勝浦郡多家良村大字本庄。

●曹洞宗。●瑞麟山慈雲院と號す。寺傳に據れば、白鳳元年、天眞正覺尼の開創に係り、初め淨樂寺と號して、當國最初の佛刹なりと云ふ。朱鳥年間、堂宇を造營して行基作丈六觀音像を安置し、寺號を丈六寺と改む。永正六年、大初會式(一月十七日・十九日)、百味供養會(十月十八日)。

鶴林寺

勝浦郡生比奈村大字生名。

●古義眞言宗。●靈鷲山寶樹院と號す。現に同宗高野末にして、四國八十八所第二十番札所なり。寺傳に據れば、延暦十七年、空海當國巡錫の初、當山寶樹の樹に一丈八分の地藏菩薩金像を感得し、靈樹を以て自ら三尺の地藏尊を刻みて金像を其胸間に納め、一字を削して安置す。●觀音市(陰曆正月十八日)、法華經千部會(三月十七日・二十一日)。

且つ一山の勢姿天然の靈峯に隨順せるより靈鷲山と號し、鶴林の仙禽翼を翳して本尊を守護せるが如き形より鶴林寺と稱す。是れ當寺の遺蹟なりと云ふ。時に桓武天皇の勅願所と定められ、平城、嵯峨、淳和各諸天皇の數信亦深し。後ち源賴朝大いに堂宇を修營す。蜂須賀氏入國するや、禁制書を下して禁伐林百餘町、寺領七十石餘を寄せて其所願所とす。爾來堂塔の造營悉く藩費を以てせり。當時佛殿、祖堂、三重塔、鐘樓、仁王門等相連り、塔中石室院、愛染院、東藏院、不動院、寶藏院、北室院、慈眼寺の七院ありて壯觀を極めし



(橋重三寺林鶴)

が、謙新の摩訶羅寺を除く六院本坊に合併す。明治十八年、同三十二年の兩度祝融の災に罹る。今未寺十五箇寺あり。

●境内地四千三百二十二坪、堂宇に本堂・六角堂・護摩堂・御影堂・觀音堂・阿彌陀堂・權現堂・鐘樓・方丈・庫裡・仁王門等の堂宇を具ふ。慈眼寺は即ち當寺奥ノ院にして、四國第一の行場と稱せられ、空海作と傳ふる不動明王・觀世音菩薩兩像を安置す。其後方純壁半圓なる大卒塔婆は空海の投じて建てしものと云ふ。本尊木造地藏菩薩立像一軀は國寶にして、丈高二尺八分、總身彩色、右手伸下して中指及び無名指を接

し、右手屈臂して寶珠を執る。光背、台座亦彩色にして、台座は五重圓形四邊柱蓮瓣、二段臺坐五足付、寶相華文様を描く。寺傳空海作とあれど、樣式手法等全く藤原期の特徴を示す。尙ほ寺域に御來迎齋、灌頂齋、大師加持木、にり石地藏尊、菩薩石、普賢石、灌頂壇等の遺蹟あり。●初會式(陰曆一月二十三日、二十四日)、授樂會(二月十五日)、正御影供(三月二十一日)、夏會式(六月二十三日、二十四日不)、斷經(七月四日、五日)、續守祭(九月三日)。

立江寺

(地藏寺) 那賀郡立江町立江。

●古義眞言宗。●橋池山地藏院と號す。一に地藏寺とも云ふ。現に同宗高野末にして、四國八十八所第九番札所なり。天平年間、行基の草創に係り、聖武天皇の勅願所と定められると云ふ。後ち光明皇后御安産祈



(堂本寺江立)

●古義眞言宗。●白水山醫王院と號す。現に同宗高野末にして、四國八十八所第二十二番札所なり、空海の創建に係り、自刻の樂師如來像を安置して本尊とすと云ふ。往昔七堂伽藍具はりて、支院十二箇寺を擁し、寺勢頗る隆盛なりしが。天正年間、兵燹に罹りてより漸く衰頹せり。●古義眞言宗。●現に同宗高野末なり。創建年代並に沿革詳ならず

西光寺

那賀郡平島村大字赤池。

●古義眞言宗。●現に同宗高野末なり。創建年代並に沿革詳ならず

堂字に大師堂・客殿・鐘樓・仁王門等を具ふ。本尊木造阿彌陀如來坐像一軀は國寶に指定せらる。像の高さ二尺九寸一分、台座は六重座四尊蓮花、二段蓮座花盤付とす。寺傳行基作とあれど、様式刀法上鎌倉期の作とすべし。

◎正御影供(三月二十一日)。

太龍寺 (西高野山) 那賀郡加茂谷村大字加茂。

◎古義眞言宗。



(堂本寺龍太)

捨心山常住院と號し、俗に西高野山と云ふ。現に同宗高野米にして、四國八十八所第二十番札所たり。延暦年間、空海の開創に係る。初め空海十五歳にして當山に登り南舎心に於て求聞持秘法を修せしが、同十七年、二十五

歳の時、桓武天皇の繪旨を拜し、國司藤原文山御齋を造營す。嘉保二年、僧長範寺字を再興して、子院七箇寺を設く。後、領主三好氏寺田一町五段歩を寄せて其香華院とす。鎌須賀氏領主となるに及び、歴代跡依違からず、尾次山林田賦を寄す。明治二十七年、祝融の災に遭ひて什寶、古文書等多く焼亡す。當國隨一の名刹と稱せられ、現に當宗準別格本山なり。夙に子院として悉地、愛染、成就、密生、光明、明星、龍滿の七院を具す。

◎境内廣瀬、老杉鬱蒼として山水の勝を占め、堂字



(塔重三寺龍太)

に金堂・大師堂・求聞持堂・中興堂・毘沙門堂・鐘樓・六角經堂・講堂・多寶塔・三重塔・仁王門・鐘樓・庫裏・書院・方丈等を具す。寺寶中、空海作善女重王像・同繪紙塔・同法華經八軸・同所持錫杖・同製袋・同八咫相承鈴・龍駒一體は當寺七種寶物と稱し、他に傳空海作千手觀音・多聞天・不動明王像を藏す。尙ほ山麓に龍岩窟と稱するあり、内に河津を流へて深さ測るべからず、空海毒蛇討しの跡と傳す。

◎初會式(陰曆一月十二日)、涅槃會(二月十五日)、十六日)、正御影供(三月二十一日)、大般若會(六月十三日)、不斷經會(七月十日)。

藥王寺 海部郡日和佐町奥河内。

◎古義眞言宗。

醫王山無量壽院と號す。現に同宗大覺寺末にして、四國八十八所第二十三番札所たり。寺傳に據れば、弘仁六年、空海當地に留錫して一字を創建し、四十二歳除厄祈願の爲め、藥師如來坐像を刻して安置す。是れ當寺の靈廟なりと云ふ。天長年間、淳和天皇勅して寺田を賜ひ且つ堂字を遺營せしめらる。後、鳥羽天皇亦是れを改修せしめ給ふ。天正年間、兵火に罹りて一山鳥有に歸せしが、次で領主鎌須賀家政堂字を再興し、且つ寺鎮を附す。寛文十六年、再び同様に遺ひしも、鎌須賀光隆、堂字を再建す。當時築地十石を領せり。明治三十一年、三度表上し、後ち重興成る。

◎實蹟顯る險にして高岩を負ひ、前面南海に展く。寺内老樹蒼鬱、右方長路山を望み、左方蜿蜒たる廣瀬川に接して景勝の地を占む。堂字に本堂・藥師堂・祖師堂を具す。尙ほ當山の西方六十町玉厨子山に一堂あり、即ち當寺奥ノ院とす。

童學寺 名西郡石井町城ノ内。

◎眞言宗善通寺派。

◎東明山大谷院と號す。寺傳に據れば、初め空海成童の頃、當地に善道密法を學ぶ。後弘仁年間、其四十二歳の時、山麓に精舎を營み、自刻の藥師、彌陀、觀音、毘沙門天、持國天、歡喜天を安置し、古縁に因みて童學寺と號し、且つ後山を東明と稱して奥ノ院となし、以て眞言根本の道場とす。是れ當寺の靈廟なりと云ふ。降りて正和元年、津茂、松家兩氏領主となりて堂字を再建す。天正年間、長曾我部氏の兵燹に罹り、奥ノ院

光勝寺 板野郡板東町春原。

◎臨濟宗妙心寺派。

◎一に安國菩提寺と號し、俗に萩原寺と呼ぶ。曆應三年、細川和氏の創建に係り、夢窓疏石を請じて開山とす。和氏歿後、補陀寺と號し、爾來同氏累代の菩提所たり。正平七年、細川頼春京都四條役に戦歿するや、當寺に碑を建て、其法諱に因みて寺號を光勝寺と改む。承應二年、寺領三十六石を受くと云ふ。

經樂寺 板野郡板東町檜。

◎古義眞言宗。

◎日照山と號す。現に同宗金剛峯寺末にして、四國八十八所第二番札所たり。空海の草創に係ると傳ふ。沿平詳ならず。

◎境内地五千四百坪、三面山に倚りて奇巖聳々林樹繁り、東面巖かに展けて深潭く水清し。五間四面の本堂を具す。本尊木造阿彌陀如來坐像一軀は國寶たり。像は高さ二尺八寸、定印彌陀像にして、地身漆繪箔押、九重座上に坐す。寺傳行基作とあれど、様式刀法上鎌倉期の作と推知さる。但し光音は後世の補作に係る。尙

名山寺 名西郡下分上山村大字左右内。

◎古義眞言宗。

◎摩盧山性壽院と號す。同宗金剛峯寺末にして、四國八十八所第十二番札所たり。空海の草創に係り、其自刻の三面大黒天像を安置すと云ふ。又一説に、役行者の開創とも傳ふ。もと當村古房の地にありしを、後ち現寺地に移す。正中二年、寺田二段歩を領せり。爾來、屢次回祿の災に罹りて古記を亡び、沿革詳ならず。

金泉寺 板野郡板西町大寺。

◎古義眞言宗。

◎龜光山禪迦院と號す。現に同宗金剛峯寺末にして、四國八十八所第三番札所たり。空海の草創に係ると傳ふ。龜山天皇御宇、當寺に寶庫を置かせ給ひ且つ寺田を賜ふ。

靈山寺 板野郡板東町板東。

◎古義眞言宗。

◎慈和山一乘院と號す。現に同宗金剛峯寺末にして、四國八十八所第一番札所なり。草創年次詳ならず。天



(堂本寺學靈)

を除くの外、堂宇、什寶概焼亡す。爾來寺逐漸く衰頽す。安政五年、安積信當寺縁起を撰し、碑を寺庭に建つ。

◎境内地約四千坪、堂字に本堂・聖天堂・觀音堂・新四國堂・鐘守堂・寶藏・鐘樓堂・山門・客殿・書院等を具す。本尊木造藥師如來坐像一軀は現に國寶にして高さ二尺九分、螺髮木眼、右手屈臂、左手膝上に安じ、坐

は堂前なる東池、芙蓉沼は曾て辨財天瑞瑞光佛示現の靈通と傳ふ。近古境内乾谷より古銅鑄鐘をせられたり。●本尊供法會(毎月十六日)、御影供(毎月二十一日)。

地藏寺

●古義眞言宗。●無量山莊嚴院と號す。現に同宗金剛峯寺末にして、四國八十八所第五番札所なり。阿波諸名所圖會に、往昔當山に羅漢原と稱せし地ありしが、實勝の頃、願主ありて四隣に檀信を求め、幾許ならずして宏壯の精舎を創建す。即ち當寺の靈廟なりと云ふ。もと福聚寺と號せしが、後ち現寺號に改む。●今、寺内に五百羅漢堂を存す。

大日寺(墨谷寺)

●古義眞言宗。●墨谷山蓮華院と號し、俗に墨谷寺と云ふ。現に同宗仁和寺末にして、四國八十八所第四番札所なり。草創年次詳ならず。應永年間、再興せしが、後ち廢絶し、天和、貞享の頃、重興成る。●境内地千五十坪、堂宇に本堂・大師堂を具ふ。本尊大日如來は空海の作と傳ふ。

大山寺

●古義眞言宗。●現に同宗金剛峯寺末なり。草創年次詳ならず。曾て源義經此地を過りし際、當寺に其馬鞍を納めたりと云ふ。

十樂寺

●古義眞言宗。●寺寶中、銅經筒一箇は國寶に指定せらる。其高さ八寸六分、口径五寸七分五厘、圓錐形の經筒にして、蓋は寶形造に寶珠を附す。銘文に「大治元年歲次丙午十月十二日甲辰、圓淨地日本國阿州於大山寺如法經書寫供養畢願願西經爲結緣法界六道三有受若者也」とあり。筒内經卷は現存せずと雖も、藤原末期に流行せし寫經供養の一例と推察す。他に義經奉納初音成を藏す。尙ほ寺内に鞍掛松と稱するあり。曾て義經休息の遺跡なりと傳ふ。



(堂本寺樂十)

瑞運寺(安樂寺)

●古義眞言宗。●瑞路山或は温泉山と號し、一に瑞瑞山安樂寺と云ふ。現に同宗金剛峯寺末にして、四國八十八所第六番札所なり。草創年次詳ならず。天正年間、兵燹に罹りて堂宇烏有に歸せしが、後ち再建成り、慶長三年、采地十石を領す。●本尊善師如來は空海作と傳ふ。往昔當山に温泉あり、僧徒を以て聞えしが今跡を絶す。●禮樂會(二月十四日、十五日)、正御影供(三月二十一日)。

切幡寺

●古義眞言宗。●得度山と號す。現に大覺寺末にして、四國八十八所第十番札所なり。寺傳に據れば、空海當地巡錫の朝、遺棄より幡一旗降り來り、中空に候然斷して一は西に飛び去り、一は當山に留まる。仍りて此處に一字を創して切幡寺と號し、自作の千手觀音並に不動明王、毘沙門天兩像を安置す。是れ當寺の靈廟なりと云ふ。延元四年、足利直義、僧藏石の說を聽き、六十六州に安國寺を建立するや、當寺を其の一に充つ。時に僧藏

法輪寺

●古義眞言宗。●阿波郡土成村大字土成。●正覺山或は白蛇山と號す。現に同宗仁和寺末にして、四國八十八所第九番札所なり。草創年次並に沿革詳ならず。●本尊に入釋尊釋迦如來像を安置す。

熊谷寺

●古義眞言宗。●普明山眞光院と號す。現に同宗金剛峯寺末にして、四國八十八所第八番札所なり。草創年次並に沿革詳ならず。●本尊は千手觀音坐像にして、脇侍不動明王、同毘沙門天兩像は運慶作と傳へ、寺寶として空海筆扁額等を藏す。

高越寺

●古義眞言宗。●麻植郡川田町。



(堂本寺越高)

●現に同宗大覺寺末なり。寺傳に據れば、没行者の遺跡にして、後ち空海之を草創すと云ふ。訪峨天皇觀信深く、鎮護國家の道場として莊園を賜ふ。建久七年、源賴朝御依厚く采地を寄す。後ち僧・住僧せしが、永

正五年、源元常之を再興す。爾來是利、細川兩氏及び歴代領主の崇敬深し。元祿三年、破産の災に遭ひしも、同五年、再建成る。近世領主蜂須賀家政寺領を寄せ、同忠英の時、堂宇を修營す。當時支院十三間院を有せ

藤井寺

●臨濟宗妙心寺派。●金剛山と號す。四國八十八所第十一番札所なり。弘仁年間、空海の草創と傳へ、玄鑿を以て中興開山とす。往昔七堂伽藍具はりて頗る宏壯なりしが、天正の頃、兵燹に遭ひて一山概れ烏有に歸す。寛延年間、堂宇の再建成りしも、天保三年、再び破産の災に罹る。●境内地千五十餘坪、本堂及び大師堂等の堂宇を具ふ。本尊本達釋迦如來坐像一軀は國寶たり。像は高さ二尺八寸八分、右手屈臂、左手膝上に安じて、藥壺を執り、結跏趺坐して一見樂師如來の容姿を示す。胎内銘に「○○○丹起○佛師經釋迦佛久安四年十一月三十日」○敬白天文十八年十一月十一日佛師年四十七○作○あるより推察すれば、もと釋迦如來像なりしを、後世修理の際、樂師如來像に造變せしものなるべし。

以て藤原後期の佳作とす。但し兩手に後世の補作に係る。

●初會式(一月廿一日)、正御影(二月二十一日)。



(堂本寺井圖)

最明寺

美馬郡脇町猪尻。

●古義眞言宗。●今、同宗大覺寺末たり。草創年次並に沿革不詳。●寺寶中、木造毘沙門天立像一軀は國寶たり。像の丈高五尺二分、右手伸下して鉢を執り、左手屈臂して寶塔を捧げ、腹部獅子頭を著け香を穿ち、地天の兩掌上に立つ毘沙門にして、以て藤原期作と推知する。但し天衣は後世の補作に係り。

長樂寺

三好郡三好町。

●古義眞言宗。

一寸五分、胎内墨書銘に「僧行仁、南無佛法護持毘沙門大王」壽永三年甲辰六月二十一日、佛師阿州住僧慶尊、造立大願主僧願西、結縁者諸大檀那等、僧貞祐、僧西元」とあり、又以て藤原末期作とす。聖衆來迎圖は現に奈良帝室博物館出陳中にして、畫面の高き四尺三寸四分、幅一尺九寸四分、片方に釋迦三尊雲中に立ち、之に向ひて阿彌陀如來、二十七菩薩を従へ來迎印を結び立つ。下隅引接に與る編衣の人物及び其家屋を描く。佛身處で細線なる金銀敷金文様を施す。聖衆來迎圖中、釋迦三尊を配せるは、蓋し此例に屬す。卷止古蹟の墨書銘に「真心御筆發遣釋迦三尊來迎彌陀三尊二十五菩薩記釋開基義賢」とあり、發遣、來迎等の文字は即ち本圖に於ける釋迦彌陀兩尊並立の意を表す。但し勿論墨心時代の作にはあらず、鎌倉期の作にして、圖樣亦當代淨土教の特色を窺ひ得べし。他に傳空海筆引目大師像・同筆不動明王、愛染明王像・同筆巨巖山扇額等を藏す。

長善寺

三好郡三庄村大字中庄。

●古義眞言宗。

●現に同宗仁和寺末たり。草創年次並に沿革不詳。●寺寶中、絹本着色般若菩薩像一軀は國寶に指定せらる。畫面三尺七寸四分、横二尺三寸五分、像は右手に梵夾を捧げ、左手蓮華を執りて蓮華座上に坐す。顔は赤色金彩、雲霞花文等を描き、以て鎌倉末期の作と推知す。尙に明治三十九年修補の裏書あり。

●今、同宗仁和寺末たり。草創年次並に沿革不詳。●寺寶中、絹本着色楊柳觀音像一軀は國寶たり。畫面三尺九寸四分、幅二尺六分、大徳寺所藏榮道子筆と稱する觀音圖と同系統に屬し、元朝初期の作と推知す。紫竹林を背に、巖頭に坐せる楊柳觀音は金色莊嚴の盛飾、巖角亦金彩の反映を表し、前方合掌せる善財童子を配す。裏面に施主布屋治右衛門とあり。

瀧寺

三好郡三野町加茂野宮。

●古義眞言宗。

●現に同宗仁和寺末たり。源長経の草創に係り、其香華院たりしが、後兵燹に罹りて堂宇燬亡す。●境内奇巖壁を飛瀑懸りて頗る景勝の地を占む。本尊木造聖觀音立像一軀は國寶たり。丈高三尺九寸四分、右手屈臂して大指頭相接し、左手亦屈臂して蓮華を執り、左肩より斜めに袈裟を懸け、腰部に裙を纏ひ、兩肩より垂れたる天衣を膝上二段に繞らし、先端を臂に懸けて垂下す。以て藤原期の佳作とす。

善藏寺

三好郡善藏村大字州津。

●古義眞言宗。

●善藏山眞光院と號し、一に寶珠山と云ふ。蓋し山容寶珠を捧ぐるに似たるに因る。現に同宗仁和寺末たり。寺傳に據れば、天長五年、空海の草創に係り、自刻の聖師如來像を安置すと云ふ。爾來數度祝願の災に罹りて隆願常ならざりしが、近時講堂宇重興せられて稍々舊觀に復す。現に準別格本山たり。●境内地約一萬五千坪、山林概百二十町歩の廣域に亘る。先づ山麓より廣くこま十餘町にして山門あり、

之を入れば、古松老柏蒼鬱として山道を狹み、更に進むと二町餘、石段數百級にして寶珠山に入る。正面に護摩堂、左方に客殿・庫裡隣次し、右方に大師堂・鐘樓堂あり。更に登れば別ち本堂・鎮守堂に達す。鎮守堂は前殿、中殿、奥殿に分れ結構莊嚴を極む。山頂に龍王廟ありて傍に一小泉を湛ふ。婦人一升水と稱へ、曾て空海湯に遭ひし時、呪得せしものと傳へ、今尚ほ靈驗を噴傳す。巖底に善藏と稱する洞窟あり、神容を藏すと云ふ。因みに、所藏の空海手記遺稿に「是我本地醫王佛元本誓也余於是始神人之爲金毘羅神將云々」とあり、據りて當寺を俗に讚岐金刀比羅宮奥ノ院なりと云ふ。

雲邊寺

三好郡佐馬地村。

●古義眞言宗。

●巨巖山千手院と號す。現に同宗仁和寺末にして、四國八十八所第六十六番札所たり。寺傳に據れば、弘仁年間、空海の草創に係り、嵯峨天皇の勅願所と定めらる。當時堂塔伽藍連發して輪奐の美極まれりと云ふ。●寺城雲邊山麓に位置し、堂宇に本堂・護摩堂・大師堂・鐘樓・山門等を具ふ。本尊木造千手觀音坐像一軀・脇侍木造毘沙門天立像一軀及び寺寶中、絹本着色聖衆來迎圖一軀は共に國寶たり。本尊千手觀音坐像は高さ三尺一寸二分、寶珠頭上に十一面を戴き、天冠璫を附し、眞手合掌、第二手寶鉢を持す。左右更に脇手を配して結跏趺坐す。胎内墨書銘に「常住聖人西行房願西〇依勸進佛備中國人僧經尋願房奉造之現在安穩後世菩提爲也、南无千手觀音菩薩、殊經尊眼明云々」とあり、以て藤原末期の作とす。但し銅製鍍金天冠璫塔は後世の補作に係る。毘沙門天立像は丈高五尺

香川縣

見性寺 高松市濱ノ丁。

曹洞宗

●直指山と號す。草創年大詳ならず。周防國善雲寺覺隱の法嗣全庵一蘭之を中興す。嘉吉の頃、大川郡東山の地にありて、寶光寺と稱せしが、寛正二年、細川勝元、之を宇多津に移して南隆寺と改む。天正元年、更に丸龜中府の地に轉じ、東福寺と云ふ。同十八年、國守生駒雅樂頭近規高松城の圍、更に現寺地に移建して見性寺と改號す。明曆二年、回祿に罹りしが、後ち再建成る。近世寺領二十石の黒印狀を附せられ、現に末寺三箇寺を稱す。

●寺實として大石其雄、劍七奥村權左衛門に東軍流の劍法を學びし時の起野文書等を藏す。

弘憲寺

高松市濱ノ丁。

古義眞言宗

●利劍山顯照光院と號す。現に同宗大覺寺末たり。寺傳に據れば、天平年間、行基の草創に係り、初め鶴足郡井上郷五井村の地にありて法勤寺と號す。延暦十三年、空海之を同村轉讓留王の塚上に移せしが、後ち廢絶して本尊、寺實其他を同邑島田寺に移し、併せて一寺とす。天正十八年、生駒近規宇多津に封せらる、や、當寺を再興す。慶長八年二月、近規歿して高松西濱に移りしが、同年、其世子一正當寺を先交塚上に移して其靈牌及び像を之に安置し、其法體に因みて

淨願寺

高松市五番丁。

淨土宗

●超世山養通院と號す。文明年中、派譽の開創に係り、初め鶴足郡宇多津の地にあり。天正十八年、生駒近規之を高松城下寺町に移す。正保年中、藩主松平頼重大いに修營を加へしが、承應三年、回祿に罹りて堂宇炎上し、同年八月、再建成る。明曆元年、再び罹災せしが、翌二年、現寺地に復興す。近世寺領三百石を有し、讃州の香衣檀林たり。

●本堂・常念佛堂・觀音堂・客殿・書院・經藏・鐘樓等の堂宇を具へ、他に護念・壽國等の支坊を兼て其巨構地方に冠たり。本尊阿彌陀如來は源信作と傳ふ。寺實として狩野元信筆釋迦如來像・明憲宗皇帝より雪舟に賜ひし赤檜檀佛像等を藏す。

高松別院

高松市御坊町。

眞宗正寺派

●眞宗正寺派。京都眞宗正寺の別院にして、俗に御坊寺と號し、京都眞宗正寺の別院にして、俗に御坊寺と號す。現今の堂宇即ち是れなり。もと末寺十一箇寺を稱せし、今六箇寺を遺すのみ。

●境内地約八千坪、本堂・大師堂・地藏堂・樂師堂・阿彌陀堂・開闢堂・客殿・書院・鐘樓・仁王門等の堂宇を具へ、東邊最古の名刹として著聞す。本尊木造十一面觀音及び兩脇土立像三尊並に寺實中、絹本着色十一面觀音一幅・同志度寺繪起圓繪六幅は國寶たり。本尊十一面觀音像



(堂本寺産志)

相次で諸堂を再興す。現今の堂宇即ち是れなり。もと末寺十一箇寺を稱せし、今六箇寺を遺すのみ。

●境内地約八千坪、本堂・大師堂・地藏堂・樂師堂・阿彌陀堂・開闢堂・客殿・書院・鐘樓・仁王門等の堂宇を具へ、東邊最古の名刹として著聞す。本尊木造十一面觀音及び兩脇土立像三尊並に寺實中、絹本着色十一面觀音一幅・同志度寺繪起圓繪六幅は國寶たり。本尊十一面觀音像

●境内二千五百餘坪、堂宇に本堂・齋所・對面所(齋本堂)・庫裡等を具ふ。寺實として觀聲等身像・同舍利一粒・源空筆九字名號・同消息一通等を藏す。

志度寺

大川郡志度町志度。

古義眞言宗

●補陀落山清淨光院と號し、現に同宗御室末たり。四國八十八所第八十六番札所にして、古來當國七觀音の一と稱す。寺傳に據れば、推古天皇御宇、智法尼志度浦に十一面觀音像を感得して此地に安置す。時に不思議の善男相集ひて堂宇を營む。當初機か一間四面の小堂なりしが、後ち藤原不比等當浦にて失ひし面光不背の靈玉を海女に採らしめし緣由に依り、持統天皇八年、不比等の男房前、海女追廻の爲めに大いに堂宇を再建し、且つ法華經十卷を納め、千基の石塔を建立すと云ふ。後人此寺傳に基きて謠曲「海士」を成す。保元亂後、崇德上皇讀岐遷幸の御、當寺に駐蹕あり。元暦二年二月、屋島合戦後、平氏の敗軍一時當寺に據りしことあり。天正年間、長曾我部元親の兵燹に罹りて堂宇烏有に歸せしが、慶長九年、領主生駒讀岐守近規觀音堂を再建し、寛文十年、高松城主松平頼重更に

福善寺

高松市古馬場町。

眞宗大谷派

●無福山須磨院と號す。大永年中、僧了當の開創に係り、初め富國坂田郷の地にあり。文祿三年、生駒雅樂頭近規、之を東濱に移建す。同年中、覺玄、宗義を向ひて豐臣秀吉の命に従はず、東本願寺教如に盡せしかば、本多忠勝其操守に感じ、家康より拜領の陣羽織を寄す。寶永十六年、更に現寺地に轉す。

●本尊阿彌陀如來は源慶作と傳へ、寺實として本多忠勝寄進陣羽織等を藏す。

鹽屋別院

丸龜市鹽屋。

眞宗本願寺派

●俗に鹽屋御坊と稱す。初め播州赤穂の地にありし一遺蹟たり。元和元年三月、赤穂住人田中孫六、并五郎大夫等二十八名相携へて讃岐に到り、鹽屋を創營して地を鹽屋村と稱す。時に道場亦隨ひて此地に移りしが、寶永二十年十二月、本山より本尊阿彌陀如來並に寺實を下附せられて鹽屋道場法寺と號し、同時に現覺、

芝寺

大川郡志度町末。

古義眞言宗

●日內山と號す。現に同宗高野末たり。弘仁年中、空海の開創に係り、初め圓律道場として大岡寺と稱せり。天正の兵燹に罹り、堂宇燒燼して一時廢絶に歸せんとせしが、寛文二年、國守松平頼重之を再興し、延寶八年、現寺號に改む。寶永元年、頼重卒するや、當山を壽城と定め、元禄十二年、大いに修營を加ふ。天保十三年、松平頼重歿後、亦此壽城に歸り、爾來松平氏累代の菩提所として香川郡佛生山法然寺と並稱せらる。同十四年、回祿に罹り、松平氏寄進の什寶等多く燒失す。

●壽城頗る幽邃にして山に倚り池に臨む。本堂・客殿・觀音堂・觀音堂・十王堂・鐘樓・二天門等の堂宇を具ふ。本尊釋迦如來を安す。寺實として傳行基作地藏菩薩像・同作不動尊像・同作十六羅漢像・同作三十三神像・僧畫洲筆大觀大師像・涅槃畫像等を藏す。山門の傍に二株の老松あり、杖杖蟠立して天空に聳ゆ。

極樂寺

大川郡長尾町長尾東。

●古義眞言宗。
●岩雲山寶藏院と號す。現に同宗大覺寺末たり。寺傳に據れば、行基之を草創して自作の樂師如來像を安置す云ふ。初め當郡石田村の地にあり。大同年間、觀融の災に遭ふ。天長元年、空海之を鴨部村鴨部東山の地に移して再興し、以て眞言秘密灌頂の道場とす。時に現寺號に改む。延喜三年、談議所と定めらる。建武二年、明範の時、兵亂に遭ひて、堂宇大破す。因りて現寺地に移りて、之を再建す。永正年間、細川澄元寺領を寄せ、寛永十九年以後、藩祖松平頼重の歸依亦淺からず、其城中石清水神社御廬所に本寺阿彌陀如來を移安して尊信他に異りしといふ。

●境内地二千三百七十三坪、堂宇に本堂・庫裡・諸尊堂・圓覺堂・大師堂・護摩堂・鐘守堂・鐘樓・仁王門等を具ふ。殊に仁王門は嘉永七年の建立に係り、相傳の彫刻巧麗を極め、石佛仁王像を安置す。本尊木造樂師如來立像一軀は國寶に列せらる。像は丈高五尺四寸、總身相材を用ひ、捺漆箔押、専ら古式に則り、技法亦精巧なり。寺傳行基作とするも、鎌倉期の作に係る。但し後世修補の痕少しとせす。寺寶として空海入唐將來觀製古錫杖・眞知親王筆兩尊曼荼羅等を藏す。因みに石田村の舊寺地は今亦極樂寺と稱して古瓦を存す。

長尾寺

大川郡長尾町長尾西。

●天台宗寺門派。
●補陀落山觀音院と號す。四國八十八所第八十七番札所たり。もと當國天台宗十七檀林の一にして國內七

觀音の

觀音の一二數へらる。天平十一年、行基の草創と傳ふ。後ら圓珍來りて之を再興す。天長二年、太守貞孝安世堂宇を改修し、地名に因りて現寺號を定む。慶長年間、生駒一正堂宇を再建し、天和三年、藩主松平頼重更に重修を加ふ。

●堂宇に本堂・大師堂・護摩堂・樂師堂・自在天堂・辨天堂・金毘羅堂・秋葉堂等を具ふ。本尊觀音は行基作と傳へ、寺寶として二品道慈親王筆龍雲院扇額・同作繪見觀音像・圓珍作黃不動明王像・松平頼重寄進天滿宮御影・弘安經塚二基等あり。

與田寺

大川郡水村大字中筋。

●古義眞言宗。
●醫王山虛空藏院と號す。現に同宗御室末たり。寺傳に據れば、天平年間、行基之を草創して、自刻の樂師如來を安置す。大同年間、空海更に堂宇を再建し入唐將來の佛像を留めて以て密教弘通の道場と定むと云ふ。應永年間、増野當寺に住して大いに堂宇を改修して寺號を改む。時に後小松天皇御備あり、乃ち増野を召して新念せしめ給ふに忽ち驚歎あり。依りて虛空藏院の號を賜ひ、勅願所と定めて寺田を寄せらる。即ち増野を以て當寺中興の祖となす所以なり。天平年間、兵燹に罹りて一山概れ燒亡せしが、寛永年間、松平頼重入國するや、大いに堂宇を再建す。爾來國內五談議の隨一にして、累代領主の新願所となる。
●境内地千九百五十坪、堂宇に本堂・十王堂・大師堂・客殿・鐘樓・山門等を具ふ。何れも宏壯を極む。寺寶中、紺本着色佛涅槃圖一幅・同地藏曼荼羅圖一幅は共に國寶たり。佛涅槃圖は畫面五尺三寸、横五尺七寸、裏面に願軍たるを記すれども疑ふべく、寧ろ

藤原朝の本邦畫にして

藤原朝の本邦畫にして描法極めて謹密、着色亦極秀なり。地藏曼荼羅圖は聖七尺、横三尺、中央被褥の地藏尊は左手錫杖、右手寶珠、蓮座上に半跏し、左右兩列に六尊を描く。左列上合掌、次は經之瑞蓮を捧げ、次は合掌、右列上は獨結、中は合掌、次は水瓶と楊柳を執る。願字に「眞宗幻之圖」とあり。下部左方を割して左右補處六光菩薩、同右方を割し南方化主地藏菩薩と書す。此圖恐らくは十王經に據れるものなるべく、鎌倉圓覺寺所藏智吉祥神迦迦と稱稱にして、宋畫の系統に屬する元朝以後の支那畫と推察さる。他に後小松天皇下賜水晶珠數の外古畫・古佛・經卷等所藏頗る多し。尙ほ寺後丘上に増野墓あり。
●涅槃會(舊二月十五日)、庭儀曼荼羅供養會(三月二十一日)。

若王寺

大川郡福榮村。

●古義眞言宗。
●八掌山と號す。現に同宗御室末たり。寺傳に據れば、初め行基一王子權現廟北方山下に之を創建し、自作の觀世音像を安す。後ら空海之を再興して、王子坊と號し、其東方に東陽坊を構へて、彌陀金像を安置し、其西方に樂師坊を營みて涅槃樂師を安す。圓仁亦此地に來錫の御、彌陀像を刻して安置す。現今本堂安置の尊像即ち是れなりと云ふ。元弘年中、大塔宮、赤松則村を具して當國に亂を避ひ、樂師坊に於て大般若經を淨寫して之を王子權現廟に納め給ふ。因りて爾來樂師坊を又般若坊と稱すと云ふ。後ら本坊應次兵亂に罹り、涅槃樂師の外諸佛悉く散失す。寛文中、本坊再建成る。

釋王寺

大川郡丹生村。

●古義眞言宗。
●大塔宮御淨寫大般若經は、後ら播州吉野山に納められ、本坊には増野其他の筆に成る同經を藏す。

大窪寺

大川郡多和村。

●古義眞言宗。
●醫王山遍照光院と號す。現に同宗大覺寺末にして四國八十八所第八十八番札所たり。寺傳に據れば、元正天皇御宇、行基の草創に係り、弘仁年間、空海の再興せし所と云ふ。二世眞濟以後、次第に寺觀を整へ、僧坊百宇、寺城百町に及び、無邊園境を設けて四來男女密灌に沐す。即ち女人高野の名あり。其後、寺勢漸

堂宇

く衰頹し、更に天平年間、長曾我部氏の兵燹に罹りて堂宇什實概れ灰燼に歸す。後ら藩主松平頼重諸堂を再建し、寺領二十五石を寄す。次で阿彌陀堂、大師堂等の建立成る。延寶、元祿の頃、住僧快福本堂、鐘守社、辨天堂、仁王門等を造營し、元祿九年、藩主松平頼重本尊を修飾せしむ。



(堂本寺窪大)

千手山法海院

●古義眞言宗。
●千手山法海院と號す。現に同宗大覺寺末たり。天

八栗寺

木田郡李禮村大字李禮。

●古義眞言宗。
●五劍山千手院と號す。現に同宗大覺寺末たり。四國八十八所第八十五番札所にして、當國七觀音の一に列す。延喜年間、空海之を草創して、自刻の聖觀世音像を安置すと傳ふ。天平年間、長曾我部氏の兵燹に罹りて一時廢滅に瀕せしが、文祿年間、備無邊之を再興す。萬治寛文の交、藩主松平頼重大いに堂宇を改修し、古佛聖觀音像を納めて舊來の本尊に代ふと云ふ。盛時李禮、大町二村に亘りて末院四十八坊を擁せしが、今は洲崎、開法、西林の三箇寺を存するのみ。
●境内地八百十四坪、山嶺五劍に分れ、第一劍は最

高峯にして、恰も内海望樓の觀あり、脚下に志度湖、扇島、小豆島等の景勝を俯瞰すべし。堂宇に本堂・聖天堂・通夜堂・仁王門・鐘樓等を具す。當寺を距る、約三町にして源氏ヶ峯、奇觀峯の勝地あり、又富山々麓に江戸時代の儒者柴野栗山宅址及び栗山堂を存す。

六萬寺 木田郡平禮村大字平禮

●古義眞言宗

●現に同宗金剛峯寺に屬す。寺傳に天平二年、讃岐公高峯當國に食邑六萬戸を受くるや、直ちに當寺を創し、新羅王手刻と傳ふる阿彌陀如來像を安置し、且つ行基を請じて開山すと云ふ。天長四年、眞濟清堂を改修す。壽永二年九月、安徳天皇扇島遷幸の御、行在所に充て給ふ。元徳元年、高松三郎頼重本地堂を建立し、貞治八年、細川頼之金堂並に佛像を修理す。當時七堂伽藍悉く具はりて莊嚴を極め、支院二十二箇寺を擁せしが、天正兵亂の際、長曾我部元現當寺に陣し、爲めに兵變に罹りて堂宇悉く烏有に歸す。時に元親壽水當時公輔殿上人の和歌を題せし當寺堂柱の燒亡せしを嘆き、其責に當れる雄兵を斬に處せしと云ふ。延寶六年、舊址に堂宇を重建せしも、遂に舊觀に及ばず。

屋島寺 木田郡屋島村

●古義眞言宗

●南面山子光院と號し、現に同宗御室末たり。四國八十八所第八十四番札所にして、國內七観音の一たり。寺傳に、天平勝寶六年、唐揚州龍興寺の沙門鑑真來朝の途、八島沖に飄風に遭ひし御、貴山明神の託宣を受

け、當地に一字を創して十王像を安じ、其弟子慧雲を之に留めて開基たらしむ。是れ當寺の源流なりと云ふ。弘仁元年、空海勅を奉じて寺地を北峯より現在の南嶺に移し、新たに伽藍を興して自刻の千手觀音像を安置す。天曆年間、比叡山の明達當寺に五大尊供を修す。壽永年間、安徳天皇西海遷幸の御、當寺を行宮に充て給ふ。萬治四年、鎮主松平頼重千體堂を建立して千體觀世音像を安す。

●古義眞言宗

●寺傳に天平二年、讃岐公高峯當國に食邑六萬戸を受くるや、直ちに當寺を創し、新羅王手刻と傳ふる阿彌陀如來像を安置し、且つ行基を請じて開山すと云ふ。天長四年、眞濟清堂を改修す。壽永二年九月、安徳天皇扇島遷幸の御、行在所に充て給ふ。元徳元年、高松三郎頼重本地堂を建立し、貞治八年、細川頼之金堂並に佛像を修理す。當時七堂伽藍悉く具はりて莊嚴を極め、支院二十二箇寺を擁せしが、天正兵亂の際、長曾我部元現當寺に陣し、爲めに兵變に罹りて堂宇悉く烏有に歸す。時に元親壽水當時公輔殿上人の和歌を題せし當寺堂柱の燒亡せしを嘆き、其責に當れる雄兵を斬に處せしと云ふ。延寶六年、舊址に堂宇を重建せしも、遂に舊觀に及ばず。



(堂本寺島屋)

●境内地六千七百餘坪、堂宇に本堂・大師堂・三體堂・千體堂・護摩堂・熊野權現堂・茶堂・庫裡・寶藏・客殿・五層塔・四天王・仁王門等を具す。寺寶として傳空海作不動明王、釋迦如來、普賢菩薩像、増許兼大佛壽傳・源平合戰圖・八島合戰繪起・貞應二年銘古鐘等あり。附近に八島十二景と稱するあり、遠望頗る雄大にして、又血ノ池等源平の古蹟多し。特に北嶺遊囃亭に及ぶ。

明王寺 小豆郡池田町池田

●古義眞言宗

●金剛山阿陀院と號し、現に同宗御室末たり。小豆島八十八所第三十三番札所にして、第三十五番札所たる池田八幡大神も遷されて今當寺境内にあり。寺傳に、弘仁年間、空海の草創にして、自刻の大日如來を安置すと云ふ。寛文年間、再興せられ、以て現在に至る。

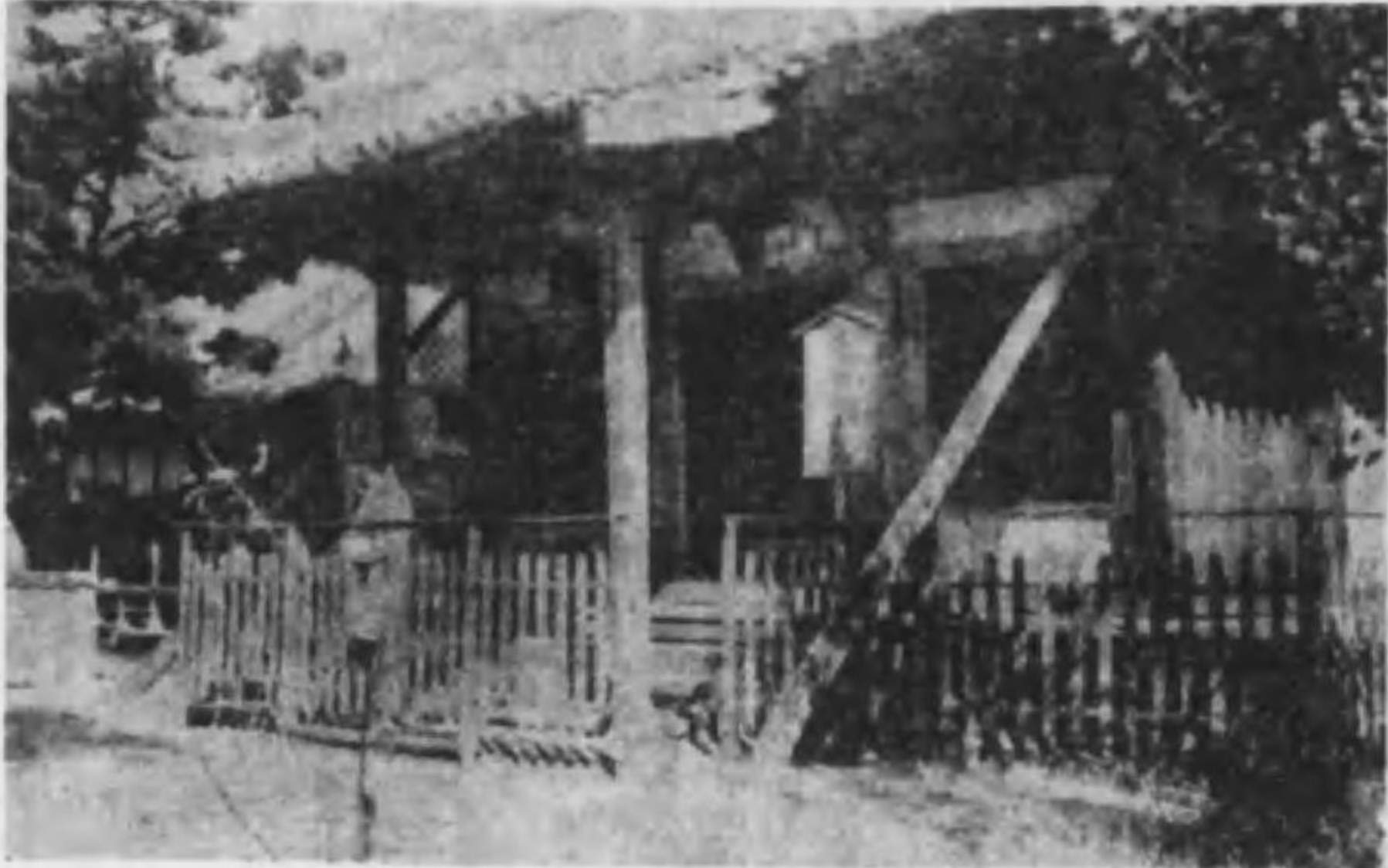
長勝寺 小豆郡池田町池田

●古義眞言宗

●寺寶中、木造佛池田八幡本地佛坐像三軀は國寶たり。中尊及び右脇侍の高さ一尺七寸、左脇侍の高さ一尺五寸、中尊阿彌陀、右は地藏、左は樂師(或は觀音)と稱せられ、舊池田八幡本地佛なり。孰れも一種の神像に類し、中尊を八幡本地阿彌陀佛、右を僧形八幡、左を彌陀左方脇侍觀音と解釋すれば則ち八幡本地佛の一遺例たるべし。共に刀法細緻を極め、以て鎌倉期の作と推知さる。

元安堂宇を再建す。小豆島八十八所第三十七番札所たり。

●本堂・釋迦堂・庫裡等の堂宇を具す。就中、釋迦



(寶園)(堂道釋寺王明)

堂は國寶建造物にして本堂傍にあり、天文二年十月、源元安建立と傳へ、様式亦よく之に一致す。堂は桁行三間、椽間四間、單層、正面一間向拜附、屋根四住造、本瓦葺の小宇にして、軒端部分の反轉あり、軒二重線

●境内地六千七百餘坪、堂宇に本堂・大師堂・三體堂・千體堂・護摩堂・熊野權現堂・茶堂・庫裡・寶藏・客殿・五層塔・四天王・仁王門等を具す。寺寶として傳空海作不動明王、釋迦如來、普賢菩薩像、増許兼大佛壽傳・源平合戰圖・八島合戰繪起・貞應二年銘古鐘等あり。附近に八島十二景と稱するあり、遠望頗る雄大にして、又血ノ池等源平の古蹟多し。特に北嶺遊囃亭に及ぶ。

●境内地六千七百餘坪、堂宇に本堂・大師堂・三體堂・千體堂・護摩堂・熊野權現堂・茶堂・庫裡・寶藏・客殿・五層塔・四天王・仁王門等を具す。寺寶として傳空海作不動明王、釋迦如來、普賢菩薩像、増許兼大佛壽傳・源平合戰圖・八島合戰繪起・貞應二年銘古鐘等あり。附近に八島十二景と稱するあり、遠望頗る雄大にして、又血ノ池等源平の古蹟多し。特に北嶺遊囃亭に及ぶ。

寶生院 小豆郡酒時村大字上庄

●古義眞言宗

●星跡山と號す。現に同宗大覺寺末たり。天平年中、行基の草創に係り、明徳年中、増許之を中興す。近年、本堂、大師堂の再建成り、以て現在に及ぶ。現に小豆島八十八所第五十一番、第五十二番、第五十四番合併の札所たり。

●境内安瀾にして、本堂・大師堂・客殿・庫裡・十

王堂・聖天堂・護摩堂等の堂宇を具へ、寺觀郡内に冠たり。尙ほ此地は應神天皇行宮の遺址と傳へ、寺内に御手植柏樹と傳ふるあり。高さ六十尺餘、幹周四十七尺、樹齡實に千五百餘年を経たりと云ふ。

松林寺 小豆郡四海村大字伊喜末

●古義眞言宗

●南面山主院と號す。現に同宗大覺寺末たり。天平十年、行基之を草創し、海中出現の佛佛樂師如來を安置すと傳ふ。初め長現寺と號せしが、文祿二年、豐臣秀吉征韓の關、彼地より貢獻せる猛虎を放ありて一時當山に飼養せしに因みて虎溪寺と改む。後更に現寺號を奠む。今、小豆島八十八所第六十八番札所たり。

法然寺 香川郡佛生山町

●淨土宗

●佛生山來迎院と號す。圓光大師二十五靈場の一たり。建永二年、源空當國配流の御、那珂郡子松郷の地に一庵を結び、自刻の阿彌陀如來像を安置して生福寺と號す。是れ當寺の源流なりと云ふ。爾來久しく念佛道場たりしが、寛文八年、高松藩主松平頼重之を現寺地に移し、佛殿並に僧坊三十餘宇を建立して現寺號に改む。爾來同氏累代の祈願所たり。同十年、知恩院門主尊光法親王に上して準本山に列す。延寶元年、幕府より朱印狀を寄せられ、同三年、常葉衣の勅許を得たり。

●境内地六千七百餘坪、蓮峯三面を圍繞して頗る幽邃の地にあり。本堂・二尊堂・地藏堂・三佛堂・祖師堂・大師堂・來迎堂・十王堂・本堂門・涅槃門・文殊樓門・四天王・仁王門・寶藏・經藏・僧坊・講堂等の堂宇を具す。寺寶中、絹本着色陸信忠筆十王像一幅、紙本着色傳鶴州筆觀世音功徳圖六曲屏三雙・二曲屏一雙・同晴川筆源氏初音ノ巻、紅雲寶卷圖八曲屏一雙は國寶にして、共に東京帝室博物館出陳中なり。就中、十王像は陸信忠の落款を存し、筆者得意の畫題にして、

昔色濃厚なる元朝初期の作とす。他に源信作阿彌陀如來木像・龜山天皇宮輪・後關成天皇宮三尊名號・尊光法親王軍常衣修目序・金剛筆觸陀二十五菩薩圖・源信筆來迎二十五菩薩圖・空海所用青銅龍虎印等を藏す。

香西寺 香川郡香西町。

●古義眞言宗。
●實願山と號す。現に同宗大覺寺末たり。天平十一年、行基の草創に係り、天長年中、空海之を中興す。云ふ。天慶二年、勅に依りて讃岐四箇談議所の一に加へらる。初め勝賢山にありて勝賢寺と號せしが、中比頼殿に陥り、貞應、元仁の交、鎌倉將軍頼朝の命に依り香西實村の地に移して寺號を香西寺と改む。後香西元實史に之を木津村に遷して地福寺と稱す。天正年中、兵燹に罹りて堂宇烏有に歸せしが、慶長年中、國守生駒雅樂頭近規之を再建して、高福寺と改號す。萬治年中、再び美上せしが、寛文九年、松平賴重現寺地に移建して現寺號に復す。
●本尊地藏菩薩は空海作と傳ふ。

大寶院 香川郡一宮村大字一宮。

●古義眞言宗。
●神龜山一宮寺と號す。現に同宗御室末にして、四國八十八所第八十三番札所たり。寺傳に據れば、大寶年間、義滿當地に一字を創建して大寶寺と號す。是れ當寺の濫觴なりと云ふ。後、觀觀の災に遭ひしが、天平年間、行基之を再興す。其後再び美上せしを、空海重興して自作聖觀音像を安置すと傳ふ。古來當國一宮

天福寺 香川郡由佐村大字岡。

●古義眞言宗。
●美應山法輪院と號す。現に同宗御室末たり。寺傳に據れば、天平年間、行基并原郷音各の地に一字を草創して清性寺と號す。是れ當寺の濫觴なりと云ふ。弘仁年間、空海之を修營し、圓仁、圓珍相繼ぎて來住すと傳ふ。天福元年、國司橘公忠、四條天皇の勅を奉じて、寺東に方五十町の寺域を劃し、新たに本堂、大塔、講堂、經藏、鐘樓、大坊、十二僧坊等を建立し、清性寺を移して天福寺と改め、由佐一邑を附して燈明料に充つ。時に勅願所と定めらる。天文年間、細川澄賢仁王門を建立す。天正十三年、長曾我部氏の兵燹に遭ひ、堂塔伽藍燬れ燒亡す。元禄八年、國守松平賴常本堂を再建し、且つ山林七町餘を附して以て後世修理の料となす。
●境内地六千坪、本尊聖師如來は行基の作と傳ふ。寺寶として後鳥羽天皇宸筆伊勢物語・空海作十二神將木像・同筆不動明王圖・圓仁作神體山王權現、地藏菩薩像・龜山筆五大虚空藏圖・菅原道真白畫像・中將源兼朝阿彌陀如來像等多數を藏す。

根香寺 香川郡下笠居村。

●古義眞言宗。
●綾山山嶺林院願證寺と號す。現に同宗御室末たり。四國八十八所第八十一番札所にして、古來當國七觀音の一に列す。寺傳に據れば、弘仁六年、空海の開創に係る。貞觀二年、圓珍、國司紀夏并の請に應じて當山に來り、山神相模坊の託宣に依り補陀落の香水を以て十瓶の千手觀音像を刻むと云ふ。保元亂後、崇徳天皇當國に蒙歷し給ひ、長寛二年、前御あるや、即ち當寺の西北方に奉養す。時に近侍僧草實、國府被ケ岡木ノ丸殿舊御所を當山に移し、山内に廟宇を營みて願證寺と號し、宸筆宸影を正殿に奉安し、左右に御念持佛十一面觀音、鎮守相模坊を安置し、自ら別當として上皇御冥福を追修し奉る。治承文治の交、源賴朝、青海、河内、山本の三庄を寄せ萬基の石塔を建立す。建久二年、勅願の滅罪所となる。次で後醍醐天皇宣して經卷、寶器を納め給ひ、後小松天皇亦願證寺額を賜ふ。永徳二年、池魚の災に罹りて以來、漸く衰頹せしが、後、領主細川頼之、國分寺觀音像を當寺に移安して之を再興す。寛文年間、松平賴重御陵守護の爲め寺格を陞して堂宇を修理し、且つ寺領五十石を附す。萬治四年、再び加領して百一石となす。明治二年、勅使下向、崇徳天皇尊號を京都今出川白峯神社に奉遷してより、上皇宸筆六字名號を以て御靈と崇む。同十一年、改めて白峯神社號を稱へ、金刀比羅宮攝社と定められしが、同三十一年、佛廟に復す。

白峯寺 綾郡松山村大字青海。

●古義眞言宗。
●山城の松山白峯中腹に位置し、三方岩樹に圍まれ、北方斷崖に臨みて内海の雅景に麗く。正殿東方に十一面觀音堂あり、本堂・金堂・行者堂・千體阿彌陀堂・大師堂・本坊八字・勅使門・御成門等の堂宇編列す。廟門左右に源爲義、同爲朝立像を設きて隨身とす。庭前右近樓、左近橋を植ふ、廟後に崇徳上皇御陵、傍に爲義、爲朝墓碑を存す。白峯宮は御陵南方にあり、俗に大權現と稱す。寺寶中、木造後小松天皇宸筆願證寺勅願一面は國寶たり。海附二通の文書に據り、後小松天皇宸筆たる事明かにして願證寺の三字を浮彫し、周圍に別形板を附す。他に幸仁親王御筆崇徳上皇宸影・隆慶天皇勅納唐本法華經三卷・同千鳥青磁香爐・後小松天皇勅納法華經二十八品和歌・後水尾天皇勅納金剛要訣・後白河天皇宸筆華嚴經・空海作聖師如來像・運慶作圓電主像・運慶作十王坐像・白峯緣起等所藏多し。

國分寺 綾郡端岡村大字國分。

●古義眞言宗。
●白牛山千手院と號す。現に同宗大覺寺に屬す。四國八十八所第八十番札所にして、當國七觀音の一たり。天平十三年三月、聖武天皇の勅願に依り、諸國に詔して建立せしめ給ひし金光明天王護國之寺の一にして、行基を以て開山とす。弘仁年間、空海之を再興す。近世領主生駒、松平兩氏の障信厚く、屢次堂宇修理を加へ、以て現在に及ぶ。
●境内地約三千六百九十坪、堂宇に本堂・祖師堂・地藏堂・鐘樓・仁王門等を具ふ。就中、本堂は國寶建造物にして、往時御靈中講堂の位置にありて南面す。其建立年代詳ならずと雖も、内部構造等によく鎌倉期



(寺 香 根)

郷照寺 綾郡宇津町。

●時宗。
●佛光山廣徳院と號し、俗に道場寺と云ふ。四國八十八所第七十八番札所なり。寺傳に空海之を草創して自作の阿彌陀如來坐像を安置すと云ふ。仁治四年、高野山道鏡眞岐流瀆の嗣、暫時當寺に滯居す。次で宗祖一過亦此地に留錫す。初め天台宗を奉ぜしが、正應年間、現宗に轉す。永仁年間、細川氏堂宇を改修す。
●境内區界絶佳にして、堂宇に本堂・大師堂・庚申堂・鐘樓・庫裡・茶寮等を具ふ。

高照院 (金堂) 綾郡西庄村。

●古義眞言宗。
●金花山妙成就寺と號し、俗に金堂と稱す。現に同宗御室末にして、四國八十八所第七十九番札所なり。草創年代詳ならず。後、空海再興して自作の十一面觀世音坐像を安置すと云ふ。初め摩尼珠院と號せしが、維新後、一時廢寺となり、林田村高照院其址に移りて

の特徴を存す。堂の形式桁行五間、椀間五間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、前面一間向拜附、屋蓋の流れ附々急にして軒端反轉あれど棟高く、唐破風の向拜を



(寶圖) (堂本寺身圖)

附せる等、一見後世建築に屬せるが如き觀あり。軒二重繁様を用ひ、出三つ斗を組み中向斗東を置き、總圓柱、向拜柱は面取方柱にして斗拱を組み虹梁を懸けて裏殿を配す。主屋柱間前面三間後唐戸を立て、兩脇間

佛師の作を傳へしものか。

法道寺 綾歌郡山田村大字山田下。

●眞宗興正寺派。

●松林山光明院と號す。元暦の頃、平重盛四男小松少將有盛屋島敷戦の後小鳥丸の名劍を奉じて、當郡南條山山田郷北山の邊に落つ。後平家一門の没落を聞きて出家し、佛恩と號し、一字を削して松林山法專坊と稱す。初め天台宗を奉ぜしが、文明年中、眞圓當寺を中興するや、本願寺蓮如に歸依して眞宗に轉す。永正二年二月、現寺地に移りて法專寺と改む。享祿、天文の交、住持眞玄の時、九條關白種直、入道行空と號し、歴代靈碑を納めて祈願所となす。

法道寺 綾歌郡山田村大字山田下。

●古義眞言宗。

●現に本宗高野末たり。行基の開創に係り、後ち空海來歸して當寺に修法すと云ふ。天正年間、兵燹に罹りて一山概れ烏有に歸し、現在地かに一庵を残すのみ。●本尊水遣地藏菩薩立像一軀は國寶にして、丈高三尺一寸八分、寄木作にして鎌倉期の製作に係る。藥座亦古調を傳ふ。尙は往時空海弘法の際、蚊を忌みしに依り、今尙は象中に蚊入らずと傳ふ。

種子窓を設け、左右側面第二間棧唐戸、他は種子窓、背面中央一間棧唐戸、他は板板張らす。南四方に廻縁を繞らす。外觀悉く唐様建築に似て、細部其他の形式特に鎌倉期の古調を認めず。蓋し是れ後世修補の結果にして、本堂建築上注目すべきは寧ろ其内部にあり。即ち前面二間及び周圍一間は化粧屋根張とし、内陣柱より側柱に繋虹梁を架橋す。虹梁に補切及び繪様なく古調を存し、又梁上板蓋股踏破りの形狀頗る自由にして且つ雄健、然も優雅を失はず。大和唐招提寺金堂、法隆寺鐘樓等使用幕股の手法に剪擬するものあり。内陣五間二面、天井羽目板張にして背後世の修補に係る。本尊水遣千手觀音立像一軀は國寶たり。釋材丈六像にして全身牡丹瑞草等の模様を描く。以て藤原期を降らざる作とす。但し瑞瑤、持物は總て後世の補作に係り、手法拙劣、全身に龜裂損傷少からず。寺寶として最澄筆大般若波羅密多經第四百七十三卷・運度作仁王像・梵鐘等を藏す。尙は本堂前なる御堂池邊三十餘の礎石は當寺金堂址にして、同じく天平時代の建立に係れる七重大塔も亦廢滅して今其址を留むるのみ。

天台宗寺門派。

●天平時寶年間、唐揚州龍興寺の沙門眞觀の創製に係ると云ふ。天正年間、兵燹に遭ひて堂宇灰燼に歸せしが、寛文年間、再興成り、以て現在に及ぶ。

●寺寶中、水遣四天王立像四軀は國寶たり。丈高各々三尺四寸、奈良興福寺乾漆四天王像の影響を受けてしもの、如く、東大寺所藏五劫思惟佛院と同型にして後世の模作に係れるものを藏する點より當寺の南都諸寺に對する宿縁の存するを推考すべく、本像亦或は彼地

松尾寺 仲多度郡琴平町。

●古義眞言宗。

●泉頭山と號す。現に當宗金剛峯寺末なり。草創年次詳ならず。往古本尊に釋迦如來を安置せしが如きも中古以來、兼師如來を以て之に代ふ。時に金光院以下七院之に屬し、且つ境内金尾羅權現廟を以て一山の總鎮守とす。正平十六年、不斷香免田を、次で釋迦堂免田を、更に翌十七年、金尾羅廟免田を寄ぜらる。天正元年、廟宇を再建す。慶長、元和以降、金尾羅權現廟の靈驗漸く世に著れ、領主生駒氏之に社領三百三十石を寄せ、て尊崇厚く當寺却つて之が供僧坊たるの觀あり。當時塔頭金光院其別當に當れり。徳川時代に至り寺勢社運共に漸々隆盛なりしが、明治維新後、神佛分離の際、權現廟は金刀比羅宮と稱し、次で國幣小社に列せし爲め、當寺は現寺地に移りて、勢威遠かに衰微し、塔頭金光、眞光、萬福、尊勝、神護、成就の六院亦悉く廢絶し、今僅かに普門坊一院のみ残りて法脈を繼續す。

●境内千三百四十坪、堂宇に本堂及び庫裡を具ふ。●水代流水浦頂(七月三十一日)。

善通寺 仲多度郡善通寺町。

●眞言宗善通寺派。

●五岳山誕生院と號す。本派大本山にして、空海誕生の靈跡と傳へ、四國八十八所第七十五番札所たり。古來南海隨一の名利と呼ばれ、京都教王護國寺(東寺)、高野山金剛峯寺と共に密乘三迹と稱す。大同元年八月、空海唐より歸朝するや、翌二年、眞言宗弘通の勅許を

賜はりて、先づ一門氏寺として此地に一寺を建立せんことを發願し、其父佐伯善通の莊田四方町地を以て境内に充て、唐善龍寺の規模に則り、且つ彼地より將來せし八箇靈場の土砂を敷く。同年十二月一日起工、弘仁四年六月十五日、金堂、大塔、講堂、法善堂、西塔、護摩堂等十五宇竣成、父名に因みて善通寺と號し又寺後に香色山、華山、我拜師山、中山、火上山の五峯聳立せるより山號を五岳山と號す。時に寺家四十九院を攝すと云ふ。後ち御影堂成る。土御門天皇御宇、御影堂供養料として公田六町歩を賜はり、承元年間、源空



(堂金寺通善)

(法然)當國配流の御、當寺に詣りて五輪塔を建立す。當寺は承和年間以來、代々東寺の長者寺務職を兼任せしが、寛喜元年、親康の代、繪命ありて、爾來隨心院門跡の管掌に歸す。寛元元年、高野山道範事に參して當國に配流せらるや、當寺に入りて書を講じ、遂に道範方の一流を樹て、且つ御影堂の傍に誕生院を建立す。後深草天皇御宇、繪旨を賜はり、公田十二町歩を賜ふ。後ち漸く衰頹せしが、龜山天皇御宇、堂宇を改修す。後宇多天皇御宇、勅によりて大覺寺門跡の領掌に改めさせ給ひ、次で建治二年、蒙古治罰の祈禱を修せしめらる。弘安九年、繪旨を賜ひ且つ堂宇を修葺せし

一に西院と云ひ、御影堂・護摩堂・開覽堂・觀覽堂・聖天堂・位牌堂・茶室・寶物館・寫經・妙雲殿・大起殿・墨書院・總廊・庫裡・寶庫・勅使門・仁王門・鐘樓等の堂宇を具へ、總て徳川時代以後の建立に係る。伽藍境内は一に東院と稱し、徳川時代前までは是のみを以て當寺境内となせり。堂宇に金堂・常行堂・蓮花堂・經堂・天神堂・明神堂・地藏堂・羅漢堂・法華堂・功德塔・法華上人蓮修塔・足利尊氏生塔・鐘樓・南大門・東西門等を具ふ。本坊中、御影堂は即ち空海誕生之地にして、奥殿三間四面、禮堂十間四面、釣屋三間半に四間、堂内正面に山階宮見親王親筆「屏風浦誕生所」の扁額あり。寺寶中、木造地藏菩薩立像一軀・同吉祥天立像一軀・紙本淡彩一字一佛妙法蓮華經序品一巻・傳空海將來金剛錫杖一柄は共に國寶たり。地藏菩薩立像は丈高三尺八寸三分、藤原朝の作に係る。但し持物、帝座等總て後補たり。吉祥天立像は丈高四尺五寸五分、同じく藤原朝の作にして、後世修補の痕亦渺ならず。一字一佛妙法蓮華經序品は黄紙に墨書せる寫經にして、堅九寸六分、長さ七丈四寸九分、表紙紺地、花唐草模様の見返し紺地、釋迦聖對坐之圖を畫し、更に堂塔欄楯等を描く。本紙は一行十箇の間相中淡彩佛小像を並べ、其傍に十字詰に書寫せり。蓋し先づ小佛像を並描し、經文は後し是れを書込みしものなるべし。文字は唐代寫經體にして、小佛像の描法亦唐朝風と推知す。本邦寫經に比し、總體大略的氣分に溢れ、興味少しとせす。但し紙張は後世の修補とす。錫杖は墨畫阿闍梨所持と傳へ、寶珠頂より附根込八寸九分、頂上寶珠、下に佛像三體及び二天王を現し、左右各三輪を附す。製作頗る精巧にして唐製と推知せられ、本邦遺存錫杖中屈指の佳品とす。他に應宣・繪畫・院宣・細川氏寄進狀・空海童兒像等の古佛像・古文書・古書・古經等

多數を藏す。就中、圓目大師と稱ふる空海自書像は入唐前、池水に寫姿して其母公に書遺せしものなりと傳ふ。

●大會開、大般若轉讀會(舊一月二十日、二十一日)兩日共、日中、餅及び景品投げ、夜中、寶木奉投等の餘興ありて賽者雲集す。涅槃會(舊二月十五日)、正御影供(舊三月二十日、二十一日)、二十一日寅刻、國寶錫杖を一般參拜者の覽に供す。法界萬靈永代土佐加持會(舊四月二十日、二十一日)、誕生會(舊六月十四日、十五日)、大師講、御影供(毎月二十日、二十一日)。

郡家別院

●眞宗眞正寺派。
●明治二十八年、眞正寺二十八世本當の開創に係る。此地舊く眞言宗の古刹法華寺あり、天正年間、長曾我部氏の兵火に燼せし以來、其遺址を池となし、池中央に五層大塔の柱石を存せしが、其緣山に因りて、後ら村民此處に草庵を營む。明治十一年、二十七世本當(攝信)の分骨所と定められ、唯續、梵鐘を鑄造して之に納め、翌十二年、廟所を建立す。更に翌年、本寂遺骨を安置して以て當派説教所となす。同二十五年一月、本堂建立の工を起し、翌年冬成る。同二十八年十月に至り、京都府葛野郡山内村の別院を此地に移して改めて眞正寺派郡家別院を公稱し、以て現在に及ぶ。

●境内七百六十三坪、堂宇に本堂・對面所・御殿・分骨廟・開拜殿・輪番所・鐘樓・山門等を具ふ。寺寶として九條道家作觀音木像・九條兼實木像・五日原木像等を藏す。

金倉寺

●天台宗門派。
●鶴足山寶幢院と號し、俗に唐門堂と云ふ。四國八十八所第七十六番札所なり。智證大師圓珍の誕生地として著る。寶龜五年、其祖父和氣道善の開基に係り、其名に因みて道善寺と號す。
●仁壽元年堂宇完成の奠上に依り、繪畫を賜はりて勸願寺に列せられ、且つ寺田三十二町歩を賜ふ。
●延長六年寺號鶴足山金倉寺と改む。
●蓋し當寺の山容印度鶴足山に似たればなり。爾來寺運頗る隆盛にして、増城南北二里、東西里餘、堂宇神廟數十宇、僧坊百三十二、寺領として原田、水邊、兼水、岸上、眞野五郷を兼し、一山勤務の衆徒千餘人に餘りしと云ふ。後ら建武の亂に遭ひて堂宇減少し、僧院僅かに二十七院を遺す。更に永正、天文以後、數度の兵



(堂金寺倉金)

變に堂宇等概ね焼亡散逸し、寺勢頗る衰頹せしが、寛永年間、松平頼重入國の後深く當寺に歸依して大いに堂宇を再興し、且つ寺領を寄附、一部一箇寺新開所の一に加ふ。爾來累代領主の崇敬厚く、寺觀亦漸く復舊す。明治三十一年、第十一師團創設當時、初代師團長乃木希典當寺に寓居せしことあり。

●境内地六千餘坪、堂宇に金堂・常行堂・阿彌佛母堂・大師堂・龍王堂・茶室・仁王門・鐘樓・寶庫・文庫・客殿・庫裡・南北廂敷等を具ふ。寺寶中、絹本着色智證大師像(有雙)一軀は國寶たり。面觀頗る圓滿にして、青眼半ば開き、鬚眉右肩にして床子上に結跏趺坐し、前に履を置く。左方短形、右方色紙形に贊あり。以て鎌倉期の作とす。他に圓珍將來兩界曼荼羅及び十六善神あり、國寶畫像と共に古來當寺三種國寶と稱せらる。又乃木大將居室、同道物、開闢像等存す。

●修正會(一月一日・三日)、智證大師誕生會(三月二十五日)、會式及び春大市(舊四月十五日・十六日)、乃木軍神例祭大饗會(九月十三日、十四日)智證大師御影供(十月二十八日、二十九日)、天台大師御講法會(十二月二十三日)。

海岸寺

●古義眞言宗。
●經納山迦旃羅衛院と號す。現に同宗大覺寺たり。寺傳に據れば、大同年間の草創なりと云ふ。初め寶龜五年、空海此地に誕生すと傳へたりしが、曾て善通寺と之を争ひ、文化二年、遂に當寺を以て空海修學所と定めらるゝに至れり。古來寺運頗る隆昌なりしが、天正年間、兵燹に罹りて堂宇焼亡し、爾後漸く衰ふ。大正五年春、同縁に罹りて大師堂、護摩堂、説教所、庫

出釋迦寺

●眞言宗善通寺派。
●我拜師山と號す。四國八十八所第七十三番札所なり。一に曼荼羅寺奥ノ院なりと云ふ。寺傳に據れば、初め空海當山にありて釋尊現を祈念すること七日、遂に効なきを覺きて身を踏谷に投ぜしに、釋尊忽ち出現して之を救ふ。因りて踏谷を捨身堂と名づけ、山を我拜師山と稱へ、堂宇を建立して自作釋迦如來像を安置し、以て出釋迦寺と號す。是れ當寺の靈驗なりと云ふ。後ら次第に廢頹せしが、中世に至り、僧宗善之を現寺地に移して再興す。

曼荼羅寺

●眞言宗善通寺派。
●我拜師山延命院と號す。四國八十八所第七十二番札所なり。寺傳に據れば、大同年間、空海之を草創して自作の大日如來像を安置し、且つ金胎兩曼荼羅を寫して納む。寺號亦之に因ると云ふ。中世屢次兵亂に遭ひ、更に永祿元年、風飄の災に罹りて衰頹甚だしかりしが、文祿年間、生駒氏三野四郎左衛門堂宇を再建し、且つ山林を寄せて之を再興す。

●境内地六千坪、堂宇に本堂・護摩堂・大師堂・愛染堂・鎮守堂・參籠堂・客殿・庫裡・鐘樓・仁王門等を具ふ。尙ほ寺内に西行笠懸樓と稱するあり。傍に西行の歌を勒す。又當寺より西敷町、水壘岡と稱する地は曾て西行當地行脚の際、草庵を結びて飯寓せし舊跡とす。

甲山寺

●眞言宗善通寺派。
●醫王山多寶院と號す。四國八十八所第七十四番札所なり。寺傳に據れば、空海壯年の頃、毘沙門天像を刻して當山岩窟に安置せしが、其後弘仁十二年、此地に滿濃池を築きし功により朝廷より淨財を賜はりて堂宇を創建し、自作の樂師如來像を之に安置し、且つ一山の姿容毘沙門天の甲冑に酷似せしより甲山寺と號すと云ふ。

●境内地千坪、堂宇に本堂・大師堂・客殿・庫裡・鐘樓等を具ふ。
●毘沙門會(一月三日)、當日參詣者に福壽圓滿の守札を授與すと云ふ。

道隆寺

仲多度郡豐原村大字北嶋。

古義眞言宗。
桑田山明王院と號す。現に同宗大覺寺末にして、四國八十八所第七七番札所なり。寺傳に據れば、天

觀音寺
古義眞言宗。
七寶山神惠院と號す。現に同宗大覺寺末なり。四

不動護國寺
古義眞言宗。
大寧山覺城院と號す。現に同宗仁和寺末なり。弘

彌谷寺

三豐郡大見村。

眞言宗善通寺派。
彌谷山千手院と號し、俗に彌谷寺と呼ぶ。四國八

彌谷寺
眞言宗善通寺派。
彌谷山千手院と號し、俗に彌谷寺と呼ぶ。四國八

法華寺

高瀬下高瀬村。

本門法華宗。
高水山久遠院と號す。俗に高瀬大坊と呼ぶ。正應

法華寺
本門法華宗。
高水山久遠院と號す。俗に高瀬大坊と呼ぶ。正應

本山寺

三豐郡本山村大字寺家。

古義眞言宗。
七寶山持寶院と號す。現に同宗大覺寺末にして、



(寶圓(門王仁寺山本))

本山寺
古義眞言宗。
七寶山持寶院と號す。現に同宗大覺寺末にして、

妙音寺

三豐郡上高野村。

古義眞言宗。
七寶山寶積院と號す。現に同宗大覺寺末なり。空

妙音寺
古義眞言宗。
七寶山寶積院と號す。現に同宗大覺寺末なり。空

具ふ。寺寶中、木造不空羅刹觀音坐像一軀は國寶たり。寶篋天冠を附し、六臂大佛座上に坐せる藤原初期の佳作とす。

●流水灌頂會(七月十七日)。

伊舎那院 三豐郡財田大字財田中。

●古義眞言宗。

●北田山如意輪寺と號す。現に同宗大覺寺末たり。初め聖德太子之を開創して、自作の聖師如來並に十二神將、不動明王像を安置すと傳ふ。後、理源大師聖寶之を中興し、手刻の如意輪觀音を安す。天正年間、兵燹に罹り、本堂、釋迦堂等悉く炎上し、燒かに佛像のみ其難を免る。其後、堂宇の再建成る。近世寺領三十六石を有せり。

●寺内に土州高岡郡大平氏墓あり。寶曆年中、大平國秀の墓石の下を穿らしに、骨筒數十基を得たり。其筒銘文字多く詳ならずれど、中に慧源院妻、生野女房、妙阿大姉、嘉祥四巳三月十九日逝去、大平三河守國房、法名道覺、康永元年七月二十四日、蓮池入道殿、法名妙覺御前、三宮道守息女、比丘尼妙智、觀應三壬辰年十一月十日、又年月日共に不明のものに佐衛門尉國頼、法名玄禪、御親御舍利、國通御骨、國賢息女、源秀、成阿童子、同御母儀、中將國秀、年號のみ明なるものに文祿二癸巳年三月九日、元亨二年二月六日とありき。

大興寺(小松尾寺) 三豐郡辻村。

●古義眞言宗。

●小松尾山不動光院と號し、俗に小松尾寺と云ふ。

現に同宗大覺寺に屬し、四國八十八所第六十七番札所たり。寺傳に據れば、弘仁十三年、空海の草創に係る。時に藤原天皇の勅願所たりと云ふ。もと東大寺に屬して古密二教を講じ、三十六僧坊を擁せし巨刹なりと傳ふ。

●堂宇に本堂・大師堂・天台堂・鎮守堂・護摩堂・客殿・鐘樓・庫裡・仁王門等を具へ、山門は八百屋お七菩提の爲め其父の建立せし所と云ふ。本尊聖師如來は空海作と傳へ、寺寶として法隆寺十二神將像・同仁王像等あり。

萩原寺 三豐郡萩原村。

●古義眞言宗。

●巨靈山地藏院と號す。現に同宗大覺寺末にして、四國八十八所第六十六番札所たり。寺傳に據れば、行基の草創に係る。大同二年、空海此地に來りて千手觀音、地藏二尊像を刻み、千手像を山上に安じて雲邊寺を創し、地藏像を山下の本寺に安置し、且つ雲邊寺にして當寺奥ノ院ならしむと云ふ。一説に、同年、空海此處に留錫して千手觀音像を刻み、一字を建立して千手千眼院と號し、又四十九院を開きて中院を以て中之坊と稱す。弘安三年、十世禪智房の時、山下に移り伽藍院山の地藏尊を安じて地藏院と號し、又其村名に因みて萩原寺と稱し、中之坊の寺務を兼ね。故に當寺を以て又中之坊と云ふとあり。醍醐天皇御宇、勅願所と定められ、朱雀天皇御宇、供料を賜ふ。天永年間、世月領主、承安年間、佐々木經連、同高綱等の寄進あり。後、伏見宮直仁親王御染筆縁起を納め給ふ。應永年間、河野直道寺領を寄託、寛政年間、管領細川勝元新願所と定む。もと七講願所の一に數へられ、末寺二

國祐寺 三豐郡和田村。

●本門法華宗。

●雲風山と號す。永祿五年、土佐國香川郡の城主大平伊賀守國祐、長曾我部氏と戦ひて利あらず、當國に來り、香川信景に縁を求め、多度郡中村に居る。後、此地に移り、城を獅子之嶺に構へ、廻江郷を領知す。時に當寺を創建して以て戒壇とす。初め光明院慶宗寺と稱し、眞言宗を奉せしが、天正六年、佛像及び經卷等を大悲谷の岩窟に藏めて本宗に改め、泉州堺妙國寺日現を請じて當寺中興の願とす。後、現寺蹟に改む。●境内地千二百七十二坪、本尊十界勸請聖茶羅を安置す。觀音堂安置聖觀音像は、天長六年、兵庫の漁夫和田野海中より網獲せる二軀中の一にして、一は須磨寺に藏む。

愛媛縣

正宗寺 松山市末廣町。

●臨濟宗妙心寺派。

●天龍山と號す。寛永十一年十月、松平定行伊勢參名より當地に移封せらるゝや、僧雲山亦隨ひて來錫す。定行城南原の地八町歩を喜捨して禪刹を建立し、雲山を以て開山とす。是れ當寺の起原なり。明治年間、佛人正岡子規當寺に寓せしより、其名世に著る。昭和八年一月、祝融の災に罹りて灰燼に歸す。●寺内に子規の墓あり。

法龍寺 松山市末廣町。

●曹洞宗。

●佛國山と號す。寛永十一年十月、松平隱岐守定行、松山城主たるに及び、本郡藤原村に於ける古寺の廢址に就き一寺を建立し、賢願(定行の庶子にして順佐の弟子)をして之に住せしめ、寺領百五十石及び山林一箇所を寄附す。後、現山寺號を稱へ、大木山永平寺の直末となり、四門首格の榮を受く。時に松平家より寺城一町六段、山林一箇所を附せられ、更に寺領百石を加へらる。明治維新に至り、城山の守護神たりし毘沙門天(傳空海作)を當寺に遷祀せり。靈驗顯著なりとて、賽者頗る多し。

大寶寺 松山市南江戸町。

●新義眞言宗豐山派。

●新義眞言宗豐山派。

●古照山樂王院と號す。大寶元年、角木長者の創建に係ると云ひ、本尊に行基作と傳ふる聖師如來像を安置す。崇徳上皇讓位より當寺に御幸の御、當山の櫻を台覽ありて「名にしおはば、またも來て見む花の春夕影、殘り雪の山寺」の御歌あり。因りて一に古寺とも言ひ置せり。

●一山花樹に散れば、就中、堂前の櫻樹最も著る。堂宇中、本堂は現に國寶建造物にして三間四圍、單層、屋根四注造、本瓦葺、寺傳に大寶元年創建のまゝと云ふ。●現在堂宇に室町初期の建立と推せらる。寺寶中、木造阿彌陀如來坐像一軀及び同釋迦如來坐像一軀は共に現に國寶に列し、阿彌陀像は高さ二尺二寸、定印を結びて蓮臺上に坐し、華座は三重大佛座にして藤原期の簡朴なる作なり。釋迦像は一見聖師如來の如く、胎内に正徳三年再興云々の銘あり。

龍穩寺 松山市御幸町。

●曹洞宗。

●天龍山と號す。延徳元年、河野通直、舊臨濟宗多幸天徳寺舊跡に據りて之を創建し、大庵領益を開山とす。中興開山は月湖契初なり。慶長年中、松山城主加藤左馬介嘉明之を修營し、以て新願所となす。舊墨印地百十石を領し、當國僧録司たりき。

●寺城一千餘坪、山腹に位して海に西面し、風光明媚なり。伽藍宏壯、木尊釋迦及び脇侍阿彌迦像を安置す。寺寶として河野家寄附蜀江錦袈裟・明光筆釋迦三尊三幅・左長五郎作三面床置等を藏せり。境内前庭に十六日櫻と云へる名花あり。古事因縁集に、昔一翁あり、老後に及びて、春咲く花も心せよ、我今已に八十に及び、花咲く頃に逢ひ難しと恨み願に獨言して立

南光坊 今治市別宮。

●古義眞言宗。

●大嶺山金剛院光明寺と號し、同宗御室末にして、四國八十八所第五十五番札所たり。大寶元年の草創と傳へ、初め當郡宮浦村大山積神社の供僧坊たり。和銅五年、郡大領越智玉澄之を當地に勸請して三島別宮となすや、其供僧二十四坊の内、中ノ坊以下八坊を分ちて別宮の供僧となし、坊舎を建立す。當坊は即ち其一たり。中世河野氏の祈願所として寺領四百六十石を領す。天正年間、兵燹に罹りて堂宇灰燼に歸し、後、再建成る。

東禪寺 今治市藏敷。

●眞言宗醍醐派。

●靈樹山聖王院と號す。寺傳に、推古天皇御宇、伊豫國司越智登村夷賊討討の後、臣下の靈を弔ひて一寺を建て寺領を寄す。是れ當寺の源流なりと云ふ。延久五年、伊豫國司源賴義、河野親經と謀りて堂宇を再建す。文治元年、河野通直に之を増進し、其境内に移す。即ち現寺地なり。爾後河野氏代々の菩提寺たり。元弘三年、同通綱伽藍を再建し、更に文明三年、同通

昭之を重修して寺領寄進ありしも、天正十三年八月、兵燹に罹り寺寶等多くを失ふ。後ち松平定房修補を加へ今日に及べり。

●境内地約九百坪、堂宇中、本堂は現に國寶建造物にして一に樹ノ本葉師堂と稱し、葉師如來像を安置す。



(實圖) (堂本寺研東)

●境内に須彌壇、厨子等の如き、技最も優秀にして室町時代に於ける新種遺構中の白眉となすべし。他に觀音堂・庫裡・山門を存す。

●隆慶六月七日。當日は本尊葉師如來の歸日にして地方有数の大祭として數萬の參詣者接踵す。

大陸寺

●臨濟宗妙心寺派。慶長年中、藩主富田信濃守信勝の閉居に係り、大室を勧請開山とし、正眼院と稱す。次で同十九年十二月、伊達遠江守秀宗(政宗長男)當國に入るや、再興して一家の香華院となす。寛政十年、現稱に改む。

●本堂・庫裡・隱寮・經藏・鐘樓・靈神堂・參籠堂等を具備し、長廊下を通じて和實奥ノ院の本殿に至る。此處には秀宗の老臣山家公頼の靈を祀り、香煙絶えずと云ふ。境内に伊達大隆寺殿、同春山公の墳墓あり。

等覺寺

●臨濟宗妙心寺派。元和四年、宇和島城主伊達秀宗之を創建し、甲州郡留都水上月光寺光天を請じて開山とし、寺額二百石を寄せ、領内の寺院を管せしむ。初め淨妙山龍泉寺と號せしが、秀宗歿後現稱に改む。歴代の藩主亦厚く踞依せり。

●寺寶に伊達秀宗筆紙金泥法華經等あり。歴代藩主の靈廟は寺城の東西に存す。境内に龍吟の松あり、周圍一丈七尺餘。

石手寺

●新義眞言宗豐山派。●熊野山と號し、四國八十八所第五十一番札所なり。●寺傳に、聖武天皇神龜五年、伊豫國司總督玉純勳を奉じて創建せし所にして、初め安養寺と稱し、本尊葉師如來



(實圖) (堂本寺手石)

來像は天平元年三月八日、行基の安置せし所と傳ふ。醍醐天皇弘仁四年、法相宗を改めて眞言宗とす。寛平三年、熊野十二社を寺内に勧請して之に六十六坊を附す。同四年、衛門三郎の因縁に依り、現寺號に改む。

河天皇勅して空海像を安置せしめ給ふ。永久二年、鳥羽天皇の勅願所となり、護摩堂、新堂、鐘樓等を再建す。治承元年、河野通清勳を奉じて大般若經六百卷を當寺に納む。永祿九年、祝融の災に遭ひて伽藍の一部を失ひしが、慶長六年、加藤嘉明寺領二百石を寄せ、堂塔は代々河野家にて修營を加ふ。延寶五年、當山北崖崩壞して伽藍を埋めしが、其後遺營成る。維新の際、十二社権現を分離し寺勢稍々衰頹せしが、後ち再三復舊に努め、以て今日に及ぶ。

●境内二千四百九十一坪、講堂宇中、本堂・塔婆(三



(實圖) (門地寺手石)

重塔)・樓門・鐘樓は現に國寶建造物なり。本堂は東面して樓門に對峙し、五間五面、單層、屋根入母屋造、本瓦葺にして、創建年代諸説なしと雖も、樓式手法明かに鎌倉末期の特質を存す。軒の出深く反轉ありて妻部殊に長く伸び、屋根との權衡極めてよく輕妙高雅の感あり。副縁の出亦屋根と比例し、總體頗る安定の姿態を示す。内陣の構作鮮明簡潔、堂内外相應して清酒壯快の趣深し。樓門は東界中央に建ち、三間一戸樓門にして重層、屋根入母屋造、本瓦葺、寺傳に文保二年再建とあり、形式手法亦當代の特質を表し、形状優麗、均衡整齊、幕殿段間の彫刻は前後兩面各々異り意匠卓

抜なる唐草文様を透彫し、中央一間は通抜けにして兩脇間正面に仁王像を置き後面開放せり。一般木割雄大にして頗る安定の姿態あり。蓋し鎌倉末期樓門建築中の白眉と稱すべし。塔婆は三間三層、屋根本瓦葺にして最頂寶珠、水烟、九輪、轉花、覆鉢、露盤より成れる觀製相輪を冠し、屋蓋殊に輕妙、全體の木割雄大にして殆ど唐樓手法を用ひず、各層よく階調を保つ。殊に環境との調和よく、伽藍の美を添ふる亦大なり。手法より推して樓門と同時代の建立なるべし。鐘樓は元弘三年再建と傳へ、三間二面、重層、捲簾、屋根入母屋造、檜皮葺にして、殊に形態の整備せる權衡美を有し、鐘樓建築中の佳作なり。他に隱來堂・大師堂・彌勒堂・經堂等あり。寺寶中、建長三年六月の銘ある銅鐘一口は現に國寶たり。

寶藏寺

●時宗。●豐國山と號し、舊奥谷派の本山なり。齊明天皇の勅願により、天智天皇四年、國司越前守阿の草創に係る。建長年間、時宗祖一蓮當寺に於て創製す。後ち心阿當寺に入りて一派をなし奥谷派と稱してより、當寺は時宗十二派中の一本山たりしが、近世別に派名を削てざるに至る。

●境内六百六十餘坪、堂宇に本堂・庫裡を具ふ。寺寶中、木造一蓮立像一軀は明治三十四年三月、國寶に列す。像は丈高三尺七寸七分、檜材を用ひ彩色を施せ

るものにして、前面を露出し懸も露はに殿足にて、諸國歴の樓を眼前に對峙せしむる遊行相なり。匠の納に文明七年乙未十一月十九日の銘あり。蓋し室町中期竹像彫刻中の佳作とすべし。

善寶寺

●新義眞言宗豐山派。●推古天皇御宇、河内國の宥全此地に來りて之を創建し、聖德太子作阿彌陀如來像を本尊となし、無量壽院と號して支院十二坊を置けり。天平十七年、行基此處に留錫し、手刻の觀音像を安置して觀音寺と改稱す。後ち和光寺と改む。弘仁七年、空海來りて眞言宗に改め、奏請して醍醐天皇の勅願所とす。齊衡三年、大地震にて三重塔崩壞す。天慶三年、藤原純友の亂に際し、堂塔悉く焼上り、安和元年再建せり。文永元年、北條時頼の遺言に依りて般若經六百卷(仁治二年、圓爾將來する所のものと云ふ)を納む。弘安四年、河野通有七堂伽藍を再興せしが、嘉元三年福災し、十二坊中八坊を失ふ。觀應二年、足利尊氏西國へ渡る途、三津浦に繫船し、仁木左京大夫頼章をして伽藍坊舎を營建せしめ、新願所となし、寺額千三百石を附す。延文二年、後光嚴院の勅使日野左中納時光來り、監筆天女畫像及び吉祥山の額を賜はる。天正十八年、放火に罹り、堂塔幾かに一字を残して、他は悉く烏有に歸す。文祿年中、加藤嘉明命じて新願加持院とせり。

西林寺

●新義眞言宗豐山派。●清隆山安養院と號し、四國八十八所第四十八番札

淨土寺

温泉郡久米村大字淨土。

●新義真言宗豊山派。

●西林山三藏院と號し、四國八十八所第四十九番札所なり。寺傳に據れば、天平年間、行基の開創にして、本尊釋迦如來像は其作なりと云ふ。後、空也(光勝)當山に留



(愛媛縣 温泉郡 淨土寺)

●境内地八町四方に及び、末寺六十六坊を擁せしが、應永二十三年、兵燹に罹りて堂宇喪失す。爾來真經其たしかりしを、文明十三年七月、領主河野伊豫守通宣五箇條の禁制を掲示して寺坊の犯禁を防ぐ。翌十四年三

月、伽藍再建の工を起し、同十六年成る。當寺も淨土宗派空及び二世聖光、三世真忠の各々自作と傳ふる像ありて、一に三像院とも稱せしが、元禄十六年、藩主松平氏之を其菩提所松山市大林寺に遷せり。

●境内地一千三百餘坪。堂宇に本堂(文明十六年建立)・大師堂・阿彌陀堂・山門・鐘樓等を具ふ。寺實に河野通高制札録目・八幡宮並に釋迦堂焼亡記假版(文明十三年辛丑刊)大輔與記及び花押、河野通直判等あり。●涅槃會(二月十五日)、釋尊降誕會(四月八日)、大施餼鬼會(七月十日)。

淨瑠璃寺

温泉郡坂本村大字淨瑠璃寺。

●新義真言宗豊山派。

●醫王山養珠院と號し、四國八十八所第四十六番札所なり。養老年間の創製と傳ふ。●本尊に變師如來を安置す。寺南に源賴政の遺跡あり。

八坂寺

温泉郡坂本村大字淨瑠璃寺。

●真言宗臨濟派。

●熊野山妙見院と號し、四國八十八所第四十七番札所なり。寺傳に、越智玉與の草創にして、文武天皇御宇、勅願所となり、本尊阿彌陀如來坐像は源信作なりと云ふ。舊く八王寺と稱し、佐原郷を領せしが、其後觀融の災に遭ひて廢絶し、後、再興して八坂寺と改む。

圓明寺

温泉郡和氣村大字和氣濱。

●新義真言宗智山派。

●須賀山正智院と號し、四國八十八所第五十三番札所なり。寺傳に、聖武天皇天平年間、行基草創して自作阿彌陀如來像を安置し勸願所と定めらる。後、空海諸國巡錫の途、來りて當寺を再興すと云ふ。文永年間、東大寺凝然當山に掛錫して八宗綱要を著すと云ふ。爾來寇賊兵燹の災相踏きて一山概行烏有に歸せしが、寛永十年、須賀重久今の地を相して寺宇を再興し、重盛其中興第一世たり。同十三年、御室宮一品覺深親王令旨を賜ひて仁和寺末となり、須賀山正智院の號を下賜せらる。文政九年六月十二日、總法務宮より令永樂金剛院の下文あり。明治四十一年、堂宇を改修し、同四十三年、現派に歸す。

●堂宇は本堂・大師堂・觀音堂・茶堂・客殿・鐘守堂・仁王門・中門・鐘樓・東禮等にして、奥ノ院は當寺創建の地たる坂浪塔之口にあり。寺實に明光軍十六羅漢像・同釋迦如來像・應舉軍地獄圖等あり。

太山寺

温泉郡和氣村大字太山寺。

●新義真言宗智山派。

●瀧雲山護持院と號し、四國八十八所第五十二番札所なり。寺傳に、用明天皇御宇、豐後國野長者なるもの海上にて風波に遭ひし時、觀音の靈驗を蒙りて當地に一字を創建す。是れ當寺の濫觴なりと云ふ。天平勝寶元年、行基勅を奉じて十一面觀音及び四天王像を納む。後冷泉天皇、前々帝御菩提の爲め丈五尺餘の大悲像一軀を寄せ給ふ。此嘉例に依り、後三條、堀川、鳥羽、崇徳、近衛各天皇亦同形の觀音像を納めらる。嘉元三年、文明十七年兩度に亘り、河野氏諸堂を修す。天正年間、福島正則領主となり、寺領を没收し、爲めに寺勢漸く衰ふ。後、加藤嘉明、松平氏等の歸依を

得て漸次舊觀に復せり。

●堂宇中、本堂及び仁王門(八脚門)は、共に嘉元三年の建立と傳へ、現に國寶建造物に列せり。本堂は桁行七間、梁間九間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、形



(愛媛縣 温泉郡 太山寺)

式手法よく鎌倉時代の特徵を有せり。今軒端に支柱を附て稍々外観を損せるも、外陣の斗拱間に出せる木端の繪彫彫刻及び捕肘木には明かに天然榑手法の存せるを見るべし。内陣中央に須彌壇を設け、壇上十一面

觀世音像を安置せり。内外構造様式手法、大體和樣手法に唐樣、天然榑等の著しく混和されたるを見るべく、然も三者巧みに調和を保ち、一種和樣の新様式と見るべく、然も部分的形式よく鎌倉時代の特徵を失せず。また仁王門は本堂の東に東面して建ち、前に數級の石階あり。形式手法等本堂と一致して其同時代建立なるを頷かしむ。軒下大なるに比し屋根小にして稍々權衡を失せるは、蓋しも三間一戸なりしを後世破壞して現狀を呈せるものなるべく、屋根入母屋造、本瓦葺にして、各細部の手法には可成り鎌倉時代の特徵を發揮し、其繪彫彫刻、饜饜に唐樣手法を混和せるを認め。また寺實中、木造十一面觀音立像六軀は總て藤原初期の作にして、明治三十四年三月、國寶に列せらる。

●三月十七日に長者供養を行ひ、本尊功徳日たる七月五日の四萬六千日には遠近の參詣者接踵す。

安國寺

温泉郡三内村。

●臨濟宗妙心寺派。

●萬松山と號す。歷應二年、足利直義、僧錄石の説に従ひて諸國に令し國家安穩の新神道場として一國一寺を建立す。當寺は即ち其一にして、無極之が開山たり。且つ僧南明を以て中興の祖とす。往昔境内方八町、堂宇巖然として塔頭十二坊を有せしが、足利末世に及びて寺領を失ひ、堂宇亦大破して幾かに樂師堂一字を残すのみなりしも、元禄年間再建成る。●寺實に足利義滿寄進本尊變師如來・佛光殿司聖靈繪繪具觀音像・同天人圖等あり。

繁多寺

温泉郡原村大字細寺。

●新義真言宗智山派。

●東山壇場光院と號し、一に細寺に作る。四國八十八所第五十番札所なり。傳に、國司源賴義の時、河野親經建立の佛堂の一なりと云ふ。或は、孝謙天皇御宇、僧本如の開基にして、天皇御勅を納給ひ給ひしより、繁多寺と號せしが、後、繁多寺に改むとも傳へ、本尊變師如來は行基作と云ふ。弘安二年、開月勸命を蒙りて聖古聖漢の祈願を修し、御願成就に依り、永仁二年、鎌倉將軍下知狀、兩六波羅下文等を附せらる。應永元年、泉涌寺二十六世快翁、繪旨を蒙りて當寺第七世となり、入院開堂す。爾來高僧相繼ぎて當寺に住す。昔時七堂伽藍三十六坊並に末院百二十箇寺を擁して寺運隆盛なりしが、星霜と共に興亡あり、堂宇多く傾廢し、修營行はれず、其舊蹟荒野となり、今、佛字樓かに遺るのみ。

國分寺

越智郡標井町國分。

●真言律宗。

●金光山景勝院と號し、四國八十八所第五十九番札所なり。聖武天皇天平年間、勸願により諸國に建立せしめ給ひし國分寺の一にして、行基作變師如來像を本尊に安置し、本性を以て開創とす。往昔は伽藍の構造諸國の國分寺に權んで宏壯を極めたりと云ふ。天平神護二年、伊豫國人大直足山、私稻七萬七千八百束、銀二千四百口、聖田十町を寄せ、延喜式に、伊豫國國分寺料四萬束と見ゆ。續左丞抄、天曆二年官符に(上

●古義眞言宗。
 ●石山山と號す。同宗御室末にして、四國八十八所第六十四番札所なり。本尊は上品上生の阿彌陀如來にして、寺傳に役小角の草創に係る。古來皇室の御

●古義眞言宗。
 ●境内一千九百五十餘坪、當寺の東約二町、田中に七重塔あり。石の大小凡そ一間四方、上に圓形の柱口あり、石の數十一。附近の谷の口丘上に臨坂表助を存す。碑石の高五尺、寛文九年、後法印、町野政良、首座俊貞等の再建に係る。傳へ、莫妙の一碑に具原益軒の贊文を刻す。

榮福寺

越智郡清水村大字五十區。

●古義眞言宗。
 ●形類山と號し、今大覺寺に屬す。四國八十八所第五十七番札所なり。もと當郡鴨部村大字八幡石清水八幡神社の別當寺たりしが、後今の地に移れり。

仙遊寺

越智郡鴨部村大字別所。

●古義眞言宗。
 ●作禮山千光院と號し、今大覺寺に屬す。四國八十八所第五十八番札所なり。天智天皇御宇、當國人越智

直、百濟救援の軍に従ひて同僚八人と共に唐軍に捕へられしが、觀音の靈驗によりて歸還するを得乃ち奏請して一字を建立し觀音像を奉安せしむ當寺の起原なりと云ふ。或は天智天皇御宇、越智守與勳を奉じて嶺形山城を克つたなし作禮山と號せしが、時に仙翁來り香花を獻じて遊化す。因りて仙遊と稱すとも云ひ、また齊明天皇御宇、光林義光の草創なりとも云ふ。後ら敷度の災に舊記悉く亡散して寺勢亦漸く衰頹せしが、今治藩主の崇敬を得るに及びて前々舊觀に復す。

泰山寺

越智郡日高村大字小泉。

●眞言宗醍醐派。
 ●金剛山と號し、四國八十八所第五十六番札所なり。寺傳に、空海の草創にして、本尊に自刻の地藏菩薩像を安置すとも云ふ。

延命寺

越智郡乃方村大字阿方。

●新義眞言宗豐山派。
 ●近見山不動院と號し、四國八十八所第五十四番札所なり。本尊に不動明王坐像を安置す。

瑞應寺

新居郡角野村。

●曹洞宗。
 ●佛國山と號す。もと臨濟宗にして月輪草創の地なり。文明年間、松本三河守安村之を開基し、開山は白

新長傳、中興は分外音細、再中興は五世月庭繁傳なりと云ふ。現在檀越一千餘戸、中に住友吉左衛門、廣瀬滿正等あり。

吉祥寺

新居郡水見町。

●眞言宗東寺派。
 ●密教山胎藏院と號し、俗に榮井と云ふ。四國八十八所第六十三番札所なり。



(景全寺祥吉)

紙金銀泥文殊現寶藏經及び諸法無常經、同辨財十二童子畫

像・牧溪筆調見觀音像等あり。

保國寺

新居郡神戶村大字中野。

●臨濟宗東禪寺派。
 ●神龜、天平代の草創にして、聖武天皇の勅願所となると云ふ。建治年中、東福寺神圓(聖一國師)の弟子佛通禪師西遊の途次、讃州志度より上陸し、赤間關に赴かんとして新居關に來る。時に生子山城主一條城之介義次、之に歸依して相携へて本城に歸らんとし、城見坂に到り、和歌を誦じて佛通に望せしに、佛通亦詩を賦して之に和せり。仍りて其地を歌詩和吟と云ふ(今は開墾して平地たり)。時の住持叔伯佛通、其法徳を慕ひ、天台宗を改めて禪宗となし、佛通を開祖第一世となす。二世寂雲の時、足利尊氏命じて官寺となし、保國寺の額を寄す。當寺、伽藍宏壯にして、二十四の支院を有したりしが、其後天正の亂に燒燼し、文祿年中、又水害に罹りて寺地砂積と化す。仍りて支院得成寺の住持西堂、大水の禍に残れるものを保護し、茲に小庵を營みて四十七世の住持となる。其後五十二世青岩現地に再興す。

●寺寶として、雲舟筆出山釋迦像・明光筆釋迦三尊像三幅・足利尊氏御教書等を藏す。庭園の風趣風に近郷に聞ゆ。

前神寺

新居郡神戶村大字洲之内。

●古義眞言宗。
 ●石山山と號す。同宗御室末にして、四國八十八所第六十四番札所なり。本尊は上品上生の阿彌陀如來にして、寺傳に役小角の草創に係る。古來皇室の御

師依厚く、桓武天皇御宇、勅命によりて當國守護伽藍を建立し、金色院の勅號を賜ふ。文徳天皇仁壽元年、又當國守護に勅して之を再興せしめ給ひ、次で順徳、後鳥羽、高倉各天皇經卷を納められ、後醍醐天皇地蔵尊像の御寄進あり。武將の信仰亦淺からず、河野、土居、得能諸氏賦性新願成就によりて、藏王権現廟像を納め、豐臣秀吉亦福島正則に命じて堂宇を再建せしむ。加藤嘉明は、參籠祈願三月に及びし事ありと云ふ。爾來西條城主を初め中國、四國、九州の諸侯率りて當寺を武運長久の新願所と定む。當寺もと周桑郡千足山村權筆寺と共に當郡大保木村西之川山なる石槌神社別當たりしが、徳川時代以後當寺専ら其任に當れり。維新の際、神佛分離の事ありて、石槌神社は縣社に列し、當寺亦獨立す。



(景本寺神前)

●境内三千二百餘坪、堂宇は本堂・大師堂・藥師堂。

香園寺

周桑郡小松町南川。

●古義眞言宗。
 ●栴檀山教王院と號す。同宗御室末にして、四國八十八所第六十一番札所なり。用明天皇御備平慮の爲め、聖德太子の草創せし所と傳ふ。後ら空海當當地鑑錫の際、當山麓に難産の女を救ひし由縁に因り、特に安産、子育の誓願を授けし且つ唐木栴檀を以て刻せし本尊大日如來を安置すとも云ふ。爾來數百年、法燈益々隆盛に、堂塔愈々莊嚴を極め、密教嚴修の道場として道俗の信仰頗る厚かりしが、天正年間、長曾我部氏の兵變に罹りて堂宇概ら灰燼に歸す。寛永年間、小松城主一柳氏之を再興せしが、遠く舊觀に及びず。

●堂宇に、本堂・子安大師堂・宿坊・三密學園等あり。

寶壽寺

周桑郡小松町新屋敷。

●古義眞言宗。
 ●天養山觀音院と號し、一に宮山と云ふ。高野山金剛峯寺に屬し、四國八十八所第六十二番札所なり。聖武天皇天平年間、白坪郷に大己貴命を勧請して一ノ宮と稱し國家鎮護とす。後ら僧道慈社傍に一字を創して金剛寶寺と號し、其別當とせしを當寺の蓋縁なりと

傳ふ。弘仁年間、空海當地に來り十一面觀世音像を刻みて本地佛すと云ふ。其後資頼に赴きしを、天養元年再興し、天養寺と改稱せしが、後現寺に改め、延寶七年、實傳現寺地に移す。明治三年、當町南川香園寺に合併せられしが、同十一年、住僧龍爾許可を得て再興す。

久妙寺

周桑郡丹原町久妙寺。

●古義眞言宗。
●覺音山弘法院と號し、御室末たり。行基の開基と傳ふ。後空海當寺に住し、之を再興す。弘法院の稱是れに由來す。往昔、寺領として地田、願蓮寺、高松の三庄を有し、十二坊ありて、境城宏壯、寺運隆昌を極めたりと云ふ。

●寺域、山を負ひ、大池に臨み、風趣に富む。本尊觀音菩薩を安置す。二重塔の大日如來像は運慶の作なりと傳ふ。寺内に櫻樹多く、花時訪客少からず。

横峯寺

周桑郡千足山村。

●古義眞言宗。
●石鉄山と號し、本宗御室末にして、四國八十八所第六十番札所なり。寺傳に、天智天皇四年、役行者小角大和太皇山より當山に飛駕して一字を創建せしを當寺の起原なりと云ふ。桓武天皇御宇、天皇御備あり、乃ち當寺石仙を召して加持せしめ給ひしに、忽ち御平癒ありければ、三百町歩の寺田を賜ひ勸願所と定めらる。大同年間、空海當山に留駕して堂宇を再興す。其後歴朝の御尊崇愈々厚く、嵯峨天皇、空海をして當山に海眼供を修せしめられ且つ法華經を納め給ふ。文



(愛本寺塔像)

德天皇仁壽三年、當國守護に勅して堂宇を造營せしめ給ひ、高倉、後鳥羽、順德各天皇亦經卷を納められ、後醍醐天皇三尊彌陀佛を寄せられ且つ繪卷を賜ふ。古來、源平兩氏を初め武將、領主等の尊敬厚く、永祿年間、越智通禪石垣山の三佛體を奉納し、豐臣氏堂宇を修營す。後ち小松藩主、小松町より當寺に至る參道を營み且つ堂宇を改修す。當寺にも郡神戶村大字洲之内前神寺と共に同郡大保木村西之川山なる石垣山石壁神社別當たりしが、徳川時代に至り當寺のみを廢す。

●堂宇に、本堂・大師堂・仁王門・鐘樓・庫裡等を具へ、老杉古檜之を圍繞して幽邃の靈地をなし、朝日巖窟、大同杉、星嶽道場等の舊跡あり。また背後石垣山々路には有名な御鏡の驗あり。寺寶に傳授小角作石垣山藏王權現像、嵯峨天皇勸納約齋籠、嵯峨御所下

觀念寺

周桑郡吉岡村。

●臨濟宗東福寺派。
●大雄山と號す。延應二年、東福寺辨圓(聖一國師)三世の孫鐵牛の開基にして、越智宿禰新居大夫盛氏、父玉氏追福の爲め創建す。延元二年、後醍醐天皇より御祈願所の繪旨を賜はり、後ち徳川將軍家及び舊松山城主の祈願所として歴代の繪旨を納め、朱印墨印山林田島等多くの寺領を有したり。住時は末寺三十餘箇寺を有し、今尙ほ九箇寺を存す。

興隆寺

周桑郡田村大字古田。

●眞言宗醍醐派。
●佛法山普門院と號し、俗に西山寺と云ふ。皇極天皇御宇、空鉢仙人今の田端村に歸する地に草庵を營みしが、養老年間、行基新に千手觀音を刻みて之に安ずと云ふ。桓武天皇御宇、報恩大師之を現寺地に移す。時に天皇御備あり、大師長岡宮に召されて之を治し奉る。依りて當寺勸願所と定められ、且つ伽藍を建立せし



(寶圃)(愛本寺塔像)

め寺領として吉田郡得能の地を賜ふ。文治三年、源相朝、越智郡島生村なる水田二百四十町を寄せ、且つ堂宇を造營す。現本堂は即ち其一なりと云ふ。後醍醐天皇延元年間、屢次勸書を賜はる。南北朝の頃、懷良親

山中觀にありて南面し、鎌倉時代源賴朝建立の儘と傳ふれど、様式手法室町初期の特徴を存す。堂は五間六面、單層、屋根寶形に近き四注造にして茅葺、棟高く階々厚重の感あり。軒は二重繁垂木、組物は唐様出組、組入小天井を附し、内陣中央に來迎柱厨子須彌壇を設け、内外共に素木造、もこ檜皮葺なりしを、寛文年間瓦葺に更め、貞享年間更に茅葺となすと云ふ。外観の権衡必ずしも清酒優美ならずと雖も、細部に天然樓閣手法を加へ木割一般に雄大なり。寺寶中、銅鐘一口は弘安九年五月云々の銘を有し現に國寶たり。高さ約四尺、口径二尺二寸四分、銘文中、古き地名を遺せるを以て珍重せらる。他に所謂西山文書と稱する繪旨・院宣・南朝及び鎌倉將軍文書等及び古佛像・經卷等あり。寺域一帶深山幽谷を爲し山下西山川に山流宜橋を架す。附近に一ノ瀧、二ノ瀧、三ノ瀧あり。三ノ瀧には空海刻と傳ふる不動明王像を安す。

三角寺

周桑郡金田村大字三角寺。

●古義眞言宗。
●幽靈山慈尊院と號し、一に仙龍寺と云ふ。本宗大覺寺末にして、四國八十八所第六十五番札所なり。行基の草創と傳へ、後ち空海中興して自刻の十一面觀音を本尊に安置すと云ふ。

●本堂の左傍に三角の護摩壇址あり。空海護摩修法の遺跡と傳へ、寺説是れに因むと云ふ。又當山と金川の境際瀧は一に龍神瀧と云ひ、往時黄金の龍神像出現せりと傳へ、其像今當寺に納む。奥ノ院は當寺を距る

仙龍寺

周桑郡新立村大字馬立。

●古義眞言宗。
●金光山通照院と號し、大覺寺末たり。俗に作大師、厄除大師或は四國奥ノ院と稱ふ。法道仙人の開創に係り、弘仁年間、空海修行の遺跡なりと云ふ。寛永十五年、尊性法親王四國巡錫の朝、當寺の未だ世に顯れざるを慨し初めて寺號を賜ふと云ふ。

大寶寺

上浮穴郡久万町菅生。

●新義眞言宗豐山派。
●菅生山大覺院と號し、四國八十八所第四十四番札所なり。寺傳に大寶元年、百濟國の聖僧十一面觀世音像を奉持して渡來し、當山に草庵を結びて安置す。後ち當地の獵人右京、平人の兄弟跡ヶ嶽に獵して其尊像を感得し、庵室を結びて之を安置す。是れ當寺の蓋源なりと云ふ。初め天台宗を奉ぜしが、空海巡錫の朝、當寺奥ノ院を開創せしより眞言宗に轉す。仁平二年、觀融の災に罹りて一山燒亡す。保元年間、後白河天皇御備あり、當山に勅して御祈願の事ありしに忽ち御平癒ありければ、堂舎僧坊を再建せしめ給ひ、皇妹尼公をして當山に住せしめらる。妹宮薨去後は大覺寺宮代々御後務あり。天正年間、長曾我部氏の兵燹に罹りて古記録等悉く散亡す。慶長九年、加藤嘉明家臣仙次郎

兵衛寺領二十六石を寄す。後、頼朝が元禄年間、僧雲秀之を再興す。即ち當寺中興第一世たり。寶曆年間、故ありて久住氏他領大洲若宮に赴るや、當寺四世雲秀力を致して之を歸屬せしむ。依りて藩主松平顯徳其功を賞て手書並に寺額百五十俵を寄す。爾來藩主の供養奉納絶えず、塔頭理覺坊以下十二坊を有し、寺勢甚だ隆盛なり。



(堂本寺寶大)

年、同族の兵に遭ひて一山の堂宇坊舎概し灰燼に歸し、一時理覺坊に移る。同四十五年、十七世隆秀の時、舊本堂、大師堂、庫裡、通夜堂、寶庫等の再建成りて、境内に復歸し、次で大正十四年五月、本堂再建の工を竣へ、同時に鐘樓堂の建立成る。

鐘樓・庫裡等を具ふ。寺寶に後白河天皇宸筆菅生山勅額・三十三燈籠・仁王金剛像・大瓊大錫杖等を藏す。法會(舊六月十七日、舊七月九日)。

岩屋寺

●新義真言宗豐山派。●海岸山に號し、四國八十八所第四十五番札所なり。寺傳に、弘仁六年、空海の草創にして自刻の本尊不動明王石像を安置す云ふ。明治の初年迄は菅生山奥ノ院と稱し、大寶寺の末寺なりしが、後分立す。同三十一年、祝融の災に罹りて鐘樓の外堂宇悉く烏有に歸せしむ、後再建成る。

金蓮寺

●新義真言宗智山派。●王松山十二光院と號す。大同二年、國司河野氏の開創に係り、本尊樂師如來は海中出現の靈佛なりと傳へ、古く性母寺と云ふ。寛喜三年、後醍醐天皇御備あり、當寺住僧明海を召して修法せしめ給ひしに忽ち御平癒ありければ、水代此地を賜はりて伽藍を修す。是

れより本尊の靈驗愈々世に著れ且つ動願所となる。即ち明海は當寺中興の祖たり。後、隣村松前住人武内正勝法華經を一字一石に寫して經藏を築き且つ新田を寄す。文祿年間、加藤嘉明此地に松前城(後の松山城)を築くに方り、當寺を現寺地に移して現寺院に改む。時に境内方八町あり。其後同族の災に罹りて寺寶多くを失ふ。

出石寺

●古義真言宗。●金山と號し、本宗御末たり。寺傳に元正天皇養老二年、當國宇和郡田野中村の靈師一日當山に入りに觀音、地蔵の靈佛に遺ひ、之を拜して發心し、剃髮して道教と號し、此地に草庵を結びてかの靈佛を安置せ



(堂本寺石出)

しが、後一字を修め雲山出石寺と號す。是れ當寺の起原なりと云ふ。大同二年、空海當山に來り久しく留錫して修法し、山號を金山と改む。爾來豐星霜、文化年中に至り、大洲城主加藤氏、宇和島城主伊達氏の尊崇厚く諸堂宇を再建す。當時七里四方に七十二坊の末山ありしと云ふ。大正六年、書院、繪馬堂、照開燈の建立、本堂、持佛堂其他の改修成り、一山の輪奐愈々其の美を添ふるに至る。本尊石佛は、今尚其靈威世に聞ゆ。

瑞龍禪庵

●臨濟宗妙心寺派。●草創年次並に沿革不詳。●寺寶中、本尊木造十一面觀音立像一軀は現に國寶にして丈高五尺四寸一分、藤原末期の作と推察せらる。像は八重座上に立ち、腰以下は古き形式を模せるものにして面貌稍々長く目細く頗る寫實的なり、華座、光背は後世の補作に係り、寺傳に平清盛念持佛を胎内に納むと云ふ。

福樂寺

●天台宗。●東宇和郡多田村大字河内。

●大寶山と號し、俗に大洋觀音と稱す。康保二年、高嶺城主大寶五郎四郎晴實の開基に係り、本尊十一面觀世音菩薩、脇侍不動明王、毘沙門天を安置し、晴實入道して供養を營む。村上天皇、安一和尚の名を賜ひ、且つ安一を以て七堂伽藍、山上山下に二十四坊を建立せしめ、動願所と定め給ふ。當時寺領三百七十五石を有したりしが、天正の兵火に堂塔灰上し、文祿年中に至り戸田民部少輔當國入部後、寺額を没收し、嗣へ堂宇に火を放ちて、大方丈等は火洲二丸へ持ち去りたり。

大安樂寺

●臨濟宗東福寺派。●重萬年山と號す。僧寶覺の開基にして、寺域は往時深淵たり。毒蛇橋みて庶民を害せし故、往來を止む。嘉元二年、宇都宮水綱、此毒蛇を射殺し、往來の人を安んず。嘉曆二年、此淵を埋め、精舎を建立して蛇窟を掩蔽し、二百貫の地を寄附せり。天正の兵燹に伽藍焼失せしが、宇都宮石見守宣綱乃ち再興して漸く復舊す。文祿年中、戸田氏寺領を没收し、樹木を伐採し、爾來大いに廢頽す。寛永十四年、同族に罹り、繪圖、

明石寺

●天台宗寺門派。●源光山圓手院と號し、四國八十八所第四十三番札所たり。寺傳に、往古此地に龍女あり、散背磐石を當山麓に運び隨に至りて忽然として去る。郷民之を地主と崇めて白王權現と稱へ、磐石と共に當山に祀る。欽明天皇御宇、正澄勳を奉じて當山を開基し、白木唐佛千手觀音を安置して堂宇を創す。天平六年、役行者小角六世の齋意元行者、熊野十二社を此地に勧請して新たに十二坊を建立し修驗道場となす。弘仁六年、空海四國巡錫の節、來りて當寺を再興す。建久五年、源賴朝堂宇を再建し經塚を營み、池澤尼冥福の爲め阿彌陀如來を安置し、且つ青山號現光山を改めて源光山とす。爾來貴紳武將の尊崇淺からず。天授二年、西園寺公良當國下向の節、公慶の代に至る迄累代祈願所と定め、堂宇を修造し寺額を附す。明應三年一月、聖護院二品道興親王四國巡錫の節、當寺に置札あり。寺勢愈々盛なりしが、天正十五年、戸田氏當國に封ぜらる、や、寺領及び寺寶に至るまで悉く没收し、爲めに大いに頽廢す。寛永十五年、大覺寺門跡二品空性親王四國巡錫の節、當寺に留錫あり。寛文十二年、宇和島藩主伊達宗利當寺の荒廢を憂ひて寺社奉行淺尾光次等に命じて堂宇を改修せしめ、且つ知行三百貫を附して祈願所とす。爾來岡氏累代の敬信厚し。維新後漸く衰頽せ

しが、後ち住僧淨澄再興す。
 ◎堂宇に、本堂・大師堂・地藏堂・熊野十二社十二坊・仁王門・鐘樓・客殿・庫裡等編列して、縣下屈指の名刹たり。境内の時雨櫓に寛永十五年、空性親王滯留の蹟、冬の初めなりしに、七日の間、雨降りて花咲けりとの傳ふる名木なり。寺寶に、運慶作木造不動明王像・同爾密達金剛像・運慶渡慶作二十八部衆像・渡慶作毘沙門天像・安阿彌作地藏像・空海筆不動菩薩像・住吉慶應筆十六羅漢像・宋紫山筆不動明王像・伊達氏納時雨櫓枯木の扁額・唐壽十六善神像・玄陳筆短册等を藏す。

佛木寺 北宇和郡成妙村大字明。

◎古義眞言宗。
 一環山毘盧舍那院と號し、御室末にして、四國八十八所第四十二番札所なり。俗に御大日と稱す。寺傳に、大同年間、空海諸國巡錫の途、富山の楠樹を以て



(堂本寺木佛)

大日如來の像を刻み、其感得せし一環の寶珠を本尊層間に納め、一字を削して之を安置せしを當寺の蓋觸なりと云ふ。鎌倉時代、六代將軍宗義親王護持僧松殿當寺に參詣の事あり。嘉祿二年、西園寺氏の當郡を領す

るに及び、當寺に歸依して菩提所と定め、仁治年間、堂宇を建立し、寛元年間、境内四至を定む。文永八年、熊野權現を境内に勧請して、一山の鎮守となし、建治二年、御影堂を建立す。永祿、元龜の頃、兵亂に遭ひて衰微し、文書、什寶等概れ散亡せしが、西園寺宣久復舊に努む。當時末寺十三箇寺あり。天正年間、僧榮始當寺を中興す。元和五年、宇和島藩内者名社寺十箇所選定に當りて當寺は其第三位にあり。慶安元年一月、藩主伊達宗宗本堂を再建し、明暦四年、奉行内藤三右衛門覺鐘を納む。延寶五年、吉田藩主伊達宗純大日堂拜殿を建立、元禄十二年、宇和島藩主伊達宗純大日堂拜殿を建立、元禄十二年、宇和島藩主伊達宗純大日堂拜殿を建立、享保五年、大日堂大破せしが、同十三年に至りて再建成る。同十六年、熊野權現廟を山上に移し、翌年、大師堂を本堂傍に移す。天明元年、聖德太子堂再建。文化十年、茶室再建。文政八年、大師堂再建、嘉永元年、客殿、庫裡再建。爾來明治十五年、同二十一年、同二十四年、同二十九年、同三十五年、同四十五年、大正八年、同十三年の數度に亘り、諸堂の改修、造修成る。

龍光寺 北宇和郡成妙村大字戸鹿。

◎古義眞言宗。
 一環山と號し、本宗御室末にして、四國八十八所第四十一番札所なり。
 ◎本尊十一面觀音を安す。境内に觀音明神社あり。

等妙寺 北宇和郡尾村大字芝。

◎天台宗。
 ◎奈良山と號す。元應二年、僧理玉の開基に係り、元徳二年、十二坊を造營し、當國末寺に七十二箇寺を有せり。元弘元年、理玉上落して後醍醐天皇に謁し、種々の品を賜はり、當寺を勸願所と定められ、鎌倉實藏寺、肥後鎮興寺、加賀樂師寺と共に日本四箇或場とせらる。足利義隆、文野々市(今の水野市)を寺領として寄附す。天正十八年、月田氏部少輔の爲めに焼却せられ、寺領亦沒收せらる。後醍醐天皇下賜の香色法衣・七條袈裟・地朱の香筒・聖德太子筆觀音畫像・後鳥羽院靈筆不動明王畫像等を藏す。

觀自在寺 南宇和郡御莊町平城。

◎古義眞言宗。
 平城山樂師院と號し、本宗大覺寺末にして、四國八十八所第四十番札所なり。寺傳に、本寺は空海一夜建立の御靈にして自刻の樂師如來を本尊に安置すと云ふ。延寶三年、祝融の災に罹りて獨り樂師堂を除く外、堂宇悉く其上せしが、後ち宇和島二代の藩主伊達宗利之を修營す。
 ◎境内に平城天皇御陵と稱する立碑あり。

高知縣

高野寺 高知市中島町。

◎古義眞言宗。
 ◎同宗高野末たり。明治十四年、高野山上藏院信頂の開基に係る。同三十年、大師堂を建立し、同四十二年、仁王門成る。
 ◎本堂。大師堂・庫裡・客殿・仁王門・鐘樓等の堂宇を具ふ。鐘樓は日露戰役戦病死者追弔記念の爲め、三世寛道の建立に成る。本尊空海像は源信作と傳へしと高野山に安置せしを、後ち當寺に移すと云ふ。寺寶として空海作愛染明王像・運慶作十一面觀音像を藏す。
 ◎正御影供(春季)、光明眞言土砂加持會(秋季)。

高知別院 高知市道手筋。

◎眞宗本願寺派。
 ◎明治維新前、當地殆ど眞宗無縁の地たりしが、維新後、屢次本山より開教使を遣して教化に努め、同十五年、遂に宗主明知宮院を開創す。現に崇敬門末は土佐一國にて、寺院五十三、信徒約一萬戸あり。
 ◎境内八百六十二坪、堂宇に假本堂・書院等を具ふ。寺寶として觀音等身像等あり。

安樂寺 (附三谷觀音堂) 高知市江ノ口。

◎新義眞言宗豐山派。
 ◎百々山(一に妙色山)金性院と號す。四國八十八所

眞如寺 高知市清江。

◎曹洞宗。
 ◎日輪山と號す。慶長七年、山内一豐、在川讓作に命じて之を創建せしめ、同氏累代の菩提所と定む。明治四年に至り、一日庵寺となりしが、同十八年、野上徳龍史に舊址に小庵を結び、寺號を復興す。近年、又舊院址に移す。即ち現在の地たり。
 ◎本尊觀世音・脇侍毘沙門天・不動明王を安置し、達磨大師像を併安す。寺内に菅原道眞遺物十一面觀音を祀る。俗に秋天神と稱し、里人の信仰厚し。寺内眞如寺山墓地には山内氏廟所あり。

妙國寺 高知市清江。

◎日蓮宗。
 ◎天高山と號す。文龜元年、守護代細川治部大輔勝登、祖先菩提の爲め、香美郡田村の地に之を創建し、京都妙國院日觀を請じて開山とす。初め勝登の法號に因みて桂昌寺と稱せしが、永正十年、妙國院と改む。泰家岡豐より浦戸移城の時、當寺亦種崎に移る。慶長五年、山内氏入國後、高知城下朝倉町に移す。貞享四年、類焼の厄に遭ふ。次で現寺地に移して堂宇を再建し、又桂昌寺號を復せしが、徳川綱吉生母桂昌院の隣に臨るに因り、改めて妙國大業寺と號し、次で又現寺號に改む。

要法寺 高知市清江。

◎日蓮宗。
 ◎神力山と號す。天正十三年、山内一豐九州長濱入城の際、先考菩提の爲め之を建立し、日仁を請じて開山とす。其後、一豐移城に従ひて遠州掛川に移り、慶

●寺實として圓仁作如意輪觀音像・日蓮作大黒天像・持野元信筆繪掛馬等を藏す。尙ほ寺内に正安元年但馬國東樂寺、延徳二年丹後國三重長壽寺、延寶六年花洛頂妙寺等と銘せる古鐘あり。又當寺北西の地に野中兼山墓あり、碑面に野中傳右衛門兵衛兼山と刻す。孝女兼女の遺立と傳へ、兼女の墓は兼山墓側あり。兼山の墓を下る一段の所に、兼山葬儀の日に殉死せし侍臣古橋次郎重國の碑を存す。因みに當地瀧江は眞如寺山、清水庵山、高見山等に分たれ、山内氏藩政以後高知城下士民墓地の一にして、墳墓數萬餘、山上山下に累々たり。

宗安寺 (川上不動) 土佐郡朝倉村大字宗安寺。

●臨濟宗妙心寺派。●俗に川上不動と稱す。草創年代詳ならず。明治初年、廢寺となり、同十六年、再興して堂宇を造營し、同四十二年、其重修成る。昭和四年、更に増改を加へたり。

●寺城老樹鬱蒼として幽邃の地を占め、前方觀川の瀧洞に臨む。境内に不動堂あり。堂は小にして元祿二年再建に係る。堂内安置の木像不動明王坐像一軀、同持國天立像一軀、同增長天立像一軀は共に國寶たり。寺傳に據て空海作と傳ふれども、共に鎌倉時代の作に係る。不動明王坐像は高さ四尺七寸、總身肥滿し頗る雄偉の相あり。後二者の中、持國天は丈高五尺三寸九分、增長天は四尺四寸六分、何れも極彩色、古調を有すれども、現存の彩色は室町期の後補たり。寺傳に據れば、是等諸像尙く同村横矢部落堂ヶ奈路に安置せられしが、後水災に遭ひて漂流し、藤原某に支へられしを、里人奉じて此地に安せしものなりと云ふ。

●大法會(舊一月二十七日、二十八日、六月二十七日二十八日)。

太平寺 幡多郡中村町右山。

●臨濟宗妙心寺派。●應永年間、惠心老尼の開創に係ると云ふ。永祿年間、一條氏中村在城の時、此地に爭亂起り、當寺を非常立退場と定めし爲め、堂宇等破損せしもの少からず。今尙ほ土壇の面に恰も城壁に見る如き當時の矢間の痕を存す。

●本尊地藏菩薩坐像は定朝作と傳ふ。寺寶中、木造海峯性公坐像一軀、同泉慶覺坐像一軀は共に國寶たり。前者は高さ二尺二寸、頭巾を被り、合掌結跏坐る像にして全身彩色、後者は高さ二尺二寸、若色、玉眼嵌入、合掌結跏坐るの體形像なり。共に鎌倉期の作とす。尙ほ堂内に一住持基位等安置す。

金剛福寺 幡多郡清水町伊佐。

●新義眞言宗豐山派。●足摺山補陀落院と號す。四國八十八所第三十八番札所たり。寺傳に據れば、弘仁年間、嵯峨天皇の勅を奉じて空海之を草創し、自刻の千手觀音、不動明王、毘沙門天の三像を安置すと云ふ。初め月輪山金剛福寺と號し、嵯峨天皇より補陀落東門の額を賜ふ。爾來歴朝の御師依り、藤原氏亦本郡に莊園を有せし緣由に及び、其關係淺からず。中世以來専ら唐土補陀落山に擬して南海無二の靈場たり。時に山號を踐跣山と稱せり。享祿年間、仁和寺尊海法親王當寺に下向ありて、清り寺勢頓に揚る。源家累代亦跡依深く、多田滿仲、清

和天皇御菩提の爲め多寶塔を興立し、源賴光諸堂を修理す。康元、正應、延慶に亘り、屢次祝融の災に遭ひしも、都度再建成る。寛永八年、國主山内忠義堂塔三十餘棟を再興修理し、且つ寺領を寄す。爲めに寺觀舊に倍せり。明治維新後、一時廢損せしも、同十三年より十六年に亘りて再興成る。近年、愛染堂、護摩堂、鐘樓等の新築を竣ふ。

●境内地二萬六千三百四十餘坪、近く櫻波瀨砂たる大年洋をに望み、堂塔樓閣悉く懸崖に連りて眞に千古の靈場たる名に背かず。堂宇に本堂・多寶塔・愛染堂・本地堂・護摩堂・大師堂・寶藏・庫裡・客殿・三十三所觀音堂・鐘樓・仁王門等を具ふ。仁王門には嚴島社僧空玄刻仁王像を置き、多寶塔中に安置せる大日如來像體内には多田滿仲建立願文を納む。寺寶として嵯峨天皇寫筆補陀落東門額・尊海法親王筆足摺山緣起・同遺品水晶念珠及び金色五結・空海行狀圖十卷・赤白二不動尊像其他古文書多數を藏す。寺境裏路屈曲して海邊を繞り、其間、天燈松、龍燈松、力石、和泉式部石塔、動搖石、不増不減手水鉢、犬塚、根柢、午時雨、滿干手水盤、寶滿鐘、經塚、大師一夜建立石鳥居、龜呼塚、音樂磬、波切不動尊、地獄穴、阿字石、磐石、天駒瀆等の古跡奇蹟あり。

延光寺 (寺山) 幡多郡平田村大字中山。

●新義眞言宗豐山派。●赤龜山と號し、俗に寺山と呼ぶ。四國八十八所第三十九番札所たり。神龜元年、行基の草創に係る。●本尊藥師如來は空海作なりと傳ふ。もて巨勢金剛

筆莫不勤畫、延喜十一年鏡の彌勒寺鐘等を藏せしが維新後悉く散逸せり。

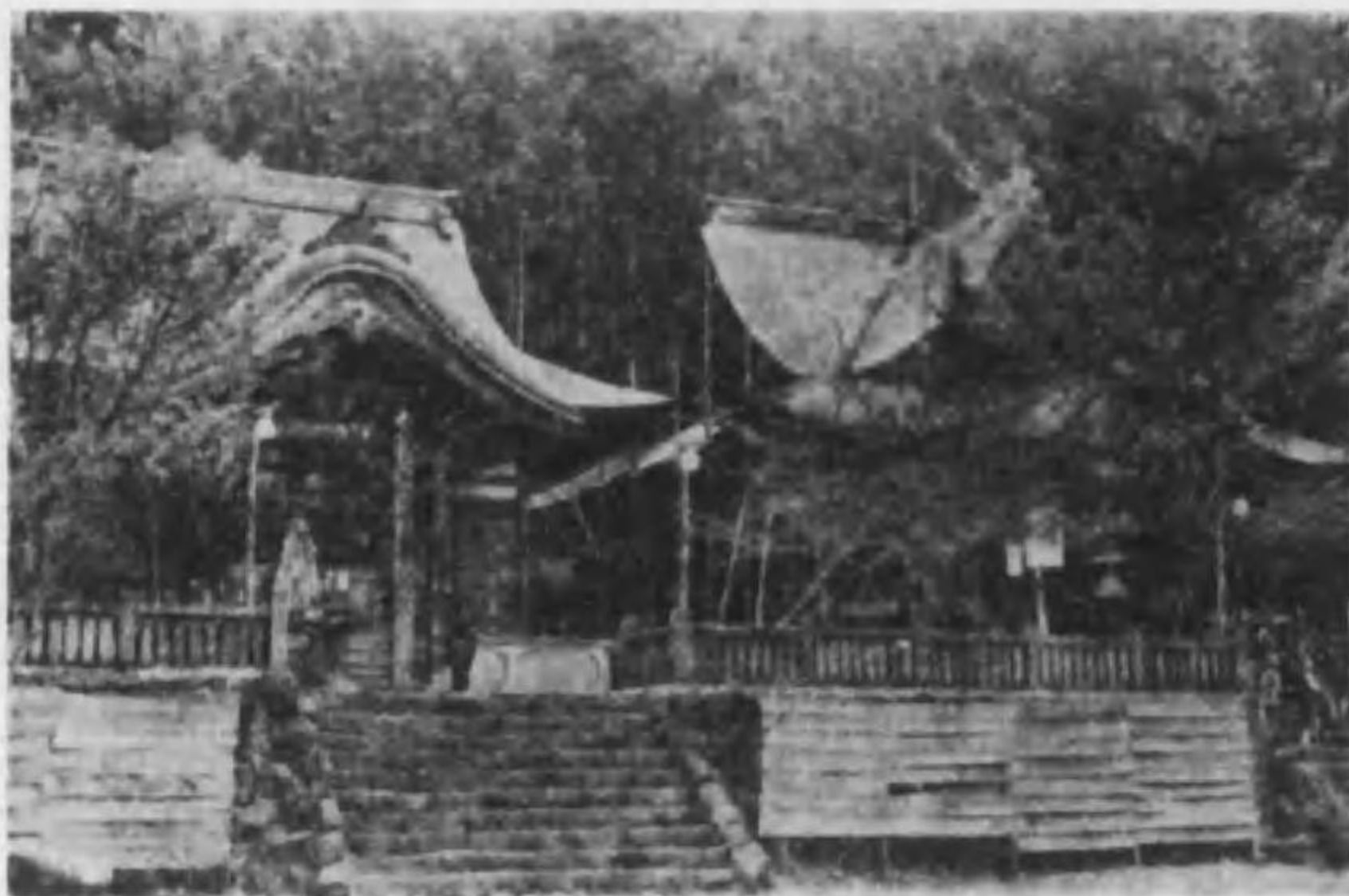
大乘院 高岡郡佐用町。

●天台宗寺門派。●草創年代詳ならず。●本尊木造藥師如來及び兩脇侍像三軀は國寶たり。寺傳行基作とあれど、何れも鎌倉期の作と推知さる。中尊は丈高二尺八寸二分、玉眼嵌入、右手屈臂し、左手首缺失、左手亦臂以下を失ふ。脇侍丈高三尺四寸餘あり。

清瀧寺 高岡郡高岡町。

●新義眞言宗豐山派。●豐王山鏡池院と號す。四國八十八所第三十五番札所たり。寺傳に據れば、養老年間、行基諸國巡錫の途、當地に一字を草創して豐山密院釋木寺と號し、自作藥師如來像を安置す。是れ當寺の靈廟なりと云ふ。弘仁年間、空海來りて之を中興す。貞觀三年、平城天皇第三皇子高岳眞如法親王入唐の途次、留錫あり、一歲にして蓮華寶塔を建立せらる。藩政時、國主山内氏の歸依厚く、寺領若干を附し且つ影堂を建立す。時に堂塔伽藍巍然として覺え、十數箇の末寺を擁する大刹たりき。明治二十年、暴風雨の爲め山崩に遭ひ、本堂倒壊せしが、近年再建成る。

●境内地六千餘坪、堂宇に本堂・大師堂・辨天堂・護摩堂・觀音堂・仁王門・茶堂・客殿・庫裡・行路病人收容所一棟等を具ふ。本尊木造藥師如來立像一軀は國寶たり。像の丈高五尺六寸、寺傳に行基作とあれども様式手法上藤原初期の作と推知す。但し今全身の影



(堂院大及堂本寺瀧清)

王建立と傳ふるものにして、高さ六尺、若色若然たり。●本尊會(一月八日、五月八日、九月八日)、御影供(三月二十日、二十一日、七月二十日、二十一日)。

青龍寺 高岡郡佐用町。

●新義眞言宗豐山派。●獨鈷山伊舍那院と號す。又摩尼山、龍寶山、赤木寺、光明法寺、如意寺、道場院等の別號あり。四國八十八所第三十六番札所たり。弘仁年間、空海の草創に係り、一山唐土青龍寺に擬せりと云ふ。正保年間、山内忠義是之再興して寺領を寄す。

●境内地約九百坪、寺城龍野丘上に位置し、堂宇に本堂・大師堂・聖天堂・藥師堂・護摩堂・客殿・庫裡・仁王門等を具ふ。本尊不動明王秘佛は俗に不動と稱へ、空海作と傳ふ。寺寶中、木造愛染明王坐像一軀は國寶たり。高さ三尺一寸五分、楠材を用ひ、鎌倉期の優作なり。寺城に七寶池、龍一本松等の遺蹟あり。山上奥ノ院は老樹鬱蒼として南海に面し、景趣殊に賞すべし。

●本尊會(舊一月二十八日、五月二十八日、九月二十八日)。

岩本寺 高岡郡窪川町窪川。

●新義眞言宗豐山派。●海井山五智院と號す。四國八十八所第三十七番札所たり。もて當町仕出原高岡神社の別當寺たりき。

雪蹊寺 吾川郡長濱町長濱。

●臨濟宗妙心寺派。●小林山或は高福山と號す。四國八十八所第三十三番札所たり。延祿年間、空海の草創に係り、初め眞言

宗を奉じて高福寺と號す。後ち運慶、湛慶の兩佛師堂内佛像を修補せしより靈應寺とも稱せり。天文年間、僧天室、南村梅軒に就きて此地に儒學を修め、南學師範の道場とせらるゝに至る。慶長年間、一時廢絶せしが、同四年五月十九日領主長曾我部元親伏見に奉するや、當寺を其菩提所と定め、遺骨を此地に移り、且つ盛觀自ら元親像を寫し南無佛の贊を加へて當寺に納む。又月峯を請じて中興の願とし、元親法號に因みて靈應寺と改號せしめ、寺額一百石を寄す。爾來現宗に屬す。後ち山内氏亦寺額を寄す。維新の際、一時廢絶し、本尊其他寺寶悉く五藏山竹林寺に移し、元親像のみ別に奉神社を興して之を祀りしが、明治十三年復興す。

●小林山麓に位し、瀬川に臨みて靈應寺橋を架す。境内地七百七十餘坪を有し、堂宇に本堂・大師堂・觀音堂・庫裡・客殿等あり。本尊木造靈應如來及び日光、月光兩脇侍像三軀(附、木造十二神將立像十軀)木造毘沙門天及び脇侍吉祥天、善風師童子立像三軀は、共に明治四十四年四月國寶に列す。本尊は高さ四尺六寸三分、寺傳に湛慶作と云ひ、現在肉髻白毫を粉失し、玉眼右方のみを遺す。脇侍は運慶作と稱せられ孰れも優秀の作、但し現在月光は實體、右手、兩足を缺き、日光は兩手臂より、寶髻、兩足先を缺く。十二神將も亦運慶作と傳へしが、十軀中九軀に胎内墨書銘ありて、文永十一年より建治二年に可なり數人の佛師に依りて製作され、應永二十六年修補ありしこと判明せり。姿態に變化あり、面相殊に精巧を極む。毘沙門天及び脇侍三軀亦孰れも運慶作と傳へ、刀法鋭勁、全體の構畫よく鎌倉期の優品とす。毘沙門天は夜叉を踏み、手足其地跌損多し。丈高五尺五寸六分、吉祥天は丈高二尺六寸三分、寶髻及び左手を缺く。脇侍は迦葉座上に立ち、善風師童子は丈高二尺三寸五分、兩脇のみづら、兩手首及び持物寶篋を缺失す。中尊左右納まり發見せし墨書銘に「中尊一體、兼吉祥天女禪尼師尊、以上三尊、法印大和尚湛慶云々」とあり。寺内に戸次川戦死者位牌堂あり。南方天甫山には元親墓所存し、其墓石に「慶長四年七月八日前羽林次將贈正五位雪隠忍三大禪定門護持大施主敬白」と刻す。

●新義眞言宗豐山派。本尾山末堂院と號し、四國八十八所第三十四番札所なり。舊くは風間寺と記せりと云ひ、古事談、十訓抄に見ゆる古刹たり。寺傳に聖德太子の草創にして、百濟佛工作樂師如來を本尊とすと云ふ。初め太子難波四天王寺草創の御、百濟國より佛工を迎へしが、造營の事了りて佛工歸途に就くや、難風に風ひて此地に漂着す。仍りて海路平安祈願の爲め樂師像を刻みて當寺を創し、太子を間基に奉すと云ふ。種間寺の號は、空海唐土傳來穀物の種子を此地に播ける故事に起ると傳ふ。貞觀年間、粟田道兼種子信實當國に配流せられし時、當寺を再興す。爾來其靈驗世に顯れ、村上天皇勅願所と定めらる。近世藩主山内忠義堂宇を改修す。●境内地六百坪にして、四國四面の本堂・三間四面の大師堂等を具ふ。本尊木造樂師如來坐像一軀は現に國寶にして、像の坐高四尺六寸、藤原期の作と推知せらる。●大般若會(二月二十一日、五月二十日)。

●新義眞言宗豐山派。八葉山末開持院と號し、通稱樂寺と呼ぶ。四國八十八所第三十二番札所なり。寺傳に、平城天皇大同二年、空海一字を創して自刻の十一面觀世音菩薩を安置す。是れ當寺の靈場なりと云ふ。●境内地七百餘坪にして、堂宇に本堂・大師堂・鐘樓・庫裡・仁王門等を具ふ。寺城海濱に時立せる丘峯上に在りて、山容天竺補陀落山に似たりと云ひ、既嘗最も住なる所を月見ヶ崎と呼ぶ。西南方近く浦戸港を控へ、舊藩時、藩主出帆の際必ず當寺觀音に海上安穩を祈願せしより、世に船魂觀音の稱あり。仁王門を右に下り老樹觀音たる邊り空海護摩修行の址と傳ふる護摩場あり。又寺後に福蛇毒蛇穴と稱するありて古來の傳説を説む。寺寶中、木造金剛力士立像二軀(仁王門安置)は共に國寶にして、阿像丈高四尺七寸、昨像丈高四尺八寸三分、彩色剥落し玉眼紛失す。寺傳に運慶作とすれども、昨金剛頭納に「願主藤月房、真慶、佛師定明、正應四年辛卯月日」との墨書銘ありて定明の作なること明かとなり。他に傳空海作十一面觀音像。徳治三年在銘鐘・文祿十三年銘鐺口等あり。曾て芭蕉の當山に遊びし際「木枯に岩吹き失る杉間かな」と詠じたりと云ふ。●御影供(二月二十一日)、觀音大祭(六月十七日)。

●境内地四千五百五十餘坪あり。堂宇に本堂・大師堂・愛染堂・護摩堂・地藏堂・藏守社・客殿・鐘樓・庫裡等を存す。本堂(文殊堂)は現に國寶建造物にして室町期の様式を傳ふ。堂は桁行五間、梁間五間、單層、屋根入母屋造、柿葺にして前面に一間の向拜を附し、軒二重扇垂木、組物は唐檜二手先詰組なり。内部外側は化粧屋根裏、内陣小椽格天井、中央鏡天井、内外素木造にして外観軒高く隅甚だしく尖削して一見唐様建築に屬し、且つ細部の繪彫彫刻等悉く唐様手法に依る。寺傳に行基創建後、空海修補、貞和二年足利尊氏修作、應仁二年義政造作、文明兵亂後再建、寛文二十年山内忠義大修營と云ふ。堂内に安置せる佛像中、現に國寶に列せられたるもの次の如し。本尊木造文殊菩薩及び侍者像五軀は何れも寺傳に行基作とあるも藤原時代の作にして、寶冠持物は後世の補作に係り、獅子は破損して別に之を保存す。本尊の丈高二尺、脇侍二尺五寸。木造大威徳明王像一軀は高さ五尺三寸八分、藤原末期作にして三目六臂六足、面相沈嚴、須髮頭に憤怒三面を戴き、左右に二面をつけ左足の一を屈して臥牛上に坐す。手法圓渾にして優作とす。木造多聞天、増長天立像二軀は寺傳最澄作、丈高三尺一寸、共に戴冠し藤原期の作なり。木造千手觀音立像一軀は寺傳に源信作とすれど、檢漆箔押、玉眼入像にして鎌倉期作なり。木造愛染明王坐像一軀は寺傳空海作とあれど鎌倉期手法を存す。木造樂師如來坐像一軀は坐高三尺三寸、寺傳春日作とし、藤原初期の作にして、現在木質朽腐して缺失の部分多し。木造十一面觀音立像一軀は丈高一尺六寸一分、藤原初期の作にして、左手前胸缺失、裾端厚の感深し。木造阿彌陀如來立像一軀は藤原期の優作にして刀法頗る明快、薄き法衣を透して豐滿なる肉體を窺ふべく、全體の構畫殊に優れたり。今

石之を擲けて當地に下り、五藏山に庵を結びて後江庵香海亭と稱せしに創まる。後ち覺海夫人之を聞き使を遣りて礎石を求めしむ。礎石已むなく鎌倉に入り、爾後當庵は法弟義堂、絶海二老相次で嗣法たり。足利氏之を過すこと頗る厚し。後小松天皇應永四年、諸役免除の輪旨を賜ふ。永祿年間、庵主忍性、南村梅軒の學派を受け信西堂或は如淵と號して宗安寺信西、雪隠寺天室と共に三隻の名あり。承應元年、山内一豐入國するに及び、湘南を請じて之を中興し、現寺號に改め寺額百三十石を寄す。當時純藏主(山崎開齋)來りて當寺に學べりと云ふ。維新後一時廢絶に遭ひ、寺寶等妙心寺大通院の所管たりしが、明治二十五年、少林踏雲之を再興す。●寺寶中、木造地藏菩薩坐像一軀は現に國寶にして寺傳に運慶作とあり。高さ三尺八寸七分、鎌倉中期作と推察せらる。他に本尊如意輪觀世音及び兩脇侍・後圓融天皇寫輪・夢窓疎石自刻像・同將來傳法衣・同拂子竹篋・同西來堂印・同筆勝傳額・同西來堂額・天曆十年藤原寺銘古鐘・山内一豐念持佛觀音像其他古文書等あり。當地は土佐第一の勝地にして、疎石自選に係る後江十景の勝跡今尙は昔日を思はしむ。寺内に伊達宗將、山内規重の墓あり。

●新義眞言宗豐山派。五藏山金色教院と號し、俗に土佐の文殊と云ふ。四國八十八所第三十一番札所なり。寺傳に、聖武天皇靈夢に感じさせ給ひ、行基に勅して山容大唐五藏山に似たる勝地に梵刹を建立せしめ給ふ。行基乃ち勅を奉じて諸國を遍歴し、神龜元年、當地に到りて一字を建立す。●境内地六百坪にして、四國四面の本堂・三間四面の大師堂等を具ふ。本尊木造樂師如來坐像一軀は現に國寶にして、像の坐高四尺六寸、藤原期の作と推知せらる。●大般若會(二月二十一日、五月二十日)。



(實圖) (堂本寺林竹)

●新義眞言宗豐山派。五藏山金色教院と號し、俗に土佐の文殊と云ふ。四國八十八所第三十一番札所なり。寺傳に、聖武天皇靈夢に感じさせ給ひ、行基に勅して山容大唐五藏山に似たる勝地に梵刹を建立せしめ給ふ。行基乃ち勅を奉じて諸國を遍歴し、神龜元年、當地に到りて一字を建立す。

●新義眞言宗豐山派。五藏山金色教院と號し、俗に土佐の文殊と云ふ。四國八十八所第三十一番札所なり。寺傳に、聖武天皇靈夢に感じさせ給ひ、行基に勅して山容大唐五藏山に似たる勝地に梵刹を建立せしめ給ふ。行基乃ち勅を奉じて諸國を遍歴し、神龜元年、當地に到りて一字を建立す。

兩手、左足首、右足先、鼻端等を缺失す。木造阿彌陀如來坐像一軀は高さ二尺八寸四分、鎌倉初期の作にして漆塗箔押像なり。木造釋迦如來像一軀は高さ一尺七寸五分、鎌倉期の作なり。木造勢至菩薩立像一軀は漆塗箔押、天冠は銅製にして華座は後世の修補に成る。寺傳春日作とし鎌倉初期の製作と推察せらる。木造馬頭觀音立像一軀は丈高三尺二寸六分、總身若色、玉眼入、頭上に馬頭を戴き、切髪天冠等を附し正前に化佛を安じ、三面三日月を戴はし、兩臂を屈して大法身印を結ぶ。面貌稍、過大なれど衣紋頗る特色あり。木造白衣觀音立像一軀は丈高三尺三寸三分、玉眼入、總身白衣を纏ふ。馬頭觀音と同一作者に成ると推察せらる。木造大日如來坐像一軀は鎌倉期作にして、寶冠に五佛を現し、九重座上に坐せる胎藏界大日なり。他に古佛・古文書・武具所藏等頗る多し。

分寺 (金光明四天) 長岡郡國府大字國分。

●新義眞言宗智山派。●摩尼山寶藏院と號す。四國八十八所第二十九番札所なり。天平年間、勅を奉じて行基の草創せし所にして、當國分寺なり。永祿元年、長曾我部元親金堂等を改造し、寛永十年、承應二年、明暦元年に百り山内氏之を重修す。寛文九年、國府總社を寺内に移す。●境内地六町四方あり。堂宇に本堂・金堂・仁王門・鐘樓等を具ふ。金堂は國分寺觀音堂と稱し、桁行五間、棟間六間、一間向拜附、單層、屋根四注連、栴井、軒は二重吹寄垂木、組物は和檜三ツ斗、内部入側は化粧屋根裏、内外素木造にして、永祿元年建立に係り、現に國寶建造物なり。堂の樣式室町末期の特徴を發揮し、外観稍々低きに過ぎたる憾あれど、却つて安定の委致あり。



(寶蹟) (堂金寺分國)

あり。内部床處拭板敷、其藤原時代式須彌壇は手法殊に古雅を極む。寺寶中、木造觀音如來立像二軀は共に國寶にして、一は丈高三尺三寸七分、藤原期の作に係り

十六善神四輪・國分寺瀧瓦平瓦等を藏す。書院方丈庭前に舊國分寺礎石を遺す。

豐樂寺 (樂師堂) 長岡郡西豐水村大字寺内。

●新義眞言宗智山派。●大田山大願院と號す。聖武天皇神龜元年、勅を奉じて行基の草創する所と云ふ。仁平元年、佐伯依次、紀恒忠、八木包相等の本願に依り再興し、釋迦如來像を刻みて樂師堂に安す。元龜年間、大風に遭ひて堂宇破損せしが、天正年間、長曾我部元親之を改修し、改めて四國總所定定め崇峻後からす。慶長十二年、山内一豐入國の翌年奇病に罹りしを、當寺に祈願して不癒せしより、供養田一町一段歩を寄せ代々の祈願所と定む。明治四年、土佐一國廢寺となりて荒廢し、續かに樂師堂一字を殘すのみなりしが、同十七年、寺名を再興して今日に及ぶ。

●境内地約一萬坪、堂宇に樂師堂・大師堂・大通夜殿・鐘樓等を具ふ。樂師堂(桁行五間、棟間五間、單層、屋根入母屋造、栴井)は現に國寶建造物にして、仁平元年の建立と傳へ、明治四十二年、大修理を加へらる。堂は段組石壇上に建ち、簡單なる組物にして、後世態度かの修理を経て外観を損せし點なきにあらざれど、構造簡素にして自由の氣あり。木割細細以て藤原時代の優雅の特質を表せるを見るべし。且つ内陣の前後の柱間を側柱間より短縮して、外陣を廣くせらるは、同時代建築に於ける珍奇の遺例として注目すべきものとす。堂内に安置せる本尊木造樂師如來坐像一軀(寺傳行基作、高さ四尺三寸九分、鎌倉時代作、光背五枚板身形、光心寶相華彩色)・木造阿彌陀如來坐像一軀(寺傳行基作、高さ四尺三寸九分、鎌倉期作)・同釋迦如

大日寺 香美郡佐古村大字母代寺。

●新義眞言宗智山派。●法界山高願院と號し、四國八十八所第二十八番札所なり。天平年間、行基の創建にして、弘仁年間、空海再興すと傳ふ。●堂宇に本堂・觀音堂等あり。寺寶中、本尊木造大日如來坐像一軀(高さ四尺八寸五分、寺傳行基作)・木造聖觀音立像一軀(觀音堂安置)は現に國寶に列し、共に藤原期の作なり。

觀音堂 香美郡山北村。

●新義眞言宗智山派。●寺傳に、聖武天皇神龜二年、勅願に依り行基之を開創し、本尊十一面觀音を安置して岩清水山觀音院惠日寺と號すと云ふ。元龜の頃、長曾我部元親大和國初瀬寺觀音堂に準じて天照大神、春日明神を當寺に祀る。明治六年廢寺となり、今觀音堂を殘すのみ。

●本尊木造十一面觀音立像一軀は丈高五尺四寸、總身若色、口唇朱彩、藤原期の作(寺傳行基作)にして徳川時代の銘あり。木造金剛界大日如來坐像・同胎藏界大日如來坐像各一軀は共に藤原時代の作にして高さ一尺七寸七分あり。木造毘沙門天立像一軀は、同じく藤原時代の作にして、丈高三尺四寸八分。以上四軀孰れも現に國寶たり。境内に乳銀香と稱するあり。寺傳に、開創當時本尊彫刻の木屑を地中に埋め行基祈願せしに忽ち銀香樹を生ずと云ふ。授乳の驗を以て敬信するもの多し。●本尊會(舊一月十七日)。

妙山寺 安藝郡安藝町。

●淨土宗西山派。●寺傳に應仁年間、人譽源道の開基にして本尊阿彌陀像を安置すとあり。明治四年、一時廢寺となり、同二十一年再興す。

●境内地六百坪あり。本堂は七間四面にして昭和七年夏の新築に係る。寺寶中、木造聖觀音立像一軀は現に國寶にして寺傳に運慶作とあり。丈高三尺一寸七分、樣式手法鎌倉時代の特色を存す。但し天衣は後世の補作に成る。

津照寺 津寺) 安藝郡宮戸町津津。

●新義眞言宗智山派。●寶珠山眞言院と號し、一に津寺と呼ぶ。四國八十八所第二十五番札所なり。空海の開創に係り、本尊に自作の地藏菩薩を安置すと傳ふ。●寺内に一木權兵衛政利の墓あり。政利は野中兼山に従ひて室戸津開墾に功あり、身を犠して海神に祈り港口の巨礁を碎きて及す。後ち里民其功を慕ひて當寺に建る。維新の際、碑を建て小社を興して是を祀り、一木神社とすと。

金剛頂寺 (西寺) 安藝郡宮戸町元。

●新義眞言宗智山派。●龍頭山光明院と號し、俗に西寺と云ふ。四國八十八所第二十六番札所なり。平城天皇大同年間、空海勅を奉じて最御崎寺と同時草創し、樂師如來及び日光月光兩脇侍、十二神將を安置すと云ふ。舊くは金剛定寺



(寶蹟) (堂觀衆寺豐豐)

來坐像一軀(胎内仁平元年八月四日云々銘、堂之同時代の作)と共に國寶にして、殊に樂師像は日本三樂師の一と稱せらる。他に十二夜叉・仁王像・四天王像等の古木像あり。堂の左に行基杖掛欄、同懸掛石等の遺跡存し、逆杉と稱する老木は一千餘年を経たるものと云ふ。●四大會式(舊一月八日、二月十五日、四月八日、七月五日、十六日)。

と稱す。平城天皇金剛頂尊を勧納あり、夫役免除の
給當を賜ふ。當時寺領三千五百石を附せられ、隆興、淳
和兩天皇の勅額あり。文明十一年、同縁の災に罹り
しが、直ちに復舊して、同十八年金堂新築に成り、根
來山道場を稱して大受茶羅供を修す。其後、領主長曾
我部氏の代、寺領七百石を寄せられ、寛永年間、藩主
山内氏堂宇を重修し改めて寺領百石を附せしが、維新
後寺勢衰へ、加ふるに明治三十二年の火災に罹りて什
寶等多くを失せり。明治四十二年以後、本堂、鐘樓、
仁王門の再建漸次成る。

●堂宇に本堂・觀音堂・多寶塔・鐘樓・客殿・庫裡・
仁王門等を現存す。寺寶中、木造阿彌陀如來坐像一軀・
銅鐘一口(以上明治四十四年八月指定)。板彫眞言八祖
像八面(大正三年四月指定)は共に國寶なり。阿彌陀
像は高さ二尺九寸三分、鎌倉初期の作にして、肉身の
箔は後世の修補に係れり。銅鐘は所謂朝鮮鐘の模式に
して、天地の縁に寶相華文様を寄れ、四天の縁には水
烟模様、各四天には三段九箇の乳あり、左右の樓座は
周圍玉縁、内部蓮華模様、其の左右に菩薩を配し、頗
る美觀なり。眞言八祖像は東寺七祖像の様式をとり、
空海の一像を加へ、牛肉彫に現せるものにして、竪二
尺七寸七分、横二尺、厚五分の板に隔刻し着色せり
(但し現在の着色は後世に成る)。各面裏に「土州金剛
頂尊塔、八祖師、高曆二年丁卯二月十二日、大願主西
寺別當法眼、謹刻、大佛師法眼定書」とあり。他に空
海入唐將來佛具及び經杖を藏せり。

神樂寺 安藝郡安田町唐ノ濱。

●古義眞言宗。
●竹林山と號す。四國八十八所第二十七番札所なり。

本尊に十一面觀音を安置す。古傳に、平城天皇大同
年間、空海草創の靈場にして申世神樂寺と號し、初め
現地より一里の所にありしが、元和年間、同縁の災に
遭ひて此地に移ると云ふ。

●今神樂神社境内に觀音堂一字を遺すのみ。山高く
登攀一里にして九折と稱するあり。古來電境と傳ふ。

最御崎寺 (東寺) 安藝郡宮戸町。

●新義眞言宗豐山派。
●宮戸山明星院と號し、俗に東寺と云ふ。四國八十
八所第二十四番札所なり。大同年間、空海の草創に係
る。時に隆興天皇の勅額所と定めらる。建武二年、藤
原兼光寺領を定め、境内放生禁斷の制を布く。曆應四
年、足利氏六十六基塔婆料を寄す。元和年間、住持最
勝の時、領主山内忠義外護者となりて大いに堂宇を修
し、寺領百二十石を附す。維新後荒廢に歸せしも、近
時多寶塔、仁王門、客殿等の再建漸次成り。

●境内五千三百六坪を有し、本堂・大師堂・護摩堂・
鐘守廟・聖天堂・夜叉堂・求聞持堂・多寶塔・仁王門
等を具ふ。寺寶中、國寶に列せられたるものを擧ぐれ
ば次の如し。木造樂師如來坐像一軀は藤原時代の作と
認めべく、高さ二尺八寸二分、陰謀箱押にして破損甚
だしく、兩臂及び左膝を缺失す。胎内に長享年九月
一日再興畫額を存せり。同月光菩薩立像一軀は藤原時
代の作、丈高三尺三寸五分、背面赤漆箱押、髮墨彫、
右手肩眉目より缺失、左手首、背面赤漆箱押。石造
如意輪觀音坐像一軀は高さ二尺七寸二分、我國唯一
の大石像として名高く、相製豐麗、衣紋瑩瑩の刀法
亦甚だ鮮かにして純唐朝式なり。恐らくは、これ渡來の
像なるべし。右手は鑿み去られしと云ふ。當山登口な

る清泉は空海加持水の跡と傳へ、傍に數層の石地蔵を
置く。俗に水掛地蔵と稱へ、空海修法の遺跡と云ふ。

●草創年次並に沿革詳ならず。
●寺寶中、木造不動明王立像一軀・同毘沙門天立像
一軀は共に國寶なり。前者は丈高三尺二寸六分、極彩
色像にして頂上八葉を戴き、持物は現在悉く之を缺失
す。光背に建曆三年癸酉二月三日甲戌の墨書銘あり。
以て鎌倉初期の作とす。後者は丈高三尺三寸二分、同
じく極彩色像、不動明王像と同時代の作と推知され、
更に優作たり。但し現在持物は悉く之を缺く。

北寺 (樂師堂) 安藝郡中山村大字別所。

●古義眞言宗。
●弘泉院と號す。大同年間、空海の草創に係ると傳
ふ。
●境内佛堂樂師堂安置の本尊木造樂師如來坐像一軀
及び寺寶中、木造釋迦如來立像・同菩薩形立像五軀・
同持國天立像一軀・同增長天立像一軀は總て國寶なり。
本尊樂師如來坐像は高さ一尺六寸二分、華座四重、以
て藤原末期の作とす。釋迦如來立像は丈高二尺一寸七
分、波狀を成して垂下せる衣紋に一種の形式を有し、
藤原期の作たり。但し現在手首を缺失せり。菩薩形立
像は弘仁期の作にして、様式二種に分れ、中一軀は光
背を有す。持國天、增長天兩像亦共に藤原期の作に係
る。但し現在增長天は右手臂以下を缺失す。
●繪日(舊一月十二日、九月十二日)。

九州地方

福岡縣

勝立寺 福岡市橋口町。

●日蓮宗。
●正興山、具には正法興隆山開啓勝立寺と號す。永
德元年、本成院日圓の開創にして、もご其後御川に在
り、松林山妙興寺と號す。慶長六年、檀頭に立花三河
守増時あり。黒田長政に仕へしが、本寺の眞蹟を藏せ、
住持日秀と謀りて之を博多に移す。時に京都妙覺寺唯
心院日忠來りて大いに切支丹の宗門を破す。同八年四
月二十五日、夜徒大いに激昂し、イルマン傳澤、イル
マン安部等を初め、二百餘人大舉して本寺を襲撃す。
黒田の臣島井吉重部下四十餘人を率ゐて是れを警護に
任じ、日忠乃ち自他墳墓の中に避難して遂に是れ
を脱罪す。太守長政其功を賞し、切支丹宗徒の殿閣を
寄せ、宗論に勝利を得しに因みて正法興隆山開啓勝立
寺の號を下す。現正興山勝立寺は即ち其略稱なり。
●堂前の柱礎に「切支丹對治靈場」並に「依君命賜寺
山號」と掲ぐ。

極樂寺 福岡市極樂寺町。

●淨土宗。

●清光山と號す。創建年代不詳。初め當國名島に在
り、果渡院と稱す。後ち荒廢せしを、名島太守小早川
隆景是れを再興し、鞍手郡宮田村極樂寺の行明を請じ
て中興開山とし、現稱に改む。慶長六年、黒田長政福
岡城築造の時、住持天譽、これを現地に移建す。正保二
年三月十六日、長政の次女龜子(池田右近大夫輝興の
妻)逝去して、東武天德寺に葬り、清光院天譽珠英大
法尼と諡し、翌年其墓壙を當寺に設け、寺領五十石を
附して善華院とす。依りて山號を清光山と改め、以て
今日に至る。

金龍寺 (妙清地蔵) 福岡市西町。

●曹洞宗。
●耕雲山と號し、俗に妙清地蔵の名を以て著る。初
め荒戸山に在りしが、慶安二年、住侶家道の時、國主
黒田右衛門忠之、荒戸山に東照權現祠を造營するに就
き地を寄せて現地に移建せしむ。
●境内二千五百四十坪、本堂・庫裡其他を具ふ。境
内に地蔵堂あり、里人妙清地蔵と稱す。妙清は韓國の
婦人、文祿征韓の役の際し、黒田長政の臣林掃部、朝
鮮より從ひ來る。成長の後掃部の下婢となりしが、
掃部死去するや、當寺に入りて剃髮し、妙清と號して
其菩提を争ひ、庵の傍に石の地蔵尊を遺立し、以て埋
骨の所と定む。近年表座の信仰厚く、當地の有志、子
孫林直康と圖り、大破せし堂宇を再建す。

承天寺 福岡市上辻ノ堂町。

●臨濟宗東福寺派。

●仁治二年五月、神興(聖一國師)宋より歸朝し、翌
三年、宋の臺南謝國明の請に依り當寺を創す。時に其
師無準師範(佛鑑禪師)承天禪寺號を自書し、諸堂の額
牌と共に本寺に寄す。翌寛元元年、官寺に列す。當時
伽藍宏壯、寺城廣潤にして、塔頭四十三院を有し、寺
門隆盛を極む。正平十年、征西將軍懷良親王、當寺に
入り給ひ、征西府を此處に奠めらる。當寺亦大いに動
王に盡す所あり。康暦二年、勅命により天下五山十刹
の寺格に陞せらる。後ち天文二年十一月、大内氏領主
たりし時、當國郡野馬、高宮、平原の三所並に肥
前國神崎郡の内百町の地を先規に任せて寺領となす。
文祿四年、豐臣秀吉、寺領三百石を附せしが、小早川
秀秋の時、之を百石に減す。近世數度の兵燹に罹りて
住持の盛衰なしと雖も、尚ほ九州に於ける一巨刹たり。

●境内一萬三千坪、佛殿(覺皇殿)・方丈・開山堂・勅
使門等大小二十六棟を連ぬ。寺寶中、木造釋迦如來
及び兩脇侍像三軀(覺皇殿安置)・絹本着色釋家六祖像
六幅・銅鐘一口は國寶に指定せらる。釋迦三尊像中、
中尊は丈高二尺八寸七分の坐像、脇侍は三尺九寸六分
の立像にして、衣紋流麗、寫實味に富みし鎌倉時代の
作なり。六祖像は寺傳に無準筆と稱するも確證無し。
宋僧子雲の贊あり、裏書に建曆七年九月十七日、博多
住谷氏施人の由を記す。銅鐘は朝鮮鐘の様式を有し、
高さ二尺七寸五分、口径一尺四寸五分、清寧十一年乙
巳年三月日(高麗文宗十九年)に鑄造せられ、後ち我國
に傳へ、明應七年、既に當寺の所有たりし事、古銘並
に追刻によりて知らる。

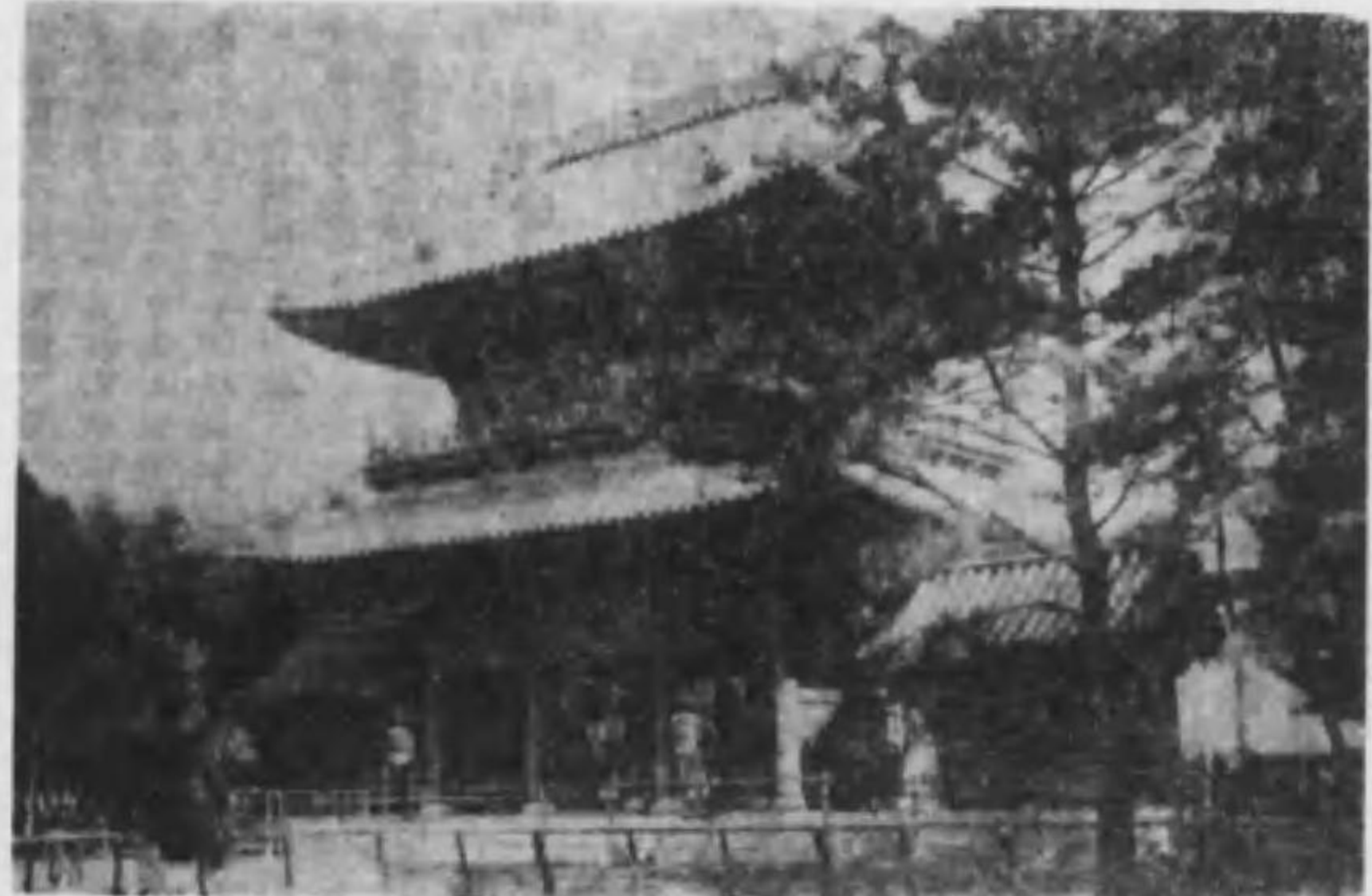
●風經(一月十一日)當時八幡宮に於て修す、眞讀大
般若會(六月五日より一週間)、開山忌(十一月十六日、
十七日)。

福 寺

福岡市御供所町。

臨濟宗妙心寺派。安國山と號し、我國臨濟宗最初傳來場として著る。建久六年、源賴朝の開創に係り、開山は宗祖榮西なり。初め、建久二年、榮西より歸朝し、同六年六月、賴朝に請ひて博多百堂(宋人の建設)の故址に就きて一字を創せんとす。次で造營の工に着手し、元久元年、大伽藍成り、後鳥羽上皇、扶桑最初禪窟の勅額を賜ふ。應永四年、十刹の第三位に列し關西の第一山と稱せらる。其後寺堂朽爛せしを、正平十年、三十三世無隱法師是れが再興の工を起し、同二十二年落成す。然るに室町時代戦亂相繼ぎ、永祿六年、其災に罹りて再び荒廢に歸す。同十一年、耳峯玄然本寺に入り、精修經營し、元龜元年、諸堂を再興す。天正十四年、三度兵燹に罹りて灰燼に歸す。翌十五年、小早川隆景國守となるや、耳峯の遺風を慕ひ、同十七年、先づ方丈を建立し、次で名島城中の舊門を移設して總門となし、其他法堂、佛殿、三門、僧堂、鐘樓等を再興して略ぼ舊觀に復せしめ、且つ春日付の莊田三百石を寄せて寺領となす。仍りて耳峯を兩度中興の祖と稱す。文祿四年、秀吉、三宅村に於て更に二百石を寄せ、計五百石を領せしが、小早川秀秋之を二百石に減す。慶長五年、黒田長政入國するや、また春日付に於て二百石を寄附す。爾來次第に現在の堂宇成る。往時子院三十八を數へしが、後ち漸次廢絶して現に護聖院、圓覺寺、幻住庵、天福寺、順心庵、節信院、瑞應庵の七箇院を有す。現に當派別格寺にして末寺に戒壇院、徳門寺、勝樂寺、長性寺、莊嚴寺、龍松寺、常樂寺、光國寺、清谷寺、東林寺の十箇寺を統ぶ。

境内三萬餘坪、博多の東南偏、比惠川畔に位置し、本堂・佛殿・山門・庫裡・禪堂・經藏・開山堂・鐘樓・總門等を具備す。寺寶中、絹本着色大聖師像一幅、同高峯斷崖中峯和尚像一幅及び銅鐘一口は現に國寶たり。



(門山寺福福)

其中、大聖師像は二幅一補、金銀泥、胡粉並びに淡彩色を施せし身像にして、慶元戊午華嚴宗派の遺蹟存し、以て其製作年代を推知すべし。高峯斷崖中峯和尚像は淡彩墨畫にして、比丘文康の贊あり。銅鐘

は朝鮮鐘の形式を具へ、周圍に佛菩薩諸天雲中舞樂の様を鑄出し、捲座二箇中に鳳凰を現はす。圓筒の古銘既に列じ難きも六つの追刻を有し、其一によりて天文十七年七月、小早川隆景の寄進に係るものなる事を知る。他に後鳥羽上皇宸翰二幅・開山宗造營申狀一幅・源賴朝消息一幅・開山野來飯塔一基・佛唐壽十六菩薩像一幅・若芝筆觀音、善財童子、變瑞龍女像三幅、同筆十八羅漢像十八幅・發願品古銅一口・同古鏡三面、其他古文書十數通等を藏す。

東長寺

福岡市上小山町。

古義真言宗。南岳山と號し、御室末なり。大同元年、空海唐より歸朝の際、博多津に馬を留め、本寺を創建す。云ふ。我國密教最初の創創と稱し、初め大水道(今榮町)に在りて、境内方四町、伽藍宏壯を極めしが、降りて永祿年中、兵燹に罹り、現地に再建す。後ち藩主黒田光之、寺額三百石、山林十五萬坪を寄附し、更に宏大なる堂宇を造營す。安永九年、御室總法務宮深仁法親王、本寺へ寛平法皇の尊影を納め給ひ、永世御影供修行の誓言を賜ふ。

大 乘 寺

福岡市大乘寺前町。

古義真言宗。御室末なり。創建年代不詳。もと長宮院と號し、律宗西大寺末なりしが、正保元年に至り黒田忠之申興す。護摩堂安置の木造不動明王立像一幅は國寶なり。丈高三尺一寸、木身胡粉塗にして刀法頗る精緻、衣紋の施法巧妙なり。面相稍々沈鬱にして、兩胸先端を失ふ。近年垂下せる臂を補作す。他に徑一寸三分の寶珠を藏す。

萬 行 寺

福岡市祇園町。

真宗本願寺派。天文年中、性空の開創なりと云ふ。性空は山城宇治の人、初め七里集人と稱せしが、出塵の志を達し、當地善賢堂町に一字を創して化導に従ふ。是れ本寺の濫觴とす。第二世理慶、寺基を馬場新町に移せしが、寛文中、更に之を現地に三轉す。文政年間、益龍勤學入住し、寺内に學寮を興して後進の誘掖に力む。慶應元年、七里恒順住持となり大いに雄化を垂れ、四隣を風靡す。近世鎮内に於ける眞宗一派の嚆矢たり。

藥 福 寺

福岡市字千代松原。

臨濟宗大徳寺派。横山と號す。仁治二年、筑前の僧法澄の開創に係り、開山は南浦紹明(大應國師)なり。初め稱圓(聖一國師)宋より歸朝して博多に上陸するや、漢書一字を

東 光 院

福岡市大字聖橋。

古義真言宗。御室末なり。具には聖橋山東光院樂王寺と稱す。中世荒廢せしを、應永二十年、今川貞世入國するや、之を再興し、本尊日光月光十二神將等を修補す。天文五年、沙門道教諸堂を修造し、一時眞宗を奉ぜしが、寛永末年、黒田氏寺院僧坊を再興し眞言宗に改む。

正 覺 寺

福岡市大字東油山。

臨濟宗東福寺派。東油山と號す。寺傳に敏達天皇御宇、天竺歸化僧清賢勳によりて之を草創すと傳ふ。當時七百二十坊並に七堂伽藍を具備し、現今の早良郡、肥前神埼郡の内十二萬石の寺領を有せしと傳ふ。其後、行基、清賢の遺蹟を訪れて當山に來ると云ふ。後ち聖光房辨長當山に於て淨土門を宣揚せしが、東福寺の平田慈均來住するに及び現宗となり、また七百二十箇寺の總司配たり。天正年間、肥前護國寺隆信と領地を争ひ、其兵燹に罹りて、寺坊灰燼に歸す。其後再建を遂ぐるも、往時の盛觀に及ばず。

●観音堂・拜殿・客殿・玄關・庫裡・鐘樓堂・山門等を具ふ。本尊千手観音は清賀の作と傳ふ。又寺傳行基作木造聖観音坐像一軀は國寶なり。丈高二尺五寸八分、總身長三寸、製作精巧なる鎌倉時代の作なり。其他に不動明王・毘沙門天・龍樹権現等の木像を蔵す。因みに東油山の名は清賀本朝に燈油製法を傳へ、當山に於て製せしに因ると云ふ。現に油槽の化石を稱するものを殘存す。寺地附近一帶は福岡市近郊の遊覽地にして縣内公園指定地なり。

無量寺

久留米市本町。

浄土宗

●寛永三年、來譽萬哲の開創と傳ふ。

●木造阿彌陀如来立像一軀は國寶なり。今肉體のみ腐朽し他は比較的完形を存す。上品中生の印を結び、面相圓滿、姿態優麗なり。寺傳に運慶作と云へど製作年代は寧ろそれ以前に屬し、藤原末期と見らる。

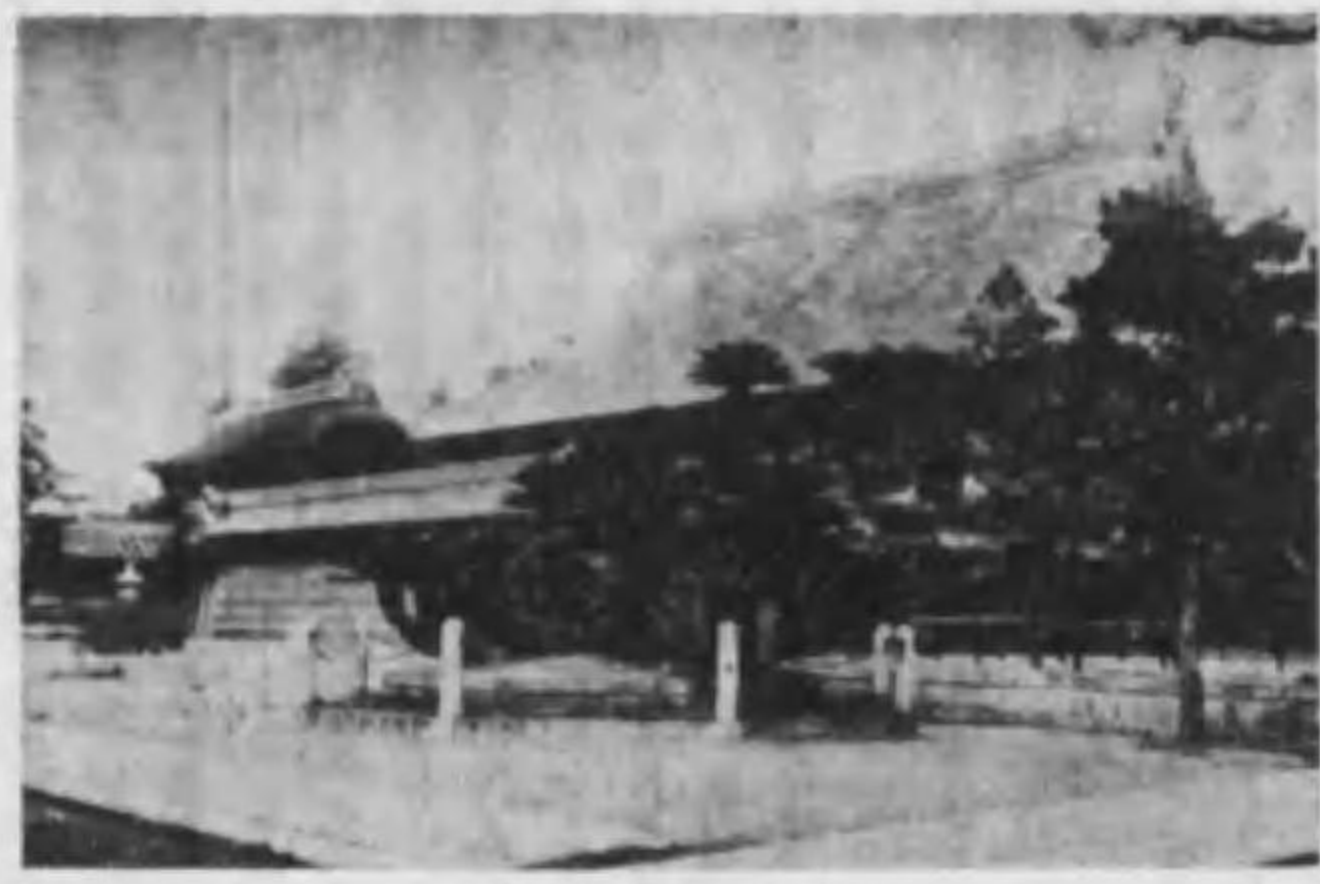
梅林寺

久留米市京町。

臨濟宗妙心寺派

●江南山と號す。湘山の開創に係り、開山は西門なりと云ふ。初め丹波國福知山に在りて瑞巖寺と號せしが、元和七年、城主有馬豊氏、福知山より久留米城に移るや、是れを城側江南山に移して大龍寺と改め、寺額百五十石を附して其菩提所となす。後寺院を先考則願の法號に依り、梅林寺と改め、更に寺額二百石を加増す。明治十五年、境内に三十三所觀音を安置し、次で梅林學堂を設けて靈水を提揚す。現に當派別格寺

にして、靈巖寺、妙光寺、長福寺、大日寺、大安寺、長法寺、普濟寺、少林寺等の末寺を有す。



(景全寺林梅)

●寺境幽邃にして、筑後川に瀕し、また古來梅花の名所として著聞す。堂宇宏壯を極め本尊如意輪觀音を安置す。寺寶中、絹本着色釋迦三尊像一軀は國寶たり。彩色畫、藏金を施し、描線主として鐵線に成り、各尊の面相に古趣を存するも鎌倉末期の作なるべし。其他佛像・經文・古文書等を蔵す。寺内に有馬氏歴代の墳墓あり。

永照寺

小倉市米町。

眞宗本願寺派

●俗に御坊と云ふ。明應四年、蓮如の弟子道詮の開創なり。道詮、仲津郡今井村の人、俗姓を村上道定と稱せしが、蓮如に歸依して道詮と改め、明應四年、京曹洞宗。

梅岳寺

糟屋郡立花村大字立花口。

曹洞宗

●立花山と號す。元中二年の開創に係り、初め花谷山神宮寺と稱せしが、天正三年三月二十三日、立花城主戸次丹後守繼連の母養孝院を當山に埋葬し、其法號に因り、立花山養孝院と改め、精庵を住持たらしむ。天正十三年九月十一日、慶應卒するや、亦當山に葬り、福嚴寺殿梅岳道雪と號す。其養子統虎の時、筑後柳川城に徙る。本寺亦同地に移り後福嚴寺と改稱す。然れども、當地は兩靈埋葬の地たるを以て尙ほ其舊稱を留め置しが、元禄十年、筑前太守黒田綱政の室立花氏、當山を再興し、加賀大乗寺の山名を請じて中興開山とし、立花山梅岳寺と改めたりと云ふ。

眞宗本願寺派

●本尊木造聖観音像は丈七寸五分、恵心僧都の作と傳ふ。寺寶として達磨大師像(丈八寸、厨子入黒彩色運慶作)、釋迦如来坐像・立花道雪木像・同畫像・卍山禪師像(大仙院殿筆)、九條袈裟・雲形小鐘・金剛經・古文書二通等を蔵す。本堂の左方に道雪の巨碑あり、明治十七年、舊柳川藩士の建設に係る。

西徳寺

直方市山部。

眞宗本願寺派

●覺音山と號す。慶長年中、西徳是照の開創に係る。是照、もと當國名島城主小早川秀秋の老臣にして、篠田次郎衛門重英と號せしが、秀秋没後、此地(東蓮寺村)に來り、齋齎して西徳是照と號し、一庵を結びて西徳坊と稱す。是れ本寺の濫觴なり。寛永十三年、國主黒田長政の三男東市正隆政、當地の御館山に城を築くに方り、本堂、庫裡其他を新築し、同十七年二月二日、本願寺より寺號公稱を許さる。仍りて隆政を中興とす。

●本尊阿彌陀如来は聖徳太子の作と傳へ、一木三體の尊像と稱す。

眞宗本願寺派

●臨濟宗大徳寺派。

興聖寺

宗像郡田島村大字田島。

●舊く香正寺に作る。創建年代不詳。一筆一切經にて著名なる色定は本寺の住僧なり。田島の座主兼祐の男にして、字を真祐と云ひ榮西の俗弟なり。七歳出家して真印學頭に師事す。文治三年、二十九歳の時、法華四功徳の文を誦して感あり、一切經書寫の大願を發す。先づ華嚴經に筆を起し、爾來諸州を周遊しつゝ、名山靈地の淨水を以て寫經に従事し、更に宋地に渡り、居

る。こと十有餘年、大威經に精通して歸東す。後當寺に住し、承元元年に坐り、漸く一人一筆にて五千四百八卷書寫の功を畢る。此間貢に四十有二年なり。宗像社大宮司宗像氏、色定と雅好あり、嗣時に色定堂及び色定一切經藏を建て、延請す。寛喜三年(仁治二年)歿す。

●本堂内に色定法師自作木像を安置す。像の背に「大日本國西筑前、宗像第一宮座主色定法師一切經律論一筆書寫行人、仁治二年十二月九日刻之、大年十一月六日已刻入滅、勳進僧榮藏」と墨書せり。色定筆一切經は其内四百四十八卷年久しくして虫蝕紛失し、餘四千六百卷ありしが、元禄十五年の洪水に千二百卷浸水し、其中二百三十卷破損せり。延享三年、郡代大森善左衛門の調査にては四千五百卷現存とす。明治六年神佛分離の際、宗像社より當寺土藏に移納す。明治四十四年博多人山崎藤四郎及び其後の調査に依れば四千三百卷許り存すと云ふ。又境内に色定の墓あり。



(寺聖興)

眞宗本願寺派

●古義眞言宗。

●屏風山と號し、御室末なり。もと宗像神社の神宮

眞宗本願寺派

●眞宗本願寺派。

●魚石ありて、「雲深處」の三字を刻す。又山中に開山所遺の八景あり。不老峯、足立峯、鐘應城、吐月嶺、豐田洋、白鷺洲、大観海、文字園はれなり。

眞宗本願寺派

●眞宗本願寺派。

眞宗本願寺派

●眞宗本願寺派。

寺たり。弘仁年中、皇鑑の開基に係り、時の郡領宗像大宮司長氏寺地を施入し、堂舎を建立し五社の本地佛を安置し鎮護國家の道場とす。第二十六世仁秀の後に嗣法絶え、爾後山伏の管領に歸す。慶安三年、昌傳當寺を再興して御室末とす。

●本堂安置の五社本地五佛は製作極めて巧妙なる大木像なり。又唐筆と傳ふる金胎兩部茶室二幅あり。尙ほ文永二年の太政官符を藏す。境内石佛石碑存す。曾て平清盛唐土青玉山へ黄金三千兩を寄附せし事あり。其後、唐土より其遺蹟として大藏經及び石佛、石碑を贈りしも、時に平家既亡びて源氏の世となり受者なかりしより、藏經石佛を宗像神社に納め、石碑を附近に建設す。後、藏經は慶長年中、國主黒田長政是れを日光東照宮へ奉納し、石佛は初め學頭屋舖の岩屋内に在りしが、寛文年中、宗像神社に移し、雄新の摩石碑と共に再び當寺に移したりと云ふ。石碑の長さ四尺八寸、横二尺五寸、厚さ九寸、彌陀の像を右面に彫刻し、其上に四十八願の要文を刻す。背面に阿彌陀經の全文を彫出せり。何人の筆なるか不詳なるも書體恰好にして近隣の編者これを楷本として愛玩す。

吉祥寺 遠賀郡香月町香月。

●浄土宗。●誕生山と號す。當宗鎮西派の始祖聖光房辨長の誕生地たるを以て著る。辨長、應保二年五月六日、香月城主香月氏の家臣古川權正左衛門則茂(順業)の子として此地に生ると云ふ。香月氏の衰運と共に、當寺又頽廢せしが、文明十五年、香月七郎太夫與則之を再興す。●堂内に辨長の木像を安置す。また辨長其母の慈恵に報いんがため彫刻せし阿彌陀佛像を安す。世に報

帶の彌陀と稱す。境内に辨長の墓及び香月氏累代の墳墓存す。辨長所造の栴圓、存陀製華池等ありて、世に知らる。

長谷寺(觀音堂) 鞍手郡西川村大字長谷。

●浄土宗。●龜甲山と號し、單に觀音堂と稱す。相模國鎌倉及び大和國の長谷寺と共に日本三長谷寺と稱せらる。寺傳に養老五年春、行基、先に遠道作大和長谷寺觀音に擬して二體の佛像を手刻せしが、仁和元年春、空海の法弟萬葉其中一體を奉持して西海に來り、此地を下して一字を建立し尊像を安置して龜甲山長谷寺と號す。是れ本寺の遺蹟なりと云ふ。時に天皇の尊崇厚く美田若千を賜はり、堂園莊嚴なりしが、延喜年中、回祿の災に罹り本尊を除きて堂舎悉く烏有に歸す。後、黒田長政領主となるや、五百餘石の地と數千坪の山林を寄せ、寺運再び興隆す。其後、盛衰ありて今は一小堂宇を存するのみ。●本尊木造十一面觀音立像一軀は寺傳に行基作と傳へ現に國寶に指定せらる。丈高五尺七寸九分、肉髯の直立像にして頭部に化佛十箇を置き、衣紋左右均齊に彫刻し、姿態に剛健味あり、弘仁期の作とす。

圓清寺 鞍手郡創村大字中山。

●浄土宗。●慶長年間、深雪の創建に係る。明治二十一年、淵聖現今の堂宇を再興す。●觀音堂、庫裡等あり。寺寶中、木造不動明王及び二童子像三軀は國寶に指定せらる。中尊不動像は高

清水寺 鞍手郡中村大字馬丸。

●古義眞言宗。●青龍山千手院と號す。現に御室末にして當國第二十二番札所たり。天平年中、行基の開創に係り、聖武天皇の勅願所とす。爾來寺運隆昌に赴き、山内に十二坊を有し、地頭宗像大宮司より、數多の寺領山林を寄附せられしが、天文十年、兵燹に罹り、境内荒土と化せしが、豐前國田川郡宗興國寺元壽、本堂を再建し、慶長年中、其法弟榮算是れを再興して御室仁和寺に屬せしむ。故に之を中興開山とす。●堂宇として本堂・庫裡・客殿・大師堂・通夜堂・鐘樓・本門等を具ふ。

駒嶽寺 嘉穂郡大隈町。

●曹洞宗。●聖壽山と號す。水鏡年中、豐前國今井村淨喜寺住侶某、此地に來り一字を創せしが、後、淨喜寺に復歸す。慶長年中、黒田長政の臣後藤又兵衛基次、大隈城に入るや、亡母水忠大姉菩提のため之を再興し、水忠寺と稱し、本郡磯井村水泉寺四世文叟を請じて開山とす。後、基次、黒田家を去るや、當寺亦寺領を失ひ、廢刹となる。而して此地は母里但馬友信の所領となり、元

和元年六月六日、友信没するや、當山舊址に發り、嗣新昭仁と號す。其子左近友晴、父遺願のため堂宇を再建し、聖壽山駒嶽寺と改め、再び文叟を請じて開山となし、寺田五段歩、藏米三人扶持を附して其菩提所となせり。●本堂・庫裡・玄關・禮察・觀音堂・鐘樓・本門等を具備し、又母里氏の廟あり。

本誓寺 嘉穂郡幸袋町庄司。

●浄土宗。●信白山白旗院と號す。筑前三方丈の一、天平年中の創建なりと云ふ。建久二年、當宗鎮西派始祖辨長(大福正宗國師)之を中興す。往古より代々の國司及び徳川氏、黒田氏、浦上氏等の歸依厚く、天文、永祿、寶曆、明和各年間諸堂を再興し、堂宇整備せしが、明治二十三年六月、祝融に罹り、同二十九年、二十九世壇譽光瑞、現今の諸堂を再建す。依りて之を中興開山とす。現に末院十五箇寺及び近傍に十二坊を有せり。●境内廣瀨、本堂・庫裡・大方丈・書院・開山堂・開羅殿・御靈屋・寶庫・鐘樓・表門等あり。本尊阿彌陀如來は信心僧部の作なりと稱す。寺寶として開山國師に關するもの多く、他に信心僧部來迎彌陀畫像・聖德太子筆六字名號・同作千佛一體等を藏せり。

安國寺 嘉穂郡山田町下山田。

●天台宗。●白馬山景福院と號し、歷應二年、足利氏創建に係る一國一所の勸願寺の一なり。初め七堂伽藍悉く具備し寺觀盛大なりしが、文安四年春、回祿に罹り潰滅す。

明園寺 嘉穂郡大分村大字大分。

●眞宗本願寺派。●光瑞山僧正院と號す。最澄の高弟徳圓の開創とす。當時、天台宗を奉じ、妙義山長樂寺と稱し、七堂伽藍十二支坊を具へ、寺門隆昌を極め、代々大分八幡宮の別當職たりき。文明年中、七十二代眞藏の代、本願寺八世徳如に歸依し、明園房願誓の法號を附せらる。因りて現稱に改め、眞宗の寺刹とす。●境内千八百坪、本堂は八間四面なり。寺寶として法然筆六字名號・同作聖德太子木像・觀覽筆六字名號・蓮如筆名號等を藏す。

南淋寺 朝倉郡宮野村大字宮野。

●古義眞言宗。●醫王山と號し、舊く南淋寺に作る。御室仁和寺に屬し、博多東長寺を本寺とす。大同元年四月八日、最澄の開創に係り、もこ上座郡長瀨の庄に在りて天台宗に屬せしと云ふ。貞和二年四月八日、現地に移り、同時に曹洞宗に轉す。慶安元年、更に眞言宗に改めて今日に至る。

●境内六百坪、堂宇には本堂・庫裡・客殿等あり。本尊木造藥師如來坐像一軀は丈高二尺三寸四分、面相端嚴、然も威嚴あり、姿態齊美にして、細部の刀法また精巧、衣紋の施攝に一種の特色あり。藤原初期の作

圓清寺 朝倉郡志波村。

●曹洞宗。●龍光山と號す。大同四年、筑後國御原郡本郷領主三原正眞吉の建立にして開山は無方なりとす。當時金鳥山金應寺と號し、本尊聖觀音を安置せしが、寛正年中、洪水に依り境内崩壊して廢刹となり、たゞ本尊のみ草堂に安置せり。慶長十二年、黒田孝高の老臣栗山備後守利安、主事高菩提の爲めに一字を建立し、右觀音を本尊となし、山寺號を今の如く改む。●寺寶中、銅鐘一口は國寶に指定せらる。高さ三尺三寸八分、朝鮮鐵の鑄式を具へ、裝飾文様極めて精緻にして西方藝術の影響を認む。寺内に栗山備後守利安の墓あり。

普門院 朝倉郡志波村。

●古義眞言宗。●廣大山觀音寺と號し、大覺寺末なり。麻氏瓦布神嗣當神宮寺たりき。天平十九年三月、聖武天皇の勸願により、行基の開創に係ると傳ふ。●境内四百四十六坪、本堂は方六間、單層、屋根寶

形造、本瓦葺、鎌倉時代の建築にして、國寶建造物たり。本尊木造十一面觀音立像一軀は行基の作と稱し、丈高五尺六寸五分、面相豐滿端嚴にして、弘仁期の作、現に國寶に指定せらる。

國分寺 筑紫郡水城村大字國分。

●古義眞言宗。●龍頭光山と號し、御室末なり。聖武天皇勅願により天平九年三月の創立にして、一國一字の名譽たり。當時、七堂伽藍、千院四十九坊を具へ、境内方八町、寺領千六百餘石を有せり。其後屢次兵燹に罹り、堂塔坊舎焼亡し、殆ど廢絶に歸せん。時に武州の國修行者此地に來り、古名刹の廢墟を情みて小庵を結び、之を再興す。其後元文年間、後了、國中に勸募して小堂を建立す。次で天明年間、住僧忍龍大いに寺門を營繕し、又黒田美作之助の援を得て田圃を購求し、以て寺産をす。明治二十四年に至り、住僧崇善、地方有志を勤め、本堂を再建し、坊舎を修理し、寺觀を改め、國分寺の寺號を傳ふ。

●本堂・庫裡・觀音堂・鐘守・寶篋印塔・山門・大師堂等あり。寺寶中、木造樂師如來坐像一軀は國寶に指定せらる。高さ六尺九寸、幅三尺一寸、頭二尺七寸、膝幅四尺九寸五分にして、首髪に首冠を戴き、定印を結ぶ。全身衣を纏ひ胸部のみを露出す。衣紋の施法形式的に整ひ、鎌倉末期の作たり。附近に講堂、大塔の舊礎を存す。又西方一町許に國分尼寺址あり。

戒壇院 筑紫郡水城村大字觀世音寺。

●臨濟宗妙心寺派。

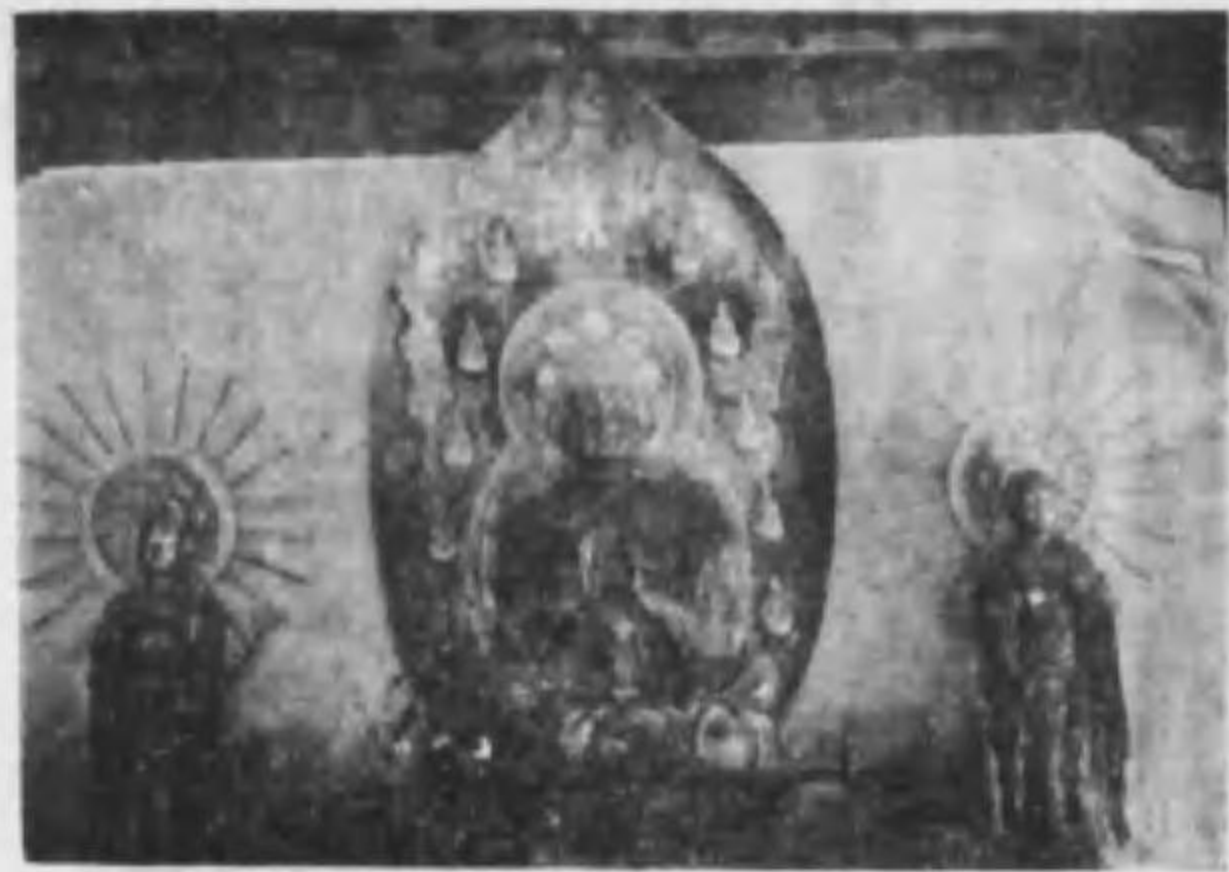
實中、國寶に列せらるものは左記の如し。即ち本堂安置の諸尊甲、本尊木造觀音坐像一軀は丈高八尺五寸、面相端嚴にして形法端雅、衣紋流麗なり。藤原時代の作にして、寛永年間の修理を經たり。同觀音立像一軀は四尺五寸、容姿均齊し、温容の面相を有し、刀法頗る巧緻、衣紋亦流麗にして、同様に藤原時代の作、本寺諸佛像中最傑作と稱せらる。同不空絹索觀音立像一軀は丈高八尺にして、胎内銘に據れば本像は天武天皇御願の地像なりしが、承久三年七月十二日夜俄に顛倒破砕せしため、貞應元年八月十四日、大佛師藤原小佛師長尊これを造るにあり、補材一木彫成、鎌倉中期の作なるも藤原式の趣致を存す。大正元年より同四年に亘る大修理の際、佛體中より紺紙金泥法華經第七卷及び長一丈八尺九寸の不空絹索經全一卷、もこの塑像の寶髮、鼻、耳其他を發見せり。同十一面觀音立像一軀は丈高一丈



(堂本寺音世觀)

二尺、寺傳に保延年中阿闍梨藤原覺作とすも、其手法より見れば尙ほ過るべく、本堂中最古の像たり。穩健の姿態を有し、形法明快なる逸作なり。同十一面觀音立像一軀は丈高一丈六尺、寺傳には持統天皇の御願に成ると云へど、其手法様式は鎌倉時代の推知せられ、衣紋施攝の形式化せるを認む。同馬頭觀音立像一軀は丈高一丈八尺、大治年中、大宰大貳經忠奉安大佛師明春の銘あり。同吉祥天立像一軀は丈高七尺二寸、全身端嚴なる彩色を施し、面相優雅、藤原期の逸作とす。同十一面觀音立像一軀は丈高三尺三寸、銅製鍍金の華冠を著け、八重座六蓮華座上に立ち鎌倉時代の作、同毘沙門天立像一軀は丈高七尺、様式稍々形式化せる藤原期の遺作なり。同地藏菩薩立像一軀は丈高四尺五寸、衣紋の着色優れ、形法精巧にして一見弘仁期の様式を認むも、然らざる部分亦多きを以て製作年代稍々降るべし。次に阿闍梨堂安置に係るものに就きて本尊木造阿闍梨陀如來坐像一軀は丈高七尺四寸、定印を結び八角形の龕形に坐し、相好極めて圓滿、衣紋の刀法亦流麗、

●法普觀世音寺四十九院の一にして、今、博多聖福寺末なり。天平寶字年間、下野樂師寺、當國觀世音寺に戒壇創設せられしが、勅して東海道足柄坂、東山道信濃坂以東の諸國は樂師寺を以て、西海道諸國は觀世音寺を以て授戒の道場たらしむ。之を據に成りし大和東大寺戒壇と共に日本三戒壇と稱し、本院は一に西戒壇と號す。後ち比叡山に大乘戒壇建立せらるるに及び樂師寺止み、當院亦廢せられて、觀世音寺と共に荒廢に歸し、一平堂に本尊釋迦佛を安置せしが、寛文九年博多樂師寺住僧智漢諸方に勸進し、京都佛師中田理兵衛を招きて本尊を修飾し、領主鎌田氏の資援を受けて、方三間の戒壇院を再興す。延寶六年、律僧正洞來り住し、爾後泉州大島山神風寺に屬せしが、元禄十六年、觀世音寺より分離して崇福、承天等の禪宗四箇寺の所屬となり、後ち聖福寺一寺に屬す(觀世音寺項參照)。



(實蹟) (像坐佛伽舍藏本院壇戒)

●本尊木造觀世音坐像一軀は國寶たり。丈高五尺、餘

漆箔押、形法明快にして精緻を極め、面相優雅、衣紋端雅、以て鎌倉時代の逸作とす。

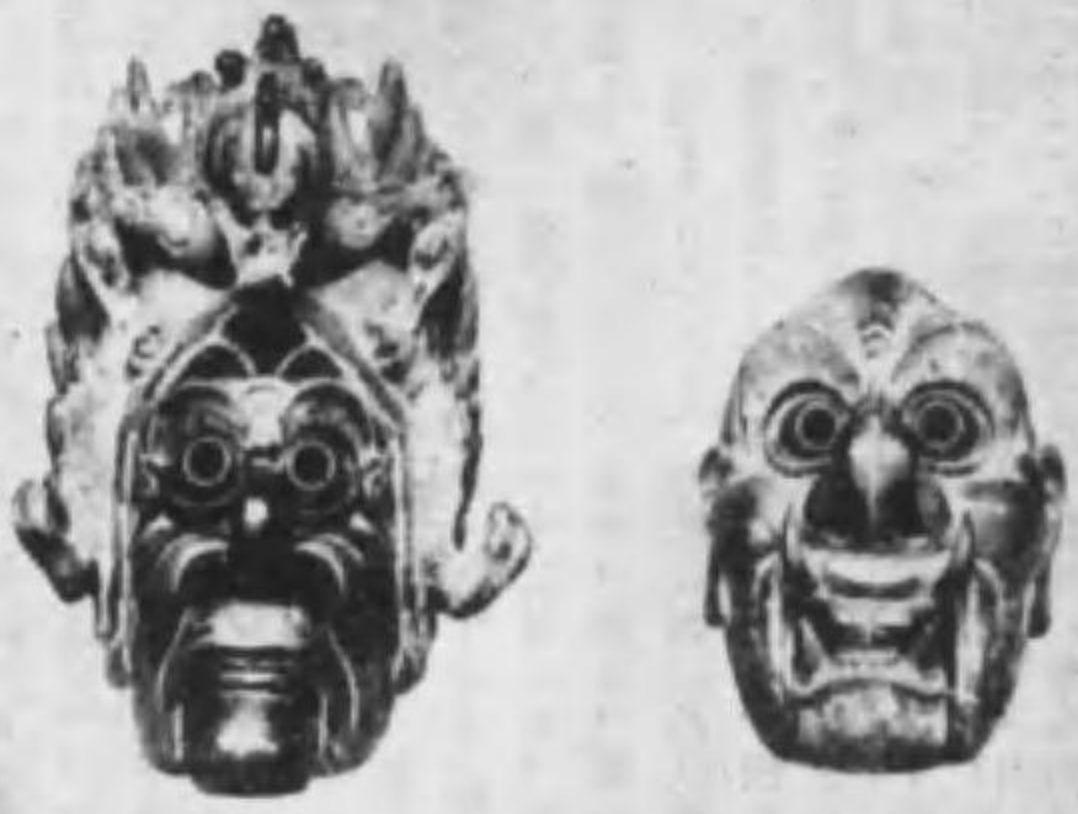
觀世音寺 筑紫郡水城村大字觀世音寺。

●天台宗。

●清水山普門院と號し、俗に觀音寺と略稱す。天智天皇御宇、當國朝倉行宮に崩御ありし齊明天皇御追福の爲め一字創建の勅願を發し給ひしが、元明天皇和銅二年二月、勅して建造の工を起さしむ。次で養老七年、沙彌滿誓を遣はして造營を督せしめ、天平十年、封一千戸を寄せらる。同十七年、更に支助をして檢校せしめ、同十八年諸堂漸く竣工す。天平勝寶元年、聖田五百町を寄せられ、天平寶字五年戒壇を築き、西海道諸國僧侶受戒の道場に充てらる(戒壇院參照)。延喜の制に筑前、筑後兩國の租税の中より二萬束の稻を以て當寺の修理料に充てたり。大宰府繁榮の朝、織西第一の巨刹として、千院四十九を有し、其堂宇壯麗を極めしが、造立後四百年を経て康平七年五月、火災に罹り講堂、法堂、四十二區の僧房、八十四間の廻廊、鐘樓、寶藏等悉く烏有に歸す。而して幾かに本尊のみ其厄を免れしを以て、治平二年十一月、大宰府長官藤原師長堂宇を再建す。其後又頗廢に歸し文明年間、幾かに觀音堂、戒壇院のみ存したるに過ぎず。住時寺領夥しく、東大寺に輸する實物にても毎年三百五十石に及びし。豐臣秀吉九州征伐の時、寺僧禮を失せり。石造拍大一對せらる。寛永七年、烈風のため伽藍廢壞す。元禄元年、國主黒田光之權越となり、福岡黄子町天子屋浦家為主として伽藍を再營す。同十六年、戒壇院本寺より分離し、近世寺領五十石を有せり。

●本堂・阿闍梨堂・鐘樓・僧坊・庫裡等を具ふ。寺

藤原時代の作なり。同阿闍梨如來立像一軀は丈高五尺五寸、一種特色ある形法を以てし、善座蓮華蓮瓣極めて薄く頗る優雅なり。藤原中期作と推知さる。同四天王立像四軀は丈高各九尺、顔面の表情沈重、形法健實にして姿態均整し、藤原期の逸作とす。同大黒天立像一軀は丈高五尺七寸、様式甚だ簡素、寺傳に最澄の作とし藤原期の特色を具ふ。同地藏菩薩像一軀は丈高五尺八寸、面相温雅、姿態の均衡好く、寺傳同様に最澄作と傳ふれど、鎌倉初期の作法を示す。石造拍大一對は高さ二尺四寸、百濟國王より都府樓へ貢獻せしものと云ひ、支那宋代の作と推知さる。木造舞樂面三面の内陸王一面は堅一尺三寸五分、横八寸、裏に觀世音寺變修理勾當一番長圓の銘あり。納曾利二面は堅九寸、横六寸六分、二面共其裏銘に觀世音寺、應永十年癸未二月廿七日變修理勾當一番長圓とあり。製作年代は三二面共に鎌倉時代なり。銅鐘一口は高さ五尺二寸、徑二尺八寸、天智天皇御寄進と傳ふ。形體稍々細長にして瀟灑の趣致を存す。天平期の製作とすべく、管公の「都府樓觀其色、觀音寺唯聽鐘聲」と詠せしは此鐘なるべし。銅製天蓋光心一箇は八花形の中心に徑六寸六分の瑞雲を嵌入す。此鐘は手法より見て宋鑑と推知せられ、宋鑑を天蓋の光心に應用する故に、以て藤原時代殊に末期のものなすべし。其他の寶物に、和銅年間型像破片數片・小野道風筆額一面・古代伽藍圖一軸・古鏡一面・水城水門埋木二枚等を初め古文書多く、尙ほ寺傍に支助の墓あり。



(實蹟) (何尊納王院而聖佛寺音世觀)

●淨土宗。

西林寺 糸島郡小富士村大字御床。

●創建年代不詳。明應八年、鎌田重鎮之を再興し、

天台宗を現宗に改む。
 ◎堂宇は本堂・庫裡・支那・講堂・床金堂等を具ふ。床金堂の本尊は百濟國將來の南嶽大師金剛會坐禪迦佛にして、村名の御床と稱するに因りて。寺寶中、木造阿彌陀如来坐像一軀は國寶に指定せらる。その胎内銘には「惠心作彌陀一體、御床村願主鎌田基吉、(以下八人の名あり)、惣村中、中興〇色元祿十五年亥九月二日」と墨書し、膝裏には花押あり。藤原末期の作なり。境内に宗廟あり。

勝福寺

糸島郡今津村。

◎草創年次並に沿革不詳。
 ◎臨濟宗大徳寺派。
 ◎寺寶中、絹本着色大覺禪師像一軀は絹本着色夢窓國師像(部元の賛あり)一幅・同貫山眞禪師像(文安四年の賛あり)一幅を附して國寶に指定せらる。大覺禪師像入箱蓋裏に文祿五年壬申七月念四日、筑前志摩郡今津浦とあり、又貫山眞禪師像巻止に龍起山眞禪師禪師像、寛文十二〇改撰玉峯宗崇禪師書し、夢窓國師像の贊の下に周備主捨入充禪寺供養と墨書し、巻止に中興夢窓國師像、寛政十二年庚申春、龍起山勝福寺現在大徳義直改撰とあり。大覺禪師像は其補法著しく日本化せるを認め得べく鎌倉末期の作とす。夢窓國師像亦是れに近接せる時代の遺作にして、贊を書せる部元は京都南禪寺の僧、嘉暦二年元日に没り、貞和二年歸朝し、貞治三年入寂せし人なり。貫山禪師像は室町時代の作風を示す。

大泉坊

糸島郡今津村。

◎古義眞言宗。

◎御宗末なり。登志山誓願寺四十二坊の一にして今其寺號を傳ふ。誓願寺は嘉應二年、仲原氏女の所願により其夫寛智の建立に係り、安元元年落成す。仁安三年、榮西入宋の禱、當寺に航海安全を祈願す。建久二年秋歸朝するや、三年間、當寺に止住して一切經の渡來を待てり云ふ。
 ◎寺寶中、國寶に指定されしもの次の如し。紙本墨書法華經(開結共)十卷は斐紙を用ひ一行十七字、軸赤銅、全部墨染なく、第一巻に建久三年十二月八日、午時書了の典書を識し、第二、第三、第四、第五、第六、第七に各同年の書了月日を記し、無量義經に乙巳歲二月十二日書了、觀音經に元暦二年乙巳二月十四日と書す。同經總經一巻は黄麻紙を所用し、一行十七字を墨書す。同法華經一巻は斐紙に銀界を置き上下並に裏に金銀箔を施す。同誓願寺建立緣起一巻は治承二年榮西筆にしてこれに誓願寺建立緣起一巻を附す。經一合(沈金彩)は高さ八寸三分、横二尺三寸二分、幅七寸三分、蓋裏に墨漆を以て「延祐二年杭州油局棟樑〇橋金家造」と書す。以て製作年代察知すべく、技術精巧を極む。鐵製錢銀八萬四千塔一基は五代吳越王錢弘徽、小塔八萬四千基を造り、之れに寶篋印陀羅尼經を容れて各所に配せしが、我國にも五百基配せられたりと傳ふる中の一にして、現存せるものは幾かに本塔と京都府下金胎寺の一基に過ぎず。塔は方形、上下二層に分れ、上層印度式尊像中に本生譚四種を容れ、下層の周圍に小佛像を繞らし、最下層に蓮臺を附す。内面に吳越國王錢弘徽敬造云々と銘記す。他の三面に「化」の文字あり、千字文に依れるものにして、金胎寺のものには「仁」と記さる。高さ六寸二分、金胎寺の如く蓋を失せず、宛形を存す。他に榮西所持の扁帖・拂子等を藏す。

◎浄土宗。
 ◎誓願山と號す。もと眞言宗の古刹なりしが、天正七年定業之を再興し、現宗に改む。時に唐津城主守澤志摩守康高、境内方百間を寄進す。文政十一年、大風の爲め樓門倒壊し、其後、再建を遂ぐるも意願に復する能はず。もと米寺六箇寺ありしが今三箇寺存す。
 ◎本尊阿彌陀如来は、二尺五寸の立像にして、空海の作と傳ふ。山門に掲げたる誓願寺の額は華頂宮尊超法親王の筆なり。

龍國寺

糸島郡一貫山村大字波呂。

曹洞宗。

◎萬歳山と號す。本郡怡土城主原田治郎大夫種直、小松内府重盛菩提のため之を創誌し、敬慶を開山となす。是れより先き種直は重盛の養女を娶とし、壽永二年、平氏一門安徳天皇を奉じて當國に来るや、種直天皇を那珂郡岩門の館に奉す。後鎌倉に召捕られ、土牢に投ぜられしが、十三年にして較免に遣ひ、歸國して西怡土郡波呂の里に一字を創し、小松山種直寺と稱し、重盛の冥福を念す。建保元年三月三日、種直卒するや、遺骸を當寺に移り、萬歳院殿當山淨榮大居士と號す。爾來幾多の盛衰を経て、中古一度荒廢せしが、原田了榮是れを再興し、現宗に轉じて今の山寺號に改む。後ち同縁に再興し、堂宇大半焼失す。嘉永年中、現在諸堂の重建を遂げ、以て今日に至る。
 ◎境内千六百十一坪、寺寶として傳足利義滿作阿彌尊像・明國宣徳の香爐・小松重盛筆蹟等を藏す。

大悲王院

糸島郡雷山村大字雷山。

◎古義眞言宗。

◎千如寺と號す。俗に雷觀音と稱し、高野末なり。寺傳に開基は天竺僧清賢にして、自刻木造千手觀音像を奉安せしを以て本寺の靈場とす云ふ。後、聖武天皇此地に七堂伽藍を建立して動願道場となし、靈鷲寺又は雷音寺と號せらる。後改めて千如寺と稱す。往時、山内三百坊を數へ、醍醐、後宇多、後深草、伏見、後醍醐、後奈良の各天皇、是れに動願所の繪旨を賜へり云ふ。源賴朝怡土庄を寺領として寄せ、北條、足利二氏亦深く歸依す。豐臣秀吉朱印地若干を附し、小早川隆景又六十六石を納進す。次で領主黒田氏百石を寄附し、寺運盛んなりしが、其後兵燹に遭ひ、寺觀漸く衰頹す。

◎境内地三千坪、堂宇に大塔・本堂・食堂・歡喜天堂・鐘樓・客殿・寶藏等を具ふ。寺寶中、木造千手觀音立像一軀・清賢上人坐像一軀は國寶たり。前者は寺傳清賢作と傳へ、丈高一丈五尺、藤原時代の作なり。後者は高さ二尺三寸二分、真に法衣を纏ひ、口を開き、齒を露出す。圓相樣を存する鎌倉時代の作なり。胎内銘に明和三年三月吉日、千如寺比丘實相、奉再興清賢上人、金剛淨院現住賢福城佛工佐田政五郎榮直、同壽四郎觀永とあり。其他に紺紙金泥醍醐天皇宸筆雷山緣起を初め繪旨・古文書・古書畫等極めて多し。

興徳寺

早良郡桂濱町。

◎臨濟宗大徳寺派。
 ◎澤山と號す。北條時頼の弟時定禪願たりし時之を創建す。開山を圓通大徳禪師とす。

善導寺

三井郡草野町草野。

◎浄土宗。

◎西向山と號し、俗に九州日光の名を以て著聞す。當郡善導寺末なり。元久元年(一)天福元年の創建にして、開山は聖光房長法師持願とす。後六世にして嗣法經、堂宇克磨に歸せしが、地頭草野太郎家清是れを再興し、善導寺の清嚴を請じて中興開山とす。

◎本堂は金銀を鑄刻し五彩を施し莊嚴美觀にして、林泉又清雅を極む。九州日光の稱ある所以なり。本尊木造阿彌陀如来立像一軀は丈高三尺二寸一分、塗漆箔押、玉眼入、鎌倉時代の作にして現に國寶に指定せらる。

淨土宗。

◎終南山光明院と號す。建久二年、當宗鎮西派の始祖聖光房長法師の開創に係る。初め辨長京師にあり、源空に就きて淨土の宗義を傳承し、後鎮西に歸る。國司草野入道安阿夫妻の歸崇厚く、建久二年、寺地を山本福草野庄井上に寄せられしに依り、一寺を創建し、井上山光明院善導寺と號す。建保五年三月、順徳天皇「善導寺」の勅額を賜ひ、元徳二年、後醍醐天皇より勅

善導大師、元祖、開山の各像を安する三祖堂(八間四面)を初めとして、釋迦堂(六間四面)・藥師堂・觀音堂・開山廟・鐘樓・山門・勅使門・三門(間口八間、奥行五間)・庫裡等完備せり。寺寶中、國寶となれるも



(堂本寺善善)

の次の如し。三祖堂安置の木造善導大師坐像一軀は文龜二年の胎内修理銘あり。高さ二尺四寸、合掌念佛の坐像にして全身に彩色を施し、衣紋の施法形式に類せる趣あるも、面相頗る高貴味を存し、鎌倉時代の精神

を發揮す。木造大紹正宗國師(辨長)坐像一軀は胎内に文龜四年修理の銘あり。兩手を以て珠數を爪握る姿態にして、同じく全身を彩色し、刀法頗る雄健、妙味ある高貴的手法に成れり。掛紙金泥觀音賢經一巻は承安二年辰五月日權守散位行則の奥書あり。且つ外箱蓋裏に後白河帝殿上中納言平兼則二男權守散位不行則高法花經文殊院此卷蓋其一也、丁亥十一月前淨土門主松翁識とあり、藤原末期に於ける高經の一例たり。其他に辨長奉末代念佛授手印一軸・鎮西禪師繪詞傳十八卷・辨長門弟共筆血書淨土三部經・辨長筆法然真影・光明皇后御筆及び後白河天皇宮筆大般若經・法然筆六字名號・行教筆山越阿彌陀如來像・悟心筆三尊畫像・船板名號等を藏す。就中、授手印は肥後宇土郡西光院の舊藏と云ひ、安貞二年十一月二十八日の奥書を存す。卷首に起請文一篇あり、安貞二年十二月四日の作、結衆人員三十七名を載せ、各自名と花押を留し、後に同年十二月十五日沙門辨阿花押のある跋あり。尚ほ又經藏には黄髮版一切經六千七百七十一卷を藏す。境内に三株の大樟樹あり、大なるは幹圍三丈七尺餘に及ぶ。

安國寺 三井郡山川大字山川。

臨濟宗南禪寺派。神代山と號す。寺傳に天武天皇、九州佛法流布のため、僧良法唯一を派せらる、や、武内神代厚く唯一に歸依し、伽藍を建立して萬法寺と稱す。歷應年中、足利尊氏の命に依り、是れを安國寺と改め、寺田三石を附せらる。文祿年中、豐臣秀吉改めて寺領十町七段を寄附す。豊後國主大友宗嗣また筑後川神代村の寄料を寄附して寄す。慶長年中、田中兵部大輔吉政改め

千光寺 三井郡山本村大字豐田。

曹洞宗。龍渡山と號す。建久三年、領主草野永平の創建に係り、榮西を開山とす。當時、境内方三町に亘り、七堂伽藍完備し、塔頭子院七宇を具へ、寺領十二町を有し、白銀山千光寺と號して臨濟宗に屬せり。正平十三年、草野永種、足利尊氏の塔を境内に建立し、其遺廟をなす。同年、征西將軍懷良親王、當寺に薨去あらせらる。爾來歷次回縁に罹り、再三再建に及ぶも規模遂に舊觀に及ばず。後小松天皇勅して龍渡山千光寺の寺額を賜ふ。文龜二年、草野重永堂宇を再興し、周防龍文寺の默庵爲契を請じて中興開山となし、曹洞宗に轉じ、改めて寺田十五町を寄す。天正十四年、豐臣秀吉九州發向の時、制札を山門に建てしむ。翌十五年、毛利秀包此地を領するや、境内に元就の靈廟を建て、寺田六十一石を附して菩提所となす。慶長十六年、田中忠政三十九石を附して計百石とす。現に末院に久留米千榮寺、同正覺寺、當郡永勝寺、慈恩寺、明王寺、圓勝寺の六箇寺を有す。境内千二百餘坪、本堂・庫裡・方丈・鐘樓・寶庫・鎮守廟・秋葉廟等あり。本尊釋迦、迦葉、阿彌の三尊を安置す。寺寶に朱髹の大輪ありて底に四尊佛と銘す。曾て榮西本寺及び博多聖福寺、京都建仁寺、法勝寺に各百具を備へ置きたるが故に四尊佛の稱ありと云ふ。境内に懷良親王の塔あり。其左右に殉死せる侍臣の石

觀興寺 三井郡山本村大字耳納。

曹洞宗。普光山と號す。白樂年中の草創なりと云ふ。其後堂宇整備し、塔頭三十六坊を具へ、天智天皇、右大辨大神棟政を遣はして、觀興寺の勅額を賜ひ、寺田十五町を附せられしと傳ふ。後、地頭草野長衛、畫工土佐光信に命じて當寺の境内を描かしむ。天正年中兵火に罹り、境内悉く灰燼に歸す。後、再建を遂げしも尙ほ舊觀に及ばず。寺寶に絹本着色觀興寺緣起二幅ありて國寶に指定せらる。本尊觀世音菩薩の緣起を二幅に描出せし各三幅一鋪の大幡にして、一幅は其中央部の剝落著し。草野長衛、土佐光信に命じて之を描かしめ、有馬竹千代裝を新たにす云へる寛文二年の銘あれど、筆は光信より更に遡るべく鎌倉末期の作とす。現に恩賜京都博物館に寄託さる。他に傳光信筆古境内繪圖・古文書數通を藏す。

無量壽院 八女郡福島町。

淨土宗。若草山光明寺と號す。天平年中、行基の開創なりと云ふ。初め當郡酒井田(今三河村の内)に在りて天台宗に屬し、塔頭六坊あり、天福寺、地福寺、圓福寺の三末院を統べ、寺運隆盛なりき。後、次第に衰微せしが、建保年中、聖光房辨長之を再興して現宗に改め、且つ塔頭及び末院を廢す。また國主田中兵部大輔吉政福島城造築の際、之を現地に移し、寺田七町及び修理

料を寄す。爾來法燈連續として現在に及び國內屈指の古刹たり。

天福寺 八女郡上妻村大字馬場。

淨土宗。普光山と號し、三井郡善導寺末なり。天平年中、行基の開創に係る古刹と傳ふ。安貞二年、當郡鎮西派始創聖光房辨長是れを中興し、嘉祿四年二月遷化し、當山に葬ると云ふ。本尊阿彌陀如來は辨長の作と傳ふ。境内に辨長の靈廟を存し、廟後に著なる甘露の菩提樹あり。また門前に老松ありて普雲の松と稱す。

福王寺 八女郡古川村大字漢口。

日蓮宗。長壽山と號す。創建年代不詳。天正年間、兵燹に罹り舊記等悉く焼失し、其沿革を詳にせず。文祿年中、越前國今立郡丸鹿村日源、堂宇を再建し、又此地の矢部川に臨み、水質の製紙に適せるを見、生國より弟新左衛門、新右衛門、新之丞の三人を呼び寄せ、寺邊に一の製紙場を設け、三人をして是れを製造せしむ。領主立花左近將監成是れを聞き、同家の御用を命じ、郡中産出する所の緒及び製紙機械を與へ、且つ寺田九段八畝餘を附す。是れ當縣産物漢口紙の起原なり。本尊釋迦多寶如來像は究竟院日清の武藏國より移安せしものと傳ふ。境内に日源上人の碑あり、明治二十九年有志相圖りて建造せるものにして、題額は榎本武揚筆、九州製紙開祖日源上人碑と稱し、文は樋口眞

光明寺 八女郡水田村大字津島。

古義眞言宗。大覺寺末なり。天平十九年、行基の開創にして、聖武天皇の勅額所たり。當時、勅して金光明經を安置せしめ給ひしを以て金光明寺と號せり。安元年中、平重盛是れを再興し、九重の石塔等を寄附す。貞和年中、足利尊氏本堂を修理し、寺觀を整へてより、寺運興隆し、堂宇輪奐の美を極めたりしが、後、漸く衰へ、今は往時の盛觀なしと雖も、尙ほ地方の一巨刹たり。境内八千餘坪、本堂・庫裡・客殿・圓覺堂・庚申堂・地藏堂・八十八箇所堂等あり。本尊千手觀音は行基、脇侍の不動明王は空海、仁王は法慶の作と傳ふ。

清水寺 山門郡東山村大字本吉。

天台宗。本吉山と號す。九州西國三十三所第十六番札所たり。大同元年、最澄の創建と傳ふ。最澄入唐歸朝の後、此地に遷錫し、瑞驗を感じ、合歡木を以て丈長一丈六尺の千手觀音を彫刻し、一字を削して之を安す。是れ本寺の蓋縁なりとす。後、圓仁來りて堂塔伽藍を増築し、其規模洛東の清水寺に擬す。天正年中、龍造寺隆信の兵燹に罹り、境内塵土と化せしが、寶永三年、柳川城主立花左近將監、其荒廢を憐み、伽藍を再建し、寺領三百六十石を附して祈願所とす。今の殿堂即ち是れなり。清水山の麓に在り、境内廣潤、果餘に亘り、四季の景色に勝る。本堂・繪馬堂・阿彌陀堂・地藏堂・舞

臺・三重塔・庫裡・鐘樓・寶庫・山門・仁王門等二十有餘の堂宇輪奐の美を競ふ。

西方寺

山門郡柳河町惠比須町。

●眞宗本願寺派。天正十六年、僧慶信、柳河城主立花宗茂の歸依を得て之を創建す。其後宗茂石田三成に黨して關ヶ原の亂に赴きしより、田中吉政代りて當城を守り、時に田中家に不幸ありしが、恰も三世慶了早世して在らず。仍りて光圓寺某、本寺の命を受けて送葬の導師たらんとせしも、故ありて吉政の憤りを買ひ、吉政當寺を東本願寺に屬せしめんこと。慶了の室姉顯尼これを不可とせし、遂に事ならずしむ。後立花氏徳川家康の許す所となり、再び來りて當城を領し、當寺の檀越となる。七世



(景全寺方西)

圓通の時、本寺より特に眞後末寺の觸頭とせられ、明治四十四年、宗祖六百五十回忌に際し、由緒寺院として法主梁筆の寺號額字を下附せらる。

●本堂(十間四面)・庫裡・鐘樓・經藏・門等あり。寺寶に定家筆三十六歌仙・俊藤太秀經自畫像・足利尊氏陣羽織等を藏す。

●無縁供養會、大藏會。

慧日寺

三池郡銀水村大字岩木。

●眞宗宗。

●大聖山と號す。當國三十三所靈場の一なり。寶永三年、當國柳川城主立花氏の老臣小野和泉守、日野隆幸、淨土宗榮壽寺の古址に就きて堂宇を建立し、木庵の法孫元秀靈筆を請じて開山とす。爾來、立花家の祈願所たりき。現に當派別格寺にして圓通庵、風來寺、永昌寺の三末院あり。

●本尊觀世音は聖德太子の作と傳ふ。

大興善寺

金武郡金武町蒲生。

●曹洞宗。

●鷲尾山と號す。寛元年中、北條時頼の創建に係り其臣佐野善左衛門尉常世をして是れを造營せしめ、西大寺觀音を請じて開山とす。爾來南郡西大寺の末寺にして十八大刹の一なりき。曆應年中、駿河權守物部武村の菩提所となる。應永年中、大内義弘寺田五十石を寄せ、永享六年、足利義教また田八百石を附す。後ち大友宗嗣の兵火に遭ひ、堂塔烏有に歸せしが、承應年中、再建ありて現宗に轉す。元禄三年、領主小笠原忠雄寺田若干を附し、稍々舊觀に復す。後ち慶應二年、長

州奇兵隊の兵燹に罹りしが、明治初年之を重建せり。●境内廣く、本堂・經堂・舍利堂・總藏・庫裡・鐘樓・守關・仁王門等を具ふ。墓地に北條時頼、佐野常世の墓あり。

護念寺

金武郡曾根村大字長野。

●淨土宗西山派。

●觀勢山と號す。保元二年、平時盛の六男修理大夫康盛、豐前國司として下向し、長野に築城の朝、一字を創して菩提所となす。是れ本寺の靈廟なり。後ち康盛十三代の孫助氏の次男岩松丸、當寺に住して行念願阿と稱し、寺門を興隆せしが、文明年中、夢告に依りて聖野光明寺に到り、禪刹たりしを改めて現宗となす。而して當國所在本派四十八箇末院、一百餘箇末寺を統領し、西山西山派の中本山たりき。

●寺域三千坪、本尊に阿彌陀如來を安じ、運慶の作と傳ふ。寺寶として定家和歌・京極攝政色紙・平氏數代の素圖を藏す。境内に平氏代々の墓あり。

興國寺

田川郡上野村大字上野。

●曹洞宗。

●天目山と號し、長州大寧寺に屬す。白風五年、教順の創建に係り、初め福智寺と稱し、天台の律院たりしが、後ち荒廢せしを、嘉祥元年、南禪寺無應元庵、豐後國主大友氏の歸依を受け、其廢跡を興して禪林となす。元徳二年八月、後醍醐天皇輪旨及び紫衣を賜ひて勸願所と定められ、天目山寶覺禪寺と號す。興國四年九月、足利尊氏、寺田二十六町を附す。後ち隆濟、曹洞の僧交々住し、所謂九江湖山たりしが、應仁以來

漸く衰運に陥る。天文十三年、中國七州の太守大内義隆古刹の衰廢を歎き、諸堂を再建し、大寧寺十世水扶を請じて之を中興せしめ、興國寺と改稱し、現宗に改む。享保六年四月、小倉城主小笠原右近將監忠雄、寺田三町餘、山林十數町を附して堂宇を改築す。故に忠雄を再中興となす。爾來法燈連續たり。今往時の盛觀なしと雖も、尙ほ國內の巨刹として知らる。

●寺寶として足利尊氏、同直義御教書三通を藏す。

國分寺

京都郡豐津村大字國分。

●古義眞言宗。

●御室末たり。天平九年、行基の開創に係り、聖武天皇の勸願所にして、九州第一の古刹とす。昔時、丈六の釋迦三尊像を安置し、大般若經六百卷を納めたりしが、天正年中、大友氏の兵燹に罹り、堂宇舊記悉く烏有に歸す。慶安三年、國主小笠原忠貞、供料を寄せて再興し、樓門、鐘樓等を修理す。後ち寶永六年、更に修營を加ふ。

●境域七千三百坪、頗る風致に富む。寺寶として巨勢金剛筆三千佛及び胎藏界大曼荼羅圖等を藏す。境内の明治記念大寶塔は七間四面、高さ十三間半、明治二十一年住侶孝樂の建設に係る。

明照寺

手親音堂(手親音堂) 榮上郡横武村大字横間。

●眞宗大谷派。

●俗に手親音堂若しくは乳房觀音と稱せらる。草創年次並に沿革不詳。

●手親音堂本尊木造手親音立像一軀は俗に乳房觀音と稱せられ、丈高六尺八寸二分、面相雄偉にして

全身に力穡溢す。損傷腐朽甚だしく、光背の如く並列せる手も幾かに其形狀を保てるに過ぎず。藤原初期の様式を有し、國寶に指定せらる。

鈴鹿寺

榮上郡東吉宮村大字鈴鹿。

●古義眞言宗。

●高野山金剛峯寺直末たり。天平六年、行基の開基にして、中古七堂伽藍完備し、塔頭六坊ありしが、天正年中、大友宗嗣の兵燹に罹り、其後頓に衰ふ。

●境内百五十六坪、本堂・庫裡・鐘樓等あり。本尊木造藥師如來坐像一軀は高さ二尺八寸五分、一木彫、肉身に白色、衣紋に朱彩を施せしむ、今悉く剥落す。右手は後補に係る。姿態均齊優麗、面貌殊に圓滿、寺傳に行基の作と傳ふるも藤原初期の作たり。現に國寶に指定せらる。寺寶に當寺縁起一卷・同略縁起一卷・中興觀經傳一卷・古瓦一枚・古鏡一面等を藏す。

●戦病死者追事會(春季)。

光傳寺

浮羽郡竹野村大字中尾。

●眞宗大谷派。

●惠日山と號す。創建年代不詳なれど、淨念の開創なりとす。淨念、俗稱を荒木金左衛門、初め攝津守村重と稱し、攝津花隈の城主たりしが、天正六年、信長來り討つや、弱かに遁れて尼ヶ崎に到り、援を毛利氏に求めしを得ず、遂に九州に奔り、眞後國豊心縣城主草野重水に頼り、大いに爲す所あらんとす。同十五年、草野氏、豊臣秀吉に誘殺せられて一家亡ぶや、村重世の無常を痛感し、本願寺第十二世教如の弟子となり淨念の法號を授けらる。仍りて竹野庄轉野に一字を建立

大分縣

萬壽寺 大分市東新町。

●臨濟宗妙心寺派。

●開山と號す。寺傳に往昔、百餘載長者の女萬壽姫、賊の爲に害せらる。長者之を痛悼し、之が追福として一字を削し、萬壽寺と號すと云ふ。後、徳治元年、大友出羽守貞親(萬壽寺殿五山正温大禪定門)萬壽の舊址に就き、更に寺を興し、筑前博多承天寺直翁を請じて開山とす。



(萬壽寺本堂及庫裏)

當時城方八町に亘り、七堂伽藍はもとより六十四院の塔頭を列べ、國內屈指の巨刹なりしが、永祿年中、田原紹忍の燒却する所となる。大友記に據るに大友宗

嗣天主教を崇信せしより、元龜元年、宮廟梵宇佛佛燒毀の弊あるや、本寺亦其厄を蒙りて燒燼すと云ふ。後、諸堂再建されしも、天正十四年十二月、島津家久當國亂入の時、當寺亦其禍に遭ひ、新築の伽藍、八十六間の廻廊、五千餘の經卷、丈六の釋迦像等悉く燒失す。其後、寛永元年、十五世丹山復興を圖り、同八年、領主竹中重興の援實の下に再建を遂ぐ。仍りて丹山を以て中興の祖となす。

光西寺 大分市北町。

●真宗大谷派。

●四極山と號す。文明六年、圓信(古城藩時守爲景の二男)の開創なり。天正八年、六世誓圓の時、舍弟淨圓と不和を生じ、淨圓出て古河河の信從と相謀り、新に精舎を建立して善巧寺と號せしより、本寺の檀徒憤激して新寺を廢せん欲し、善巧寺檀徒と争ひしことあり。領主大友氏之を仲裁して、事無きを得たりと云ふ。當寺は初め舊府内大分川支流の川口近くに在りしが、同十八年、現地に移る。慶長七年、回祿に罹り、堂宇舊記を燒燼せしも、同年中、再建せる。其後、東本願寺に屬す。元祿六年、明治十三年の二度回祿に遭ひ、其後現在の諸堂を再建して今日に及ぶ。

●境内三千六百坪、本堂・庫裡・鐘樓・山門等あり。寺寶として觀覽筆名號・覺如筆十字名號・蓮如筆六字名號・繪首二通・光緒天皇御所持唐扇・同皇后御所持

圓壽寺 大分市上野町。

●天台宗。

●總社山と號す。敏達天皇十二年の創建にして、開山を日羅とす。初め佐隈郷古國府に在りて、岩屋寺と稱せしが、嘉元三年、領主大友貞親、これを現寺地に移し、總社山圓壽寺と改め、比叡山より近衛關白俊經の末子道勇を請じて中興開山とす。時に境内に東井坊(今の本寺)、佛性坊、法性坊、實相坊、寶幢坊、幽栖坊の六坊ありて、圓壽寺を其總名とす。六坊の外に眞如、中道二坊の菩提寺あり。貞親、寺料數千貫文を寄せ、其他修理料等を加へ、其額一萬千餘石に及べりと云ふ。貞親の子貞宗また之に歸依し、先規に従ひて寺領を附す。文保二年九月、道勇當寺を其法弟道應に譲り、三國傳來の不動明王並に遺文一卷を遺して歸山す。當時、貞宗は當寺を以て、由原、關、六所、松坂、紙間、若宮等諸社の別當職に補す。第二十九世寛全は大友義經の庶子にして、同宗嗣の伯父に當れるを以て寺領を増し、斯くて寺門の隆昌、他に其比を見ざりしが、天正十四年十二月、藩軍攻入の際、兵火に罹りて興上し、後之を再建す。寛永十二年、領主日根野吉明修造を加へ、享和年中、城主大給氏寺領若干を附し、爾來法燈連續たりしが、維新の變革に堂宇荒廢し、一時無住の状態となりしも、檀徒徒動力して復興に努め、以て今日に及ぶ。

●本堂・觀音堂・鐘樓・愛宕社等あり。本意不動明王は一に田植不動と稱し、善無畏三藏の手刻と傳ふ。寺寶として源信作阿彌陀佛木像・最澄作不動尊木像・安阿彌作觀音木像・藤原信實筆本人慶畫像・土佐光

寶戒寺 大分市上野町。

●古義眞言宗。

●金剛山と號し、高野末なり。神龜年中、行基、聖武天皇の勅を奉じて同郡佐隈郷に創建す。伽藍成るや、宮筆の扁額及び唐吳道士の掲げる涅槃像を寄附せらる。大同元年、空海唐より歸朝の際、自ら不動像を刻して本寺に留め、長和年中、佛師定朝本寺に於て大日如來の巨像を刻す。永久二年、講堂を修理し、山門に運慶作の仁王の大像を置く。時に寺料二千餘貫を有し、境内三百歩坊舎六十區を具ふ。後、兵燹に罹りて金堂、山門を残すの外、堂宇悉く燒失す。徳治二年、領主大友貞宗其遺願を愍み、寺基を現地に移し、四方に大門を開き境内に八坊を置き、奈其西大寺の幸尊を請じて中興開山とす。其後、屢次兵火に遭ひしが、天文九年、大いに修營を加へたり。

●城内伽藍を極め、堂宇に金堂・山門・聖天堂・庫裡等を具備す。本尊釋迦如來像は毘首羯磨の作と傳へ、勅使を漢土に派して將來せしめられしものと云ふ。寺寶に藤原行成の榜額を藏す。

威徳寺 大分市濱町。

●眞宗本願寺派。

●瓜生山と號す。應仁年中、國主大友氏の一族、大友義正の創建とす。初め當國別府内なる瓜生島に在

り、以て島名を山號となし、義正坊と稱し、眞言宗に屬せしが、明應六年、義正京都に上りて蓮如に謁し、六字の名號を受け、歸國して後、眞宗に轉す。慶長元年七月十二日、五世周安の時、地震起り、海嘯襲ひ、東西一里、南北二十町の瓜生島陥没して當寺堂宇什器古記録等悉く流失す。後、現地に移りて再建し、寛永六年、本山より本尊及び寺號を受け、現寺號を公稱するに至ると云ふ。

海門寺 別府市神天町。

●曹洞宗。

●寶生山と號し、永平寺末たり。創建年代不詳なれど、開山を慧明(應永十八年三月寂)とす。初め久光島に在りて、久光山と稱し、別府湖の西南隅に位し、自ら別府港の海門を爲すを以て海門寺と號せしと云ふ。慶長二年七月二十九日、領主福原右馬介直高の代、鶴見嶽震動して、久光山全部崩壊し、遂に海底に沈没するの慘事起るや、本寺亦其災に罹り、堂宇什物舊記悉く海底の藻屑と消ゆ。爾來九十餘年、法燈斷絶せしが、元祿初年に至り、雷洲來錫し、庄屋堀助之丞初め、里人安部孫左衛門、佐藤助左衛門等と相謀り、現地に一字を削し、同五年、室生山海門寺と稱す。因りて雷洲を中興開山とす。是れより先き別府、濱脇、田野口、朝見、立石、鶴見、石垣の七村、田畑に害蟲發生して五穀實らず、農家爲めに大いに苦しむ。雷洲、村民の請に依り、三日三夜之が驅除の祈禱を修せしに、作物の豊穰を見るに至れり。仍ち七村の民、報恩として寶

傳乘寺(眞木大尊) 西國東郡田登村大字眞中。

●天台宗。

●馬城山と號し、俗に眞木大尊の名を以て著聞す。養老年中、僧仁開の開創なりと云ふ。初め仁開一大樹を以て二大尊を造る。一は當村大字路にありて富貴寺と稱し(次項參照)、他の一は即ち小字眞木の當寺なり。眞木大尊の通稱ある所以とす。往時、七堂伽藍を具へしが、大友氏の兵燹に遭ひて興上し、其後再建を遂げ以て今日に及ぶ。

●寺境田染耶馬の景勝を占め、堂宇に本堂・鐘樓等を具ふ。本尊木造阿彌陀如來坐像一軀・同不動明王及二童子立像三軀・同大威徳明王一軀・同天王立像四軀は國寶に指定せらる。阿彌陀像は高さ七尺一寸五分、肉身塗漆、光澤を發し衣紋流麗にして藤原期の優作なり。不動及び二童子像は三軀共に極彩色、中尊の丈高八尺三寸、蓮座羅刹を負ひ儼然として岩座上に起立す。



(景 寺 乘 佛)

二童子の丈高四尺二寸、合掌、腕胸の姿勢にして、何れも鎌倉初期の佳作なり。大威徳明王像は風牛に跨り、三六足、頂上に三面を戴き、口、開口、牙を露出す。腰部に袈裟を纏ひ上牛身像體にして、布を斜に著し前記不動明王と作者及び製作年代を同じくすべし。四天王像は丈高五尺一寸乃至五尺三寸、各々邪鬼を踏み極彩色を施し、藤原時代の様式を具ふ。尚ほ寺寶に金剛神像二軀を藏す。附近に石佛散在す。

●縁日(舊一月二十八日)。

福寺 西國東郡高田町玉津。

●臨濟宗大徳寺派。
●海門山と號す。文永七年十月の創建に係り、開山を南浦紹明(大徳開闢)とす。後ち田原普壽城主田原中

務少輔普慶七堂伽藍を營建し、紀伊宗卓を以て中興開山とす。永正年中、大友宗麟の兵燹に罹りて堂宇燒亡せしが、寶永三年、大徳寺宗列之を再建し、肥前國島原城主松平主殿頭寺田一石二十餘を寄す。今に近郷の一名刹たり。

●本堂・東廂・大玄關・内玄關・太子堂・釋迦堂・地藏堂・鎮守廟・寺門等を具ふ。寺寶として仁聞作彌陀木像・南浦紹明宋國將來十六善神畫像・同十三佛畫像・十六羅漢畫像・繪旨(左中將時光聖名)・大友宗麟軍住寺遺狀・松平主殿頭寄進狀・大内弘政寄附書面二面・同古鈔等を藏す。

富貴寺 西國東郡田染村大字露。

●天台宗。

●養老年中、僧仁聞の開創に係ると傳ふ。仁聞一大樹を以て造りし二大堂の一にして、他の一たる富貴真中の眞木大堂(前項參照)は後世の再建に係るも、當寺のみよく創建の儘を傳ふと云ふ。もと阿彌陀寺と稱せしが、建久年間に至り地頭曾根崎昌重寺領を寄せ、堂宇を修營す。後ち百五十餘年、堂宇荒廢して亂世の爲め修理の事無かりしが、京都大原三千院の僧祐禪、亂を避けて此地に來り、眞木調音通行實と謀りて之を修造す。天正年中、國主大友宗麟、耶蘇教を信ぜり爲め領内の社寺多く破却の厄を蒙りしも、本寺は之を免る。後世、別當富貴寺を以て本寺の稱號となす。

●寺域一干坪、老樹鬱蒼たり。大堂は俗に蔭の大堂と稱し、仁聞建立當初の面影を傳ふと云ふ。桁行三間、梁間四間、單層、屋根四注連にして、現今屋蓋すべて假造にして、軒の構造明かならず。財木は舟形、方柱、長押附、三面三間唐戸、四方廻縁なるも後面にのみ

寶陀寺 西國東郡田原村大字香掛。

●臨濟宗東福寺派。

●蟠龍山と號す。寺傳に大同三年、眞觀此地に一字を創し、最澄自作の千手觀音像を奉安す。是れ本寺の靈廟にして、初め清水寺と號し、天台宗を奉ぜり。正平年中、地頭田原直平、住持眞義と共に本尊の靈骨を蒙り、堂宇を再興して辨圓(聖一國師)の法孫傳法を請じ、之を中興開山として臨濟宗に改む。其後、將軍足利義隆自筆の鈔帖を納め、境内八町四方を附す。天文四年、回縁に罹り、方丈一字を燒して燒盡せしが、後ち大友氏再建す。天正年中、眞享四年の兩度復び燒失し、元禄年中、領主松平市政寺領百五十石を寄せて之を復興せしが、明治十三年、祝慶に罹り、其後現堂宇を建立す。現に當派別格寺たり。

●境内廣潤、堂宇に本堂・庫裡・玄關・鐘樓・浴室・山門・觀音堂・位牌堂等あり。本尊釋迦如來を安す。

●觀音供養(舊一月十七日、十八日)、開山忌(舊七月二十一日、二十二日)。

長安寺 西國東郡東郡甲村。

●天台宗。

●草創年次並に沿革不詳。
●寺寶中、銅板法華經十九枚(附、銅萬葉四枚、寶

板に保延七年九月十四日供養單の鈔あり)は昭和三年四月國寶に指定せらる。其餘の如く藤原時代の製作に係り、六觀音の像の鐫刻畫も見ゆ。

天念寺 西國東郡西郡甲村大字長岩屋。

●天台宗。

●長岩屋山と號す。養老年中、仁聞の創建に係ると傳ふ。建久年中、國主大友左近將監直能寺領若干を附し、爾來法燈隆昌を極めしも、天正十四年、薩軍亂入の際兵火に罹り、本堂、庫裡、靈寶、舊記等烏有に歸す。延寶年中、肥前島原城主松平氏、本堂、庫裡の再建を資援す。

●本尊釋迦如來、日光月光兩尊を安置す。寺寶中、國寶に指定されしもの次の如し。木造阿彌陀如來立像一軀は丈高六尺五寸三分、上品中生の印相をなし、藤原時代の作とす。同勢至菩薩立像一軀は、丈高三尺二寸二分、朽損最も著し。齋座五重、一木彫出、蓮瓣二遍葎、反花附なるも同じく彫朽甚だし。又藤原期の作たり。同日月光菩薩立像二軀の内、日光像の丈高三尺一寸四分、月光像は二尺九寸、何れも藤原時代の遺作とす。同吉祥天立像一軀は丈高三尺六寸、兩手兩足及び裳以下は缺損す。製作年次は又藤原時代なり。同釋迦如來坐像一軀は高さ三尺七分、全身の朽損甚だしきも藤原時代の作と認め。境内の岩石に仁聞の彫刻と傳ふる不動明王、千手觀音の像あり。又不動堂の川中不動明王は一丈七尺の立不動なり。寺域に弘法大師八十八箇所の靈場を設く。附近は長岩野馬の稱ありて特に春秋の鹿窟絶佳にして、又石佛多く散在す。

光徳寺 西國東郡日野村。

●眞宗本願寺派。

●春日山と號す。文明十八年、本願寺蓮如の直弟淨實の開創とす。初め願玉庵と稱せしが、後ち實知之に光徳寺の號を授く。維新前は末寺十箇院及び四箇の道場を擁せし大藍にして、九州に於ける眞宗最初の梵刹たり。

●本尊阿彌陀如來像は聖徳太子の作と傳へ、寺寶として現覽及び蓮如の眞筆六字名號兩大軸を藏す。

安國寺 東國東郡東町安國寺。

●臨濟宗妙心寺派。

●太陽山と號す。應永年中、足利義滿の創建にして、絶海中津を開山とす。往時は國內末寺二十八箇寺を統べ、床並、深見、吉木、掛橋の四箇所に寺領五十餘貫を有せしも、戰國時代に至りて没收せられ、爾來衰廢に傾き、今は末寺悉く廢せらる。

●寺域高丘に倚り、眺望優る。境内に本堂(寶尊)・庫裡・客殿・總門・位牌堂・開山堂等を具ふ。田原左近將監、大友親廣の墓あり。

千燈寺 東國東郡上伊美村大字千燈。

●天台宗。

●補陀落山と號す。養老二年、仁聞の開創する所と云ふ。善鳴鐘に據れば、仁聞曾て嚴滿等を率ゐて、伊美の五智窟に登り、不動法を行す。時に龍王其德を欽仰し、燈一千許を獻す、其靈應に因りて千燈寺と號し、以て千手千眼觀音像を安すと云ふ。爾來寺門榮え、寺

泉福寺 東國東郡豐崎村大字横手。

●曹洞宗。

●妙徳山と號す。天授元年、田原下野守氏能の母無傳仁公尼の創建にして開山を眞空とす。當時、七堂伽藍完備せる大刹たりしが、天正九年、大友義統の兵燹に罹り、祖師堂を残す外悉く焚上し、傳來の寺領亦沒收せらる。慶長十年、領主細川越中守忠興堂宇を再建し、境地山林若干を附し、以て舊觀に復せり。現に當宗常恒會地の名刹なり。

●境内二千四百七十七坪、寺寶として黄金の舍利塔に佛舍利を藏するあり、細川氏の寄進に係ると云ふ。

松屋寺 速見郡日出町。

●曹洞宗。

●曹洞宗。

●康徳山と號す。寺傳に、養老年中、仁聞の創建に
係り、初め水月殿と稱する。一字内に千手觀音、梵天、
帝釋天の三尊を安置せしが、文應元年、北條時頼遊歴
の朝、水月殿に入り觀音に祈念して靈驗ありしより、
里人赤山最明寺と稱す。後ち地頭某入道して本寺に住
し、天台宗を奉ぜしが、建武年間、禪刹に改む。慶長
五年、木下延俊、日出城主となるや、豐臣秀吉夫人の
母康徳寺殿松屋妙真大姉遺稿の爲め、堂宇を再建し、
住僧青庵を以て中興開山となし、以て香華院と定む。
且つ其堂號をよりて松屋寺と改め、寺領百石を附す。
寛永年中、江戸泉岳寺の住持宗廟請せられて普山し門
風大いに振ふ。舊時、子院に水昌、梅昌、寶福の三院
を有せり。

●境内廣瀨にして本堂・庫裡・禪堂・衆寮・書院・
靈神堂・寶庫・山門等あり。本尊釋迦如来、脇士文殊
普賢兩菩薩を安ず。寺寶として開山袈裟(會津夫人手
縫・同珠數(五百羅漢を刻む)等あり。堂前に有名なる
大蘇鐵あり。幹の周圍一丈、枝二丈餘。里人は泉州堺
妙國寺(其項參照)の蘇鐵より大なりと誇る。

安住寺

●臨濟宗兩峰寺派。
●約龜山と號し、具には安住養國禪寺と稱す。正
元元年、杵築城主木付肥前守親重之を創建し、請ひて
辨圓(聖一國師)を導師となし、佛山正眼をして之に住
せしむ。當時、寺領廣大、伽藍莊嚴を極めしが、天正
の兵變に堂塔悉く燒失し、文祿二年、檀越木付氏滅亡
して寺領を失ひ、殆ど廢絶せんとせしを、延寶年中、
僧三三堂宇を再建し、城主松平東園寺田若千を寄せ
て、是れより稍々舊觀に復す。依りて三三堂と中興開山

と稱す。

●淨土宗。
●寛永四年、轉運使、攝州三田に來賜するや、領主
松平丹後守直一を創立し、轉運使の高弟存澤深山を
請じて開山とし、松房寺と稱す。同九年、直重、豊前
龍王に移封、次で當國高田に移さる。其子英現當藩に
移封の際、寺基を現地に移して長昌寺と改め、寺領百
石を寄す。元禄元年、松平日向守重賢寺領三十人扶持
を加増し、佛師淨慶の作に係る三尊の如来を寄進す。
爾來本宗に於ける當國福壇たりき。

●境内千八百餘坪、本堂・庫裡・玄關・書院・方丈・
位牌堂・觀音堂・輪藏・寶庫・鐘樓・寺門等を具ふ。
本尊阿彌陀佛は往時南都報恩寺に安置せられし靈像に
して、源信の作に係り、芝増上寺の黒本尊と同作なり
とて、松平重賢寺此奉行動役中、之を懇望して當山に
納めしものなりと云ふ。

千光寺

●臨濟宗妙心寺派。
●喜山と號す。順應三年、木附(今の杵築)城主藤原
頼直、祖傳東照院道福の爲め、八坂下之庄宮原に一字
を創立し、寺田若千を寄せ、密室正觀を請じて開山とし、
喜山東照寺と稱す。當時、郡内風俗の巨刹なりしが、

●境内千二百四十八坪餘、本堂・庫裡・書院・経藏・
玄關・廊下・隠寮・浴室・東司・土藏・鐘樓・表門・
地藏堂・鐘守等觸次し、本尊に唐製釋迦如来を安置
す。寺寶として開山放生木像・宋陳和卿作觀音像(開
基後開四郎直重念持傳)開山筆蹟・同傳來袈裟等を有
す。境外二町餘の地に按問氏累代の墓碑あり。

龍祥寺

●臨濟宗建仁寺派。
●龍軍山と號す。應安四年、國司大友氏の先祖扶間
四郎直重(龍祥寺殿大倉自明覺宗大居士)の創建にし
て、開山は放生光林とす。爾來寺運隆盛にして、境内
に衝廊處、紅檜庵、侍眞庵等の子院を有せしが、天正
十五年、薩軍攻入の兵變に遭ひ、後ち延寶八年、現諸
堂を再建す。現に末寺に大藏寺、慶福寺、法專寺、願
成寺、長福寺、大長寺、向原寺等を有す。

●境内千二百四十八坪餘、本堂・庫裡・書院・経藏・
玄關・廊下・隠寮・浴室・東司・土藏・鐘樓・表門・
地藏堂・鐘守等觸次し、本尊に唐製釋迦如来を安置
す。寺寶として開山放生木像・宋陳和卿作觀音像(開
基後開四郎直重念持傳)開山筆蹟・同傳來袈裟等を有
す。境外二町餘の地に按問氏累代の墓碑あり。

能仁寺

●曹洞宗。
●瑞光山と號す。寛文五年、熊本城主細川越中守綱
利、天主教撲滅の爲めに佛法を興隆せしめんとして、肥
州郡託都府原天福寺開山行廣雲歩に命じ、定惠院の廢
址に就きて之を再興し、寂默山能仁寺と改め、豊州
足助郡石平山眞寺の末に列す。雲歩即ち邪黨を推折
し、化澤大いに豐肥の間に流布す。因りて悉に廢寺を
興し、其支院となすもの凡そ二十二寺と云ふ。後ち恩
眞寺遷轉せしより、山號を今の如くに改め、貞享四年、
丹波國水澤寺に屬せり。舊時寺料十五人扶持を附せ
られ、堂宇再建修繕等悉く細川氏にて行はる、例たり
き。現に末寺三十餘箇寺を統ふ。

大橋寺

●淨土宗西山派。
●法雲山と號す。永祿年中、國主大友宗麟の創建に
して、祐範を請じて開山とす。宗麟、其室菩提院の靈
牌を當寺に安じ、寺田若千を附して其香華院となす。
初め廣島に在りて、殿堂莊嚴を極めし、天正十五年、
薩軍攻入の時、其兵火に罹る。寛永五年、領主福葉民
部少輔一遺之を現地に移し、堂宇を再建し、寺領若干
を附して其菩提所とす。

月桂寺

●臨濟宗妙心寺派。
●清光山と號す。天正年中、讃州安八郡清水城主賴
襲伊豫守直道(一嚴齋)、城下に之を創建し、同郡中川
の宗嶽(三舟圓觀禪師)を請じて開山とす。慶長年中、
稻葉右京亮貞直白杵城主となるや、其子侍從典通當寺
を現地に再建し、寺領若干を附して香華院となす。後
ち南派、雲巖等相次で本寺を繼席し、現に當派別格寺
なり。

國分寺

●天台山と號す。天正年中、聖武天皇の勅願による
一國一寺の一なり。風土記に大分郡寺二所、僧寺尼寺、

●寛永四年、轉運使、攝州三田に來賜するや、領主
松平丹後守直一を創立し、轉運使の高弟存澤深山を
請じて開山とし、松房寺と稱す。同九年、直重、豊前
龍王に移封、次で當國高田に移さる。其子英現當藩に
移封の際、寺基を現地に移して長昌寺と改め、寺領百
石を寄す。元禄元年、松平日向守重賢寺領三十人扶持
を加増し、佛師淨慶の作に係る三尊の如来を寄進す。
爾來本宗に於ける當國福壇たりき。

●境内千八百餘坪、本堂・庫裡・玄關・書院・方丈・
位牌堂・觀音堂・輪藏・寶庫・鐘樓・寺門等を具ふ。
本尊阿彌陀佛は往時南都報恩寺に安置せられし靈像に
して、源信の作に係り、芝増上寺の黒本尊と同作なり
とて、松平重賢寺此奉行動役中、之を懇望して當山に
納めしものなりと云ふ。

●臨濟宗妙心寺派。
●喜山と號す。順應三年、木附(今の杵築)城主藤原
頼直、祖傳東照院道福の爲め、八坂下之庄宮原に一字
を創立し、寺田若千を寄せ、密室正觀を請じて開山とし、
喜山東照寺と稱す。當時、郡内風俗の巨刹なりしが、

●境内千二百四十八坪餘、本堂・庫裡・書院・経藏・
玄關・廊下・隠寮・浴室・東司・土藏・鐘樓・表門・
地藏堂・鐘守等觸次し、本尊に唐製釋迦如来を安置
す。寺寶として開山放生木像・宋陳和卿作觀音像(開
基後開四郎直重念持傳)開山筆蹟・同傳來袈裟等を有
す。境外二町餘の地に按問氏累代の墓碑あり。

大橋寺

●淨土宗西山派。
●法雲山と號す。永祿年中、國主大友宗麟の創建に
して、祐範を請じて開山とす。宗麟、其室菩提院の靈
牌を當寺に安じ、寺田若千を附して其香華院となす。
初め廣島に在りて、殿堂莊嚴を極めし、天正十五年、
薩軍攻入の時、其兵火に罹る。寛永五年、領主福葉民
部少輔一遺之を現地に移し、堂宇を再建し、寺領若干
を附して其菩提所とす。

●境内千二百四十八坪餘、本堂・庫裡・書院・経藏・
玄關・廊下・隠寮・浴室・東司・土藏・鐘樓・表門・
地藏堂・鐘守等觸次し、本尊に唐製釋迦如来を安置
す。寺寶として開山放生木像・宋陳和卿作觀音像(開
基後開四郎直重念持傳)開山筆蹟・同傳來袈裟等を有
す。境外二町餘の地に按問氏累代の墓碑あり。

●境内千二百四十八坪餘、本堂・庫裡・書院・経藏・
玄關・廊下・隠寮・浴室・東司・土藏・鐘樓・表門・
地藏堂・鐘守等觸次し、本尊に唐製釋迦如来を安置
す。寺寶として開山放生木像・宋陳和卿作觀音像(開
基後開四郎直重念持傳)開山筆蹟・同傳來袈裟等を有
す。境外二町餘の地に按問氏累代の墓碑あり。

●境内千二百四十八坪餘、本堂・庫裡・書院・経藏・
玄關・廊下・隠寮・浴室・東司・土藏・鐘樓・表門・
地藏堂・鐘守等觸次し、本尊に唐製釋迦如来を安置
す。寺寶として開山放生木像・宋陳和卿作觀音像(開
基後開四郎直重念持傳)開山筆蹟・同傳來袈裟等を有
す。境外二町餘の地に按問氏累代の墓碑あり。

●境内千二百四十八坪餘、本堂・庫裡・書院・経藏・
玄關・廊下・隠寮・浴室・東司・土藏・鐘樓・表門・
地藏堂・鐘守等觸次し、本尊に唐製釋迦如来を安置
す。寺寶として開山放生木像・宋陳和卿作觀音像(開
基後開四郎直重念持傳)開山筆蹟・同傳來袈裟等を有
す。境外二町餘の地に按問氏累代の墓碑あり。

●境内千二百四十八坪餘、本堂・庫裡・書院・経藏・
玄關・廊下・隠寮・浴室・東司・土藏・鐘樓・表門・
地藏堂・鐘守等觸次し、本尊に唐製釋迦如来を安置
す。寺寶として開山放生木像・宋陳和卿作觀音像(開
基後開四郎直重念持傳)開山筆蹟・同傳來袈裟等を有
す。境外二町餘の地に按問氏累代の墓碑あり。

延喜式に豊後國分寺料二萬束とあるもの即ち是れな
り。當時壯大なる七堂伽藍を構へしが、後ち衰頹す。
豊後國誌に據れば、仁治元年に至り、國主大友親賢當
寺の荒廢を修興し、且つ南都西大寺の真觀(弘法菩薩)
を請す。真觀當寺に住し、弘法に力め、金光明最勝會
を修したりと云ふ。弘安開田際には國分寺料十町と載
す。天正十五年、薩軍討入の兵變に罹り、伽藍悉く燒亡
す。其際續かに佛像、勧額、經論のみは山林に隱し、
其厄を免る。後ち玉藏房圓海、里人と協力して堂宇を
再建し、該佛像を安ず。因りて之を中興開山とす。元
祿十二年、圓慶、舊金堂址に樂師堂(規模は金堂の三
分の一)を再建し、寶永四年、梵鐘を鑄造し、鐘樓を
再建して之を懸く。故に圓慶を再中興開山とし、鐘樓を
●樂師堂・觀音堂・護摩堂・庫裡・鐘樓等を具ふ。
本尊木蓮樂師如来坐像は約八尺、行基の作と稱すれど、
衣紋の刀法より見れば、鎌倉時代の作と推せらる。舊
塔址に在る觀音堂内には同觀觀音立像・同十一面觀音
立像等を安置す。前者は丈高五尺、藤原末期或は鎌倉
初期の作なるべし。後者は丈高三尺三寸、仁聞の作と
傳へ、當地方の木造佛像としては出色の作、藤原時代の
作と推考さる。尙ほ寺内に銅造如意輪觀音坐像あり。
坐高五寸二分、四臂を有する地方的製作にして鎌倉期
のものとも推考す。寺寶として傳聖武天皇宮筆金光明寺
木額・古瓦數片(奈良朝、平安朝)・古木佛像殘片・涅
槃像(寶永八年秀山筆)等を藏す。境内に五輪塔(高
さ約二尺五寸、白杵町深田堂ヶ道上の承安二年の銘あ
る五輪塔と同型)・寶印塔(齋共約四尺、室町以前のも
のか)・石造釋迦三尊及び十六羅漢十九像(各坐高約
三尺、元治元年九月作)等あり。境内及び附近には、住
普七堂伽藍の礎石數多殘存せり。當寺の近くに國分尼
寺址と稱するものあり。

白件石佛 我國に於ける石佛中、最も優秀なる作を遺すは本縣にして、就中、當町深田蒲月寺址のもの、白件石佛と稱して最も著る。傳へ云ふ、欽明天皇十一年、百濟僧羅城當地に來り、唐す所の春樹檀の千手觀音像及び瑞瑠石の樂師如來像を當地眞名長者に贈る。依りて敏達天皇三年、長者、當地に祇陀、療病、施藥、安養、快樂の五箇院を創立し、紫雲山蒲月寺と號し、蓮城を請じて其開山ならしむ。其翌年、同所の崖壁に過去七佛を初め十三佛、二十五菩薩等百餘體の石佛を彫刻す。是れ唐僧羅城、羅城一行の手になること云へり。蒲月寺は以後廢滅、繼かに本石佛群に依りて當時の盛衰を偲はしむるのみ。尙ほ、本石佛の遺立年次は其手法より見て藤原初期を過るものにあらざるが如し。以下其主要なるを列挙すれば次の如し。寶印塔(日吉塔、大字深田木原)、仁王像(所在地同上)、蓮城及び長者夫妻像(同字妙見屋敷)、十三佛(同字古園林間)、釋迦三尊(釋迦地蔵、南津留郡大字中尾字山山林間)、堂ヶ道集園佛(所在地同上)、五輪塔(所在地同上)。

法番寺 北海道部白件町。

●日蓮宗。
●竹林山と號す。慶長年中、白件城主賴實の創建にして瑞祥院日行を開山とす。寛永十八年三月、賴實夫人(光淨院殿一月日性大姉)逝去して其位牌を當山に納め、寺領五十石を寄せ、其香華院となす。寛文五年、三世日蓮遺像を建立し、洪鐘を鑄造す。明和二年、堂宇回廊に罹り、後ち再建せらる。天保年中、現在の堂宇を重建すと云ふ。
●境内に本堂・宗學所・庫裡・支關・廊下・土藏・浴室・香神堂・二天門・門香所・鐘樓等を具ふ。鐘樓

に懸くる洪鐘の銘は深草元政の撰文に係ると云ふ。境内に賴實夫人靈廟あり。

善教寺 南海部郡佐伯町。

●眞宗大谷派。
●法輪山と號す。創建年代不詳なれど、開基を法輪善教とす。故に其名を分ちて山寺號となす。初め同郡古市村に在りて、天台宗に屬せしが、十二世行念の代、眞宗に改む。慶長七年、領主毛利民部大輔高政、佐伯城遺蹟の際、之を現地に移し、其亡母法雲院菩提の爲め、境内地若干を寄せ、大谷派の中本山となしたりと云ふ。現に近郷末寺八箇院を管す。
●本堂宏壯、内に法雲院靈牌を安置す。寺寶として教如より妙西尼に授けられし十字名號及び法語等を獻す。

養賢寺 南海部郡佐伯町。

●臨濟宗妙心寺派。
●龍泉山と號す。慶長七年、佐伯城主毛利民部大輔高政築城の時、之を創建して其菩提所とし、大觀慧光を請じて開山とす。
●本堂・庫裡・書院・支關・内支關・御入支關・方丈・禮寮・禪室・經堂・鐘堂・聖侍寮・願王殿・御入門・通用門・浴室・東司・寶庫・土藏・妙見廟等を具備し、雄大壯麗を極む。本尊釋迦三尊を安す。境内に開基毛利高政の靈廟及び同家累代の墳墓を存す。また後山には西國三十三所觀音あり。

神角寺 大野郡西大野村大字島田。

●古義眞言宗。
●高野末なり。寺傳に欽明天皇の朝、新羅僧某、神角山に隱栖す。時に觀音大士の金像を感得し、一字を創して安置す。是れ本寺の靈廟なりとす。延喜年間、山城國關寺の觀音此地に卓錫し、大いに寶殿を興し、輪奐壯麗、西海の高野と稱せらるゝに至る。建久七年、大友能直當國を領するや、諸方の諸族之を喜ばず、諸方惟榮の族大野善基、能直の部下古庄某と交戦するに方り、本寺は城壁に充てられしを以て堂宇興上す。依りて應安年中、大友氏更に六坊を建つ。後ちまた克廢し、現在東北二坊を存するのみ。
●本堂は神角山の斷崖洞窟中に建ち、方三間、單層、屋根寶形造、檜瓦葺にして現に國寶建造物たり。寺傳に應安二年、境内の大樹を伐りて建造せしものと云ふ。軒は一軒雲垂木、唐檜三平、其構造様式よく寺傳を裏書す。尙ほ本堂附近には磨崖石佛頗る多く、境内に大野善基の墓あり。

猪鹿狼寺 直入郡久住町。

●天台宗。
●久住山と號す。寺傳に延暦二十三年、最澄唐より歸朝の歸、當山を以て無雙の靈場となし、將來せらるる一面觀音像を安じ、大和山慈尊院と稱すと云ふ。爾來水源觀音と稱して崇敬厚かりしが、文治年中、源賴朝陸州富士の巻狩の企圖ありて、肥後國阿蘇大宮司へ頼原景高を以て、狩式尋問の爲め下向せしむ。時に下野狩を當山に於て執行し、數千頭の猪鹿狼を初め狐狸鬼地を獲たりしも、延暦以來の靈山を讚せし佛刹を

欄れ、堂宇を修營し、寺領若干を附し、久住山猪鹿狼寺と改稱し、以て嚴城の靈を弔ひしと云ふ。其後、當國白丹南山城主志賀氏全盛の頃、數百石の寺田を寄せて其祈願所とし、西國無比の靈場と呼ばれしが、天正の兵亂に寺中二三を殘すの外、悉く燒滅せり。慶長年中、當村山中の地に移し、其後、寛永年中、肥後國主細川忠興之を現地に遷し、寺田若干を寄進して其祈願所とす。明治維新に至り寺領上地等にて殆々衰へし、同十八年、水恩を蒙る檀信徒等堂宇を改修し、舊觀に復せりと云ふ。

永興寺 日田郡日田町北豆田。

●淨土宗。
●慈眼山と號す。長和三年、日田領主大藏大夫水永弘、其子水興菩提の爲め一字を建立して其靈を安置し永興寺と號す。後ち源信自ら一體の觀世音像を作り、前に水興に授けし一寸八分の黄金佛十一面觀世音を置間羅りとなし當寺に安置せりと傳ふ。

●寺境慈眼山公園にあり、日田三層塔の一と稱はれ、景勝の境たり。奉安の佛像中、國寶に指定せられしもの次の如し。觀音安置の木造十一面觀音立像一軀は丈高二尺七寸五分、捺漆箔押、玉眼入にして、腰に裾を翻ひ、左肩より斜に袈裟を懸く。十三重の華座(踏割蓮花、五蓮花蓮瓣)上に立つ。光背は舟形、二重光心入りにして、寺傳に源信作と傳ふるも鎌倉時代の作とすべし。開元觀音沙門天立像一軀は丈高七尺一寸五分、地身極彩色、兩乳及び腕部に鬼面を附し、腰を纏衣す。開元沙門天立像二軀中一軀は丈高五尺二寸、正面に雲文を彫る兜を被り、全身極彩色、藤原時代の様式を具ふ。他一軀は腰以下を缺失し、寶相華を刻せ

る兜を著け、胸部、腕部に鬼面を附す。同じく藤原時代の作。同四天王立像四軀の内、廣目、多聞の二天は草鞋持、增長の二天は香を著す。丈高三尺一寸乃至三尺二寸五分、今持日は玉眼を、増長は寶髮、玉眼、右手五指を、廣目は玉眼と左手を夫々缺失す。持日、多聞兩天に胎内銘あり、南都興福寺大佛師法眼康俊作少佛師息康成俊慶元亨元年辛酉十月十七日」と明記す。作者及び年代の明かなる遺作として美術史上の重要資料たり。

羅漢寺 下毛郡上津村大字跡田。

●曹洞宗。
●曹洞窟山と號す。大化元年、法道仙人の草創に係り、其後屢次諸宗の高僧來りて洞窟中に修禪せしが、神應元年、榮西五世法孫、圓應靈覺偶々當山に靈窟あるを聞知し、來りて安神の道場と定む。されど當時未だ一字の殿堂たになかりしが、峯巒巖窟の奇異なるを見て之を印度の曹洞窟山に擬し、此處に五百羅漢像を安置せんと欲し、先づ山麓に智剛寺を創して試みに十六羅漢の繪像を安す。後ち延文五年、通流建順と云へる僧、禪師の志を慕ひ來りて協力し、地を下して堂舎を營み、釋尊、五百羅漢を初め佛、菩薩、四天王、八大龍王等合して數百尊の石像を彫刻して之を安置し、號して曹洞窟山羅漢寺と云ふ。足利義滿深く之に歸依して羅漢護國禪寺の額を贈り、寺領百二十餘町を寄附し、且つ又曹洞窟川堰之をして諸堂を建立せしむ。天正以來の領主黒田、細川、小笠原の諸氏皆崇敬して、寺田若干を附し、總持將軍來た歸依して寺領百石を



(曹洞窟山寺全景)

岩窟中にあり、佛舍利を安す。書院(石圍宅・庫裡・渡雲閣・方丈(高森樓)・寶物館・山門(香雲閣)・曹洞窟千體石像を安す)・無漏窟(五百羅漢像を安す)・經藏・指月庵・仁王門(金剛閣)等あり。寺寶に開元淨觀金

觀音立像其他を藏す。山中四圍の窟窟、四季共に絶佳なり。
●三月三日の節句、四月八日の釋尊降誕會には近郷の參詣者夥し。十一月一日の羅漢供養には末寺四十箇寺相集りて法式をなす。

長久寺 下毛郡三保村大字福島。

●眞宗本願寺派。
●田丸山と號す。文明九年、地頭福島但馬守祐賢入道正善(天然の弟子)の開創なり。
●境内廣瀨、本堂・庫裡・居間・大玄關・別寮・學寮・廊下・經堂・寶庫・土藏・鐘樓・紅葉館・表門等を兼ふ。寺寶として蓮如筆六字名號・同筆最要鈔・實如筆六字名號等を藏す。

四日市別院 宇佐郡四日市町。

●眞宗大谷派。
●草創年代不詳。初め虚空藏寺と號し、天台宗を奉ぜしが、慶長年間、渡邊綱統出家して專修と號し、弟子眞珍と共に再興して之に住す。第二世正明に至り深く眞宗に歸依し、本山より本尊並に寶相山眞壽寺の號を得て其末寺となる。偶々大友氏の亂に遭ひて堂宇焼失し、正明、眞珍を隨へて難を諸地に避け、元和五年八月を以て歿す。其嗣正顯後を繼ぎ、萬治年中、寺基を現地に移す。延寶三年九月、第四世丹山、本堂再建の工を起し、次で其他の殿舎漸次整備す。第八世宗順身修まらず、尾次本山の讓賣を受け、之を憤りて轉讓を企て、本山派遺の輪番と抗争すること數年、寛保三年、幕府、輪番の訴へにより宗順を遠島に處し、堂宇

寺城を沒收して、翌年二月、之を本山に下附す。本山仍つて之を掛所となし、爾來輪番を置きて寺務を掌らしむ。明治元年正月十四日、御許山賊徒の兵變に罹りて堂舎什寶等燒燬せしにより、同六年、時の輪番海老深圓純再建起工、同九年、上棟式を舉ぐ。現今の本堂即ち是れなり。現に九州六箇國(豐前、豐後、筑前、筑後、肥前、肥後)を崇敬門末區域となし、門司、若松、行橋の三所に附屬院敷所を設く。
●境内二千五百四十四坪、堂宇に本堂・山門・經藏・庫裡・鐘樓・鼓樓・御殿・茶所・各地講中詰所等あり。本堂は十八間四方、山門は建間八間五尺、桁行七間二尺なり。

四日市別院(正明寺) 宇佐郡四日市町。

●眞宗本願寺派。
●正明寺と號す。大谷派の四日市別院と起原を同じくす(同項參照)。第八世宗順の時、本山より其業行を普められ、寛保三年に至り、幕府宗廟を慮りて、是れより遂に大谷派、本願寺派の二寺に分立し、本院は本願寺派に屬し正明寺と號す。延享三年十二年、本願寺十七世法如の時、命じて本山の別院となし、特に輪番を派遺して寺務を掌らしむ。
●境内四百六十餘坪、堂宇に本堂・庫裡・鐘樓・大門等あり。

圓通寺 宇佐郡宇佐町南宇佐。

●臨濟宗大徳寺派。
●龜松山と號す。寛元元年、宇佐宮大宮司宇佐公仲の創建にして開山を神子榮尊とす。榮尊は平康頼の男

(一)に知盛の子と稱す)にして、是より先き建保五年、宇佐宮に詣りて、冥助を祈る。後ち東方に遊び、宋國に渡り、明州の無準師範(徑山佛照禪師)に就き修學して歸朝す。寛元元年、宇佐宮に參詣して神恩を謝し、神子の號を賜はる。當時、大尾山の南に靈松山蓮華寺と稱し、後冷泉天皇の勅願に依り、都督正三位實資連の草創に係る名刹ありしが、承久の頃より荒廢に陥り、殆ど廢滅に歸せんとして、宇佐公仲之を現地に移し、七堂伽藍を造營し、靈松山圓通廣利禪寺と改稱し、榮尊を請じて開山とすと云ふ。後ち覺心(法燈國師)之を中興す。爾來豐多の盛衰を経、永祿年間、寺運最も隆昌せしが、天正年中、大友宗朝の兵變に罹りて烏有に歸す。後ち再建成りしも、舊觀に及ばず。同十五年、領主黒田孝高轄内三百石を宇佐八幡宮に寄せし時、内高五十五石を本寺に配知す。往時は獨立の本山と稱せしが、享保年中、大徳寺の客來となり、中本寺格に列し、明治維新後小本寺格となる。
●本堂・庫裡・開山堂・鐘樓等あり。本尊に加藤清正念持佛たりし聖觀音を安す。寺寶として覺心自作木像・同宋國傳來觀音畫像・開山榮尊畫像・宋帝筆十六羅漢像・狩野知信筆出山釋迦像・同時信筆龍虎圖・空海筆地蔵尊像・同筆不動尊像・土佐將監筆十六尊神像・源信筆淨土曼荼羅・光明皇后御筆陀羅尼品・一休和尚自贊像・開山所傳袈裟・榮尊宋國傳來佛舍利等及び寶劍・寶珠・拂子・古文書等を藏す。

大樂寺 宇佐郡宇佐町南宇佐。

●眞言宗東寺派。
●醫王山と號す。元亨年中、宇佐宮大宮司宇佐公遠の創建に係り、延喜を開山となす。建武元年、官符に

四至を記して大樂寺敷地、月湖北頓乙松名内北、隈東遺道、隈南河、隈西彌勒寺領、隈北田とあり。勧願所に準せらる。
●本尊木造彌勒菩薩像一軀は國寶に指定せらる。坐高四尺七寸三分、今、彌勒菩薩と云ふは寺傳に依るものにして螺髮群青彩色、肉色朱彩、肉身繪漆箔押、行基作と云へども、藤原時代の作にして、享保年間の修理に係る。

安樂寺 宇佐郡八幡村大字森山。

●曹洞宗。
●金剛山と號す。創建年代不詳、保元年中、後白河天皇より寺領若干御寄附ありて御祈禱所となる。壽永二年、平家一族、安徳天皇を奉じ、大宮司宇佐宿願公通に頼り、天皇、宇佐八幡宮に御祈願ありし時、當寺に於て御開運の御祈禱を修す。元暦元年、白杵次郎惟隆、弟緒方三郎惟榮、佐智四郎惟憲等軍兵を率ゐて八幡宮に亂入し、神像佛堂を破却、次で公通の館を襲ひ之を討たんとす。時に、當寺亦其兵變に罹り、堂宇輪旨舊記等悉く燒失せしが、後ち公通京都に奏上し、長日不退の祈禱所たるべきの旨旨を賜はり、伽藍を再建す。依りて之を中興開基とす。文治三年三月朔、公通卒して當山に葬り、安樂院殿關西先守護大宮司正三位豐實對三州大守天宮公通大居士と諡す。天正五年五月、國主大友宗朝の社寺燒却の難に遭ひ、境内焦土と化せしが、寛永年中、長州府中功山寺基外嶺の法嗣星岩傳壽、名刹の廢絶を憂へ、從來關係ある三十三箇村に謀りて堂宇を再建す。即ち之を中興開山とす。文政年中、日田郡代鹽谷大四郎正義、宇佐公通の社音平田井誓を起し、百姓に水利を興へたる功績を賞し、三十三

箇村の庄屋に圓りて堂宇を修造し、且つ境内に公通の影堂を新建す。爾來、再建修繕等三十三箇村にて負擔する例となる。
●本堂・庫裡・浴室・東司・土藏・鐘樓・表門等あり。境内に宇佐公通の墓、門内左方に五輪塔等存す。

善光寺 宇佐郡赤口村大字下時枝。

●淨土宗。
●梵天山と號す。俗に芝原善光寺と稱し、信州善光寺、甲府善光寺と共に日本三善光寺と呼稱せらる。村上天皇天徳二年の創建なり。開山を空也とす。正暦四年五月七日、一條天皇勅して、永世護持勸願所となし給ふ。爾來、國守黒田、細川、小笠原等代々の領主の歸仰する所となり、境域廣大にして、堂宇又輪奐の美を誇りしに、天正年間、大友氏の兵變に罹りて七堂伽藍悉く燒失し、機かに本堂一字を残せるのみ。近く大正十五年、本堂を修理し、昭和四年、布教堂新たに建設せらる。
●境内一萬餘坪、本堂は桁行五間、建間七間、單層、屋根四注造、本瓦葺にして、現に國寶建造物たり。寺傳に依れば、空也創立の後ち大治五年修理し、建長二年、多々良弘良の再興に係り其後數度の補修を経たりと云ふ。今唐破風造の向拜を附せるも、後世の補作にして、軒は二重繁垂木、組物和様三ツ斗なるも、外陣虹梁上の斗拱のみ唐様を用ふ。椽高く屋根の勾配急にして軒端稍々反轉あり。細部の手法明かに鎌倉初期の面影を傳ふ。布教堂は八間に十一間の宏壯なるものなり。其他諸雜舎完備し、本尊は一光三尊阿彌陀如來なり。寺寶として紺紙銀泥阿彌經・空海筆紺紙金泥阿彌陀經・天智天皇宮筆・尊超親王御筆大額・大内義弘寄附大茶釜・龍神捧呈と稱する善光寺名額・香爐・花瓶、其他細川氏、長岡氏の黒印狀等を藏す。境内に來迎松、小松内府重盛塔、小笠原加賀守墓等あり。



(實圖) (堂本寺安善)

佐賀縣

關正寺 佐賀市元町。

●真宗本願寺派。
●慶長五年三月、僧壽閑の開基に係り、元禄十四年之を再建す。
●寺域一萬餘坪、本堂・茶所・庫裡・方丈・書院・鐘樓等を具備す。本尊阿彌陀如来は行基の作なりといふ。

高德寺 唐津市唐津。

●真宗大谷派。
●釜山海と號す。永享三年、織田家の臣奥村掃部、出家して支了と法號し、本願寺六世巧如を師とす。依りて支如より宗廟影像を授けられ、當地に來り一字を創し、之を高徳寺と稱す。中興は其子孫小藤大にして、文祿征韓の役に陣歿せる日本武士の靈を弔せり。依りて秀吉より釜山海の寺號を受く。故に之を今山號に用ふと云ふ。
●本尊阿彌陀佛は、もと本願寺の御内佛なりしを、中興小藤大、宗主顯如より授けられたるものなりと云ふ。寺寶として金銀銅鐵錫の五品を以て鑄したる五味茶釜・金砂茶碗・ルソンの壺・障野元信筆書畫屏風・増永香盆・其他雜物及び古文書等を所藏す。

近松寺 唐津市唐津。

●臨濟宗南禪寺派。

淨養宗 唐津市唐津。

●瑠風山と號す。慶長四年九月、僧耳峯の開創に係り、開基寺淨養宗守廣高、高百石を附す。文政以來藩主小笠原氏の菩提所となる。
●後園は曾呂利新左衛門の築く所なりと傳ふれども、今は僅かに其跡を留むるに過ぎず。境内に近松門左衛門の墓あり。近松寺の名は之に基くならんか。或は曰く、近松寺四世、遠室の弟子、印海祖門と云ふ者才學あり。後ち京師に入り還俗し、近松信盛と稱す。元禄の頃、大阪に移り、淨瑠璃本數十種を作る。世に喧傳する所の門左衛門是なりとす。

淨土宗

●清涼山と號す。慶長年中、唐津城主守澤志摩守廣高の開基に係り、開山を寶蓮社眞覺とす。初め此地の地頭波多三河守上洛の際、御院尊像を將來し、之を神田村山に安置せしが、後ち守澤越中守現地に一字を創し、本尊を茲に遷す。越中守卒して此地に葬り、勝願院般若淨土と號す。其子志摩守廣高、亡父菩提の爲め諸堂を建立し、其法號に因りて、之を淨養寺と稱し、眞覺を請じて開山とし、寺田若干を附して其菩提所となす。寛永二十年、守澤氏断絶するや、寺門亦衰へしが、慶安年中、徳川家光、寺領五十五石の朱印を寄せしより舊に復し、爾來今に法燈連續たり。
●本尊阿彌陀如来は丈二尺九寸、慈悲僧都其慈母孝養の爲め、彫刻せしものと傳ふ。波多家の代官池田帶刀、此地を守りしが、當寺の寺領に肥田ありしを惜み、獲田之替り、然るに早苗取る頃、毎夜童子の足跡にて右の肥田を踏み荒せり。帶刀怒りて番士を以て獲はしむるに、一人の小僧來りて田の中に入る。番士驚を放

松雲寺 唐津市唐津。

●臨濟宗妙心寺派。
●祝融山と號す。開山を花園妙心寺誓深二智とす。初め唐津御城二の丸御詰に在りしが、天正二年正月三日の兵亂に燒失す。後ち守澤志摩守廣高、唐津領主となるに及び、文祿征韓の本營たる當國名護屋城を浦島山に徙すに就き、西濱に寺域一千九百餘坪を興へて本寺を再興し、京都觀安寺提山を請じて中興開山となす。寛文年中、大久保忠職の歸依を受けて其菩提寺となる。後ち唐津領内妙心寺派寺院の總本山たり。

福満寺 佐賀郡北川副村大字江上。

●古義眞實宗。
●長尾山と號し、御室末たり。延暦二十三年、最澄の開創に係る。其後堂宇大破せしを、安元元年、高倉天皇勅して御再建あり。建久四年、將軍源賴朝の新願所となり、北條時政、御堂を重建す。四條、龜山兩天皇勅願所に列し給ふ。貞和年中、足利尊氏の所屬となり、寺田若干を寄せられ、次で開直冬山門を建立し、金堂を修補す。爾來寺門隆盛を極め、七堂伽藍完備し、境内八町、寺領三百町を有して九州の天台と稱せら

高傳寺 佐賀郡本庄村大字本庄。

●曹洞宗。
●五日山と號す。天文二十一年の開基、開基は佐賀城主鍋島加賀守直茂の父、駿河守清房なり。慶長十六年、直茂の子勝茂、城主となるに及び、大いに伽藍を増築し、寺田若干を寄せ、以て其菩提寺となす。明治四年、其裔、祖先の墳墓の數十箇所に散在せしものを悉く當寺に移す。現本堂は明治三十年四月より、同三十五年七月まで五箇年を費して、改築せられしものにて、郡内唯一の大殿堂なり。

正法寺 佐賀郡高木瀬村大字高木。

●臨濟宗東禪寺派。
●正安元年の開基に係り、開基は高木氏の族、西郷三郎兵衛入道幸性の室妙明尼にして、高木氏累代の菩提所たり。元弘三年十一月二十八日、後醍醐天皇より

高城寺 佐賀郡春日村大字久池井。

●臨濟宗東禪寺派。
●春日山と號す。文永七年、朽井の地頭國分次郎藤原忠俊大權越となりて之を開基し、開基願空を以て開山とす。龜山上皇の勅願寺にして山門に高城護國寺の勅額を掲ぐ。舊時領九十石を有し、塔頭一院、末寺四十二箇寺を統べし巨刹なり。

五林寺 佐賀郡春日村大字久池井。

●曹洞宗。

備福寺 佐賀郡川上村大字川上。

●古義眞實宗。
●現に本宗高野末なり。和銅年中、行基の開基に係ると傳ふ。其後幾多の盛衰ありて今日に至る。
●本尊は十一面觀音なり。寺寶中、銅鐘一口は高さ二尺三寸餘、下徑一尺五寸七分、現に國寶たり。銘に「肥前國山田郡、眞中山、奉鑄洪鐘一口、……、建久七年丙辰十一月十九日甲午」等あり。中世山崩れのため、佐賀に流失し、同地觀音寺に留まりて、藩侯時報の用に供せられしが、後ち當山に復歸せしものなりと云ふ。

實相院 佐賀郡川上村大字川上。

●古義眞實宗。

●現に本宗御室末なり。和銅五年、行基菩薩の開基と稱し、寛治三年、開基之を再興して、眞言宗となす。依りて開基を開山とす。往古は現地の西北岩屋山に在り、子院四十坊を有せしが、元龜三年、現地に移る。當時尙ほ子院十二を存し、寺門繁昌せしが、後世衰微して五坊に減じ、又明治維新の際三坊を廢し、今僅に二坊を有す。古くは境内方一町ありて、本堂、講堂、客殿、方丈、寶庫、中門、勸使門、仁王門等完備せしが、嘉永七年一月、回祿に會して烏有に歸し、其後、現在の諸堂成る。

●假本堂・客殿・庫裡・方丈・土藏・山門等あり。寺寶として源賴朝、北條時政及び鎮西諸將の古文書百餘通を藏す。寺域、北に山を負ひ、東に川上川を控へ、南二里餘を隔て、佐賀市街を瞰下し、遠く筑後、肥後の山河を望む眺望の勝地にして、附近一帯は縣立公園指定地たり。

●經會(毎年舊二月五日・十五日)、川上の御經會と稱せられ、當山第一の盛儀にして、遠近よりの賽者頗る多し。

萬壽寺 佐賀郡川上村大字川上。

●臨濟宗南禪寺派。

●水上山と號す。寺傳に依れば、安徳天皇西海にて戰敗れし時、二位尼及び郡黨五六輩と共に此川上に逃れ來り、滿髮して神子學尊と號し、大宋に入り徑山寺に登り佛經禪師に從ひ、歸朝して當寺を草創すと云ふ。扶桑傳實傳には、神子和尙は辨圓(聖一國師)の法嗣にて、父をば平判官康賴と云ふとあり。

●寺内に寶劍堂と云ふあり。こゝに寶劍を安置す。箱の長さ一尺五六寸、古來開く事なしと云へり。鐵西

要略には「大治五年庚戌、水上山有異僧、曰善任上人、構密壇、酒五瓶、兼布台教、修不動明王法、一日天降寶劍、善任奏瑞入朝、勸復水上、且獲調馬、因遂移觀藏閣中云々」とあり。

●祭會(陰曆毎月二十八日)詣者頗る多し。

東妙寺 神埼郡三田川村大字田手。

●眞言律宗。

●寺傳に佐々木高綱の舍弟、唯阿の開基に係ると稱す。後ち足利尊氏之を再興す。建武二年、尊氏、官軍の爲に破らる、や、九州に下り、菊池氏の軍を多々其濱に破り、使を本寺に遣して昌運を祈らしめたりと傳ふ。また史微墨寶考證には、北條氏弘安中、蒙古役後に此寺及び妙法寺(花寺)を創建して勸願寺となし、念佛を修せしめ云々とあり。

●寺寶中。木造釋迦如來坐像一軀・周聖觀音立像一軀及び懷良親王御筆梵經一巻は國寶に指定せらる。釋迦像は鎌倉時代の作にして所々近年の補作存す。聖觀音像は弘仁期の特色を有し、頗る地方色あり。梵經は後醍醐天皇皇子懷良親王の九州に於て天授四年三月二十九日、御生母三位局息辰に際し書寫せられたるのなり。他に南北朝時代の繪巻・御教書數十通を藏す。

妙覺寺 三養基郡島橋町藤木。

●眞宗本願寺派。

●法性山と號す。文明二年の創建なり。初め延喜年中、菅原道真、筑前太宰府に左遷の節、幼子長壽慶の養育を親族菅原時任に囑す。時に藤原時平の監視頗る嚴重なりしが、跡を此地に移し、以て身を全うせ

しむ。其子孫熊野派の修驗となり、累代繼承して大先達禪心に至る。文明二年、禪心、本願寺蓮如に歸し、此地に一字を創す、即ち以て本寺の遷稱となす。

德常寺 三養基郡北茂安村大字東尾。

●眞宗本願寺派。

●竹林山と號す。慶長五年、關ヶ原の戰起るや、地頭赤司志摩守家貞出陣して京都に上る。時に本願寺蓮如の六字名號を拾得し(名號は明治二十二年の洪水に失ふ)、同六年凱旋す。同年一字を創建し、竹林山德常寺と號し、開山を明願とす。爾來法燈連續たり。

●本堂(七間四面、九世慈恩の再建)・庫裡・客殿・書院・鐘樓・大門等あり。本尊阿彌陀如來は康雲の作と傳ふ。

大興善寺 三養基郡基山村大字關部。

●天台宗。

●小松山無量壽院と號し、また俗に小松山觀世音と稱す。寺傳によると、養老元年、行基の開基にして、自刻本尊十一面觀世菩薩を安置すと云ふ。後ち承和十三年圓仁之中興し、末寺三十餘坊、寺領三百餘町備はり、寺門隆昌を極む。然るに享祿年中、再度の兵災に遭ひて堂舎悉く灰燼に歸せしが、天文年中、藤尾城主眞宗門大權越となりて再建す。元和年中、宗對馬守義成、重建して寺領を寄せ、文化年中、一世の學匠東尾の豪潮來錫す。明治初年、玉國警恩入りて當寺の再興に努力す。大正十三年、檀信徒相繼り小松山古刹保存會を設け、堂宇の改修を行ひ、昭和五年には開創

一千二百年記念法要を営めり。

●境内三千坪、老樹鬱蒼たる間に、本堂・祖靈堂・



(堂本寺善興大)

要師堂・地藏堂・辨天堂・鐘樓・庫裡・仁王門等の堂宇輝々。寺寶中、木造日天立像・多聞天立像の二軀は藤原時代の作に係り、國寶に指定せらる。境内には小松内府の古塔、豪潮律師八風四千古塔、舊藤原靈堂等あり。

圓通寺 小城郡小城町松尾。

●臨濟宗南禪寺派。

●弘安元年の開創たり。開山若納、もと台僧たりしが、道隆(大覺禪師)來朝の節、隨身して京師、鎌倉に到り、歸國後、千賀氏の歸依によりて堂塔を營建す。其後、興國寺の勸願を下賜せらる。後ち屢々兵災に罹り、特に維新時佛殿に當りて衰頹甚し。其後復舊以て今日に至る。現在末寺五十三間寺を有す。

●境域三千坪、堂宇に本堂・庫裡・鐘樓・山門・勸使門等あり。

常福寺 西山大師 小城郡飯川村大字上飯川。

●臨濟宗南禪寺派。

●廣嚴山と號す。數度の兵災或は火災に遭ひ、舊記を消失して沿革を詳かにせざれども、平安朝初期の創建に係り、初めは眞言宗に屬せしものと推測せらる。



(堂本寺福常)

●室町時代の末代の本住持古月の時より臨濟宗と成る。現に南禪寺派宗務支所たり。

●境域は廣城山の中腹にあり、遺聖頗る佳なり。古木蒼鬱たる間に、諸堂宇あり。本堂・庫裡等は近年の再建に成り、奥ノ院廻廊は天保年間創建なり。また境内に子安觀音銅像・修行大師銅像・石造五重塔・石門等あり。石門には木庵の筆になる懸額並に柱欄を有す。寺寶中、本尊木造藥師如來坐像・同帝釋天立像の二軀は國寶に指定せらる。前者は弘仁或は藤原初期

光勝寺 小城郡小城町松尾。

●日蓮宗。

の作、後者は藤原朝の作なり。他に野水抄半葉抄の遺曆・十六善神・十六羅漢の軸物等を藏す。尙ほ墓地は廣嚴城址一帶に散在す。

●奥ノ院縁日(三月、七月の二十日、二十一日)、山門大施餓鬼會(八月八日)。



(堂本寺勝光)

●松尾山と號す。本宗四十四箇本山の一なり。正和五年十二月、執權北條高時、九州平定のため、千葉胤貞を西下せしむ。胤貞發途に臨み、請ふて職授祈願を同國中山法華經寺三世日祐に託し、胤貞するや、當地に一字を削し、日祐を開山として久遠壽寺と號す。時に文保元年なり。爾來中山法華經寺主、即ち當山々主たるの制となる。元和三年三月、當山第十九世日蓮堂内して後水尾天皇より護國光勝寺の勅額を賜はり、勅額寺と名する。是れより舊號を廢して光勝寺と改む。因みに有名なる鍋冠日親又當山十七世に其名を列ぬ。

●境域二千餘坪、堂宇に本堂・庫裡・祖師堂・方丈・玄關・鐘樓・地門・中門・山門等あり。寺寶として日親法親記念品・所持品等數十種及び宗祖日蓮眞筆と稱する曼荼羅を藏す。境内、瑞祥松と稱する老木樹を初め古木鬱茂し、九十九段坂等ありて、幽邃の聖地たり。

●千部經會(四月十七日―三日間)、開山會(舊五月十九日)、宗祖會式(舊十月十二日、十三日)。

●**惠日寺** 東松浦郡鏡村大字鏡。

●曹洞宗。●洞淵山と號す。大伴按手彦勝朝の後、佐用姫の死を痛み、追福のため黄金佛を鑄造し之を赤水觀世音と稱へ、同尊像のために小堂を建つ。之れ當寺の草創なりと傳ふ。爾來數度の火災に罹りしも、後宗統之を改築す。

●寺域高嶺にして、眺望絶佳なり。境内に假山、噴水あり。轉入の築く所なりと云ふ。寺寶中、銅鐘一口は高さ二尺、口径一尺七寸の朝鮮鐘にして、現に國寶たり。其餘に太平六年九月云々あり。太平六年は高麗顯宗の十七年なり。又其道刻に依れば、この鐘は應

安七年十一月、善繼寺(東松浦郡鏡村中田)へ寄進されしものにして、其後轉々して當寺の有に歸せしと云ふ。

●**醫王寺** 東松浦郡久里村大字黒岩。

●曹洞宗。●芙蓉山と號す。永徳三年の創建、開基は當郡波多

の土家波多安房守源武、開山は無著妙融(眞空禪師)なり。往時は寺領四百五十石を有し、境内一里餘に亘り、波多氏累代の菩提所として、寺運繁榮を極め、洞宗九州三大寺の一と呼ばれしが、文祿征韓の役、洞宗三河守信時、性情の故を以て封色を削かれし爲め寺領山林亦悉く沒收せらる。因りて一時法燈消滅の悲境に陥りしが、慶長年中、寺澤志摩守廣高、波多氏に代りて唐津城主となるや、始めて當寺再興の許可あり。諸堂修築せられ、法燈再び輝くに至る。爾來、領主城主の國替轉封毎に寺領寺格に變更ありき。中興開山を惣覺融とす。

●境域四千五百餘坪、本尊木造聖師如來は丈四尺一寸六分、聖德太子又は行基菩薩の作と傳ふ。寺寶にして、愛染明王木像・十六善神畫像(野津藩兵衛親信二十八歳の筆)・大般若經(秀吉名護屋在陣の朝、武運長久、戰捷祈願として、數多の武將の筆寫せしもの)等を所藏す。境内に北條氏房(相模守直直の弟)の墓あり。五輪塔にして、塚を氏房山と稱す。

●**東光寺** 東松浦郡有浦村大字有浦下。

●曹洞宗。●瑞泉山と號す。日高入道宗任本治と云へる武將の創建と傳へ、念持佛聖師如來を本尊とし、開山を盛

岳記室とす。

●本尊木造聖師如來坐像一軀は高さ三尺四寸、藤原



(景泰寺光東)

末期の作にして、現に國寶たり。他に傳平重盛作六臂觀世音菩薩像、伊川院法印畫・松平定信、福山侍從正精、堀田攝津守正與各贊の雪月花三幅對等の什寶あり。●毎年春三月八日、秋八月八日に大祭會を修行し、各三日間開帳をなす。

●**常光寺** 西松浦郡伊萬里町。

●淨土宗。●神通山と號す。慶長十三年の創建に係り、開山は派譽なり。派譽は、熊州穴水城主長右京大夫の子にして、京都大雲院貞安の弟子、天正年間、師命を以て肥前平月に下る。慶長十九年、當地に來り、本寺を創す。願下本宗第一の巨刹たり。●寺寶として後醍醐天皇宸翰及び諸名家書畫帖等を藏す。

●**廣福護國寺** 杵島郡武雄町富岡。

●臨濟宗南無寺派。

●**蓮院** 藤津郡能古見村大字山浦。

●古義眞言宗。●現に本宗御室末なり。草創年次並に沿革不明。●本尊本尊木造聖師如來坐像は總身極漆箔押、八重座に坐す。蓮座蓮瓣は三段合持持物及び蓮座花盤以下は近年の補足に係り、花盤には寶相華を彫出す。面貌優麗、衣紋流暢、高さ二尺八寸、藤原時代の作たり。又木造阿彌陀如來坐像二軀は共に定朝作と傳へられ、手法總て本尊聖師と同様なり。除漆箔押、蓮座三段合持、花盤八角、一の像には八方に寶相華の模様を彫刻す。花盤以下は近年の補作なり。作技何れも優秀なるも、說法印を結ぶ指々大なる像殊に優美なり。高さ四尺六寸五分、二尺八寸二分。以上三軀何れも國寶たり。

●**永壽寺** 藤津郡吉田村。

●曹洞宗。●慶長十九年、當色地頭鍋島茂秋の開基にして、開山は佐賀郡本庄村高傳寺九代天國香齋なり。●境内七百二十一坪、堂宇には法堂・不動堂等あり。寺寶中、木造不動明王及び二童子像三軀は國寶に指定せらる。不動明王は高さ二尺九寸の坐像、童子は後補に係る。童子は高さ三尺四寸。三尊共に鎌倉時代の製作に係る。●不動尊開帳大法會(二月二十八日)。

●蓬萊山と號す。仁治三年武雄城主後藤直明、東福寺神園(聖一國師)を聘して新殿所に定む。其後、後宇多天皇勅して護國の二字を賜ふ。爾來、廣福護國寺と稱す。

●境内閑雅にして、堂宇に本堂・庫裡・山門・書院、鐘樓・觀音堂・大師堂等あり。本堂安置の佛運慶作木造四天王立像四軀は國寶に指定せらる。四軀、方角に依りて色彩を染め分けられ、持國增長の二天は邪鬼を踏みて活動の姿を示し、廣目多聞の二天は邪鬼を岩座上に立ちて静止の態を表す。高さ各約四尺五寸、鎌倉時代の優作たり。此外、寺寶に呂紀、趙子昂、雪舟、探幽、蘇東坡等の繪物百數十點を藏す。

●**圓應寺** 杵島郡武雄町。

●曹洞宗。●曹門山と號す。永祿年中、武雄城主後藤伯耆守純明の創建にして、開山は了然惠越なり。慶應二年に至り、諸堂を改築し、明治二十五年、更に庫裡、庫裡を再建す。

●寺域六千餘坪、法堂・位牌堂・庫裡・土藏・東司、書院・藏書・山門等を具ふ。境内に舊武雄城主鍋島家累代の墓あり。

●**安福寺**(水堂觀世音) 杵島郡須古村。

●天台宗。●聖武天皇御宇、法号是れを創建すと傳ふ。其後、高倉天皇の朝、七堂伽藍具備せしが、天正二年、龍造寺隆信の兵燹に罹り、諸堂焚上す。寶永四年、淨財の

寄進に依り、再建せらる。

●寺地、杵島山の中腹に位し、其麓の太平原を見晴し、不知火海を隔て、筑前、筑後及び肥後の連山を望み、風光に富む。本尊聖觀音を安す。寺寶として觀音木像・真跡及び源信の繪傳等を藏す。毎年舊四月十五日より同七月十五日まで、當寺の靈水を服して諸病平癒を祈り、或は之を手向けて祖先の追福を修する觀音信者、數十萬に達すと云ふ。

●**福泉寺** 杵島郡鏡江村大字田野上。

●臨濟宗東福寺派。●飯盛山と號す。寛平二年の創建と云ふも、開山開基不詳なり。中古略と廢滅に歸せしを、東福寺神園の高弟藤牛圓心、再興して眞言宗を現宗に改む。中興開基は北條時頼にして、寺領千石を附し、天下の諸山に列せしむ。當時、七堂伽藍完備せしが、後悉く烏有に歸し、現在、元祿年中、藩主鍋島氏寄進の山門、一字最も古く、他皆天保年間の重建なり。

●寺域一萬五千坪、境域、海拔二百尺の山腹に位し、前に阿蘇山及び筑紫海を望み、後ろに飯盛山高く聳え、堂後の山地には櫻楓の老樹ありて、眺望頗る佳なり。本尊聖師如來は古來藏像を稱せらる。往時、大黒丸と云ふ者、子なきを歎じ、百日の日參をなして、一子を授かんことを祈りしに、遂に本堂の背後にて白鹿の女兒を産むあり。之を養育し、後に、和泉式部と稱せりと傳稱し、式部の眞筆と傳ふる和歌一幅を藏す。別に弁持筆圖畫一幅・開山藤牛圓心眞筆一幅・同木像・章駄天水像等を所藏す。

長崎縣

聖福寺 長崎市上筑後町。

●黄葉宗。

●萬壽山と號し、舊時は長崎唐寺三箇寺の目付寺と稱せられし名刹なり。もと眞言宗智覺寺の古址なりしが、黄葉山木庵の高足齋心道神、靈地の廢滅を惜み、延寶六年、時の長崎奉行岡野、牛込兩氏の歸依と、當時來住の支那神商等の歸信に依りて伽藍を建立す。後ち長崎警備の職に在る肥前國主鍋島侯の陣屋と定められ毎年若干の僧糧を納付せらる。寶曆年中、第六世大雄當澤在留支那東神商等の請に應じて境内に關帝を安じ、又明治二十九年、廣東會所より天后聖母を富山に移安し、共に其祭典頗る殷盛を極む。同二十二年、第十二世方中は神戶、横濱、函館在住の支那商人及び本邦の檀信徒と圖りて書院、庫裡を重修し、次で十三世靈苗開山堂及び松月院を改築せり。

福濟寺 長崎市下筑後町。

●黄葉宗。

●分常山と號す。俗に唐寺と云ふ。寛永五年、支那境内五千餘坪、堂宇に大雄殿・關帝廟・大方丈・小方丈・支關・庫裡・開山廟・鐘樓・御勤門・總門等を列ね、本尊釋迦如來を安置す。寺内の大梵鐘は、其音三里に達し、俗に鐵心の大鐘と呼び、九州第一の巨鐘として著名なり。尙ほ境内には松月院、普門院、淨澤庵、清淨庵、四林庵等の諸塔頭あり。

●境内六千六百餘坪、昔は城の古址山と呼び、長崎氏繁華城の跡とす。境内にトナトノサンダの遺跡たる切利支丹井あり。又明の歸化醫頭川入徳、唐譯官東海氏等の墓あり。

崇福寺 (福州寺) 長崎市今龍町。

●黄葉宗。

●聖壽山と號し、俗に福州寺或は唐寺と稱す。寛永六年(一に九年)、明の歸化人王、何、魏の諸大商、實を集めて一字を創建し、福州より渡來の超然を開山となす。因りて又福州寺とも稱せらる。正保元年重建し、慶安四年、道者來りて院事を領す。明曆元年、隱元入りて化を垂る、ここ三年、次で其法弟即非來り住するに及び、大いに堂宇を改築す。延寶年中、第二世千凱(後ち字治萬福寺第六世)の時、佛像を修飾す。初めは攝根廟を主とし、當時入港船の海上安穩を祈る傍ら華人等の菩提寺となせるものなり。

●境域七千餘坪、石段數十級を上る。所在の諸堂宇盡く明風に成り、頗る異彩あり。就中、大殿・三門・第一峯門・護法堂・鐘鼓樓の五棟は現に國寶建造物たり。大殿(本堂)は桁行五間、梁間六間、重層、屋根入母屋造、寛永六年の創建、明治三十一年の修繕に係り黄葉宗建築として富市福濟寺及び山城萬福寺と共に代表的のものなり。三門(樓門)は三間三戸樓門、屋根入母屋造、本瓦葺にして、創建年代は本殿と同じく、文政五年八月大風のため大破崩壊し、同八年再建、明治三十五年修繕を加ふ。第一峯門(唐門)は四脚門、屋根入母屋造、本瓦葺、明曆四年の建立、四脚門として珍奇なるのみならず、所謂龍宮遺りの一標本として注目せらる。護法堂(關帝堂又は觀音堂)は享保十六年の



(寶蹟) (殿寶藏大寺西福)

福建泉州の僧覺海、長崎在留支那商人の請に應じて東渡、當時岩原郷と稱せし現今の地を相して堂舎を建て、海神天后聖母を奉安して、支那商人の菩提寺とす。慶安二年、溫陵紫雲山開元寺の僧溫謙或瑞波來入寺して分常山と號し、翌三年、地域を擴張して圓通殿其他の諸堂を新建す。住僧は開山より壽禪を以て名高き第七代大鶴に至る迄支那僧にして、第二代慈岳定深は天和元年より起りて禿禿に方りて賤姓に降身し、崎民の教主と仰がる。第八代以下は和僧にして現在を以て第三十一代とす。境内、水聖院、興徳庵、龍齋庵、芳雲庵の四塔頭を統ぶ。

●境内三千餘坪、地高燥にして眺望最も佳なり。堂宇中、本堂(大殿)寶殿又は釋迦堂・前堂(護法堂、御勤堂又は天王殿)・總門・青蓮堂(觀音堂)・中門(大觀門)・總門は國寶建造物なり。即ち本堂は桁行五間、梁間五間、重層、屋根入母屋造、本瓦葺、前堂は桁行五間、梁間二間、單層、屋根切妻造、本瓦葺、總門は左右各桁行二間・梁間一間、單層、屋根切妻造、本瓦葺、青蓮堂は桁行五間、梁間四間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、中門は四脚門、單層、屋根切妻造、本瓦葺、總門は左右各正面桁行二間、梁間一間、側面桁行三間、梁間一



(寶蹟) (殿大寺福福)

創建、桁行三間、梁間五間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺なり。また鐘鼓樓は桁行三間、梁間二間、重層、屋根入母屋造、本瓦葺、正保五年の建立に係る。寺内に十八羅漢像あり、明人死運の彫刻に係り、山城萬福寺の羅漢は之を模したるものなりと云ふ。城内にまた僧坊十二あり。墓域に支那人の墳墓多し。尙ほ大釜堂ありて巨釜を藏す。實に四石二斗を容るべしと云ふ。こは天和元年、當地大饑饉の時、第二世千凱の書所藏の書籍、器具を賣りてこの大釜を造り、一山の僧徒を率ひ、托鉢をなして得たる米穀をこの釜にて粥にし數萬の饑民に恤みしものにして、故に之を萬人鍋又は濟貧鍋とも稱す。

大音寺 長崎市今龍町。

●淨土宗。

●正覺山と號し、櫻林たり。元和二年、傳譽の開基に

間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺にして、本堂の内外丹塗なる以外、他は悉く素木造、何れも明式の諸建築として異彩あり、本堂と前堂は慶安二年の建立、青蓮堂と中門は同三年の落成に係る。本尊は毘盧遮那佛釋迦如來等にして楊貴妃の念咒佛、開創當時壽陀山より傳來せるものなりと。前堂の布袋像は壻像にして唐人林高龍、吳眞君の二佛匠來りて作りしものと傳へ、此作最も勝る。また達磨像、觀音像は方三官の作と傳ふ。其他の寺寶には唐畫彌陀、觀音、勢至三幅對・隱元、木庵、即非筆蹟等の書畫數十幅あり。また大書院の板戸の書は沈南蘋筆と稱し、尙ほ此書院の金壁には傳小原慶山筆大山水の畫あり。境内西方五町西坂町に切支丹殉難の遺蹟、更に四、五町女風頭の丘上に慶長切支丹殉教二十六聖人の史蹟存す。

●祝聖(皇室の祝賀を祝賀する式、一月一日・三日、他月は一、十五日)、關帝忌(二月十三日)、天后聖母忌(三月二十三日)、開山忌(六月二十三日)、初祖忌(十月五日)。

春徳寺 長崎市夫婦川町。

●臨濟宗建仁寺派。

●華嚴山と號す。寛永年中、奉室の開基に係る。初め慶長年中、南蠻邪教の餘黨東渡なるもの堂宇をこゝに建て名付けてトナトノサンダと云ふ。寛永十七年春、室初めて寺を岩原郷に建つ。慶安三年、邑長末次重直、室を此地に移建す。貞享三年、同様に福智堂宇烏有に歸せしが、後ち再建せらる。往時は塔頭に海雲院、雲福庵、松月庵、淨修院、東江軒等の數坊あり、又富山住職は書物改役として、幕府より若干の俸糧を附與せられしを以て門徒の多きを頼はざりしと云ふ。

皓臺寺 長崎市寺町。

●曹洞宗。

●初め慶長十九年、傳譽二十七歳の時、御河より當地に來り、伊勢屋傳之丞なる者の宅に寓居し、淨土の法門を弘通す。時に長崎奉行長谷川廣智、長崎人の切支丹宗を信奉して國害を惹起せんことを怖れ、傳譽をして當地の民を教化せしめんとし、其宅地に小堂を建立して之に寄す。是れ當寺の濫觴なり。時に徳川幕府外教信奉を嚴禁し、同年七月、山口駿河守重弘をして長崎切支丹寺を悉く破毀せしめ、同年九月、幕府使番間宮權左衛門來崎して天主教徒數百人を阿彌佛より追放す。仍りて傳譽益々勵精して郷民の傳導に努む。茲に於て幕府其功を賞し、元和二年、本博多町坂上天滿宮の地にありし切支丹寺の遺跡を賜ひ、此處に一寺を新築、翌三年落成し、山寺號を今の如く名づけ京都知恩院末とす。寛永十五年、松平伊豆守信綱島原凱旋の歸途長崎に來るや、寺境替地の事及び長崎島原町の堀に埋没せし切支丹寺の礎を改鑿して寺用となすの許可を受け、遂に堂宇を今の地に移轉す。同十八年、幕府境内除根の朱印狀を寄す。以て長崎社寺朱印狀下賜の嚆矢となす。爾來法燈連續今に至る。現に境内塔頭として影照院、專修院、念佛院、觀音院の四院を有す。

●海雲山と號す。慶長年中、肥前平戸の僧龜龜真鶴、岩原郷に一字を創して登頭山洪春寺と稱す(其地は現郷福寺境内なり)。是れ當山の起原なり。元和元年、佐賀玉林寺住持一庭融禪師を奉じて洪春寺に來錫し、切支丹教徒を説教し、轉宗を勸めて大いに功あり。寛永三年現地に移り、同十九年明正天皇、一庭に了外廣覺禪師の號を給ひ、且つ紫衣を許され、海雲山普願院と號せしめ賜ふ。慶安元年、徳川氏境内除祖の朱印狀を寄す。同二年、二世雪山、徳川家光に謁見、關老列座の席に於て當寺住職に補せられ、當地へ下向の時、筑前黒田侯命を以て特に途次を警衛せり。第三世月秀住持に補せらるゝに際し、將軍より時服を拜領す。爾來住持補任には必ず關老の遺書を以てすること、なれり。故に長崎に於ける寺院の格は當山を以て筆頭となせりと云ふ。現に末寺十院、檀家三千餘戸を有し、本寺は佐賀玉林寺なり。

●寺城一萬一千六百坪、本堂は萬應殿と稱し、仁王門を入る正面にあり。單層入母屋造、寛文二年紅毛木を以て造立し、初め屋根板葺にして二十年毎に改葺する例なりしが、明治四十二年銅板を以て葺替へたり。堂内本尊釋迦三尊は明人高一覽の寄附に係ると云ふ。總門は當山建造物中最も著名にして、往昔暹羅國商船の帆柱一本を以て造りたるものと云ふ。勸修海雲山の聖額を掲ぐ。

興福寺 長崎市寺町。

●眞覺宗。

●東明山と號す。初め明の歸化人歐陽氏の別業なりしが、後ち明僧眞圓來朝して此處に住す。即ち長崎在住の明人と謂りて覺刹を建立し、眞圓を以て開基となす。

九品寺 佐世保市各町。

●淨土宗。

●國風山と號す。天曆五年、空也の草創にして、往時は伽藍壯麗を極めしが、其後屢次水火の難に遭ひ、遂に荒廢に歸せしより、明治二十六年、新寺を建立して今の如く寺號を公稱すと云ふ。

西方寺 佐世保市八幡町。

●曹洞宗。

●放光山と號す。建長二年、香林水大の開創なり。初め臨濟宗に屬して歸一庵と稱せしが、後ち一時無住となり、堂宇荒廢に歸す。長祿元年、當地赤崎の天翁風清之を再興して、現宗に改め、地頭赤崎氏の菩提所となる。元祿九年、松浦氏寺領十五石を寄附す。天明二年に至り、十四世雷機月章、堂宇を再建す。依りて之を中興開山とす。明治三十九年より四十二年に亘りて、二十六世高木龍法、現在の堂宇を重建す。

す。時に元和六年なり。寛永年中如定來りて眞圓に繼ぎ、佛に天記を記りて唐船航海安全祈禱所となす。承應年中、長崎に於ける漢畫の祖とも稱せらるゝ僧逸然住持の時、隱元を故土より招請す。次で澄一悦來雷音等投化し、享保年中まで支那僧交代寓止せり。即ち歴代南京人の菩提寺なるを以て俗に南京寺或は唐寺と云ふ。寺中に東廡、桃林、水興、永福、寶福等の末庵あり。

三寶寺 長崎市寺町。

●淨土宗。

●萬年山と號す。元和九年、轉譽の開基に係る。初め轉譽天眞の彌陀と稱する佛像を奉じて當地に來り、第一橋の南に留まりて説法教化す。當時切支丹殘黨所々に在りて民衆を誘惑す。轉譽努めて之を破り住民をして佛敎に復歸せしむ。この事所司長谷川氏の聞知所となり、寺地を與へて一字を起さしむ。以て本寺の起原となす。

本蓮寺 長崎市西坂町。

●日蓮宗。

●聖林山と號す。長崎五山の一にして、京都本願寺に屬す。元和六年、日慧の開創に係る。日慧は當國大村の人、當地に來りて法を弘む。代官之に歸依し、切支丹の舊址(サジュニア)を寄せて堂宇を建てしむ。寛永十八年、大村城主大村民部少輔純貞、長崎代官末次

平藏等資金を補して伽藍を再建す。慶安元年、境内除祖の朱印狀を寄せらる。現に塔頭一乘院、本行院、成就院、遠心院、唯幸坊の五院を有す。

悟真寺 長崎市稻佐町。

●淨土宗。

●終南山光明院と號し、福圓善導寺末なり。慶長初年、善導寺支故、長崎に來りて布敎に専心す。當時切支丹徒の妨害甚だしくして、市街に覺刹を造營すこと能はず。支故即ち稻佐郷に滑草庵を結びて郷民を教化す。教傳懇切にして、人心之に歸服し、慶長三年遂に本寺を創建す。是れ切支丹教徒捕縛後に於ける覺刹の創めなり。後ち幕府寺地除祖の朱印狀を寄す。爾來寺門榮え、唐人の寺刹として著聞せしが、其後、唐三箇寺の成立と共に本寺と支那人との關係漸く薄くなりしと云ふ。

長崎別院(佛光寺別院) 長崎市小島町。

●眞宗佛光寺派。

●光壽山正覺寺と號す。慶長九年、道智の開創する所なり。是れより先き文祿年間より當地は切支丹宗徒を極め、道智川口に在りて淨土の法門を説き常に之の追善のために建てしものなりと云ふ。

福石觀音堂 佐世保市福石。

●なし。

●九州七觀音の隨一にして、當地屈指の靈場なりと云ふ。和銅三年、行基一字を創し、十一面觀音(丈長七尺三寸)を刻して安置す。後ち大同元年、空海唐土より歸朝の節、此地に謁を留めて更に伽藍を増營し、福石山清願寺と號し、爾來眞言宗に屬せり。後ち寺觀衰頹せしが、本尊觀音の靈驗顯著なりとて今に著聞す。

觀音寺 西彼杵郡福原村。

●曹洞宗。

●圓通山と號す。鎮西三十三所第二十六番札所なり。和銅二年、行基の草創と傳ふ。即ち寺傳に往昔、肥後國宇土郡に一架の橋あり。毎夜怪奇ありしより里人之を殺生橋と稱す。時に行基此處に來錫して之を聞き、其橋木を七片に斷ちて海中に放流し、橋木の漂着せし七箇所の浦に就きて行基自ら觀音像を刻して安置す。當寺其一なりと云ふ。又弘安四年五月二十一日、高麗兵五百餘艘我壱岐對馬を侵すや、當山より光を發し、ために賊軍散り陸地に近づく能はざりしと云ふ。延徳三年、天草の海賊、數十艘の船にて肥の御崎の海邊に來襲し、里人の物品、寺社の神器、靈寶等を奪ふ。時

光明寺 北松浦郡平戸町平戸。

●眞宗本願寺派。

●天正年中、空性本寺を創建して本宗の弘宣に努む。文祿元年六月二十五日、寺號公稱を許可せらる。天和元年、了空、平戸城主松浦隆信の招に應じて之を中興す。天保年中、現在の堂宇を重建す。

嚴吼庵 南高來郡津佐町。

●曹洞宗。

●普陀山と號す。正平八年、領主有馬左衛門佐渡世の建立に係り、開山を大智とす。初め水月山圓通寺と號せしが、天正七年、寛永十四年、耶蘇教徒のために燒かれ、一時荒廢せしより、慶安四年、雲山愚白、泉州より來りて再興し、山寺號を今の如くに改む。寛文十年、松平忠房寺領等を寄す。爾來累代の領主厚く崇敬し、領内巡視の時必ず當寺に參詣するを例としたりと云ふ。

鐵鉢寺 松平忠房寄附の時計・蓮華形手洗鉢等を藏す。

●淨土宗。

●境内千四十九坪、寺寶に大智禪師の製鉢・拂子・鐵鉢・松平忠房寄附の時計・蓮華形手洗鉢等を藏す。

純樸・太鼓堂・經藏・六脚門等あり。

最教寺 (談議所) 北松浦郡平戸町平戸。

●新義真言宗智山派。
●高野山と號し、俗に談議所と稱す。初め勝音院と號し、曹洞宗を奉ず。時の領主松浦印山、長州深川大...

正宗寺 北松浦郡平戸町。

●臨濟宗大徳寺派。
●興國山と號す。寛永十六年、平戸城主松浦鎮信、...

東光寺 北松浦郡佐々村。

●曹洞宗。
●曹洞宗と號す。永享年中、英麿漢城(松隆禪師)諸...

安國寺 壹岐郡田河村大字深江。

●臨濟宗大徳寺派。
●老松山と號す。曆應年間、足利直義、僧徒石の勸...

めに依り六十六州に遺立せし安國禪寺の一にして、無...

國分寺 壹岐郡那賀村大字國分。

●臨濟宗大徳寺派。
●護國山と號す。天平十三年三月、聖武天皇勅して...

國分寺 下縣郡鹿原町。

●曹洞宗。
●天徳山と號す。天平年間、聖武天皇勅して諸國に...

熊本縣

西光寺 熊本市細工町二丁目。

●真宗本願寺派。
●開基は河内國住人、平野理正重時の一子重明にして、...

阿彌陀寺 熊本市細工町三丁目。

●淨土宗。
●福岡縣善導寺末なり。開基は行基にして、同作の...

延壽寺 熊本市河原町。

●真宗大谷派。
●青龍山と號す。大永二年の創建にして、開山は空...

順正寺 熊本市河原町。

●真宗本願寺派。
●明應七年、長嶺武藏守有直、大阪にて本願寺八世...

報恩寺 熊本市東外坪井町。

●曹洞宗。
●徳頼山と號し、文永年中の創建に係る。川尻肥後...

往生院 熊本市京町。

●無量壽山善安寺と號し、俗に古往生院と稱す。創...

淨土宗。

●本尊阿彌陀如来は安阿彌作と傳へ、清正の寄進せ...

本妙寺 熊本市花園町。

●日蓮宗。
●熊本市花園町。

●發星山と號す。京都本團寺末にて、末寺四十八箇寺を有し、西國に於ける本宗隨一の名譽たり。往時は山嶽を中尾山又は法性山、或は金華山とも稱せりと云ふ。開山は加藤清正の歸依僧發星院日眞なり。天正十



(景 寺 妙 本)

三年十一月、清正、攝州大阪に發星山本妙寺を創建せしが、同十六年、當國に移封せられ、城を熊本に築くや、日眞亦隨ひて到り、城下三ノ丸(或は云ふ法華坂)に天台宗嚴寺三寶院を興し、之を法華道場として住せ

し、慶長五年十月、清正假假を造營し、大阪の本妙寺を移して法性山と號す。後日眞星映池の瑞夢を感じて發星山と改む。同十一年、近衛信尹の執奏に依りて紫衣を賜はり、權大僧都法印に任ぜらる。同十六年、法嗣日眞第二世を襲ぐ。清正の歿後、嗣子忠廣靈廟を城西中尾山に營むや、同十九年、本寺を該地に移し、寺領七百石を附して其菩提所となす。後關成天皇爲めに勅願所の繪旨を賜ふ。第三世日眞は朝鮮の人、余天甲壽傳の男なり。文祿の役、八歳にして捕へられて清正に奉仕し、後出家して本寺を繼ぐ。世人稱して高麗上人と云ふ。寛永九年、加藤忠廣羽州庄内に配流され、豊前小倉城主細川忠利熊本城主として入國するや、寺領を減じて三百石とし、後隱居料百石を附し都合四百石と定めしむ。尙は寺城廣潤、子院雲を列法法不斷に營き、爾來三百年、寺運隆昌を極む。明治十年、西南役に隣人の據る所となり、爲めに兵燹に罹り、大伽藍一朝にして悉く灰燼に歸せしが、其後漸次復興し、現に其善美舊觀を凌がんとす。

●慶長七千二百三十二坪、堂宇は方丈・書院・淨土廟拜殿・黒門・寶藏・大本堂・本廟・仁王門・祖廳・粟毛堂・寶庫・發星閣等順次に新築され、近く本堂の内部造營、寶藏・大方丈の營築、清正公大銅像の建設成らんとす。本堂日蓮大菩薩、又清正の木像を安置す。寺寶には清正の武器・用品品・筆蹟等數多し、其他多くの書畫・古文書等を藏し、就中、光世鈔の短刀一口(細川齊茲寄進)は國寶たり。尙は宗廟親王軍日本記覽表上下二巻は學界に著名なり。清正本廟の傍には殉死者大木土佐守兼能及び朝鮮人金官の墓あり。又文化十四年の建設に係る淨池公廟碑あり、自然石の巨碑なり。

●七月二十三日、二十四日に亘る額寫會は年中の大領主加藤、細川兩氏相次で堂宇の修營、寺領の寄附をなせり。

●城址四千坪、本堂・願禮堂・鎮守堂・奥ノ院等あり。寺寶中、木造東院水鏡神像一軀は國寶に指定せらる。他に宮本武蔵作不動尊、繪垣龜自作像及び石筒(天明四年洞中より發掘)・龍騎・蟻・隱元・木庵・鐵牛等の扁額、其他數十點を藏す。境内に空海爪形不動明王の遺跡ありと云ふ。寺境、奇麗古木に富み、中に數多の羅漢石像あり。

●三月十八日(彼岸)は年一度の大祭にして、善男善女遠近より群參すと云ふ。

大慈寺 熊託郡日吉村大字野田。

●曹洞宗。大慈山と號し、永平寺末なり。弘安年中、寒巖義尹の開基に係る。寒巖は後鳥羽天皇皇子と云ひ、一に順德天皇第三皇子とも傳ふ。初め文永四年、宋より歸朝し、同國宇土郡古保里に住せしが、後川尻春明の妹素明尼の歸依を受け、弘安元年、大渡に本寺を建立し、自ら丈六釋迦坐像を作りて本尊となす。素明尼乃ち外護者となり、境内四町四方並に田圃三十町を寄進し、武家の御教書を申請す。龜山法皇繪旨を下し、紫衣及び宗輪を賜はり、官寺に列す。當時法堂、佛殿、庫裡、方丈、山門、浴室、東司の遺營あり。外に多寶塔、經堂、寶藏等を建造し、寺門隆盛を極めしが、永正十七年、兵燹に罹りて佛殿、樓閣大半焼失し、繪旨勅額寺寶舊記等又悉く灰燼に歸す。後再建成りしも、天文九年、再び兵燹の爲め烏有に歸す。依りて五十一世洞春之を再興し、上京參内して、後奈良天皇より勅額を賜はると云ふ。其後寺領は大友氏の爲め没收せられ、



(院ノ奥寺嚴雲)

の時、大宰大貳藤原興経に哀歌を誄じて、租一領を贈られしことありと云ふ。家集を繪垣龜集と稱し、今群書類從に收む。老いて此地に住み、歿後茲に葬る。寺内に龜の石塔あり。此石塔、熊本築城の頃、城内に移されし事あり。細川忠興之を見て詳事にあらすとなし、城主忠利をして之を元の如く現地に移建せしめしむとす。

雲嚴寺 熊託郡松尾村大字平山。

●曹洞宗。寶華山と號す。本尊四面馬頭觀音像は孝謙天皇天平寶字年間、異域より漂流して此靈地洞窟に垂迹せるものなりと云ふ。後貞和十年、大元明州の東院水鏡來朝して銅を此地に留め、洞窟の側に精舎を建立せんと欲すれども、其地に深淵ありて志を遂げず。一夜夢

安國寺 熊本市横手町。

●曹洞宗。安國山と號し、慶長年中、領主加藤肥後守清正の創建なりと云ふ。初め青龍山弘眞寺と稱せしが、元和年中、無住となりて荒廢に歸せしを、寛永九年、細川越中守忠利之を再興し、豊前小倉より從ひ來りし同地安國寺の僧明廣亮敬を中興開山となし、明廣將來の大般若經六百卷を納め、國家奉平の新繪所とし、寺領五十石を寄せ、奉平山安國寺と改むとす。

●本尊は釋迦三尊なり。寺寶として長祿三年の銘ある繪馬及び心經を藏す。是れも當國菊池郡隈府正觀寺の什寶なりと云ふ。

蓮臺寺 (繪垣寺) 熊本市蓮臺寺町。

●淨土宗西山派。九品山淨土院と號し、俗に繪垣寺と呼ぶ。京都東山禪林寺末なり。往時繁榮の道場なりしと云ふも、草創因由詳ならず。寛文六年、願空文海之を再興し、同十一年、領主細川綱利其復興を助け、寺領五十石を附す。爾來、寺運隆昌に向ふ。依りて願空を中興開山となす。

●本尊阿彌陀如來を安置す。境内には又觀音堂及び繪垣龜の汲みしと傳ふる懸井あり。繪垣龜は當國白河の遊女、平安朝時代の人にして、和歌を能くす。肥後守清原元輔に和歌を贈答せしこと家集に見え、老後落魂

永祿六年、正親町天皇より寺領安堵の繪旨を賜はりしが、天正十五年、佐々成政再び之を沒收す。翌十六年佐々氏斷絶し、同年、加藤清正熊本城主と爲るや、境内高五十五石分の地子を免す。細川氏また之に準ず。元祿九年、七十七世龍谷の代、越前永平寺に屬す。同十五年、細川綱利の願に依りて熊府封内に於ける曹洞一宗の僧録司を命ぜられ、糧料五十餘石を給せらる。現に國內門栗三百八十二箇寺を有し、九州に於ける同宗隨一の名刹たり。

廣福寺 玉名郡石買村大字石買。

●曹洞宗。紫陽山と號す。元徳二年、領主菊池肥後守武時の創建に係り、開山を永平六世の嫡孫大智とす。大智は宇土郡如來寺の僧、元國に渡り、徑山寺に七年間滯留、歸航の途、逆風に遭ひて高麗に漂着し、留ること三年、正中元年、三十四歳にて歸朝し、菊池郡穴河に聖護寺を建立す。時に武時、國中の諸士と不和あり、所々に於て戦ふと雖も利あらず。聖護寺に到り大智に頼る。大智智辯かに武時を隱し置き、自ら上落して奏聞し、本領安堵の繪旨を賜はりて下向す。因りて武時一國を平治し、此恩に報ぜんが爲め當寺を建立すと云ふ。爾來、菊池家代々の菩提所たり。

●寺城八百餘坪、本堂・庫裡・土藏・鎮守廟等あり。寺寶として聖德太子像・菊池武時木像・同筆血判書・開山大智自畫像(建仁寺別源藏)・貝多羅葉・佛舍利等

相良寺 (相良觀音) 鹿本郡内田村大字相良

●天台宗。
●吾平山醫王院と號す。本尊に千手觀音を安置し、俗に相良觀音と稱せらる。弘仁年中、最澄の開創と傳ふ。往昔、現地より約十三町四十五間の相良山上に堂塔伽藍を構へ、現在の相良村内には九十九の坊舎を列べたりと云ふ。後、後朱雀天皇の皇后、當山の觀音に祈りて皇子御誕生ありしとて、吾平山の勸願並に若干の僧徒を賜ひ、勸願所と定められたりと傳ふ。其後、豐後の豪族藤原三郎惟業、當寺に火を放ち、伽藍坊舎悉く焼盡す。正平年中、菊池武光、同武重、同武澄等と共に現地を相して堂宇を再建す。後、貞應元年、永正十四年、隈部上總介親氏の家臣富田安藤守直方大いに堂宇を修理し、寺領若干を附して祈願所となす。爾來、寺運榮えしが、明治維新に際し、一時廢寺の狀態となりき。阿蘇文書にも、正平三年懷良親王、吾平山に參籠祈禱の事見ゆれば、往時地方の名刹たりし事を察すべし。

●本堂・庫裡・書院・樓門・仁王門等を具へ、本尊千手觀音は古來安産授子に靈驗顯著なりとて、祈願者絶えず。寺寶として不動明王及び二童子像三幅、歡喜天像一幅、涅槃圖一幅、其他古器物等を藏す。境内廣く、老樹鬱蒼たり。寺の西方に鶴峯基不合尊の御陵と傳へらる。吾平山陵あり。また相良山上には試ヶ岳の奇岩、其下方には巡り岩と稱する怪石あり。尙ほ最澄當山開創の當初、此山の地主たりし醫王、善遊二體の木像と稱するあり。

正觀寺 菊池郡隈府町隈府

●臨濟宗南禪寺派。
●熊耳山と號す。興國五年、菊池肥後守武光の創建にして、開山を鎌倉圓覺寺秀山の法弟大方とす。武光、大方を請じ正觀寺、圓覺寺(八代郡宮地村、今は廢址の心)を掌らしむ。後に其師秀山又當寺に住せし故、兩開基と稱す。武光寺領として山本郡六十町の地を附して其菩提所とし、其本寺とす。當時、國內屈指の巨刹と稱せられしも、菊池家滅亡し、大友氏代りて領するや、寺領沒收せられ、且つ屢次兵燹に遭ひ、漸く衰頹す。寛永年中、六十六世別當の代、郡中の助縁を以て再興し、京都南禪寺に屬す。元禄三年、熊本城主細川綱利寺領高十二石五斗餘を附す。尙ほ本寺隆盛期には境内に子院十四を擁したりと云ふ。
●本尊地藏菩薩は運慶の作と傳ふ。墓域には開山大方、開基菊池武光等の墓あり。

東福寺 菊池郡隈府町巨

●天台宗。
●輪足山と號す。舊時は菊池五山の二と稱せられたる名刹にして、興國年中、領主菊池肥後守武光の創建に係る。五山とは九嶽山大琳寺、髮髮尾北福寺、無量山西福寺、手水山南禪寺及び當寺の謂にして、皆武光の所建なり。今存するは當寺のみ。
●本尊千手觀音を安す。寺寶として懷良親王及び菊池氏二十五代の肖像を藏す。寺中に古石佛多し。其元弘塔には「元弘三年癸酉三月十三日、次郎三郎入道遠○、三十六打死辰刻」とあり。また建武塔には「建武

西嚴殿寺 阿蘇郡馬川村大字馬川

●天台宗。
●雲生山と號し、又赤膚山、善安鎮國山とも稱す。舊阿蘇神宮寺にして、聖武天皇神龜三年、天然の最榮觀師本地堂を山上に建て、之を上宮となし、本宮を下宮と稱せりと云へど、年代相違す。今大宮司家の古文書に據るに、近衛天皇養元年、大宮司友孝の不知に、最榮觀師此山に住し、十一面觀音を安置して、三年丙子正月八日於尼利家殿合職、時於大渡橋下討死沙彌空寂遺立」と刻す。堂宇は丘陵の半腹に在るを以て、臨望甚だ開豁なり。
●觀音供養(毎年八朔の日)、遠近よりの賽者少からず。

觀音寺 菊池郡清泉村

●臨濟宗東禪寺派。
●神龜山と號す。文正元年、菊池肥後守爲邦落髮して夫活仍勢居士と稱し、私邸を梵刹と爲して梵嚴集を講す。長享二年、更に堂宇を建立して勢嚴寺と號し、如強伯巧を請じて開山とし、寺田若干を附して其祈願所となす。後、國內戰亂の際、堂塔焼失し、寺領亦沒收せられ、後、再建成りしも、舊觀に及ばず。時に天台、眞言等の僧徒來住せしが、天正年中、加藤肥後守清正堂宇を改修して寺領を寄せ、京都南禪寺清輝長老を招きて中興開山とす。寛永九年、細川忠利熊本城主となるや、父忠興寺田を附し、伽藍を修繕す。
●寺寶として開基菊池爲邦の鞍骨・鏡・梵嚴集及び居士影像(清輝長老像)等を藏す。境内に爲邦の墓あり。

福城寺 下益城郡東蔵用村大字甲佐平

●天台宗。
●龜甲山と號す。推古天皇御宇、法西の草創に係り、小松内府平重盛の再興と傳ふ。舊時は境内に上宮大明神社ありて、坊數十を擁し、寺門隆盛を極めたり。また國主地頭より寄進の寺領を有せしが、天正年中より断絶す。
●本尊十一面觀音は聖德太子作にして、脇立不動明王は運慶作、毘沙門天は法慶作と傳ふ。寺寶中、木造釋迦如來立像一幅は國寶たり。丈高三尺三寸、寺傳には源信作と云へど、水晶の玉眼、繊細なる幾何文様等の手法より推して鎌倉時代の作となすべし。但し兩手指及び蓮座は近世の修補なり。

福壽寺 下益城郡海東村大字東海東

●眞宗大谷派。
●日麗山と號す。正應六年、地頭竹崎左衛門尉季長之を創建し、寺領若干を附して、其祈願所とす。當時、天台宗に屬し、寺門繁昌せしが、天正年中に至り、小西播磨守行長のために燒却せられ、堂宇書記悉く灰燼

圖光寺 下益城郡松橋町

●眞宗本願寺派。
●地。
●福山と號す。
●文祿四年七月、肥後菊池氏の家臣東播磨守出家して宗好と號し、一字を創す。
●初め天台宗なりしが、二世宗信の時、現宗に改め、寛永十四年、山寺號を今の如く公稱す。



(門山中光圖)

滿願寺 阿蘇郡南小國村大字滿願寺

●古義眞言宗。
●立護山多聞院と號す。龜山天皇御宇、北條時定、其子定宗及び孫時等古防禦のため鎮西に下向し、文永十一年六月、敵國降伏祈願の爲め勸進を奉じて當寺を建立、醍醐三寶院の經果を請じて開山となす。後、正平十一年六月、阿蘇惟時の奏請に依りて勸願所となり、寺領若干を寄せらる。天正年中、加藤清正熊本

●境内千五坪、本堂・庫裡・鐘樓・山門等あり。庭園は老松蔭下、幽邃を極む。寺内に支坊光隆寺あり。
 ●中祖忌(四月二十四日、二十五日)。
聖王寺 八代郡八代町。

●古義眞言宗。
 ●本宗高野末なり。草創年次並に沿革不詳。
 ●寺寶中、木造薬師如来立像一軀は國寶にして、丈高二尺八分、木製の白毫を嵌し、左手に藥壺を捧げ、髪は後頭未完成の儘にして、臺座は五蓮の菴蓮花のみを遺せり。蓋し鎌倉時代の製作なるべし。
淨喜寺 八代郡八代町。

●眞宗本願寺派。
 ●雙前小倉淨喜寺末にして、淨喜寺の了庵を開山とす。寛永九年、細川越中守忠利小倉より富國熊本に轉封の際、了庵、細川忠興に從ひて當地に來住す。忠興、特に城下小路に於て寺城二町四方を寄進し、堂宇を建立せしめ、寺領三百七十石を附して其香華院となす。因りて忠興を開基とす。了庵入寂後、寺領没收せられ、寛文九年、現地に轉す。初め大谷派の末寺たりしが、本寺淨喜寺、本派歸依に就き、寛文五年より當寺亦本派に屬することなれり。
明言院 八代郡龍峯村大字興善寺。

●眞言宗醍醐派。
 ●海國山と號す。萬治二年比は願興禪寺と稱せり。云ふ。醍醐派三寶院末なり。敏達天皇十二年、日羅の

開基に係ると傳ふ。治承二年六月、小松内大臣重盛領國の時、平家の一族平貞能に命じて當寺を建立せしめ、聖德太子御作千手觀音を本尊とし、日羅作毘沙門天を脇立として安置し、以て其所願所となす。正平七年、征西將軍眞親王、名和伯耆守眞興眞福の爲めに堂宇を再建せしめ、同維持として接續地十八町を授けらる。爾來、堂塔完備し、坊舎三十五を有し、寺運興りしが、天正十六年、小西行長寺社燒打の災に遭ひ、本尊並に脇立を除きて堂宇、寺寶等悉く烏有に歸す。寛永八年、加藤右馬允正方、其廢墟を臺へて一字を再建す。爾來、屢次修繕を加へ、以て今日に至る。
 ●本尊千手觀音の外、脇立として不動尊一軀・毘沙門天立像二軀・空海像一軀・十二天十二軀あり。右毘沙門天の中、丈高四尺七寸二分のもの、國寶に指定せらる。寺傳には日羅作と云へど、藤原初期の作に係る。明治三十六年風災のため左腕を折りしが、直ちに修せらる。近年また修理を加へ、時に臺座を補へり。

●曹洞宗。
 ●中山山と號す。初め護神寺と稱して天台宗に屬し、隣傍の妙見宮の供僧院たりしが、延元年間、領主菊池武朝、征西將軍眞親王追善のために伽藍を再建し、加州大業寺明峯四代の法孫大原季芳を請じて開山となし、親王の法體眞像を以て寺號となす。應永十年、菊池氏、親王の回向料として寺領四十三町を寄進し、爾來曹洞宗となり永平寺に屬す。領主相良爲棟の時、七堂伽藍完成し、西國風指の巨刹と稱せられしが、天正年間、領主小西行長のために伽藍悉く破却せらる。慶長年中、再建せられ、寛永九年加藤右馬允、延寶五年領

主細川氏、各々寺領を寄進す。これより其舊觀に復するを得たり。
 ●本尊には釋迦如来を安じ、傍に眞親王の尊像を奉祀す。寺寶には眞親王及び開山の木像・道元眞骨・光嚴司業維摩居士畫像・國主領主の寄進狀等あり。また願願・悟眞寺は寛永二十一年、大明福進進士黃大倫の築なりと稱す。
釋迦院 八代郡龍峯村。

の轉地たり。

人吉別院

●眞宗本願寺派。
 ●明治十三年十月、本願寺二十一世明如の開創に係る。同二十九年、佛教青年會創設せられ、自他宗の別なく會員千七百名に達し、同年十二月、境内に記念碑建設せらる。初め説教所たりしが、次第に檀信徒の數を増し、同三十六年十月、遂に寺別院の公稱を許可せられ、京都市上京區室町通一條下ル光尊寺を移し、人吉別院光尊寺と稱す。次で翌年十月別格別院光尊寺と改められ、三十九年四月、當郡一圓を本寺の崇敬門末に指定せらる。四十三年一月、佛教婦人會、大正四年八月、佛教日曜學校各々開設せらる。同八年四月、宗祖六百五十回遠忌法要勸修に際し、諸堂改修増築せらる。同年八月、人吉別院と改められ、翌九月、崇



(景 聖 院 別 吉 人)

永國寺

●曹洞宗。
 ●蓬萊山と號す。應永十七年、相良前領の創建に係り、開山を實成とす。爾來、相良氏の菩提所たり。洞然長狀に、長享元年、四世普山、隈部へ使せし事見ゆ。明治十年、鹿兒島叛徒の本營となりて兵燹に罹り、堂宇舊記等悉く焼失す。同二十四年四月、再建成り、今尙は本郡の大觀たり。
 ●境内は廣潤にして、風光明媚の淨域たり。堂宇又壯麗を極め、本尊に釋迦三尊を安す。

明導寺

●眞宗本願寺派。
 ●享和元年、僧實藏の開基に係る。靈藏もて下登城郡小川地方の郷士なりしが、同郡海東村正覺寺眞成の教化に浴し、發心して其弟子となり、開村に一字を建立して明導寺と號す。四世藤岡淨照、人吉本願寺説教所に駐在せしが、明治十四年、當湯前地方に派遣せられ、初め當村須崎長藏宅を假説教所に充て、大いに弘法に努む。爾後、信徒漸く増加せしため、同年八月、熊本縣廳へ明導寺當村移轉を願ひしに、翌九月許可あり。仍りて直ちに當村下柴田に起工、越えて十六年一月本堂、庫裡成る。大正十四年、今の地を相し、同年秋工を起し、翌十五年一月、洋風の本堂竣工す。引續き同年夏、庫裡を建造し、鐘樓は舊境内の建物を移建して

一部を改造せり。
 ●境域五十坪、本堂・庫裡・鐘樓等を具し、洋風の本堂は懸下之を以て嚆矢となすと云ふ。當寺所屬の阿彌陀堂に安置せる木造阿彌陀如来・脇侍觀音勢至兩菩薩像三軀は鎌倉時代の製作に係り、現に國寶たり。中尊の胎内に「……日本國匠、寛喜元年卯月日、僧實明」の墨書銘を存す。
青蓮寺 球磨郡馬肥地村。

●新義眞言宗智山派。
 ●永仁三年、相良城主六郎頼宗、阿彌陀堂を建立す。後三年にして庫裡成る。現存のものは是れなり。
 ●阿彌陀堂は方五間、單層、屋根四注造、茅葺の建築にして、様式手法鎌倉時代の特色を具へ、現に國寶建造物たり。堂内の本尊木造阿彌陀如来及び兩脇侍立像三軀、又國寶に指定せらる。脇侍勢至菩薩の足納に永仁三年乙未東行龜田入道法印院支作求阿彌陀佛の銘あり。永仁の年號と院昌の作者銘を有する高野山常喜院の地蔵菩薩像と共に當代に於ける院派の作例として興味多し。三尊共に同時代の作なる事疑ひなし。
願成寺 球磨郡大村。

相良義陽金堂を再建し、薩州太守島津義久佛壇の材を贈る。文祿元年、豊太閤征韓の役に、時の住持勢長、相良長毎に従ひて出征せしが、戦後功を以て寺田三百石、水田十七町五段三畝、山林二十町歩を授けられ、



(堂金寺辰願)

増城六町餘に亘り、寺門隆盛を極む。當時庫裏客殿は千三百四十五疊敷ありしと云ふ。慶長十六年五月、勢辰上京参内して、後關成天皇より勅許權僧正に任ぜられ、當山を勸願所となし、新たに六院を設け、三十五

箇の末寺を統ぶ。爾來、勅許權僧正を格とし、禮目参内を格例せり。維新の際、寺田上地となり、塔頭六院を廢し、次で十年、西南の役に伽藍兵火に遭ひて燒失し、機か本尊のみ其厄を免る。現今の諸堂は近年の再建に係る。

●堂宇に金堂・庫裡・寶物館等あり。本尊木造阿彌陀如来坐像一軀は高さ三尺五寸五分、鎌倉時代の作にして、國寶に指定せらる。他に左甚五郎作華鬘・空海筆不動明王像・同筆陀字阿字頌文・同筆來七色舍利・金剛筆聖德太子像・源信筆善光寺如来像・天國作寶劍一口、其他古文書等多数の什寶あり。境内には相良長頼の墓あり。

●弘法大師法會(三月、六月二十一日)、不動明王法會(六月二十八日)。

高寺院

球磨郡山江村大字山田。

●古義眞言宗。

●大覺寺末なり。草創年次並に沿革不詳。

●本尊木造毘沙門天立像は藤原末期の作なり。持物、光背、彩色は後の修補に係る。丈高五尺三寸七分。他一軀の毘沙門天立像と共に國寶に列せらる。後者は丈高五尺五寸四分、形毘沙門天に相似し、本尊と同時代の作。持物、光背等又同じく後世の補足なり。兩像共に衣紋等々繁雜なるも、面貌頗る雄偉なり。

東向寺

天草郡本村大字新休。

●曹洞宗。

●松榮山と號し、慶安元年の創建に係り、開基は鈴木正三、開山は中華禅法たり。初め寛永十三年、當地

に切支丹宗徒の一擧起り、戰亂數年に亘り、數萬の養生之が爲に戰歿するに至る。仍りて代官鈴木重成之を備み、一擧鎮靜の後我戰死者供養の爲めに當寺を創し、其舎見正三を以て開基と爲す。時に田畑山林若干を附して水灌の資に充て、次で島内に末寺六院を新建して轉屬せしむ。近世寺領一百石を有したり。

國照寺

天草郡志岐村。

●曹洞宗。

●寛永十五年、天草の亂平定するや、正保元年、郡代鈴木重成、壽命に依りて茲に伽藍を創建し、百石の朱印狀を附し、覽願を請じて開山となす。十一世惠天之中興し、境内に東照權現廟、秋葉權現廟を建て、櫻松柳蔭及び藤岡等の諸樹木を植ふ、大いに境内風致を整へ、以て國內屈指の名刹となせり。後同様に櫛りしも、再建なりて漸次舊構に復するに至る。

●境内十町餘に亘り、幽邃閑雅を極め、此間に本堂・庫裡・衆寮・寶庫・觀音堂・東照宮廟・秋葉廟・鐘樓・總門等鱗次し、郡内第一の巨巖たり。

宮崎縣

曹洞宗

●善法山と號す。寺傳に依るに推古天皇の世に創建せられ、聖德太子より善法山帝跡寺の號を賜はりしと云ふ。後鳥羽天皇御宇、梶原景清堂宇を再興し、寺號を帝釋寺と改め菩提所に充つ。應永十二年に至り土持民部これを修繕し、伯州より天海を請じて天台宗を改め禪刹となす。爾來寺門榮えしが、後に至り一時廢絶せし事ありしを、明治初年、美原滿堂の再興する所となる。現今門末の數多く、縣下洞宗寺院の首座を占む。

伊滿福寺

宮崎市古城町。

●新義眞言宗智山派。
●池上山蓮花院と號す。寺傳に依るに推古天皇の勅願所にして聖德太子の建立なりと云ふ。當時百濟より來朝せる日羅、太子の命に依りて四年日向に下り、某月十八日五眼加持を行ひ當寺を創建せしに、六十四町歩を寺領と定めらる。二十九世相眞の時伊東氏入國するや、又舊規に準じ領内に於ける寺領を廢絶す。大永二年四月二十八日、伊東氏の本願として本堂並に鎮守社を建立す。三十九世一譽の時、薩州人の亂入に依りて境内の十二坊等悉く燒失し、機に本堂のみを残せ

り。かくて一時荒廢せしが、天正十三年十一月七日に至り再興の業を完了す。四十二世頼水の時、兵亂に依りて大隅鹿野山に難を逃れしが、此際秘藏灌頂の法具等悉く薩摩に運び去られたり。四十三世重隆の時、曾井城主伊東家の祈願所となり、四十四世勢仁の時、高橋右近大夫此地を領し、次で延岡領となり、御朱印狀は召上げらる。四十五世深養の時、有馬氏入國せしも、朱印地回復の目的を達する能はず、新資料として毎年御藏米三十石宛を拜領する事となる。五十一世頼豐の時より御公料となり、元禄九年には一時無住となり、六十七世春樹(高橋氏)の退隱するや後住を缺き、末寺交替にて寺務を執りしが、明治維新の際、他の諸寺と共に廢寺となり、坊舎寺寶等破毀せらる。明治十一年九月の達令に基きて寺號復舊の願書を出し、十七年二月月許可を得たり。されど舊境内の一部に小堂を存するのみにして、舊時の本堂、客殿、方丈、庫裡、淨殿、大師堂、講堂、經藏、鐘樓、太子堂、山門等は神佛分離の際何れも破却されたり。鎮守社たりし稻荷宮、法龍權現、霧島權現等は分離別立して存せり。

●寺寶に聖觀世音木像一軀(日羅の安置する所)・不動明王並に脇士三軀(大庭村佛師圓觀院作、文政十三年入佛供養)・空海像二軀・聖天像一軀・大般若經六百卷・法華經八卷・春源畫像一軸・水天像一軸・地藏菩薩木像二軀・仁王像二軀(元文三年石刻)等を藏す。

攝護寺

都城市幸田町。

●眞宗本願寺派。

●天龍山と號す。明治十年西南戰役の後幸田小路に説教所として開設し、同十五年、現地に移りて堂宇を建築し、翌年五月に至り寺號を公稱す。佐々木福照、

れが開基たり。現に檀家三千餘戸を有する地方の巨刹たり。

三福寺

延岡市北町。

●淨土宗。

●もと肥前國高來城下に存せしが、慶長十九年、有馬直純、延岡城轉封の節、是れを移建す。是れより先き慶長十七年、僧輔隨意、家康の命に依り、九州切支丹の邪徒を擧げすべく、肥前に來り、當寺に留錫して士民に念佛を勧め、且つ邪徒の巨魁伴夢を難詰して正法に歸せしむ。關東に歸るに際し、法弟信譽を留む。後正徳年中、延岡城主牧野備中守成英、次で延享四年、同城主内藤備後守政樹、各々菩提所となし、寺領若干を附す。

●境内六百七十五坪、本堂・庫裡・書院・開山堂・位牌堂・倉庫・山門等あり。寺寶として轉隨意所用製裝・座具・同大神宮より拜受の彌陀像・後水尾天皇宮筆名號・不機名號・日向御前繪の彌陀佛等傳ふるものを藏す。墓域には有馬直純、内藤家累代、高橋權文の墓あり。また轉隨意の分骨塔をも存す。毎月五日參詣する者多し。

吉祥寺

宮崎郡佐土原町上田島。

●本門法華宗。

●惠日山と號す。天正六年、島津以久、種子島より

佐土原に移封せられし際、同地慈蓮寺の住持實正院日種從ひ來りて本寺を創建す。もと寶塔山の麓に在りて本野寺と稱せしが、天和年中、大通院日圓の時、寺基を現地に求め移轉再建す。此時鎮守として鬼子母神を別堂に勧請す。榮玉山日昇の時、神佛分離の餘勢を受けて寺地を奉還し、西南戦役に依りて更に荒廢せしむ、後ら再興せり。

●寺實には豐臣秀頼書蹟・島津氏吟詠・狩野雪峯筆と傳ふる書等あり。
●本尊鬼子母神の信仰あり、毎年一月二十七日、二十八日の大法會には參詣者二萬餘に及ぶと云ふ。

大光寺

●臨濟宗妙心寺派。
●佛目山と號す。建武二年、田島城主伊東祐通の創建に係り、巖窟を請じて開山とす。後らに至り古月これの中興す。一派の中本寺にして、舊寺領百石餘を有したり。

直純寺

●眞宗本願寺派。
●元和元年、延岡領主有馬左衛門佐直純、其歸依僧たる宮崎城主權藤平左衛門尉種盛の孫、僧門料を外教破拆のため當地に遺し、一字を創建して其名を以て寺號とし、門料を開山とす。明治四年、廢佛毀釋の際に遭ひ、堂宇を毀たれ一時説教所となりしが、十世映徹是れを再建す。
●堂宇に本堂・庫裡あり。寺實に善心僧都自作像を有すと云ふ。境内に權藤種盛の墓あり。

蓮光寺

●眞宗本願寺派。
●永祿九年、領主伊東義祐の臣岩切藤次郎、剃髮して性實と稱し、本寺を創建す。明治維新の際、排佛の徒本寺を廢止せんとせしが、住持觀界の努力にて免るを得たり。
●縁起書並に古文書數通を藏す。

本永寺

●本門法華宗。
●松尾山と號す。日目の高足たる日輝、西國法華諸寺の總管として日向に下り、一寺を創建せんとして果さず。建武年中、門人日朝遺命に依りて本寺を建つ。長享二年、八世日賢これを本州都於郡村に移し、天文十二年、十世日浮これを顯本寺跡に移す。爾來寺門大いに榮え、十二支院を統轄せしに、兵火に罹りて一時衰頹す。十二世日成の時に至り、更に現地に移りて堂宇を再建す。明治二年、排佛の徒來襲して佛像佛具を燒却せんとせしに、一巨漢現はれて是れを妨げたり。十餘年の後に至り復舊の業成る。
●日蓮、日興、日目等の眞蹟を藏す。

義門寺

●淨土宗。
●聖王山東福院と號す。貞和二年、直心の開創する所にして、もと聖王寺と稱し禪刹たり。後ら日向の守護顯伊東祐國の末孫たる義門の附依を受け、堂宇を再建し、且つ淨土宗に轉歸すると共に寺號を改む。かくて

黒實寺

●新義眞言宗智山派。
●寛和元年二月、僧隆元の創建する所にして、日向第一の古刹たり。傳へて景行天皇熊襲征伐の時、行宮を構へし舊址なりと稱するも、果して事實なりや詳ならず。明治維新の際、廢寺令院を斷行せしが、本寺の如きは却つて檀家の數を増加したりと云ふ。明治七年火災に罹り、堂宇寺實舊記等を失へり。
●境内千五百七十餘坪。

全長寺

●曹洞宗。
●飯城山と號す。天正元年、僧正年の創建する所なり。初め延命院と號し、地蔵菩薩を安置せしが、同十五年兵火に罹り、本尊は堂後の山頂に飛移せりと云ふ。即ち堂宇を營みて安置し、單に地藏堂と稱す。元禄元年、聖觀音を以て本尊とす。後ら了興、これを再興し、天台宗を改めて曹洞宗とす。

鹿兒島縣

淨光明寺

●時宗。
●松峯山無量壽院と號し、薩摩日三州の小本寺なり。文治年中、藩祖忠久入國の際、伴ひ來れる宣阿説法の爲めに建つる所なり。建治三年九月、三世覺阿の時、宗祖一遍當寺に來りしより、就きて教を受け、これより時宗に屬す。弘安七年、島津道忍覺鐘を寄附す。降りて寛文七年七月、薩摩道場四十世木崎より余、中覺、與り三種を許され、正徳五年八月、遊行四十九世一法より總金剛の袈裟を許さる。享保二年四月八日、同様に攝り、後ら再興して舊觀に復す。明治維新の際、本藩の諸寺は大部分廢毀せられしが、本寺幸じて其厄を免る。城山最期の時、將士西郷隆盛、桐野利秋以下を本寺に擧りしより、衆庶の參詣する者殊に多し。往時境内に海藏院、江月院、護信院、圓覺院、芳林院、龍泉軒、東海院、法性院等の子院存せしむ、維新後何れも廢絶せり。

●本尊阿彌陀如來は安阿彌作と傳ふ。什寶に智仁親王筆色紙掛物・青蓮院二品親王筆金字摩訶・雲舟の繪・大清世子筆裁松道者繪・春日繪師筆觀音像等あり。

鹿兒島別院

●眞宗興正寺派。
●明治九年、二十七世宗主本常來りて巡教し、翌年歸山す。斯くて法縁結ばれ、同十一年五月、同市小川町

鹿兒島縣(鹿兒島市)

最大乘院

●古義眞言宗。
●教王山と號す。俗に高野山と呼ばれ、地方に於ける當宗の大刹なり。天文年中、藩主島津貴久氏の創建する所にして、後盛これが開山たり。明治維新の際廢せられしが、同十二年、草家大仙これを再興し、舊稱最大乘院を改めて最大乘院と稱す。

不斷光院

●淨土宗。
●養泉山無量寺と號す。永祿五年、藩主島津貴久氏の創建にして、京都不斷光院住持清譽、これが開山たり。二十四世立禪の時、寺運大いに榮え、本寺の中興と稱せらる。時に檀林格に列せらる。境内に寶樹庵、知月院、孝流庵、稱名庵、永春庵、專稱庵の六支院ありて寺門繁昌せしむ、維新の際他の諸寺と共に廢寺となる。後に至りて漸く再興せり。
●本尊阿彌陀如來は高さ三尺の木造立像にして、大佛師康殿の作と傳ふ。門内左側に高麗樓あり。

鹿兒島別院

●眞宗大谷派。
●鹿兒島市新町。

南洲寺

●臨濟宗相國寺派。
●明治維新の際、神佛分離の餘勢は島津藩の古刹を悉く破壊せしが、明治九年九月に至り迫害の除去せらる、や、萩野獨園直に當地に來りて布教に従事す。同十一月、野栗町に一月を借受け、京都臨濟宗大本山相國寺假出張所と名付けたり。以て本刹の鑑勵とす。十年一月菩薩堂に移り、説教並に授戒を行ひて人心を收む。然るに幾許もなくして西南戦役勃發し、六月二十九日、奥原町より火を出し、二千數百戸を燒亡し、相國寺出張所又燒燬す。同十一年十一月の頃より相國寺出張院と改稱して其後相國寺別院となる。同十二年三月、勳王僧月照の墓を境内に改葬して法要を行ふ。明治三十四、五年の頃より本山に名師の留錫を請ふ所ありしより、同三十九年、前管長中原東嶽、門下の雲稱と共に來りて授戒を行ふ。時に寺號公稱の議起り、同四十年三月より南洲寺と稱す。大正二年、櫻島の噴火に依りて堂宇少からざる損害を蒙りしより、同八年改

築に着手し、本堂は同十一年三月に、庫裡は同年八月に、辨天堂は同年九月に孰れも落成す。同十二年四月、京都より管長を屈請し慶賀式を行ふ。爾來、本寺に於ては南洲新、月照以下殉難志士の追福を修し、當地方に重きをなせり。

●寺實には夢窓疎石自贊の畫像・月照の眞筆等を藏し、また文鏡秘府の頃備學詩文を以て知られし文之玄昌の木像を安置す。もこれ禪師の開創に係る大龍寺に存せしが、維新の際廢寺となり、其舊地は大龍小學校となりしより、一時地中に埋没す。後これを修理し、坂本知事以下の贊同を得て本寺に安置する事となりしなり。

南林寺

鹿兒島市松原町。

曹洞宗。

●松原山と號す。藩主島津貴久氏の時、福昌寺五世心眞眞信の開創に係る。心眞は應仁二年に示寂せしより本寺創立年代はこれ以前なる事を知るべし。延享元年十月二十三日、疎山大珠、關東三箇寺に請ひて常法轉地となす。往時寺縁四百餘石を有せしが、明治維新の際之を失ひ、同二年、排佛の徒に依りて堂宇破却せられしも、同四十年、本山の命を奉じて桐畑道峻之を再興し、本山の出張所となす。

鹿兒島別院

鹿兒島市東千石町。

眞宗本願寺派。

●明治九年九月、各宗派の布教を公許する事となりしより、眞宗國宗の畫制度の時に解消したれば、同月二十六日、本山より大洲觀然、小田佛乘等を派遣し、

市内泉町に假設教所を開設す。是れ本院の遷移なり。爾來、失服町、藝地町等に移轉せしが、同十年二月、亂徒來りて嚴然等を執へ獄に繋ぐ。翌月官軍の救出する所となり、數地を購ひて新たに堂宇を建築せしむ。幾許もなくして兵火に罹り、同十一月東千石馬場に移る。同十一年八月、紀伊和歌浦性應寺の本堂を移し、書院、庫裡等を設けたり。十月本山の別院となり、同二十二年二月總會所を建設し、同二十九年本堂改築の工事落成す。

福昌寺

薩摩郡川内町。

曹洞宗。

●五龍山と號す。應永元年、島津家第七代元久(恕翁)の開創せしむる所なり。宗祖道元七世の法孫たる石屋眞榮を開山とす。莊田千三百五十石を有し、諸堂完備せしが、後ち頼朝所となり、島津家また菩提所を感應寺より本寺に移す。延寶元年四月二十六日、享保二十年十月二日の兩度回縁に罹りしが、島津家の再建する所となる。

西照寺

出水郡出水町武本。

眞宗本願寺派。

●泉城山と號す。明治九年、眞宗解禁の後ち本山より井上惠濟當地に出版し、郡内四箇村三千餘戸の信徒を得て、之を創建し、西照寺と號す。

淨園寺

出水郡出水町武本。

淨土宗。

●無量山と號す。建久年間、松島鈴鹿の兩女此地に來りて尼となり、本寺を建つと傳ふ。爾來尼寺として榮えしが、明治維新の際他の諸寺と共に廢寺となる。然るに天草島より矢次親月來りて淨教を弘むるや、諸人これに隨依し、本寺また此時を以て再興す。本尊阿彌陀佛木像は知恩院より迎へてこれを安置し、明治十年の亂には谷山郷に遷して難を免れ、同十一年十二月本堂の工事落成す。同四十一年、少僧都花田榮重更に堂宇を改築し、寺觀大いに完備す。

龍光寺

出水郡出水町。

曹洞宗。

●遠藤山西來院と號す。長祿三年、藩主島津久國の開創する所なり。即ち其父たる薩摩守持久(法號龍光寺殿松夫道存大居士)の追福に充て、寺領として田地を寄せたり。福昌寺四世の在天景龍來りて住し、維持寺の直末として寺門大いに榮ゆ。明治初年、廢寺の厄に遭ひしが、後ち權信徒相繼りて堂宇を建立し、同十三年九月落成す。も上高城の東麓に在りしが、再興の際今の地に移れり。同四十二年八月堂宇を改築す。舊時は寺領十石、山林十二町を有したり。

光接寺

出水郡阿久根町波留。

眞宗本願寺派。

●龍興山と號す。南北朝興國中、遠江守頼仲、これを當國肝腑郷に建立し、玉山を請じて開山とす。もと帝釋寺と號せしが、現地に移轉して寺號を改む。また貴邊より廣惠の二字を賜はりし事あれば、これを合せて大慈廣惠禪寺とも稱せり。明治維新の際、廢毀の厄に罹りしも、明治九年、寺院の回復を許さるゝや、當時七十三の高僧に達せし僧相州直ちに本寺を復興す。

大慈寺

豐後志布志町志布志。

臨濟宗妙心寺派。

●龍興山と號す。南北朝興國中、遠江守頼仲、これを當國肝腑郷に建立し、玉山を請じて開山とす。もと帝釋寺と號せしが、現地に移轉して寺號を改む。また貴邊より廣惠の二字を賜はりし事あれば、これを合せて大慈廣惠禪寺とも稱せり。明治維新の際、廢毀の厄に罹りしも、明治九年、寺院の回復を許さるゝや、當時七十三の高僧に達せし僧相州直ちに本寺を復興す。

感應寺

出水郡野田村大字下名。

臨濟宗相國寺派。

●龍國山と號す。文治二年、藩祖忠久公(法號得佛)幕府の命に依り、薩隅日三州の守護地頭職に封ぜられしより、建久五年、本寺を創立して千光國師榮西を開山とし、島津家の菩提所となす。これ當國に於ける最初の禪刹にして、第六代勤岳の居城を鹿兒島に移すまで寺門大いに榮えたり。中世一時諸堂荒廢せんとせしが、大檀越河内守、上總守の兩侯、京都東山東福寺の御靈を模して明治二年工事を起し、建武元年に至りて再建成る。諸堂大いに完備し、本尊千手觀世菩薩並に脇士四天王等の像を安置し、雲山を請じて中興開山とす。斯くて爾來東福寺末たりしも、維新の頃相國寺末となる。明治三年、一日廢寺となりしが、同十三年六月、梅嶺、相國寺林野園圃に謀りてこれを再興す。往時は塔頭十二坊、末刹三十九を有せしも悉く廢絶に歸す。

西報寺

出水郡高尾野町柴引。

眞宗本願寺派。

●明治十二年設教所を創立し、同二十三年、紀州より本寺を移轉して、寺號を公稱す。現に檀家約一千二百戸を有す。

長光寺

出水郡西長島村大字城川内。

曹洞宗。

●神伯山と號す。開基は長島領主越前正にして、龍光寺三世眞門智惠を以て開山第一世となす。寺領を有し、領主の菩提所たり。

祐信寺

出水郡野田村大字上名。

眞宗本願寺派。

●慈光山と號す。往時、因幡國方代村に在りしが、天保二年五月に至り、僧大眞是れを京都紅葉町に移せり。爾來、寺運繁榮せしも、元治甲子蛤御門の兵火に遭ひ、後ち久しく無住となる。明治二十二年、佐々木崇就公許を得て當地に設教所を設け、同二十九年に至

性應寺

給真郡加治木町。

眞宗本願寺派。

●もと紀伊和歌山に在りしを、明治十五年現在の地に

沖繩縣

眞教寺 那覇市西町。

●眞宗大谷派。
 ●明治七年、東本願寺僧小栗香頂支那開教に赴きしが、其の途次沖繩布教の等閑に附すべからざるを知り、同九年五月、田原法水を渡航せしむ。當時琉球一國尙ほ薩摩の眞宗嚴禁の法を遵守せしに依り、布教頗る困難なりしも、一年有半にして二百有餘の信徒を得。然るに此事琉球當局の探知する所となり、信徒の主要者を捕へ、六名を流罪し、其他二百六十餘人悉く罰金刑に處せり。之に依り開教一時頓挫せしも、同十一年六月、内務省琉球出張所より公然説教所開設の許可を得、遂に那覇泉崎村に假説教所を創立す。是れ即ち本寺の濫觴なり。時に本山小栗憲一を派して琉球王に信徒の罪を寛恕せん事を請ひしも事務局に決せず。遂に内務省出張所の干渉する所となり、同十二年二月、省令を以て信徒悉く放免さる。同十七年、新に説教所を設け、同二十二年改めて別院となし、同二十五年更に之を一般末寺に編入し、眞教寺と號せしむ。以て本寺の草創因由となす。

護國寺 (波上寺) 那覇市若狭町二丁目。

●眞言宗東寺派。
 ●波上山と號し、俗に波上寺と云ふ。明代の初め日本僧重來りて本寺を創建し、洪武十七年(元中元年)八月二十一日を以て示寂す。本堂内の地藏菩薩は、も

と薩摩川内郡大平寺に安置せるものなるが、明の嘉靖年中飛來して國王尙圓の靈夢に入りしより、これを勧請せしなりと傳へらる。不動明王及び持侍の二尊もまた中城岡切糸浦寺の本尊なりしも、同寺の喪上と共ニ護名の神座寺に移し、更に貞享二年本寺に安置す。大師像は延寶二年住持頼昌の勸請に係り、石像の二王尊は元禄九年住持成海の時これを作る。中山傳信縁に護國寺在波上山波之中、國王祈禱所僧名頼盛とあり。舊寺領五十石を有せり。鎮守に熊野權現を祀れる波上宮ありしが、明治二十三年兩者分離して波上宮は官幣小社となれり。

●寺域四百坪、寺實には朝鮮畫工の手に成れる涅槃像一輪、同じく兩界曼荼羅二輪・釋迦八相成道の圓一輪・波上宮に安置せし熊野權現の像等あり。又安祥寺鎮一口あり、景泰七年丙子十一月二十日尙泰久王の命に依りて遷造する所にして、安祥寺の廢絶と共に本寺に移されたるなり。世人誤りて護國寺の舊名を安祥寺なりとするものあるは、この鐘の銘文を見て輕率に推定を下せるなり。

崇元寺 那覇市崇元寺町一丁目。

●臨濟宗妙心寺派。
 ●靈徳山と號す。創建年代に就て異説ありと雖も、門前の下馬碑に、大明嘉靖六年丁亥七月二十五日の年次を刻せるより考ふれば、尙眞王の代にこれを建て尙清王の代に完成せるものなるべし。尙眞の香華所にして、尙天以下歴代の靈位を祀る。依りて國廟の稱あり。享保十六年尙敬王、天孫氏の神主を廟内に奉祀せんとし、其の可否を諮る所ありしに、頓備程願期並に蔡温寺連名にて其の不可なる旨を答申す。依りて實現

するに至らざりしと云ふ。舊寺領三十石を有したり。
 ●境内千二百三十坪。堂宇は前後六楹あり、傍の三楹は僧厨たり。西に光玉廟あり。廟西の二楹はこれを神厨とす。廟内に一の古矢あり、土人傳へて鎮西八郎爲朝の遺物なりと云ふ。

臨海寺 (沖寺) 那覇市住吉町三丁目。

●眞言宗東寺派。
 ●俗に沖寺と稱す。開創年代詳かならざるも、梵鐘の銘に天順三年(長祿三年)鑄造の事見えれば、古刹たる事を知るべし。歴代王家の祈禱所にして清人汪樹の書せる寺額を掲ぐ。寺地は海中に突出せしも、明治四十一年港灣修築の際、現地垣花に移る。もと沖宮の別當寺なりしが、明治二十三年分立す。舊寺領三十石を有したり。
 ●境内二百三十五坪。本尊樂師知來を安す。
 ●宗祖御影供(毎月二十一日)。

慈眼院 首里市山川町。

●臨濟宗妙心寺派。
 ●元和年中、尙久の建つる所なり。寺傳に依るに、元和二年、尙眞王の未だ世子たりし時、薩摩島津家に買たりしが、父尙久これを愛へ、尙眞にして悉く歸へるを得ば、親音大士の像を勸請して一寺を創建せんと誓ふ。翌年尙眞の歸るや大いに喜び、佛力に由るものとなし、本院を建てたりと云ふ。舊寺領十二石を有したり。
 ●境内四百坪、本院と道を隔てし萬壽嶺の中腹に觀

音あり。本院項外佛堂たり。靈驗ありて古より渡海者の尊信する所となる。寺實に觀世音菩薩像・樂師知來像・地藏菩薩像等あり。

圓覺寺 首里市當藏町。

●臨濟宗妙心寺派。
 ●天徳山と號す。明應元年、尙眞王、先王尙圓の遺廟として建立する所にして、尙眞歴代の香華所たり。即ち琉球に於ける神林の本山と稱せらる。初め寺地を首里城久慶門の地に相し、大殿、丈室、法堂、山門、鐘樓、講閣、僧房、庫裡、浴室等を設け、芥隱を請じて開山とし、寺領百石を寄す。明應三年、東照堂を建て、元龜二年西照堂を營む。これより先き文龜二年、尙眞王池を門前に掘り、堂を池中に建て、石橋を架し、堂中に朝鮮より渡せる經卷を藏し、妄りに人の近づくを許さず。然るに慶長十四年、薩摩の兵士侵入して堂宇を破壊し、經卷もた散逸す。元和七年、尙眞王の時、方丈内の辨財天像を安置す。貞享二年、舊像被損せしより、薩摩より新像を迎へてこれを安置す。かくて經藏は一變して辨財天堂となる。享保六年正月一日、覺翁の時、寺中火を失して大殿を烏有に歸せしむ。佛殿、山門等燒に之を免る。大殿は一に龍淵殿と稱し、尙眞王以下歴代の靈位を祀り、尙眞、尙賢二王の畫像を安置せし所なり。即ち覺翁を以て八重山に流さる。舊寺領百石を有したり。

●境内千八十餘坪、佛殿には釋迦文殊普賢の三尊を安置し、開山芥隱の畫像を掲ぐ。また大門に安置せる觀音及び十六羅漢の木像は、元禄九年、和尙が支那福建より將來する所なり。照堂内に獅子彫像あり。文殊六年修理の際、腹中に「尙眞王之御宇、正徳十六年辛

巳彫造之、而安置于祖廟云爾」の銘出づ。梵鐘三口あり。二口は大明弘治八年(明應四年)、一口は大清康熙三十四年(元禄八年)の鑄造に係る。後者は山城にて鑄る所なり。佛殿の後壁に彩畫あり。技藝秀を以て知らる。

建善寺 首里市當藏町。

●臨濟宗妙心寺派。
 ●靈芝山と號す。寺傳に依るに、景泰年中(乃實徳二年至正二年)尙泰王の時、これを創建したりと云ふ。慶長の兵亂を経て寺運衰はざりしも、元和五年金武王子尙久、時の攝政中城王子と志を合せ、崎山村より寺基を現地に移し、圓覺寺の天叟長老に寄附して、以て菩提所となす。寛永五年、更に禮文を興へ門弟をして法燈を繼がしむ。
 ●境内八百坪。

天王寺 首里市當藏町。

●臨濟宗妙心寺派。
 ●福源山と號し、尙眞王の創建に係る。王の世子たりし時の住所にして、尙眞王またこの地に生る。初め護國天王を祀りしが、後ち金剛夜叉明王を以て本尊とし、左右龍に先王石及び諸妃の靈位を安置す。尙敬王二十二年王妃の廟所せざるを以てなり。舊寺領五十石を有したり。
 ●境内四百餘坪、景泰七年(正徳二年)鑄造の鐘あり。浦添天龍寺より移す所にして、天龍寺鐘の文字を刻せり。

天界寺 首里市金城町。

●臨濟宗妙心寺派。
 ●妙高山と號す。尙泰久王の代に創建せられ、王の廟所たり。尙眞王に至り新に大寶殿を營建せしが、後ち喪上す。天正年中、更にこれを重建して舊觀に復す。圓覺寺の創建と共に、王家子女の廟所となる。門の兩側に安置せる二王尊の木像は、元禄十年蟲損に依りて撤去し、薩摩に石像を求めてこれに代ふ。古は圓覺天王の兩尊と共に三大寺の稱ありしも、近年著しく荒廢す。舊寺領三十石を有したり。
 ●境内千八十坪。

萬壽寺 首里市末吉町。

●眞言宗東寺派。
 ●大慶山と號す。察度王の建つる所なり。萬曆三十八年(慶長十五年)一度喪上す。
 ●末吉山麓に位置す。丘上に亭あり、前後二楹にして南に海を望み、北は岡にて圍まれ、風景に富む。鎮守に末吉宮あり。俗に社壇と呼べり。一五九の各月、國王參拜の事尙眞王に始まる。所藏の梵鐘に天順元年(長祿元年)十月吉日の銘あり。また察度王の畫像を藏す。

神徳寺 島尻郡眞和志村大字安里。

●眞言宗東寺派。
 ●高明山と號す。もと當字の東即ち現今の第一高等女學校附近に在りしが、明の天順年間(乃長祿元年至寛正五年)琉球尙眞王鬼界島征伐に際し、其出征の途次當寺に祈願せしに、其靈驗はれ一兵を傷けず、一

民を殺さずして叛徒直ちに歸順し、凱旋する事を得たり。仍て琉球政府は王命に依り、當寺を現在の地に移して佛殿を建立したりと傳ふ。

聖現寺(天久寺) 島尻郡眞和志村大字天久。

●眞言宗東寺派。

●天久山。號し、俗に天久寺と稱す。慶長十年の琉球神道記に天久山性元寺の事見え、性元寺は聖現寺たる事明かなれば、これより以前に創建せられたるを知る。尙奉久王の歸還せしめし潮音寺の洪鐘あるより、世人誤りて潮音寺は聖現寺の舊號なりとするものあれど、もこの地に兩寺併存せし事舊記に出づ。國守に天久宮あり。も寺外に在りしを、尙敬王二十二年寺内に移す。明治二十三年別立す。壽寺領十二石なり。

神宮寺 中頭郡宜野灣村大字普天間。

●眞言宗東寺派。

●普天満山と號す。後花園天皇康正二年、琉球國王尙奉久之を創建せりと傳ふ。即ち當時歸還の按司阿麻和利、尙奉久王の居城中山城を奪取して國王たらんとの陰謀をめぐらし、先づ勇武の譽高き忠臣中城城主按司護佐丸を亡きものにせんとして其逆心ある事を露訴す。國王之を信じ阿麻和利をして護佐丸を討たしむ。護佐丸自及して後、其口中より血染めの遺書發見され、事明白となり、國王直ちに阿麻和利を滅し、中城々跡建築物の一部を當寺に移し、護佐丸菩提の爲めに、

本寺を建立せりと云ふ。

●寺域約二千四百坪、本堂・庫裡・鐘樓等あり。本尊聖觀音極像はもと普天満宮(今、無格社)に祀られ、普天満觀音と稱せられしが、一夜老人に權現して貧農の妻を救濟せし以來、普天満權現と稱すと云ふ。明治二十三年、神佛分離の名目に依り、當寺へ移安せり。靈驗顯著なり。とて寶者絶えず。



(壁本中宮神)

龍福寺 中頭郡美里村大字泡瀬。

●臨濟宗妙心寺派。

●極樂山と號す。寺傳に依るに、もと浮陀落山極樂寺と稱し、國王英祖の時咸祥年中(乃文永二年至文永十一年)禪觀を請じて本尊を浦添城の西に營みしが、尙國王は成化年中(乃文正六年至長享元年)これを城南

照太寺 國頭郡伊江村。

●臨濟宗妙心寺派。

●浮羅山と號す。明の嘉靖(大水)年間の創建にして尙清王の本願なり。舊記に依れば、嘉靖年間、同村の伊江山中に毎夜怪光を放ち、里民爲めに恐懼せる由を奏聞せり。清王、直に侍臣を遣はして其の因由を檢せしめしに、菟藪の間より古鏡一面を發見せしかば、諸老僧を招じて是れを語問せしに、天照大神の靈跡なりと。依て直に菟藪に草庵を構じて是れを奉安せしむ。これ本寺の靈廟なりと云ふ。寛永十五年、尙豐王更に是れを修葺して今日に至る。

觀音寺(金武寺) 國頭郡金武村大字金武。

●眞言宗東寺派。

●金峯山と號し、俗に金武寺と稱す。尙清王の代嘉靖(大水)年間、日本僧日秀初めて宮城港に來りて弘教し、一寺を金武村に創建して彌陀樂師觀音の三尊を安置す。仍て日秀を開祖とす。其後故ありて禪刹となりしも、寛文二年尙賢王の時、具志川王子、朝堂に命じ

て再び眞言宗に復せしむ。元禄十二年、尙貞王の代に至り、住持慧那新に紫磨金の三尊佛を請じ、且つ屋瓦を用ひて大に美觀を増せり。鎮社として金武宮ありしが、明治二十三年神佛分離の事あり、本寺また東寺派に屬する事となる。壽寺領十二石なり。

祥雲寺 宮古郡平瓦町西里。

●臨濟宗妙心寺派。

●龍寶山と號す。慶長年間、薩摩島津家の檢察使の地に至りし時、寺廟を經營せるもの本寺の起原をなせり。初め當地方に平瓦と稱する者あり、首里の中山王府に入貢して歸途に上るや、颯風の爲めに漂蕩して朝鮮に流され、五年の後北京に至り、更に三年を経て琉球の貢に遇ひ、漸くにして故郷に歸還するを得たり。これ平瓦波上山權現を尊信せしに依るものとなし、茅庵を結びてこれを勧請す。慶長十六年、薩摩の檢察使來るや、國王の許を受けて寺並に宮を此地に營み、瓦を用ひて美觀を添ふ。波上權現を勧請せるより本尊として彌陀樂師觀音の像を安置せり。寶珠球國の新願所にして、寺領十石を有したりしが、廢藩と共に官寺となり、明治四十三年、社寺改革に依り妙心寺に所屬す。●境内約二百坪。

桃林寺 八重山郡石垣町石垣。

●臨濟宗妙心寺派。

●毎年舊七月七日に宮古島主豐見親の祭禮あり。

●南海山と號す。薩摩島津家より派遣せし檢察使の請に依りて、慶長十九年これを創建す。經霜これに住し開山第一世となる。もと茅庵なりしも、元禄十一年瓦葺に改む。舊制五年一次の住持交替となせり。もと權現堂も存せしが、現今は分體せらる。●境内八百坪、觀音堂内に神鏡一具あり。薩摩の使臣、これを奉納す。

北海道、樺太

北海道

札幌別院

札幌市南四條西五丁目。

●眞宗本願寺派。

●明治十二年の創立に係る。初め同十年五月、西原圓照を派遣して、當地に弘教せしめ、元増山通十八番地に小樽別院出張所を設け、翌年四月二十四日、入佛慶讃の式を挙ぐ。同年十一月、元津經通二十七番地、即ち現地に假本堂を建築して之に移る。翌十二年六月十二日、公許を得て初めて別院とす。同十八年、梵鐘を鑄造し鐘樓を建つ。同二十年八月、本願寺二十一世明如親しく本院に來り化導を行ふ。同二十二年一月、本堂の改築を企て、翌年八月落成す。同三十二年、客殿、庫裡、對面所等を營造す。
●境内千五百坪。

新善光寺

札幌市南六條西一丁目。

●淨土宗。

●北嶺山廣度院と號し、増上寺末なり。明治十七年、大谷玄超の開基に係り、今の如く諸堂完備せしは同三十六年のことなり。

中央寺

札幌市南六條西二丁目。

●曹洞宗。

●買相山と號し、永平寺直末なり。明治七年秋、本宗管長代理西有の草創に係り、初め小教院とせしが、翌八年、小松萬宗之を中教院と改稱す。同九年春、南二條西九丁目に假教場を設けしが、同十三年、之を廢して本堂、庫裡等を建設す。同十四年八月、本宗大中小教院の名稱廢止となりしため、翌十五年一月、寺號公稱の許可を得たり。同二十五年、現地に轉じて堂宇を再建す。現に末寺六箇寺を統ぶ。
●境内千六百坪、堂宇に鐘守堂拜殿及び本廟、庫裡、休憩所、書院、方丈、觀音堂、位牌堂等あり。

札幌別院

札幌市南七條西八丁目。

●眞宗大谷派。

●明治四年六月の創立に係る。初め明治二年六月、本山、下間頼勝を東京に遣はして北海道の開拓並に布教の事を政府に請ひ、法蘭現知又諸國を巡りて移住を獎勵する所あり。同三年七月、親しく下間頼世以下僧俗數十名を從へて函館に渡り、小樽を経て此地に來り、寺院新設の請願をなし、敷地二千坪の下附を得たり。乃ち十月、假堂を設け、同四年六月、更に千六百坪の追加ありて札幌本府本願寺管轄と稱す。同十年十一月、官に請ひて更に五千六百坪の拂下を受け、大いに増城を擴張す。同二十五年、本堂及び諸堂宇の配置を改め、同三十三年、書院及び詰所を新築す。爾來、別院として北海道管下の寺院を統轄して現在に至る。
●境内八千七百七十餘坪、十四箇四面の本堂、庫裡。

經王寺

札幌市豊平條。

●日蓮宗。

●妙法華山と號し、函館船見町實行寺末なり。明治十三年の創立に係る。當時札幌區内寺院は東西兩本願寺別院、曹洞宗中教院(後ち中央寺と改稱)の三箇寺のみにして未だ日蓮宗寺院建立せられず。仍りて日蓮宗の信徒協議し、大岡助右衛門等發起人となり、實行寺を本寺として其創立を圖り、同十六年三月、寺號公稱を許可せらる。
●境内八千二百五十坪。

妙龍寺

小樽市線町五丁目。

●日蓮宗。

●大法山と號す。安政六年、堺町に創建して妙見堂と號し、妙見大菩薩を安置せしが、明治三年、之を願目堂と改む。後ち火災に罹りて堂宇を燒失し、現地に再建し、初めて寺號を稱せり。
●境内七百十三坪。

量徳寺

小樽市入船町三丁目。

●眞宗大谷派。

●安政六年六月、本山使僧齊聖寺徳善の開基に係る。初め山之上町有嶺山に在りて二萬坪の境内を有し、有嶺山小樽御坊と稱せしが、慶應二年四月、此地に大火ありて焼燬し、明治元年二月、堂宇再建の工事落成す。同三年、法蘭現知徳勝の際、淨水山量徳寺の稱號を附

せられ、次で同五年、今の地に移る。當地方風指の巨刹なり。

●境内三千餘坪、本堂・庫裡・鐘樓・納骨堂・大門等完備し、檀信徒約千五百戸を有す。

天上寺

小樽市入船町。

●淨土宗。

●遠雲山蓮花光院と號す。大本山増上寺末なり。明治十三年九月の創建、初め開運町にありて、中教院出張所と稱せしが、同十五年、寺號公稱許可せらる。同二十三年、入船町に移轉し境内一千餘坪を有せしが、法燈漸く輝き、遂に大正天皇大典記念として同町内の現地に移れり。

●境内五千餘坪、本堂十一間四面、書院七十餘坪、庫裡六十餘坪あり。

小樽別院

小樽市開運町。

●眞宗本願寺派。

●安政三年、南部願乘寺の法惠、本山の命を奉じて函館に來り開教す。是より先き本願寺二十世廣如、蝦夷地の開教を計畫し、天保四年、但馬の専福寺大藏を函館に遣はす。後ち法惠、これに代り、進んで奥地に布教せんと欲し、函館奉行に請ひて石狩國札幌郡發寒村に三萬坪の地を得て本願寺掛所を置く。法惠は後ち堀川兼經と稱し、蝦夷地の開教に功績頗る多し。越前快樂寺の和田無磨來るや、安政四年五月、認可を受けて小樽郡新地町に本願寺休泊所を設け、同五年四月、假堂を建て、大いに教線を擴張す。明治の初年、發寒の掛所をこの新地町に移し、更にまた若松町に移轉せんと

せしも、堂宇の建築進捗せず。同七年、市區改正の爲め現今の地に移り、同十年、本願寺別院を公稱す。同十六年、本堂の工事落成し、書院、庫裡、鐘樓次第に完備す。

●境内千七百八十三坪あり。

龍徳寺

小樽市新宮町。

●曹洞宗。

●海雲山と號す。安政三年の創立にして小樽市に於ける最古の梵刹なり。開山を函館高龍寺十八世海雲とす。初め龍徳町にあり。明治二年、若松町に移り、同六年、更に現地に轉す。

●境域二千八百餘坪、堂宇に本堂、庫裡、位牌堂、總門、鐘樓、鎮守金毘羅宮、稻荷殿等あり。本尊釋迦如來を安す。境内の老樹は名木として著れ、又池あり、記念塔あり、宛然公園の觀を呈し、龍徳鐘は小樽八景の一たり。

曹洞宗

●曹洞宗。

●月浦山と號し、法幢寺末なり。開基は本寺第二世宗學なり。慶長十年、松前若狭守盛廣之を松前城北に親述して其體積所となし、其法號に因みて寺號を定む。

文政八年、十四世東廣の代、盛岡より十大弟子、十六羅漢及び五百羅漢の像を勧請し、松前無二の巨刹なりしが、明治維新後、衰微して堂宇荒廢に墮せしが、有志の斡旋にて現地に遷し、其後漸次舊觀に復し以て今日に至る。

●寺境七百二十餘坪、境内に本道最古の稻荷廟あり

て費者常に絶えず。

實行寺

函館市船見町。

●日蓮宗。

●一乘山と號す。明暦元年、清遠此地に草庵を結びしに創まり、元禄三年、日淨の代、福山法華寺末となりて佛殿を建立す。正徳四年、京都本滿寺より寺號を許さる。明治十二年、焼燬の厄に遭ひ、同十四年、現地に再建す。同十七年、身延久遠寺に屬し、同二十三年北海道兩頭となる。其後同二十九年、四十年の兩度災に遭ひ、逐年諸堂宇を完備し、以て今日に至る。

●境内に願目石と稱する巨石あり、永仁四年、蓮門六老僧の一日持當地巡錫の側、函館山に登り一巨石に「後五百歲中廣流布、大日大王、南無妙法蓮華經、大日大王」と書す。文化十三年、京都妙滿寺の日蓮渡航の際、其遺墨の消滅せんことを憂へ彫鏤せしむ。明治三十年十二月、築城本部の命により現地に繪小移轉せしが、もとは九尺一丈一尺の大石なりしと云ふ。

稱名寺

函館市船見町。

●淨土宗。

●彌金山と號す。知恩院に屬し、福山光善寺を本寺とす。正保年間、圓龍の開創に係り、初め五念山彌院堂と稱せしが、元禄三年、改めて今の如く公稱す。寶永五年、龜田村より富岡町に移り、明治十二年、焼燬後、同十四年八月、現地に再建す。後ち同二十九年八月及び同四十年八月の兩度火災に罹る。

●境内千三百五坪を有し、貞治の古碑及び寶曆三年龜田奉行酒井直澄所建の河野加賀守政通の碑あり。

高龍寺 函館市番町。

曹洞宗。
●龜田山と號す。寛永三年、法源寺第四世芳龍之を龜田村に創建す。寛永三年、第五世の時、函館辨天町に移り、明治十二年、更に現地に轉す。戊辰の兵火に遭ひ一時廢絶せしが、明治二十四年十一月、許可を得て堂宇を再興す。

●境内千八百四十四坪、本堂には釋迦・文殊・普賢の三尊を安置し、開口十二間あり。境内に茶畑尼尊天の堂あり、慶應二年七月十五日、住持國下海雲の建つる所なり。

函館別院(淨支寺) 函館市元町。

眞宗大谷派。

●寛永十八年、福山専念寺第六世淨支、當國上禮郡本古内村に道場を創建し、阿彌陀堂と號せしに由來す。依りて一に淨支寺と稱す。寛文九年、蝦夷蜂起の際焼失す。後元禄二年、専念寺第七世瑞玄之を同郡泉澤村に再興し、寶永七年に至り更に函館富岡町に移す。寶曆九年、本山より宗祖觀誓の畫像を下附し、専念寺掛所淨支寺と稱す。文政二年、回廊に覆り、天保九年八月、再建の工事成す。安政五年、本寺を以て本山の掛所とし、世人函館御坊と呼べり。文久元年六月、専念寺との關係を離れて本山所屬となり、明治九年、本山の別院となる。同十二年焼燬し、寺基を元町に移す。同二十三年本堂を再建し、漸次他の諸堂を修築せしに、同四十年八月、復又焼燬し、經藏、土藏以外悉く烏有に歸す。仍りて同四十二年五月、更に本堂以下の諸堂を重建す。

●境域千九百六十餘坪あり。本堂は十八間四面にして鐵筋混土造りの近代式建築にして、大正四年竣工す。支院二箇所あり。函館市船見町の支院は明治三十七年八月之を創立し、十勝國帶廣の支院は同四十年二月の創立に係る。

高野寺 函館市青柳町。

古義眞言宗。

●北南山教王院と號す。明治十六年、越後の僧佐伯本弘當地に布教留錫中、本宗權信徒等との間に一寺建立の議議まる。偶々同年九月、金剛峯寺座主彌房の大塔再興勸請として本道を邀致するに會し、直ちに新寺建立の許可を得、且つ若干の資金を受けて東川町に一字を創立せしむ。由來開地は海邊にして風害殊に甚だし、修理に堪へ難きを以て、同二十三年、現地に移り、同二十五年十月を以て現在の堂宇を完成す。

天祐寺 函館市春日町。

天台宗。

●福聚山樂王院と號し、延暦寺末なり。嘉永元年創建、智周房廣照を開山とす。初め天祐庵と稱し、慶應年間、等潤院休治所となす。明治九年、同院の廢寺となるや、同院東照宮を此處に移し寺額を賜用せり。同十八年九月、現寺號に改稱し以て今日に至る。
●寺域四百五十餘坪、堂宇に本堂・庫裡を具へ、本尊兼師如來は源信の作なりと云ふ。境内に歡喜天堂・茶畑尼天堂あり。

旭川別院 函館市東川町。

眞宗本願寺派。

●天保四年、但馬の大島、本山の命を奉じて當地に來り、豪商國領平七等の助力を得て本願寺掛所を置く。是より先き本山より本道に寺院設置の計畫ありしが、明和七年、松前藩より之を差止め、大谷派以外の他派寺院の設置を許さざりき。依りて幕府の直轄地たる函館の地に之を設けたるなり。次で堀川兼經其業を承け、文久元年、一寺を建立して願乘寺と稱す。當時函館より龜田に至る一帯の地雨水停滯して水害また少からざりしが、兼經主唱者となりて龜田川の一支流を誘導せしより、該地方に來住する者次第に増加し、團聚せる水路を願乘寺川と稱す。費す所七千三百兩と稱し、本山より一千兩を補助したり。萬延元年、函館の掛所を願乘寺と稱し、小樽の願乘寺を其出張所と改む。創建以來數次回廊の災に遭ひしが、明治九年、再建の工事を起し、同十一年本堂落成す。而して同十年二月改めて本山の別院とす。同三十二年九月、四十年八月の兩度焼燬の厄に遭ひしが、當時の輪番番和瀬海これが復舊に全力を注ぎ、同四十三年、洋風模瓦造の本堂を新築す。

旭川別院 旭川市釣橋通。

眞宗大谷派。

●明治二十四年七月、本山此地の開教を始め、信徒次第に増加せるより、同二十六年三月、該所の新設に着手し、釣橋通に於て五百坪の地を借受け、本堂及び庫裡を創建す。同三十二年、借地附與の許可を得て、

本堂以下の建物を増築し、十二月三日、改めて札幌別院の支院とす。同四十四年五月、更に昇格して別院とす。
●境内七千三百四十四坪あり、其内にて八百十坪は境外附屬地とす。

寶皇寺 渡島支廳龜田郡龜田村。

眞宗大谷派。

●安政六年、本山使僧齊聖寺總善の建つる所なり。初め同年二月、當地の開墾を企て、函館御坊の役僧開明來りて此地を檢分し、四月、使僧總善來りて奉行所役人坪内豐之進の立會にて土地を附與せらる。即ち能越の門徒を移住せしめ、農場を東本願寺開發場六條幅安寧村と稱し、函館御坊より隔月交代に來り布教と共に開墾事務に當らしむ。其出張所は、もと廣大寺と稱せしが、萬延元年、寶皇寺と改めたり。安寧村の經營と共に念佛深及びタ、ラ澤を開墾して給水溝を設け、萬延元年、工事成す。また本村より七里濱に通ずる延長八百間の道路を開墾し、これまた萬延二年を以て落成せり。明治四年五月、安寧村大いに發展せるより獨立の一村となり結構村と改名す。是等の事業は本寺を中心として實行されし所なり。

妙應寺 渡島支廳龜田郡龜田村大字石崎村。

日蓮宗。

●日持山と號す。日蓮門下六老僧の一日持異域に妙法を弘めんと欲して、正應年中、遠く蝦夷地に入り、正安年中、當地に堂宇を營みて經石庵と號す。是れ即ち本寺の起原なりと云ふ。後函館實行寺の末寺となり、同寺より來りて佛事を修す。文化年中、日明境内

に經石塚を設く。明治十二年、伽藍の改築を行ひ、經石庵を改めて妙應寺と稱す。
●境内五百五十五坪。

大泉寺 渡島支廳上磯郡本古内村。

曹洞宗。

●空谷山と號し、福山法源寺末なり。元和三年三月、奥尻郡青苗村に創觀、芳蘭を開山とす。萬治元年、松前郡龜田に移り、寶永四年、更に現地に轉す。當寺古來歴世業女の繪巻を拜讀すと云ふ。
●寺域九百五十四坪。

專念寺 渡島支廳松前郡福山町西館町。

眞宗大谷派。

●西立山と號す。天文二年、嶋崎若狹守季廣の創建、開山を本願寺第九世實知弟兼俊の孫眞徳とす。是れより以前上磯郡本古内に在りし淨願寺は、康正元年、反亂ありし際、難を避けて秋田に移りたり。是れ本道に眞宗寺院あるの初めなり。初め眞徳奥州遊化の時、蝦夷島福島郡知内村より西北三里の眞徳寺に錫を留め眞宗を弘通す。時に、季廣福山郡上國勝山に居りしが、天文元年、館を徳山(後福山に改む)に移す。而して眞徳に歸依し、翌二年、字克町に一寺を創し眞徳を請じて開山とす。同五年、眞徳嗣子なかりしより、季廣の四男眞勝を以て第二世住職とす。天正二年二月十七日、本願寺十一世顯如より一貫代の本尊を申受け、慶長十年三月、慶長五年、領主築城の際、現今の地に移轉し、町名を取りて山號せり。第三世了甫の時、木佛本尊並に寺號公稱の許可を受く。爾來、了翁、玄

法源寺 渡島支廳松前郡福山町新克町。

曹洞宗。

●松前山と號す。文明元年、若狹勝明寺仙芳の法嗣たる隨芳の創建する所なり。初め享徳三年、隨芳、親戚の松前信廣を訪れて渡航し、テオスリ島に漂着す。乃ち漁人を教化し本寺を建つ。時に文明元年六月なり。延徳二年、信廣、上國村勝山に一寺を創立し、隨芳を請ぜしより寺號を移してまた法源寺と稱す。永正十一

年四月、信廣の子光新居城を福山に築くや、本寺亦從ひて移轉す。慶長は法嗣なかりしより玄暎他三名に本寺を託す。元禄二年、出羽國檜山國清寺の源瑞請せられて住持となり、爾來、國清寺の末裔となる。

正行寺

渡島支廳松前郡福山町東上町。

●淨土宗。●護念山と號し、總本山知恩院直末たり。永祿七年九月、不轉の創建に係り、當道に於ける淨土宗唯一の古刹なり。文政十二年十二月、火災に罹り、堂宇、諸記録焼失す。天保十三年、中興暫定の時、松前廣純の外護に依りて再建す。



(堂本寺行正)

法華寺

渡島支廳松前郡福山町新克町。

●曹洞宗。●大洞山と號す。延徳二年、宗源の創立する所なり。初め大館に在りしが、永正十年七月、蠣崎民部大輔廣祖先追福の爲め一寺を創立し、法華寺を之に移し、菩提所となす。天文十五年、宗源諸堂を再建す。寛永十年九月、本山總持寺の命に依りて真天、これに住し、福願となる。元治元年、領主亦本寺を以て曹洞宗寺院の總持司となし、明治三年九月並に同五年八月、本山より北海道に於ける一宗寺院の管理を命ぜらる。

法華寺

渡島支廳松前郡福山町東中町。

●日蓮宗。●妙光山と號す。京都本満寺末たり。享祿二年、本満寺の日尊、蓮門六老僧の一日持の芳跡を追慕して奥羽地方を巡遊し、遂んで蝦夷地に渡り、上國小堀の遺跡を訪ひて此地に草庵を結ぶ。乃ち法華堂と名付け、日持を推して開山とす。後松前氏居城を福山に移すに及び、堂宇を現地に移して法華寺と改む。慶長四年、第六世日安の時、本満寺下の中本寺となる。松前家の



(堂本寺華法)

老臣小林良景曾て日持念持の遺像を感得し、之を本寺に納め、且つ御藍の遺像等にも力を用ひたり。松前家

赤佛供料を寄せ、日蓮宗の福願となる。小笠原伊勢守松前奉行となるに及び境内を擴張す。明治五年、諸堂

興上せしが、同二十六年、本堂、禮佛堂、書院、庫裡等悉く再建せらる。

光善寺

渡島支廳松前郡福山町。

●淨土宗。●高蓮山と號し、知恩院に屬す。天文二年十月、了縁の開創に係る。第五世真教の代、後水尾天皇より高蓮山高善寺の宮輪聖額並に繪旨、法衣を下賜されしより、舊稱の高山寺を現寺號に改め、次で松前藩主の菩提所に列す。文化五年及び天保九年の兩度、舞馬の習す所となりて諸堂宇記録等の多くを焼失せしむ。藩主等の支援にて、天保十一年八月、十五間四面の本堂並に間口十二間、奥行十八間の庫裡等を再建す。

龍雲院

渡島支廳松前郡福山町。

●曹洞宗。●極華遊山と號し、大本山總持寺の直末なり。寛永元年、松前太守公廣の室(京御前)懷妊中、金殿樓閣を營むと夢む。而して男子(氏唐)誕生後、梵刹一字を建立して公廣の冥福、氏唐の武運長久を祈らんとして福山法華寺三世真天に謀る。時に寛永二年なり。同年春本寺の建立成り、真天を開山とす。文政十三年興山の代、本堂、庫裡、龍王堂、鐘樓を、次で十六世祖英に至り、三十三體觀音堂、羅漢堂及び銅柱總持の山門を新築し、茲に寺院の體裁全く成る。嘉永、安政の頃、

徳川幕府蝦夷地開拓移民の令を發するや、祖英率先し、文久二年五月、其法類法源寺、正覺院、法輪寺を從へ、聖水を踏みて古宇郡に法輪寺、余市郡に永全寺を建立、其他嶺谷の願齋寺以下四箇寺の創製、悉く是れ祖英の力ならざるはなしと云ふ。明治元年の兵亂に際し、當寺の山門諸堂宇痛く破損せしが、逐年増築修補し、今や舊觀に復せり。

海福寺

渡島支廳松前郡吉岡村。

●淨土宗。●廣念山大法院と號す。貞享二年八月の開創にして、護念を開基とす。維新前は單に廣念庵と稱する草庵なりしが、明治十二年三月、現寺號公稱を允許され以て現在に至る。

江差別院

檜山支廳檜山郡江差町中歌町。

●眞宗本願寺派。●安政五年十二月、南部願乘寺の福川兼經、國領平七と共に渡來し、渡島國上磯郡清水村にて五十五萬坪の開墾地の公許を得たるより、但加越能の四國より農夫三百七十四人を移住せしめ、願乘寺休治所を設けて教導を行ふ。時に萬延元年十月なり。文久二年七月に至り、宣法庵と改む。明治二年、故ありて請地を奉還し、同十一年六月現地に移轉し、同十二年九月、改めて本願寺別院とす。爾來、諸堂の遺營に力を用ひ、大いに面目を改む。

●増城千八百四十三坪、境外持滿地畑二畝十五坪、宅地百八十三坪あり。

江差別院

檜山支廳檜山郡江差町九艘川町。

●眞宗大谷派。●承應二年、福山專念寺の第六世淨玄來りて一寺を創立し、門人願正をして住せしむ。仍りて願正寺と稱し、本尊等を東本願寺十三世宣如より下附せらる。延寶六年、堂宇焼失す。元禄六年、專念寺七世瑞玄、これを再建し、東本願寺十六世一如より願正寺と稱す。天保六年再び回縁に罹り、十年現今の地に移る。安政五年、御坊の一とて取立てらる。



(堂本院別差江)

明治十二年改めて別院とす。同十四年三度回縁に罹り假本堂を建つ。同二十五年五月本堂の再建落成す。

實として聖徳太子自作の木像一軀・親鸞筆六字名號二幅等を藏す。他に墓地八千四百坪、内に開基願正の墓あり。

●太子會(六月)、宗祖報恩講(十一月)。

阿彌陀寺

檜山支廳檜山郡江差町澤茂尻町。

●淨土宗。

●光明山攝取院と號し、もろ福山正行寺末たり。明曆元年、當立の創建する所なり。爾來屢次火災に罹り、特に明治二十四年四月、當町彌陀堂町に於て堂宇、什寶等類焼し、同二十六年五月、當町寶光山に移轉して先づ庫裡を新築し、本堂の工事また進行しつゝありし際、同二十七年九月復び美上す。仍つて同三十一年十二月、今の地に移轉せり。

●境内地三千八百六十四坪、堂宇に本堂・庫裡・書院等を具ふ。

●宗祖御忌法要、十夜法要、月次法會。

正覺院

檜山支廳檜山郡江差町。

●曹洞宗。

●鐵淨山と號す。松前郡法幢寺末なり。寛永八年、松前藩士明石文左衛門の創製にして、法幢寺三世冥天を開山とす。

●寺域七十坪、同郡風指の巨刹なり。

上國寺

檜山支廳檜山郡上國村。

●淨土宗。

●華蓮山と號す。傳へ云ふ、嘉吉三年、松前家第二

光照寺

後志支廳岩内郡岩内町鷹登町。

●眞宗本願寺派。

●安政五年六月、本願寺第二十世廣如、贈極國山越

堂宇を再建す。

●境域千六百七十七坪を有し、檀信徒約八百戸あり。



(堂本寺照光)

門昌庵

檜山支廳贈志郡熊石村。

●曹洞宗。

●雲石山と號し、福山法幢寺末なり。同寺六世柏巖峯樹北夷の化に浴せざるを歎き、錫を北海に曳きて蠻民の化導に専念中、延寶六年、非命に寂滅す。藩主深く其功績を賞し、敷地六百坪を寄せ、本堂を建立す。是れ本寺の濫觴なり。爾來、松前家の庇護を受け、寺運興隆し以て今日に至る。

●寺域三百餘坪、本堂・開山堂・庫裡・山門等を具ふ。境内に高名徳昌學校を設け徒弟を産育す。

智恵光寺

後志支廳岩内郡岩内町檜町。

●眞宗大谷派。

●常葉山と號す。安政六年七月十日の創建、本山使僧齊聖守徳善の開基に係る。初め三島町に在りて、境内に最尊寺、持蓮寺、威光寺の三役寺ありしが、明治二十三年九月二十六日、祝融の災に罹り、堂宇舊記悉く焼失す。同二十九年四月、現今の境域檜町に移りて

て駐在せしめ、明治十二年十二月に至り光照寺と稱し、末寺に編入せらる。同十一年、秋田縣より松水界應來り南館に於て布教滞在中、當管内に出張して弘教の結果、寺號公稱の機運に向ひため、長萬部の光照寺を岩内町檜町に移轉の出願をなし、同十二年十二月、其許可を得、翌十三年、假堂宇を建設す。然るに同二十三年九月十二日、岩内港の大火に類焼す。乃ち同三十一年六月二十五日、今の地に移轉の許可を得、翌三十二年本堂建築工事に着手し、同三十九年竣工す。爾來漸次講堂成る。

●境内二千五百坪、堂宇に本堂・庫裡・大書院・鐘樓堂等あり。庭園極めて廣く、木石の配置自然の妙を得て頗る趣きあり。

潤澄寺

留萌支廳増毛郡増毛町島中町。

●眞宗大谷派。

●玄龍山と號す。安政五年十二月、本山使僧齊聖守徳善出張し、渡島國松前郡福山寺掛所南館淨土寺を以て、本山掛所に引直し、境内に潤澄坊設置の儀出願し、南館奉行所の許可を得しにより、越中國新川郡北島村安養寺法潤をして創立せしめ、明治十一年、永壽町に移る。當時之を祝教所と稱せしが、同十四年七月、寺をなし、同二十九年五月、現地に移轉改築す。

善光寺

贈振支廳有珠郡伊達町有珠村。

●淨土宗。

●大白山道場院と號す。元龜、天正の頃よりこの地に信州善光寺本尊の分身を安置せる如來堂ありしが、

帶廣別院

十勝支廳河西郡帶廣町。

●眞宗本願寺派。

●明治四十年十月、本山の命を奉じて山形縣佛願寺

利塔を存す。

●境内約三千坪、寛政十年近藤重藏手植の色丹松及び道内一の古木と稱する櫻等あり。又境内の一隅に舍利塔を存す。



(堂本寺照光)

●慶長十八年五月、松前藩長之を改築す。蝦夷地第一の古刹たり。寛文年中、近江伊吹山の圓空來住し、享保年中、津輕本覺寺の眞興又本寺に留まりて弘教す。正徳年中和漢三才圖會、天明五年の三國通寶圖説に本寺の事を載せれば、古くより著はれしを知るべし。文化元年、莊海の時、幕府蝦夷地開發の爲め三大寺を設けて土人を教化せんと圖りしが、本寺また其隨一たり。是れより毎年米百俵、十二人扶持、金四十八兩を支給せられしより、寺門大いに榮ゆ。莊海の後を承けて筑前の人譽洲本寺に住し、文化四年五月、露國人、擇捉に入寇するに當り、土人を勵まして對抗せしめ、或は、後世の技折と稱する書を著はして土人を導用ひたり。第三代辨瑞は土人に假名文字を教へ、念佛上人引歌を土語にて作り、蝦夷教化の美談となる。土人尊して念佛カモイと云へり。明治三年より米二人扶持と改められ、同七年より十六年迄の間、舊藩百俵に代ふるに遞減額を以て給せらる。福山港にも、義經山吹求院と稱する古刹ありしが、正保二年以來、本寺の支院となり、明治元年焼失せし際、松前藩主の命にて之を本寺に併合せり。

●境内四萬八百餘坪、本堂は間口六間、奥行八間、本尊は白座彌陀三尊を安置し、他に經堂・釋迦堂・方丈・庫裡等あり。釋口の銘に「奉上野口、寛永十五年戊寅五月吉日、下國宮附慶寺」とあり。

國泰寺

釧路國支廳厚岸郡厚岸町湖月町。

●臨濟宗南禪寺派。

●景運山と號す。享和二年、文翁の創建する所に於て、文化元年、入佛供養を行ふ。寛政、天明の頃、北方露國との境界に關し紛擾ありしより、外敵防禦並に土人統撫の爲め、本寺及び等淵院を建て、有珠の善光寺と共に教化を司らしむ。本寺の所轄は十勝、釧路、根室、後志、擇捉島を含めり。かくて毎年米百俵、十二人扶持、金四十八兩を支給す。明治七年に至り遞減額を以て之に代へたり。同二十二年、現在の本堂及び庫裡建築され、同三十年現在の龍王殿成る。

帶廣別院

十勝支廳河西郡帶廣町。

●眞宗本願寺派。

●明治四十年十月、本山の命を奉じて山形縣佛願寺

の賜各語了之を建立す。是れより先き同三十六年八月、請り來りて開教に従事し、同三十七年二月、説教所を設け、後本願寺別院設立の件を地方廳に出願し、同四十年十月許可せらる。是れより講堂建築に力を致し、遂に同四十一年十月落成す。

●境内八百十坪、他に附屬地二十町歩あり。

開法寺

根室支廳根室郡根室町彌生町。

曹洞宗

●根室山と號す。明治初年、當地に來りて漁業を營む者ありしも、寺院なかりし爲め、葬祭等を行ふ能はず、不便を感じしが、明治六年、漁夫の一人柳田藤吉剃髮袈衣して小松梵光と稱し、一草庵を營み、根室市祭所と稱す。是れ本寺の濫觴とす。後竹内藤兵衛等の助力を得て開法庵と改稱し、葬祭布教の餘暇を以て疾病ある者に施療し、住民の歸向する所となる。同十三年十二月、寺號公稱を許され、兩館高麗寺の末刹となる。即ち高麗寺第十六世大光海雲を推して開山とし、小松梵光を第二世とす。住民次第に増加し此地方の一部會たるに及び、堂宇の狭小を感じ、同十六年以來、堂舎の再建増築を企圖せし、工事意の如くならず、僅に本堂の竣工を見しのみにして、同二十一年崩壊せり。かくて檀家の一部は離散し寺運振はす、貞信等も生ぜしが、藤田利助等の三名檀家總代となりて、十二名の世話人と共に盡力する所ありしかば、漸くにして寺門の繁榮を來し、同二十二年十月、江西實道の吉野教會布教の爲めに遷遊せるを延請して、十一月二十三日、之を本寺に迎へ、第三世の法燈を繼がしむ。かくて他の三寺院と協力して根室女學校を設立する等次第に勢力を發展す。

●境内二千餘坪、本堂・庫裡・了然堂・鐘樓・龍神堂等あり。龍神堂には明治八年羽前大山善實寺より勸請せる龍神を安置す。

根室別院

根室支廳根室郡根室町彌生町。

眞宗大谷派

●明治十二年九月、兩館別院輪番四時元來りて、當地に説教所を設け同三十年三月改めて兩館別院の支院とす。同三十六年八月、境内に太子堂を建て聖徳太子の像を安置す。同四十四年五月に至り別格として別院とし、根室地方並に千島一帯に亘り布教の本所とす。●境内千六百八十坪を有す。



(本別院別室派)

樺太

樺太別院

豊原支廳豊原郡豊原町。

眞宗大谷派

●もま布教所なりしが、大正三年別院に改む。本派樺太開教總本部たり。

大泊別院

大泊支廳大泊郡大泊町。

眞宗本願寺派

●明治四十一年十一月の創建に係る。是れより先き同三十八年九月、樺太南部の我帝國の領有に歸するや、本山より派遣せる大谷尊祐の一行は大泊コルサコフ中央高地なる露國式宗屋を守備隊司令部より借受け、布教に關する事務を行ふ。翌年八月、本山より二十二世宗主親如來りて巡錫し、十月、本島各要地に布教機關を設け、北海道開教事業の一部とす。茲に於て大谷尊祐去り、藤枝深通其後を受けて駐錫する事約六箇月に及ぶ。かくて楠溪町十丁目樺太大泊出張所を設け、布教及び法要を行ひ、或は婦人會を起し、孤兒院を設くる等の事業を行へり。同四十一年、遂に楠溪町十二丁目接續區域外に地を相し、本堂を建築し、同年十一月、之を別院とせり。●境内二千六百餘坪あり。本堂の頂上には露國時代教會堂に使用せる古銅鐘を懸けたり。

朝鮮、臺灣

朝鮮

朝鮮別院

京畿道京城府若草町。

眞宗本願寺派

●明治四十年九月、開教使松浦芳英本山の命を受けて當地に來り、長谷川町に本願寺出張所を設けて布教に着手せしが、同四十五年三月、現寺地に移り、大正元年八月、假本堂を建立す。同年十月十四日、總督府の許可を得て朝鮮別院を公稱す。後、龍山の朝鮮開教總監部を之に移して開教總監以下數名の開教師を地し、別に私立傳教高等學院及び啓成學校を設けて、鮮人教師數名を置けり。●境内地千八百三十三坪。

京城別院

京畿道京城府南山町。

眞宗大谷派

●明治二十三年十月、二十二世宗主現如の創立に係る。初め釜山別院支院として、當地龍洞に創設せしが、翌年、東北約一町の地に五百四十六坪の寺域を定めて之に移れり。同二十八年、京城別院と公稱し、同時に釜山別院仁川支院を改めて當院支院とす。同三十年、本堂建立の議起るや、韓國皇帝並に皇太子より金員下

賜あり。同三十三年五月十三日、和將齋九十坪の地に假建築の工を起し、同年八月四日上棟、十一月九日竣工す。同年十二月二日、英親王及び慶親王より公使を經て金員下附、同三十八年五月六日、本堂建立の工を起すや、韓國皇帝より再度金員下賜あり。同三十九年七月二十日立柱、八月十九日上棟、十二月竣工、同月十七日移徙供養の法會を修すに當り、韓國皇帝勅使を遣して之に列せしめ、大韓阿彌陀本願寺の屬額並に金員下賜あり、伊藤統監以下日韓兩國官民參列す。爾來鮮人當院を大韓阿彌陀本願寺と稱す。現に院内に開教監督部を置き本島内別院五、布教所四十餘を統轄す。●境内地三千餘坪、堂宇に本堂・寶庫・庫裡・倉庫・亭・行旅病人救護所等を具ふ。本堂は方十三間、用材悉く楠を以てす。當院に藏せる梵鐘は、明治四十年、高平郡慶寺上院寺より購入せしものにして、新羅敬順王の鑄造に係ると傳へ、韓支兩式折衷に成り約一千年を經し逸品とす。

興敬寺

京畿道京城府東大門外。

朝鮮傳教

●創建年代並に沿革詳ならず。●現在田園中に小堂及び五重石塔を存するのみ。後者は高麗時代の遺蹟と傳へ、初層の高さ一丈三尺五寸、方三尺五寸餘、各層の屋蓋勾配小にして均衡優美、殊に各層高欄の形を造り出せるは他に多く類例を見ざる手法なり。

瑞龍寺

京畿道京城府元町。

曹洞宗

●曹洞山と號す。明治四十年二月、此地に初めて假

重興寺

京畿道京城府北漢山城内。

朝鮮傳教

●開創年代詳ならず、高麗顯宗王の觀變窟居の地にして、夙に名譽の譽あり。王の十二年(治安元年)僧海願來り、講堂を張り、大いに玄風を振ふ。朝鮮顯宗王の三年(康正元年)金時習、當寺に留りて讀書せり。近時祝融の災に罹りて堂宇灰上し、燒かに古塔、石碑の類を残すのみなりしが、後再建成ると雖も、もより遺く舊觀に及ばず。●三角山麓にありて、四邊松樹蒼蒼たり。境内七千六百二十坪、堂宇に大雄殿・四門・二階門等を具ふ。寺の東方に存せる總攝廳は、住持北漢警門を置きて總或使の官を設け、軍糧を蓄へ、寺僧中特に學識あるものに命じて總攝とし、國費を以て僧軍を養ひし遺跡なりと云ふ。また附近に北漢山離宮あり、風光絶佳の地を占む。

仁川別院

京畿道仁川府寺町。

眞宗大谷派

●明治九年、當地居留民の懇請により本山より布教使を遣し、一民家を以て布教所に充つ。當初釜山別院に屬して仁川支院と稱せしが、同二十一年三月、七十坪の地を得て堂宇を假設し、後改めて京城別院の支院たり。同三十二年、更に現地に移りて堂宇を擴張し

仁川別院を公稱し、今日に及ぶ。

●境内地二千坪、堂宇に本堂・庫裡等を具ふ。

奉恩寺

京畿道廣州郡彦州面。

●朝鮮佛教。

●三十一本山の一なり。高麗光宗王の二年(天曆五年)城南に創し、太祖の願堂たり。開文宗王の三年(永承四年)王、當寺に幸し、聖賢を拜して王師となし、同八年(天喜二年)、其退休を請ふや、王乃ち當寺に於て法儀を備へ、禮して國師となし、遂りて漆長寺に入らしめたり。朝鮮燕山君の元年(明應四年)、王、其祖母仁粹大后佛敎を尊信せしより、成宗王菩提の爲めに當寺を造營す。文祿役の際、兵燹に罹りしが、後ち再建せる。高麗朝歴代の信仰厚く、以て今日に及ぶ。●境内六萬七千坪、漢江河畔にありて鷗島に對し頗る幽邃の地を占む。

奉先寺

京畿道楊州郡樓邊面。

●朝鮮佛教。

●三十一本山の一なり。朝鮮第九主靈宗王の元年(文明元年)太祖、世祖王の冥福に實せんがため之を創建す。第十二主中宗王即位するや、毀佛を行ひ、同十一年(永正十三年)佛敎の教書を下せしが、其中に奉先の考は自ら正禮あり、當に毀壞すべからずとありて其厄を免れたりと云ふ。

龍珠寺

京畿道水原郡安龍面。

●朝鮮佛教。

にして阿彌陀三尊を本尊とし、慈恩王並に三十三祖の畫像を安置す。應眞殿には釋迦の繪金像並に羅漢の五彩像五百十六位あり。冥府殿は李太王初年(明治初年)の重建にして地蔵菩薩の繪金像並に十王及び其眷屬の五彩像三十位あり。是れ長淵府の鶴林寺より移す所なり。寂默堂には指空の五彩像を置けり。七層石塔は大雄殿の前に在りて高さ十一尺五寸、其形式より考ふるに創建當時のものなるべし。指空塔は山の中腹に在り。寺寶の貝葉經は八千頌般若經の一葉のみ傳はりしが、東京帝室博物館にて保管する事となる。

觀音寺

京畿道開豐郡嶺北面朴淵洞。

●朝鮮佛教。

●高麗光宗(西紀九五〇—九五五、天曆四年—天延三年)の創建に係る。寺後の巖壁に觀音の二石像あるを以て寺名を立つ。云ふ。もと巖上に正慈、寶相、首頂、菩提、觀佛等の諸像ありしも、其後傾圮し、現に大雄殿、七重石塔及び僧坊二棟を存するに過ぎず。●大雄殿は李朝の初め(室町初期)再建せしものにして、南面して石壇上に立ち、單層、四注連、三間三面板なり。正面、右側及び後面の扉には意匠機軸の透彫あり、内部は床敷敷にして、中央に纖巧優美なる須彌壇存して釋迦三尊坐像を安置す。天井は鏡天井にして、二箇の大虹梁あり。又後壁壁に組物上の小壁には種々の狀像を彫繪す。其他三手先、天蓋等に皆纖麗なる裝飾の彫刻あり。巖壁内の二石像は光宗代の作に係り、一は坐像にして寶冠を戴き、胸、腕及び腰に寶石の佩劍を帯び、面相温和優美にして、よく當代の唐式餘流の風を示せり。他の一は立像なり。七重石塔は大雄殿の南庭に在り、蓋し創立當時の作なるべく、高さ七尺

●三十一本山の一なり。朝鮮第二十三主正宗王の十四年(寬政二年)王、其父思悼世子のために花山葛蘭寺の舊基に當寺を創し、寶福の壽社となす。而して命じて佛像を造らしめ、湖南長興郡迦智山寶林寺僧寶鏡堂をして當寺都總攝並に八路都僧統たらしむ。寶鏡堂即ち八道に勸導して王の遺營を責けたり。王、當寺に嘗するや、仁巖義沼をして之が導師たらしむ。同二十年(寬政八年)王、思惟世子追考のため、父母恩重經の木鏡石三板本を作らしめ、領議政蔡濟恭これを書し、當寺に納め、今に藏す。

傳燈寺

京畿道江華郡吉祥面溫水里。

●朝鮮佛教。

●三十一本山の一なり。新羅僧阿度の草創にして、もと眞宗寺と號すと云ふ。後高麗忠烈王妃當寺に眞玉燈臺を寄せ、因りて爾來今號に改む。高麗忠肅王復位六年(延元二年)堂宇を改修し、李朝仁祖三年(寬水二年)之を重修す。●境内地九千三百四十九坪にして、堂宇中、大雄寶殿は朝鮮最古建築物として現に朝鮮總督府より保護古蹟に指定せらる。

華嚴寺

京畿道長湍郡寶風山。

●朝鮮佛教。

●高麗の末葉、恭愍王二十二年(文中二年)、梵僧指空の建つる所なり。明の洪武六年に當る。指空は中印許にして基壇上に蓮華を刻し、每層の塔身には薄く隔束を作り出し、形構頗る優雅なり。●朝鮮佛教。●高麗睿宗八年(永久元年)九月の創建と傳へ、落慶の日、王の親臨によりて慶讚の式を行ひ、同十二年(永久五年)仁宗十二年(長承三年)、同十九年(永治元年)等屢次臨幸あり、寺風大いに揚る。後次第に衰微し、今僅かに十三重塔一基を遺すのみ。●十三重石塔は、元丞相脫脫の本願により至正八年(高麗忠肅王四年、我正三年)建立せし所にして、晉寧君善淵、元の工匠を請じて、漢陽(京城)圓覺寺並に本寺に遺立せしむ。全部灰色大理石を用ひ、基礎直径十尺三寸、方形にして各面更に身出し、塔身上下二部に分る。形狀、意匠等殆ど圓覺寺廢址に遺存せる塔婆と符合し、唯高廣に於て約十分一許り減せると、最上層寶形にして更に露盤を有せるを異にする。其彫刻は佛像人物より各樣繪畫に至る迄極めて鮮明にして、各層殆ど完備し、當時の形式手法等徴するに足る。全體として製技頗る精巧、以て國內無雙と稱せらる。

法住寺

忠清北道報恩郡俗離面舍乃里。

●朝鮮佛教。

●俗離山と號し、新羅眞興王十四年(欽明天皇十四年)義信の草創に係り、朝鮮三十一本山の一なり。初め義信天然に法を求め、白羅に經を鼓して來り當寺を創して住せしより、之に因りて寺號を定む。高麗太祖元年、王子禮眞之を中興す。肅宗六年(康熙三

度滿王の子にして、那羅陀寺の律賢、師子國の普明に法を受け、後ちに至り法號提納薄陀を蘇那的抄野即ち指空と改め、北印度西域諸國を経て東土に來る。時に高麗の僧多く會下に雲集し、元の文宗天曆元年七月轉じて高麗に入る。恭愍王特に敬重を加へ、寶風山の龍祖庵に住せしむ。延福亭に請じて説戒せしめしに大官士女の受戒する者少からず。然るに贊許もなくして、元の文宗皇帝に召され、彼國に赴きて教を弘め、至正二十三年(正平十七年)を以て示寂す。明の洪武元年、指空の遺骸を茶毗せしより達玄等舍利を奉じて高麗に歸る。同五年九月、恭愍王の命に依りて塔を楊州天寶山僧嚴寺に建立し、翌年更に寶風山に華嚴寺を建て、十二年を経て工事成る。即ち指空の塑像を安置し、其將來する所の具業經一夾と栴檀香一條を納めたり。山中奇巖玉洞に富み、樹林蒼鬱として禪定に適せしより四方の學徒來集し、一大叢林となる。爾來歲月を累ぬるに隨ひ、堂宇の朽廢するもの少からざりしより、仁祖の末年、衆を勸め財を募り、寂默堂、傳燈殿、香殿、寮舎等を重建せしが、五六年にして工成る。而して孝宗三年(承應元年)慶讚會を行はんとせしに誤りて火を失し、堂宇は固より彫影十餘位、鐘一口、黄色唐篋一雙、花槽一雙等の寺寶を燒失す。仍りて崇海、秀零等更に工を起し、八年にして成る。英祖の時指空に二十字の師號を追贈す。哲宗五年(安政元年)寂默堂燒亡し無鏡、之れを重建す。同十四年(文久三年)、再び烏有に歸してより無鏡の法孫龍波、之れを重新すと雖も、規模また舊時の如くならず。龍波更に應眞殿、雲霞堂等の改造を計畫し、光武四年(明治三十三年)工を畢る。

●大雄殿・應眞殿・冥府殿・寂默堂・萬歲樓・雲霞堂・香閣・山神閣・位室閣等の諸堂及び七層石塔・指空塔・鐘形塔あり。大雄殿は孝宗代(江戸初期)の重建



(法住寺大雄殿寶殿)

十二年(正中二年)、慈恩宗碩學子安當寺に來住して之を復興し、同十四年(嘉祥二年)十二月示寂し彌闍殿に塔す。恭愍王十一年(正平十七年)八月、前年來の國難治まりし故を以て當寺に幸し、佛舍利並に袈裟を禮す。



(殿相刹寺任法)

李朝太祖清風の時、當山上敷庵に百日の祈願を行ふ。世祖九年、當寺に幸して親しく三日間の法會を修し僧三萬を供養す。後、華嚴宗の頓學覺性當寺に住せしが、仁祖二年(寬水元年)、王の南漢山に靈應して反正の業を削てんとするに際し、命を奉じて八方の都播となり、功によりて大禪師號進に衣鉢を承く。後、十年清來政するや、僧兵三千を以て降軍を稱し之を迎へ討つ。孝宗十年(萬治二年)十二月、王病を得、翌年一月薨す。當寺以下四寺に遺骨を分葬す。爾來歷朝の敬信厚く寺運大いに振へり。彼の碑文再正錄の著者たる徐震河亦當寺に住せしことありき。

俗離寺 忠清北道沃川郡

朝鮮佛教。

威鳳寺 全羅北道全州郡所隔面

朝鮮佛教。

三十一本山の一にして、新羅眞平王二十一年(推)

麻谷寺 忠清南道公州郡寺谷面

朝鮮佛教。

三十一本山の一。事蹟に新羅善德女王五年(舒明

寶石寺 全羅北道鎭山郡南二面

朝鮮佛教。

三十一本山の一なり。草創年次並に沿革不詳。

木浦別院 全羅南道木浦府務安面

眞宗大谷派。

明治三十年十月、木浦開港の際、本山より開教師

華嚴寺 全羅南道求禮郡馬山面

朝鮮佛教。

三十一本山の一にして、新羅眞平王二十一年(推

三十一本山の一にして、新羅眞興十五年(欽明天皇五年)の草創と傳ふ。當地は新羅時代五嶽の一として南嶽と稱せられ、善德女王十二年(皇極天皇二年)慈藏之を再興し、舍利塔、七層塔、石燈籠等を建立す。僧義淵入唐して至相寺智願に學び、還りて華嚴の法を傳ふるや、當寺並に九大到に於て之を講教す。憲康王元年(貞觀十七年)、僧道通更に當寺を改修せしが、李朝宣祖二十六年(文祿二年)兵燹に罹りて堂宇表上し、同仁祖十年(寬水九年)慈藏之を再建して今日に及ぶ。

松廣寺 全羅南道順天郡松光面新坪里

朝鮮佛教。

三十一本山の一なり。新羅末朝、慧瑞當地に小庵を營み、松廣山吉祥寺と號せしを當寺の蓋稱なりと云ふ。高麗仁宗の時、釋照之を再興せんとして果さず、爾來五十餘年、高麗明宗二十七年(建久八年)普照國師智調、公山居風寺に定慧社を結びしが、居地狭小の故を以て、門弟守應、天眞、崇照等を以て當寺を再興せしめ、次で神宗元年(建久九年)智調入山し、九年を閉じ、神宗元年(元久二年)工を竣ふ。當時舎屋八十餘間、佛宇、僧寮、齋堂、厨庫等鑄列して壯麗を極めたりと云ふ。同年十月一日佛旨を受けて二十日の落慶會を設け、神宗より曹溪山修禪社の號を寄す。後、萬山號に因りて現號に改む。同六年(承元四年)普照示寂するや、高足慧藏之を繼ぎ寺運務に備す。仍りて康宗元年(建祚二年)、右司に命じて堂舎を増築せしめ、且つ歷次



(殿雄大寺廣松)

中使の參向あり。李朝定宗二年(應永七年)、高麗、當寺地運使の領、王旨を受けて堂宇を修す。以て當寺中興とす。世宗二年(應永二十七年)、僧中印更に堂宇を改修し、同十年(正長元年)其工成る。宣祖三十年(慶

大興寺 全羅南道海南郡三山面

朝鮮佛教。

三十一本山の一なり。鎮輪山大聖寺と稱し、大聖は山の名なり。高麗太祖王四年(延喜二十一年)五冠山に創し、利言を迎へ之に居らしむと云ふ。南宋の淳祐年中、高麗眞靜國師當寺に駐る。文謙の役、僧兵を率ゐて秀吉の大軍に抗し、青丘山上に據り清康休靜の號して後三年、諸門人遺詔を奉じて其遺物を當寺に移す。孝宗王六年(明應元年)、鎮輪山白明照、碧玉鉢、製香等を當寺に移し、今尚ほ珍寶として收藏す。本寺に十二宗師、十二講師あり。十二宗師は第一極淨、第二醉如、第三月清、第四華嚴、第五雪岩、第六喚醒、第七發渡大慈、第八雪峯淨、第九霜月巖野、第十虎岩體淨、第十一滴月海源、第十二蓮淨有一にして、十二講師は萬化園悟、蕪湖廣悅、龜谷水愚、影波聖雲、雲海龍顯、退菴善理、碧潭幸仁、錦州福慧、玩虎尹防、

顯慶勝濟、訓治示演、兒孫承感(純祖王十一年寂、文
化八年)是れなり。

●丁茶山の筆寫に傳る大興寺地日庵記、並に大正誌
(坂庚寺結集定、兒孫承感留授)等を載す。

仙巖寺

全羅南道順天郡雙廟面竹嶋里。

●朝鮮佛教。



(慶 羅 大 寺 巖 仙)

●靈谷郡月出山靈谷寺、光陽縣白鶴山靈谷寺と共に
湖南三寶寺の一たり。百濟聖王七年(繼體天皇二十三

年)、僧阿度の草創に傳り、爾來、新羅眞德王元年(天
平十四年)に道說國師、高麗宣宗九年(寬治六年)に大
覺國師義天之中興し、其後、李朝顯宗元年(萬治三
年)に、敬峯、敬使、文正の三僧、肅宗二十四年(元
祿十一年)漢嚴師、英祖三十六年(寶曆十年)に霜月、
西岳兩師、純祖二十四年(文政七年)に海鵬(湖南七
高廟の一)、諺庵、益宗三師の再興あり。現在山内末
寺七箇庵、山外末寺十四箇寺を有し、住僧百五十を擁
せり。

●境内地一萬二千坪、堂宇に大雄殿以下二十八棟を
具ふ。他に所有林野等千五百三十町歩あり。
●釋尊三大記念法會、宗祖(太古國師會)、開山以下
三位法式。

白羊寺

全羅南道長城郡北下面。

●朝鮮佛教。

●三十一本山の一。沿革詳ならずされど、彼の禪門の
變遷を稱せられし兩派太先(李太王光武六年即ち明治
三十五年寂、年七十九)は當寺に於て出家し、道基定よ
り受戒し、又佛門三傑の一と稱せられし雪巖有別(李
太王二十六年即ち明治二十二年寂、壽六十六)同じく
當山に投じて正觀快速に就きて得度すと云ふ。

桐華寺

慶尙北道連城郡公山面。

●朝鮮佛教。

●三十一本山の一なり。新羅眞智王十五年(仁賢天
皇六年)の開創なりと云ふ。同眞德王の七年(天長九
年)に至り、僧心地これを重修す。時恰も隆冬にして雪
裡に桐華散く、仍りて桐華寺と改號すと。東國僧尼傳

銀海寺

慶尙北道永川郡法通面。

●朝鮮佛教。

●三十一本山の一なり。新羅眞德王四年(弘仁三年)
右司に命じて創建し、海眼寺と號せしめしを當寺の祖
廟とすと云ふ。高麗元宗十一年(文永七年)王命に依り
善慈伽藍を擴張し、次で高麗忠烈王二十五年(正安元
年)之を重建す。李朝明宗元年(天文十五年)僧天教内
帑を賜はりて海眼寺を現寺地に移し、改めて銀海寺と
號す。今山内末寺九箇庵、山外末寺十八箇庵、布教所
五箇所を有す。

●境内地は林野を併せ九百八十餘町歩にして、堂宇
に大雄殿・寶華樓・極樂殿・圓通殿・蓮山殿・冥府殿・
單標閣・山雲閣等あり。
●毎月一日、十五日。

皇龍寺

慶尙北道慶州郡慶州邑。

●朝鮮佛教。

●一に眞龍寺に作る。新羅眞興王十四年(欽明天皇
十四年)二月、新宮を月城の東に營むに方り、眞龍の

端あり。乃ち一寺を創して皇龍寺と號す。其工三十三
年にして成ると云ふ。後ら同三十五年(敏達天皇三年)海
南に巨船來泊して寶鏡五萬七千斤、黄金三萬分並に
釋迦三尊像を印度より齎せるあり。之によりて新
たに丈六の三尊像を鑄成して當寺に納む。眞平王六年
(敏達天皇十三年)金堂成る。同三十五年(推古天皇二
十一年)秋、隋使來朝に際し、當寺に百座の道場を設
け、諸高僧を請じて經を説かしむ。開光之が上首たり。
後ら慈藏、惠訓等の名僧當寺に住せしが、善德女王十
二年(皇極天皇二年)、慈藏唐より歸來するに及び、王
に請ひて九層塔を建立す。高さ鐵盤以上四十二尺、以
下百八十三尺、百濟工匠の手に成りしものなりと傳へ、
隣國の侵入防備のために興せしものにして、第一層
は日本、第二層唐、以下免越、托羅、寧遠、棘葛、丹
國、女狄、獺貽に備へしものなりと云ひ、塔成りて後
ら、久しからずして新羅統一の大業成りしは、この塔
の靈威によりしものなりとせり。李昭王七年(文武天
皇二年)、雷火に罹りしが、聖德王の時之を重修し、景
德王の時覺鐘一口を納む。李貞伊王三毛夫人の施捨に
よりしものにして、高さ一丈三尺なりと云ふ。第五十
五景哀王二年(延長三年)當寺に百座を設け釋教を演說
し、僧三百を飯す。王親しく行香して供を致す。是れ
演說釋教の創めなり。其後、高麗時代に入りて、尊
崇異らざりしが、高宗二十五年(嘉祿四年)四月、蒙古
兵の兵燹に罹りて堂宇燬れ盡し、爾來、寺運頓に衰
微す。今巨大の礎石田圃中に存し、機かに往時の壯觀
を偲ぶのみ。

●寺内大雄殿の後方に迦葉佛坐石と傳ふるもの
あり。高さ五、六尺、周圍約三肘なり。附近に履鳴池
(新羅文武王十四年二月に築きし宮苑の址、今その殿堂
の一たる臨海殿址あり)、月城址(新羅眞興王十二年築

城の址、蔚星臺、雞林等の古跡多し。

佛國寺

慶尙北道慶州郡慶州邑。

●朝鮮佛教。

●新羅法興王二十二年(安閑天皇五年)の草創と傳へ
景德王十年(天平勝寶三年)、國家金大城更に之を重要
し、多
寶塔、
釋迦塔
等を建
立す。
降りて
李朝に
及ぶや
寺門愈
よ榮え
殿宇の
壯、雲
霞の嶽
東國寺
院中比
肩するものなしと稱せられ、住僧數百を擁せり。後
ら文祿の兵火に罹りて堂宇表上せしが、英祖四十一年
(明和二年)、僧道善都監に勸請して大いに堂宇を改修
し、且つ大雄殿柱頭上面に當寺創建並に五度の修補に
關し詳記せりと云ふ。



(寺 國 佛)

●寺地吐含山の丘地に位し、前面斷崖をなせる所、
高く石壇を築きて東西に石階を設く。東を青雲橋、白
雲橋、西を七寶橋、蓮華橋と云ひ、いと破損箇所少か

芬蓮寺

慶尙北道慶州郡慶州邑。

●朝鮮佛教。

●新羅善德女王三年(舒明天皇六年)の創製と傳ふ。
景德王の頃、寺勢最も隆盛にして、樂師銅像を建立す。
●寺内に善德女王時代建立と云ふ石塔あり。朝鮮に

遺存せる最古遺物と稱せられ、もと九層なりしが、文祿役に破毀せられて、今僅かに三層を遺すのみ。塔は小形の磁石を積み建てしものにして、塔の階級の如く、初層は方二十一尺四寸五分、高さ八尺六寸、四面に入口を設け、其兩側に牛内懸金剛力士像を嵌す。何れも雄麗にして、隋唐式手法を窺ふに足る。塔内空處にして方五尺、四隅に石造獅子を置けり。又當寺左殿の北壁に千手觀音畫あり、首兒之に新りて開明せりとの故事を傳へ、土民の尊崇他に異る。

祇林寺

慶尚北道慶州郡陽北南唐岩里。

●朝鮮傳教。
●三十一本山の一にして、新羅善德女王十二年(皇極天皇二年)の重創に係る。
●境内地は所有地を合せて七百三十七町歩を有し、堂宇に大寂光殿・應真殿・樂師殿・冥府殿・華井堂・設法堂・鎮南樓等あり。

孤雲寺

慶尚北道義城郡丹村面龜溪洞。

●朝鮮傳教。
●三十一本山の一にして、新羅文武王十六年(天武天皇白鳳四年)の重創に係ると云ふ。高麗太祖の頃、雲住願運之を重建し、次で顯宗九年(寛仁二年)重修す。降りて李朝正宗二十一年(英祖九年)義岩堂宇を改修す。尚ほ當寺古記録等悉く兵燹に罹りて焼亡し、沿革難詳ならず。
●境内地四千八百七坪にして、堂宇に大雄殿・極樂殿・冥府殿・古金堂・延壽殿・靈源殿・白蓮殿・靈水庵・觀音閣・無量壽閣・蓮花樓・冥雲樓・海雲樓等あり。

淨石寺

慶尚北道慶州郡淨石面北枝里。

●朝鮮傳教。
●新羅文武王十六年(天武天皇四年)、華嚴宗の碩學義湘の創建する所にして、傳へ云ふ、義湘居士より歸り太白山に入り法輪を轉するや、一女善妙龍に化して法化を扶けつゝありしが、一日大神變を現じ、虚空中に於て巨石となり空中に留りて墜らず。即ち王命じて淨石寺と名づけしむ。所謂淨石は本堂の左側崖上に在り、徑一丈餘の磐石にして地に接せずと云ふ。義湘の本寺に住して華嚴宗を弘め、終に去らんとするや錫杖を地に附て、余の生死は此の杖の榮枯に由りて知るべしと述べしに杖葉を生じ今日に至るまで枯るゝ事なし。世人是れを淨石花又は仙舟花と呼べり。觀音堂の下に根を張り、雨露を受けずと雖もよく繁茂し花を開く。本寺は義湘の弘教せし靈地として古來廣く知られ、高麗時代の建築に係る諸堂今尚ほ存し、朝鮮に於ける最古の木造建築として知られたり。
●寺は太白山脈中の風凰山に處てられ、樓門を安養門と名づく、麗麗なる雄大にして前面に展開する群山は風凰の來儀するに似たりと稱せらる。本堂を無量壽殿と稱し高麗朝の再建に係り、本堂を距ること一町餘に存する觀音殿また同じく高麗代の建築なり。この觀音殿には義湘の木像を安置し、壁面に四天王と二菩薩を圖せり。堂宇と云ひ、壁畫と云ひ、何れも高麗代の遺物として重んずべきものなれば、昭和元年大いに修理を加へ、壁畫に對しては硬灰法を施して保存策を講じたり。寺に近く顯修書院の遺跡あり。李朝中宗の時周魯蘭の創設する所、我國に儒學を傳へたる李退溪亦此

金剛寺

慶尚北道慶州郡山北面金龍里。

●朝鮮傳教。
●三十一本山の一にして、新羅眞平王の頃、雲達の創創に係ると云ふ。李朝仁祖の頃、慧遠堂宇を再興し、次で義光是れを重修す。
●境内地二千九百四坪を有す。
●境内法會(舊毎月一日、十五日)、誕生會、成道會、涅槃會。

磧川寺

慶尚北道清道郡。

●朝鮮傳教。
●新羅時代曹國師の草創と傳ふ。爾後の沿革詳ならず。
●大雄殿内に安置せる數百の佛像は孰れも古作にして、歡中、四天王像は丈高一丈二尺、眼玉に寶石を用ひしものと云ふ。

直指寺

慶尚北道。

●朝鮮傳教。
●高麗朝初期、龍如の創建に係り、遺蹟の時規矩を用ひず、直ちに手を以て基礎を指示せしより直指寺の名ありと云ふ。一説に、新羅訥祇王の時、佛初めて此地に傳來するや、黒胡阿度、善冷山樵李等と共に當寺を觀造すとも云ふ。初め龍如仁同復起るや、龍如龍力を以て是れを濟ひ克復の勳を卜す。麗朝統合後、王其功を慕して當地に伽藍を造營して寺田等を寄せ、

開來、基宗、定宗、光宗等相繼ぎて是れに歸依し、學士林氏に命じて寺記を撰せしむ。龍如の後、其弟子信弘、慧眼等八人、繼ぎて之に居り、金字經五百九十二卷を寫し、海藏堂を建立して是れを讀む。當時堂宇の壯麗、龍如の遺、新創として東方唯一の大伽藍たるの各に稱さる。李朝に至り、北丘に恭靖大王御廟を安置し、田土を寄せらる。時に學風、光廟の隆遇を受け、當寺に住して大いに復興す。即ち當寺中興の盛なり。壬辰亂(文祿元年)、日本軍の兵燹に罹りて堂宇灰燼に歸せしが、後ら仁守明等の發願によりて重修の功工遂げ、妙行、尙元等相次で是れを督し、凡そ七十年にして舊觀に復するを得たり。
●堂宇に八殿・三閣・十二堂・四寮・三莊・四門等悉く具はる。正室三百五十二間、厨庫是れに倍し、山内二十餘庵亦悉く之に屬す。寺内に李朝顯宗七年(天和元年)建立に係る事蹟碑ありて、重修の委細を刻せり。

釜山別院

慶尚南道釜山府西町。

●真宗大谷派。
●明治十年十一月の創設なり。初め天正年間、美濃國興村藩部介、十二世宗主教如に歸依して蓋蓋し、法各を淨信と稱して朝鮮に渡り、當地に一字を創して高麗寺と號す。以て當宗本島開教の起原とす。明治十年、外務卿寺島宗明、内務卿大久保利通を介して本山に朝鮮布教の事を勧むるや、本山住持の因縁により、淨信後裔興村圓心等を當地に派し、學判官會に出頭所を設けて修進に從事せしむ。是れ當院の蓋蓋なり。翌年十一月、改めて釜山別院を公稱し、圓心是れが總管心得たり。當院布教の盛日を追ひて發展し、當院の蓋蓋亦

妙覺寺

慶尚南道釜山府西町。

●日蓮宗。
●明治十二年、當地同宗の信者等相寄りて一小講を組織せしが、未だ布教使なく動もすれば解散の憂ありしより、信者總代表井兵三郎を長崎本願寺に派して布教使の派遣を請へり。偶々西下中の本行院住持渡邊日蓮是れを快請して、同十四年七月十四日來釜す。爾來當府西町に假布教所を設けて大いに宗風鼓吹に努めしが、同十七年、現地に移りて一字を建立し、初めて妙覺寺と號す。

金剛寺

慶尚南道釜山府大廳町。

●新義真言宗智山派。
●俗に高野山と稱し、明治三十一年、武藏高尾山住持志賀照林の開創に係る。現に數百戸の檀信徒を有し、釜山各地に十餘の末寺、布教所を設けて寺運愈々隆盛なり。
●大廳山々嶽を占めて釜山港内外の風光を一眸に收む。大師堂に安置せる大師聖像は、もと高野山別格本山總泉寺に存せしものにして、明治三十一年五月、本山に請ひて當寺に移安置せり。山腹に八十八箇所靈塔を設く。

知應寺

慶尚南道釜山府大廳町。

●淨土宗。
●檀山と號す。明治三十年九月十八日、當府本町三丁目松浦才助住宅を假布教所とし、三隅田門佛道に努めしが、次第に信徒加増せしため、同三十一年十一月、新たに堂宇を興し、翌年八月十一日、其工を竣ふ。同四十年三月一日、伏兵山靈王事開始せらる。や、堂宇解散の命あり。依りて土城町に移りて假布教所を設け、同四十三年八月、更に現地に移りて堂宇を再建し、以て今日に至る。現に檀信徒三百餘あり、寺運隆盛なること本願寺別院に次ぐ。

總泉寺

慶尚南道釜山府谷町。

●曹洞宗。
●曠山と號す。明治三十五年九月三十日の創建にして、初め釜山禪宗教會と稱せしが、當時未だ宗威振はず。布教使村松真實、一意布教に専心し、同三十八年、堂宇建立を企圖し、同四十一年秋、遂に其工を竣ふ。現に信徒二百餘を擁せり。
●曠山の中腹を占めて釜山港を俯瞰し、展望甚だ佳なり。

通度寺

慶尚南道龜山郡下北面。

●朝鮮傳教。
●靈雲山と號し、三十一本山の一たり。海東有数の古刹にして朝鮮三大寺の一と稱せらる。新羅善德女王

十五年(大化二年)、聖德太子の開創に係ると云ふ。律師は長韓王子金慈蔵にして、風に唐に入りて戒律を學び、歸國に際して釋尊頂骨並に舍利百箇、毘羅金點髮髻一領、具寶經典一卷を齎し、善德女王の歸依を得て、鷲嶺山下龍池を埋めて金剛戒壇を築き、堂宇を建立して、鷲嶺山通度寺と號す。當時塔輪奐の美を極め、壯麗國內に冠たりしと云ふ。萬曆二十年(文祿元年)兵變に罹りて舍利及び靈骨を失ひしが、東萊の玉白、松雲大師の特許を受けて再び之を獲て奉還せり。現在一山の住僧尼三百餘、慶尚南道北兩道に末寺七十三箇寺あり。

雙溪寺

●朝鮮佛教。新羅文聖王初年(承和末年)、眞鑑律師慧昭、當知異山龍三法和尚の遺基に就き、禪刹を創し、六祖の影堂を建つ。慧昭、これ六祖の玄孫なればなり。初め玉泉寺と號せし、後ら改めて現稱となす。慧昭、これに住し、其道風を著へる來學者堂に滿つ。特に梵唄を善くし、實に東國魚山の權輿たり。同十二年(高麗三年)、當寺に寂す。壽七十七。後ら新羅の文豪崔致遠、諸山遊化の嗣、當寺に遊べり。尚ほ當寺の七佛庵に就き傳説あり。金海駕洛國金首王第四子より第十子まで計七人、皇后の兄寶玉禪師に從ひて金海より伽藍に入りて修造し三年の後諸山を遍歴して、遂に當山に到り、雲上院を結びて坐禪する。二年、駕洛國大觀六年(二十二年)、新羅聖王二十四年(癸卯八月十五日)夜、(眞行天皇三十三年)月を蔽ひ、寶玉禪師、拄杖を以て打散す。三七王于同時に玄旨に大歡す。第一金玉光佛より第七金

梵魚寺

●朝鮮佛教。王聖佛まで七佛成道の地なり。因りて七佛庵と名づく。云ふ。然れ共、新羅聖王の時に方りて海東未だ佛教あらず。況んや禪師をや、蓋し禪宗傳來以後の傳説なるべし。寺内の石門には崔致遠の書を刻み、また崔の書及び撰に係る石碑並に開山慧昭の願佛等を存す。七佛庵には樂師石佛あり。東晉孝武帝寧康三年(高麗小獸林王五年、仁德天皇六十三年)の作と傳ふる古儀たり。



(殿 雄 大 寺 魚 梵)

ありし時、夢告に依りて關北大白山より義相を請じ、國南絶勝の靈地たる當山にありて精捨新念せしめ、國難を免る。王即ち此地に一字を創して義相に酬い、金井山梵魚寺と稱せしむ。往古は衆多の堂宇林立し壯觀なりしが、後ら文祿の兵變に係り堂宇灰燼に歸す。李朝宣祖三十五年(慶長七年)、眞鑑律師伽藍を重建し、幾許ならずして再び美上す。光海君五年(慶長十八年)妙全再興して聖年其工を竣ふ。即ち現在の堂宇なり。●境内廣瀆にして樹木清泉に富み、溪流其間を流び、東南は瀟海に開けて瀟瀟萬里、北は遠く金剛五岳に連りて塞に景趣に富む。堂宇には大雄殿・普濟樓・毘盧殿・龍華殿・觀音殿・冥府殿・鐘樓・天王門・二柱門・尊劍堂等あり。寺實に彌勒尊佛・梵鐘・石塔・石燈・玉瓦・烏銅香爐等を藏す。寺内六坊九庵あり、二百餘の僧尼居住す。他に四百八十六町歩の山林及び水田五千



(樓 鐘 寺 魚 梵)

九百斗海を有す。寺境に雙魚三奇、金山八景の勝地あり。●毎月十五日、晦日。

海印寺

●朝鮮佛教。伽藍山と號し、三十一本山の一なり。新羅眞莊王三年(延暦二十一年)十月、僧順應の開創と傳ふ。時に王背嶺に據りしが、嶺ゆるに及びて當寺に對田二千五百結を寄す。一説に、僧義相の華嚴宗を傳ふるや、當寺既に其の十刹の一に數へらるると云ふ。新羅末、住僧統希明華嚴三昧を得て法眼を著し、太祖の敬信を得て寺田五百結を加へられ、堂宇を修す。李朝成宗二十一年(延德二年)燈谷學祖はこれを重建せしが、肅宗二十一年(元祿八年)回祿に罹りて堂宇概れ美上し、後ら僧普再建す。英祖十九年(寬保三年)再び美上し、僧凌雲再興せしが、次で同三十九年(實曆十三年)又もや回祿の災に罹り、後ら僧敬常再建す。正宗四年(安永九年)堂宇美上し、五年を経て星敬念初再建す。純祖十七年(文化十四年)又復火災に罹り、三年を経て影月嘉聖再興を遂ぐ。即ち今の堂宇なり。近世寺勢甚だ悲境に陥り、最近漸く回復の途につけり。現に全羅北、慶尚南北三道に末寺七十餘寺を有し、又海明學校ありて僧弟を養成し、生徒四十餘人を收容す。

●境内一萬餘町歩、堂宇は大寂光殿・藏經閣二棟・冥府殿・祖師殿・解行殿・大持殿・下持殿・地雲堂・九光樓・解脫門・鳳凰門・紅霞門・局司樓・景洪殿・東西齋・新玄堂・觀音殿・四萬堂・明月堂・極樂庵・知足庵・海明齋・白蓮庵・願堂庵・國一庵・弘濟庵・南山清涼寺・三仙庵・藥水庵・涅槃堂・馬坊等山内を遍

じて一萬字以上に達す。而して寺内に攝理、監院等十餘の役僧を置きて事務を管せしむ。現住僧尼二百餘人あり。寺實に八萬大藏經版(板本總數八萬六千三枚、經部一千五百七十一部、經冊數七千一百四十六卷、高宗二十四年特別に着手、同三十八年完成)・衆塔香爐・玉燈・屏風等を藏す。

貝葉寺

●朝鮮佛教。一に寒山寺と云ひ、三十一本山の一なり。新羅眞莊王元年(延暦十九年)唐僧貝葉大師の開創にして、貝葉經を藏置せしより貝葉寺と稱す。李朝太宗三年(應永十年)回祿に遭ひ、信均之を再建す。其後宣祖六年(天正元年)兵變に罹りしが、省檢重建せり。後ら年久しくして堂宇破損せしかば、李太王の十二年(明治八年)、荷摩大師、これを大修繕して面目を一新せり。●境内百二十萬坪、九月山中に位す。堂宇に寒山寶殿・應真殿・七星閣・普眼閣・寮舍等を具ふ。寺實に法華經印板全載あり。

永明法興兩本寺

●朝鮮佛教。●三十一本山の一にして、永明寺は高麗廣

同土王二年(仁德天皇八十一年)阿道是れを創始し、龍山と號す。法興寺は新羅眞鑑律師の開創にして、龍山樓閣寺と稱せしが、高麗法興禪師是れを改めて法弘山法興寺と號す。大正九年、兩寺合併して永明寺に寺務所を置く。

普賢寺

●朝鮮佛教。妙香山と號し、三十一本山の一なり。高麗光宗王十九年(安和元年)、探密、安慶兩大師の草創に係る。大正元年、寺刹令頒布以來、平安北道に於ける大本山となり、末寺八十餘箇寺を有す。●境内地三萬六千五百坪にして、堂宇五十五字、寺實約二十點あり。

乾鳳寺

●朝鮮佛教。●三十一本山の一にして、新羅法興王七年(繼體天皇十四年)阿道、金剛山南麓の地に開創す。景徳王十七年(天平實字二年)、費微本寺を再建し金佛萬日會を創設す。近世祝融の災に罹りて寺庵美上せしむ、觀許ならずして重建せらる。

順傳・島嶼香爐・鐘杖等を遺す。
●高日念佛會(四月十五日・七月十五日、十月十五日・十一月十五日)。

檢帖寺 江原道高城郡西面。

●朝鮮傳教。
●三十一本山の一たり。新羅二世南解王元年(善仁天皇三十三年)の創建に係ると傳ふるも、海東傳教の起原は高句麗小獸林王の二年(仁德天皇六十一年)前後にして、又新羅南解王時代は支部にて南漢末後漢初、傳教初入支の時代なれば、右の寺傳信すべからざるも、以て本寺半島有数の古刹たるを知るを得べし。現に山内末寺として長安寺、表洞寺、摩訶衍、神漢寺を有し、山外末寺五十三箇寺を數ふ。

●寺域金剛山中に位置して、頗る靜閑、能仁寶殿・水月堂・蓮花社・鹿吟樓・護持門等其他數十の堂宇を具へ、壯麗を極む。能仁寶殿須彌壇上の五十三佛は新羅南解王の時、印度月氏國より傳來せしものなりと云ふ。

月精寺 江原道平昌郡西面東山里。

●朝鮮傳教。
●三十一本山の一たり。唐貞觀十七年(我皇極天皇二年)慈藏、文殊菩薩眞影を見むと欲し、此地に留ること七日、遂に能はずして妙梵山に去る。後信守居士此地にありし時、五願聖衆の化身現れせりと云ふ。其後、梵日の門弟信義來り、一庵を創して住せしを當寺の開創なりと云ふ。其後、久しく荒廢せしが、水夢寺長老來住してより漸く大寺となれり。李朝英祖十九年(寛保三年)、曾祖勅命して堂宇再修成り、以て今

日に及ぶ。
●境内地二千二百八十坪、五臺山中にありて崖峭重疊し、堂宇に七佛寶殿・羅漢殿・七星閣・鐘殿・湧金鐘・東齋堂・萬日堂・眞影閣等を具ふ。庭前に八面九級石塔あり、優婆塞多尊者の舍利を藏す。當山は古來兵火入らずと傳へ、寺内に國家史庫ありて歷朝寶錢を多く藏す。古佛像等亦頗る多し。

元山別院 咸鏡南道元山府。

●眞宗大谷派。
●明治十三年、元山開港成るや、本山にては釜山別院輪番典利圓心を當地に派して開教に従はしむ。仍りて同年五月、圓心此地鮮人の民家を借りて布教の精に就きしが、後居留地内一千餘坪の地を得て堂宇建立の工を起し、同十四年四月、其工を竣へて運佛法會を修す。其後、鮮人の暴動起りて一時閉鎖の止むなきに至りしが、同十八年、再興して釜山別院支院とし、且つ境内に小學校を設けて兒童教育に従ふ。二十七八年戦役後、頓に發展し、同三十四年、獨立して元山別院を公稱す。同四十一年、幼稚園を開き且つ實業補習學校を興し、又興仁日本語學校を創立する等、鮮人教育に益する所甚だ大なるものあり。
●境内七百餘坪、他に附屬地三百餘坪あり。堂宇に本堂・書院・庫庫・位牌堂・鐘樓等を具ふ。

釋王寺 咸鏡南道安邊郡文山西沙里。

●朝鮮傳教。
●釋尊山と號し、三十一本山の一たり。洪武十七年(元中元年)、李太祖の創建に係り、無學を以て開山と

臺灣

曹洞宗

●曹洞宗。
●明末鄭氏の頃、この地に開教せし部族の製音菩薩を奉祀せしに創ると云ふ。臺灣府誌に、觀音寺八芝蘭創澤にありと見ゆるは即ち當寺なり。淡水廳誌に、乾隆三十八年(安永二年)、吳廷譜等の捐建と云ひ、寺内の碑に、僧榮榮當地に到り大士の靈を奉じて古樹の蔭に宿り、茅剎を其中に卓錫して建塔の地を相し、夢兆によりて捐資重修して寺遂に成るとあれど、華榮は鄭氏時代の傳に因みて茅剎を重建し、創澤寺と改號せしものにして、當寺の草創は既に乾隆初年にありしものならむ。道光二十四年(弘化元年)再興せらる。
●一山の結構精宏を極め、當地有数の名刹たり。

臨濟護國寺 臺北州臺北市圓山町。

●臨濟宗妙心寺派。
●圓山と號す。明治三十三年、總督陸軍大將兒玉源太郎の創建にして、梅山玄秀を以て開山となす。初め玄秀、日清役後、當地明治橋畔創澤寺に寓して化度に從ひしが、偶々兒玉將軍と相知る所となり、明治三十三年、將軍自ら地を圓山の一角に卜して一寺を創教して玄秀に寄せ、同年十二月、公許を得、臨濟護國寺と號す。將軍役後、其縁者と謀り、且つ兒玉總督下の民政長官たりし後藤新平の歸依を得、全島民に勸進して、明治四十五年五月三十日堂宇建立の工を竣へ、遂



(釋王寺大雄殿)

す。太祖未だ魏城に游獵の頃、一夜噩夢に三條を負ひて破屋中より出づ。感ず、即ち當地野塚山窟中の仙僧に卜せしめしに、三條を負ふは即ち王子なり、公は君主の容姿あり、この地に一字を建て釋王寺と名付

に本島唯一の巨刹となれり。大正五年、更に境内に鎮南學校を設けて、本島人僧侶教育所とす。當寺は現に本家臺灣布教監督所兼に臺灣聯絡寺廟總本部たり。
●境内地約五千坪、堂宇に本堂・禪堂・鐘守堂・納



(臨濟護國寺本堂)

骨堂・寶庫・書院・庫庫・山門・鐘樓等悉く具はれり。寺地はもと土家陳維英の舊別荘地にして、林幽、境清、巖石層を成して淡水に臨み、風光甚だ明媚なり。丘の上下は石塔時代遺跡に觸し、眞翠等の露出ありて遺物

歸州寺 咸鏡南道咸興郡北州東面。

●朝鮮傳教。
●三十一本山の一なり。草創年次地に沿革不詳。

亦少からず。

●鎮守稲荷堂(十月十七日)、觀音講堂會(毎月十七日)。

臺北別院

臺北州臺北市新起町。

●眞宗本願寺派。

●明治二十七八年役の際、大江俊孝、小野島行彦軍陣慰問使として渡臺せしが、翌年三月、本山より更に紫雲玄範、井上清明を軍陣慰問使兼臺灣開教使に任命し、大稻埕番官街至道宮に布教場を設けて傳道に従事せしむ。同三十二年十月、開教使田中行善布教場を臺北北門街に移す。次で翌年五月二十三日、更に之を現在の地に移して臺北北門街と稱せしが、同三十四年三月十九日、臺北別院と改稱し、同年八月、運佛式を舉ぐ、現在臺南門外區域は臺北、基隆、新竹、苗栗、臺中、嘉義、臺南、臺東、高雄、鹿港、澎湖島等あり。

●堂宇に本堂・骨堂・書院・鐘樓等あり。

龍山寺

臺北州臺北市龍山街。

●曹洞宗。

●支那泉州安海の分派にして、清乾隆三年(元文三年)の創建と傳へ、觀音佛堂並に諸祖他佛を安置す。當市最古の寺院なりとす。嘉慶二十年(文化十二年)の大震に際し、佛堂を壊して一山悉く破壊せしが、後ち再建せる。

●堂宇壯麗にして畫像彫像金碧輝耀たり。寺前に龍山寺池あり。

●舊三月二十三日。

臺北別院

臺北州臺北市壽町。

●眞宗大谷派。

●大正十年、臺北別院を公稱し、以て現在に至る。

開元寺

臺南州臺南市北門町。

●臨濟宗妙心寺派。

●一に檀越寺と號す。明末鄭氏の頃、鄭成功夫人蕭氏菩提のため創建せられし所にして、初め北園別館と稱す。清康熙二十九年(元祿三年)、蕭厦分進道王效宗、總王化行等は之を再建して寺とし、海會寺と號せしが、後ち現寺號に改む。

法華寺

臺南州臺南市南門町。

●曹洞宗。

●清康熙二十二年(天和三年)の創建と傳ふ。初め明末の頃、流寓者漳州の人李茂春此地に到りて茅庵を結び多羅樹と號し、里人は之を崇めて李菩薩と稱せしが、其後遺傳相承り、一字を削りて法華寺と號せしが當寺の草創とす。康熙四十七年(寶永五年)、鳳山知縣宋永清前殿一座を増進して大神を祀り、左右に鐘樓、鼓樓を建立し、更に前後の曠地に蓮花果を植ふ面目を一一新す。また鼓樓の後方に茅亭を作り、之に屬して息憺と云ひ、暇時來りて憩息せりと云ふ。後ち乾隆二十九年(天明元年)、臺灣知府蔣元勳、之を重修し、嗣後疊次改修せり。

●境内は殿宇鐘樓、林樹幽邃、寺後に寺田約二甲あり。再興英の寄する所なり。又港西里大廟庄に一圓あり。

り。宋永清の喜捨して香華の實に充てたるものなりと云ふ。

護國院

高雄州屏東郡屏東街。

●曹洞宗。

●大正二年、初めて當地に本宗布教所開設され、地方の認可を得、布教所の一部を建立して本尊釋迦如来像を安置す。同八年、堂宇建立の案成り、時の總督明石元二郎の贊助を得て、同十二年本堂、庫裡を建立、管長北野元聖請せられて入佛式を舉げ、護國院と命名せり。同十四年三月二十五日、曹洞宗護國院を公稱す。又同年四月四日、護國幼稚園を開設し、爾來當地兒童の教育に當れり。

●境内地六百坪を有し、本堂・庫裡・山門等あり。

●幼稚園地蔵祭及び開齋會(三月)、降誕會(四月)、婦人會總會(十月)。

妙廣寺

高雄州澎湖郡馬公街馬公。

●臨濟宗妙心寺派。

●大智山と號す。清康熙三十五年(元祿九年)、遊學薛奎の講宮城北門外に觀音堂を建てしを本寺の祖廟とす。清佛の役に際し、佛兵の爲め古像、重寶等多く掠奪さる。傾廢後、本宗布教の道場に充て、澎湖山觀音寺と稱せしが、伏見宮文秀女王の命名に依り現在の山寺號に改め、時に其匾額を下賜せらる。

●境内百九十坪、本堂は東西六間、南北五間半にして、本尊に如意輪觀世音を安置す。尙ほ廟前に涌出する噴泉は古來甘美にして本島第一の稱あり。

關東州、滿洲國、海外

關東州

影現寺

旅順市駿島町三。

●古義眞言宗。

●草創年次並に沿革不詳、本宗高野末たり。

日清寺

旅順市朝日町二十日。

●日蓮宗。

●草創年次並に沿革不詳。

關東別院

大連市信壽町。

●眞宗本願寺派。

●明治三十七八年戦役に際し、本派に於ては百餘名の従軍布教使を派して慰問事務の事に従はしめ、連枝大谷野山は監督として大連乃木町に留りし。同三十七年、其の宿舎を以て別院に充て、院内に遼東中島臨時支部を設く。同三十八年十月、平和克直するに及び、同部は移せられたるも、此別院を以て遼陽、奉天、鐵嶺、柳屯等滿洲に於ける本派布教の中心となせり。同三十九年十一月、別院を乃木町より西公園に移す。同四十年五月、大連民政署より大連南山麓に別院敷地二萬

關東州(旅順市・大連市)

大連別院

大連市若狹町。

●眞宗大谷派。

●もと布教所なりしを、大正二年改めて別院となし、以て現在に至る。もと院内に當派滿洲開教監督部を置きしが、近時之を新京に移せり。

大蓮寺

大連市春日町。

●日蓮宗。

●草創年次並に沿革不詳。

大德寺

大連市沙河口波町。

●古義眞言宗。

●新高野山と號し、本宗高野末なり。大正二年八月高比良光通、大師教會大連支部沙河口布教所として創設す。翌三年十二月本堂を建立し、同九年一月に至り本堂、庫裡改築、翌十年十二月九日、寺號を今の如く公稱す。

●境内八百五十二坪、本堂・庫裡の建坪合せて百五十七坪、何れも棟瓦葺なり。

大法寺

大連市沙河口波町。

●日蓮宗。

●草創年次並に沿革不詳。

妙心寺別院

大連市圓山台。

●臨濟宗妙心寺派。

●本派滿洲開教總本部にして、鞍山、張家店、奉天、撫順、安東等の各本派布教所を統轄す。

常安寺

大連市。

●曹洞宗。

●寺内に本宗滿洲布教管理部署を置き、現に寺院十四寺、布教所二を統轄す。

滿洲國

經王寺 新京曙町二。

◎古義眞言宗。
◎草創年次並に沿革不詳。

金剛寺 新京東二二區。

◎古義眞言宗。
◎草創年次並に沿革不詳。本宗高野末なり。

蓮華寺 奉天字治町。

◎日蓮宗。
◎草創年次並に沿革不詳。

金剛寶寺 奉天膠波町。

◎古義眞言宗。
◎草創年次並に沿革不詳。本宗高野末なり。

大師寺 懷德縣公主嶺樓町。

◎古義眞言宗。
◎高野山金剛峯寺直末。大正四年七月二十五日、正田英禪、公主嶺敷島町に六疊一間の支那家屋を借りて宗祖大師を安ぜしが、其後滿洲各地を托鉢し右を基礎として無慮を作り、現地に一字を創建して大師寺と號す。

本園寺別院 中華民國上海乍浦路四三九號。

◎日蓮宗。
◎京都大本山本園寺の別院。明治三十二年十月十二日、創立許可せらる。大正十一年四月本堂落成す。

◎境内二百四坪、本堂は六間に九間。寺寶に日蓮筆本尊一幅(建治三年八月)・法華經八軸(寛文四年六月十三日性海尼書寫)・明治天皇御使用卓掛一枚・照憲皇太后御使用御ぐし立一箇・同御草紙火入一箇等を藏す。

天津別院 中華民國天津日本租界福島街。

◎眞宗大谷派。
◎明治三十六年、布教所を創設し、同四十年、堂宇を興して之に移り、翌四十一年、天津別院を公稱す。

浦鹽本願寺 露西亞國浦鹽新德市。

◎眞宗本願寺派。
◎明治二十年、本派僧侶多門連明開教の目的を以て當地に入りしが、次で同二十七年、開教使矢田教護、當地大地主セベリコフの地所を借りて布教所を建設せしを以て本寺の濫觴となす。明治三十五年、同大地主職を継任し、爾來、本寺の教勢頗に揚る。同四十二年、初めて當地布教の公認を得、次で市内に二千餘坪の寺地を定めし、種々なる困難ありて堂宇建立は漸く大正四年に至りて成就せり。現在の浦鹽本願寺即ち是れなり。

布哇開教院 布哇ホノル、市サウス街。

◎眞宗大谷派。
◎日蓮宗。
◎大正六年十月創立、教團、村婦婦人會、青年會、

了。

◎本堂・庫裡を有す。
◎宗祖降誕會、正御影供。

石山寺 本溪湖石山町。

◎古義眞言宗。
◎草創年次並に沿革不詳。本宗御宇末たり。

運照寺 撫順千金寨。

◎古義眞言宗。
◎草創年次並に沿革不詳。現に本宗高野末なり。

弘法寺 遼陽修家小街一。

◎古義眞言宗。
◎草創年次並に沿革不詳。本宗高野末なり。

妙法寺 鐵嶺新市街一道町。

◎日蓮宗。
◎草創年次並に沿革不詳。

法華寺 安東縣六通通三丁目。

◎日蓮宗。
◎草創年次並に沿革不詳。

◎明治二十七年開教、同三十八年本堂建設、同四十二年布哇女學校を開設す。爾來各島に存する十三教會一會堂を統轄して以て今日に至る。

布哇別院 布哇ホノル、市フォード街。

◎眞宗本願寺派。
◎明治二十二年三月、本派僧侶日香龍渡布、苦心經營の末ヒロに布教所を設立せるを以て本派布哇開教の濫觴とす。同三十年三月、本山初めて開教使を任じ、ホノル、に駐在せしめしが、同三十二年、今村嘉延開教監督として來布、爾來本派の開教頗に躍進す。同三十三年三月新堂成り、同三十五年、本願寺附屬小學校を設立す。同四十年、布哇本願寺教團を組織せしが、同年五月、別院に昇格し、次で中學校を興す。同四十三年には高等女學校又完成せり。同四十五年六月、ホノル、別院を布哇別院と改む。爾來、各校の施設次第に完備し、内外人間に豐饒たる教團を成就して、現に全島四十六布教所、十六出張所を數へ、本島開教諸派中最大の教線を獲得せり。

布哇別院 布哇ホノル、市キング街。

◎眞宗大谷派。
◎明治三十三年開教、大正十年ミス街より現地に移轉、以て別院となる。教團を中心し婦人會、青年會、日曜學校等を組織し、五布教所を統ぶ。

ホノル、別院 布哇ホノル、市南スクール街。

◎日蓮宗。
◎大正六年十月創立、教團、村婦婦人會、青年會、

海外

上海別院(上海東) 中華民國上海虹口武昌路第三號。

◎眞言大谷派。
◎俗に東洋廟又は上海東本願寺と稱す。明治九年、二十一世宗主總知の創立に係る。是より先き同七年、小栗栖香頂等を此地に派遣して開教に従事せしめたりしが、初め英租界河南路の洋館を借得して布教の端緒を開き、同九年に至り英租界北京路を卜して別院を建設し、同年八月、開院の式を舉ぐ。品川領事以下來り會する者一千、龍華寺の僧空山亦十八僧を率ゐて式に列す。當時の建築には樓の上下に二十五房ありて中央の一室を以て佛堂に充つ。又院内には江蘇教校を設置し、支那開教の人材を養成せり。同十一年四月、米租界乍浦路に八畝餘の地を買取し、同十五年八月、徐氏と土地の交換をなして堂宇新築の準備をなし、翌年五月起工、七月落成す。其様式は純然たる支那風にして、本堂の前後側面に庫裡を設けたり。落成後直ちに移轉し、九月、運轉供養を行ふ。同三十一年十月、従来の建築を改めて更に土木工事を起し、翌年四月落成す。同四十年に至り更に増築に着手し、翌年三月新堂に移り、萬葉は之を當地の日本俱樂部に充て、四月十五日供養會を修し、本山より使僧を派して之に列せしめたり。現に寺内に上海日本人居留民團本部、上海日本人俱樂部、上海實業俱樂部等の各事務所を置く。

◎境内六十餘坪、本堂建坪三十坪なり。

布哇別院 布哇ホノル、市マアヌ街。

◎眞宗大谷派。
◎明治三十三年開教、大正九年一月別院完成す。同教團、佛心會、製音弘誓會、婦人會、青年會等を附設し、現に各島所在の三布教所、五寺院を統ぶ。

ホノル、別院 布哇ホノル、市シエリダン街。

◎古義眞言宗。
◎大正三年六月開教、同六年十月別院落成、教團、婦人會、眞友會、處女會等を組織し、布教所場を四區とし、各區に支部あり。

桑港佛教會 米國桑港バイン街。

◎眞宗本願寺派。
◎明治三十二年九月、在桑信徒の請願に依り、宗主明如、關田宗惠、西島覺了を開教使として派遣せしに濫觴す。爾來在米邦人の増加と共に發展し、年を逐ひて各地に布教所を新設され、遂に布教所四十有餘、常在開教使五十名の多きを數ふるに至れり。本會は即ち其開教本部にして、北米教團の布教、教育其他一般社會的事業を統理す。

羅府別院 米國羅府サバナ街。

◎眞宗大谷派。
◎も之本願寺派に屬せしが、故ありて大正十年、當派に轉じ、次で別院となる。合衆國、カナダ及びメキシコを其管轄區域とす。

附 錄

- 一、佛教聯合會規則
- 一、國寶保存法及國寶保存法施行規則並國寶保存會官制
- 一、各宗本山並宗務所々在地一覽表
- 一、門跡寺院一覽表
- 一、由緒寺院一覽表
- 一、諸國巡禮便覽
- 一、各宗高僧諡號宣下並入滅年代一覽表
- 一、各宗派寺院僧侶及教會所數一覽表
- 一、各宗派檀信徒員數一覽表
- 一、國寶所藏寺院一覽表
- 一、音訓索引
- 一、頭字畫索引

日本社寺大觀 寺院篇 完

佛教聯合會

本部 東京市芝區芝公園八ノ二
出張所 京都市東山區清水寺内

一、規則

第一條 本會ハ佛教聯合會ト稱シ本部ヲ東京ニ出張所ヲ京都ニ置ク
第二條 本會ハ各宗派管長及宗務ノ要職者ヲ以テ組織ス
第三條 本會ハ管長及宗務要職者間ノ親睦ヲ敦クシテ各宗派共通ノ事項ヲ審議處辨スルヲ以テ目的トス
第四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

幹事 十二名
主事 一名
書記 若干名

必要ニ依リ顧問及囑託ヲ置クコトヲ得

第五條 幹事ハ左ノ振合ニ依リ各宗派ヨリ之ヲ選出ス
但シ數宗派聯合ノモノニアリテハ其組合内宗派ノ協定ニ依リ幹事ヲ選出ス

| | |
|-------|----|
| 天台宗 | 一人 |
| 真言宗 | 一人 |
| 古義真言宗 | 一人 |
| 醍醐派 | 一人 |
| 山階派 | 一人 |
| 泉涌寺派 | 一人 |
| 善通寺派 | 一人 |
| 新義真言宗 | 一人 |
| 智智山派 | 一人 |
| 豐山派 | 一人 |

佛教聯合會規則

| | | |
|-----|--------|----|
| 臨濟宗 | 妙心寺派 | 一人 |
| 同 | 建長寺派 | 一人 |
| 同 | 南無寺派 | 一人 |
| 同 | 東福寺派 | 一人 |
| 同 | 圓覺寺派 | 一人 |
| 同 | 方廣寺派 | 一人 |
| 同 | 大德寺派 | 一人 |
| 同 | 永源寺派 | 一人 |
| 同 | 天龍寺派 | 一人 |
| 同 | 相國寺派 | 一人 |
| 同 | 建仁寺派 | 一人 |
| 同 | 向嶽寺派 | 一人 |
| 同 | 佛通寺派 | 一人 |
| 同 | 國泰寺派 | 一人 |
| 同 | 曹洞宗 | 二人 |
| 同 | 大本願寺派 | 一人 |
| 同 | 高田派 | 一人 |
| 同 | 佛光山派 | 一人 |
| 同 | 興正寺派 | 一人 |
| 同 | 木邊派 | 一人 |
| 同 | 誠照寺派 | 一人 |
| 同 | 出雲路派 | 一人 |
| 同 | 三門徒派 | 一人 |
| 同 | 山元派 | 一人 |
| 同 | 淨土宗 | 一人 |
| 同 | 西山光明寺派 | 一人 |
| 同 | 禪林寺派 | 一人 |
| 同 | 深草派 | 一人 |
| 同 | 時念佛宗 | 一人 |
| 同 | 通言律宗 | 一人 |

一、 宗旨
二、 組織
三、 職員
四、 經費
五、 附則

| | |
|-----------|---|
| 法律 | 宗 |
| 華嚴宗 | 宗 |
| 日蓮宗 | 宗 |
| 顯本法華宗 | 宗 |
| 本門法華宗 | 宗 |
| 本法華宗 | 宗 |
| 日蓮正宗 | 宗 |
| 日蓮正宗 | 宗 |
| 同 不受不施講門派 | 宗 |
| 一人 | |

主事 其他ノ職員ハ幹事會ニ於テ之ヲ選任ス
 第六條 幹事ハ本會ヲ代表シ會務一切ノ責ニ任ス
 主事ハ幹事會ノ命ニ依リ事務ヲ管掌ス
 書記ハ上長ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事スルモノトス
 第七條 評議員會ハ各宗派ヨリ選出シタル評議員ヲ以テ組織ス 各宗
 ニヨリ選出スル評議員ノ數ハ一宗ニ一人トス
 但シ所屬寺院一千餘寺ヲ超ユル宗派ニアリテハ二千箇寺ヲ増ス毎ニ
 一人ノ評議員ヲ加フルコトヲ得
 第八條 本會ニ支部ヲ置ク 支部ハ各府縣ニ設置シ之ニ關スル規定ハ
 別ニ定ム
 第九條 本會ノ經費ハ評議員會ニ於テ其ノ豫算ヲ定メ左ノ割合ニ依リ
 各宗派ヨリ之ヲ徵收ス
 但シ臨時費ニ限リ管長割ト寺數割ノ比例ハ評議員會ノ決議ニ依リ適
 宜變更スルコトヲ得
 一、管長割 十分ノ二
 一、寺數割 十分ノ八
 第十條 本會ノ幹事及評議員ハ無報酬トス
 但シ事件ニ依リ旅費又ハ其ノ他ノ費用ヲ支給スルコトアルヘシ

第十一條 此ノ會則施行ニ關シ必要ノ規定ハ幹事ニ於テ別ニ之ヲ定ム
 附 則
 第一條 此ノ會則ハ幹事ノ提案ニヨリ評議員會ノ議決ヲ經ルニアラサ
 レハ之カ改更ヲ爲スコトヲ得ス
 第二條 此ノ會則ハ昭和三年一月一日ヨリ施行ス
 二、會則施行規定
 第一條 幹事ノ互選ニ依リ常務幹事三名ヲ置キ幹事會ヲ代表シテ會務
 ヲ執行セシム
 第二條 常務幹事ハ一ケ年主事ハ二ケ年ヲ以テ任期トス
 第三條 幹事會ハ毎月一回之ヲ開キ常務幹事ニ於テ必要ト認ムル場合
 隨時之ヲ開ク
 第四條 評議員ハ各宗派管長ニ於テ之ヲ選任シ本部ニ届出ツルモノト
 ス
 第五條 評議員會ノ開會期日、會場、議題ハ幹事會ニ於テ之ヲ定メ開
 會期日十五日前ニ各宗派へ通牒スヘシ
 但シ緊急必要ト認ムル場合ハ開會通牒ノ期日ヲ短縮スルコトヲ得
 第六條 評議員會ヲ開會スルノ必要ヲ認ムルモ之ヲ開會スルコト能ハ
 サル相當ノ理由アル場合ハ文書ヲ以テ評議員ニ諮リ其ノ贊否ハ之ヲ
 評議員會ノ決議ト認ムルコトヲ得
 但シ此ノ事項ハ次期ノ評議員會へ報告スヘシ
 第七條 本會ハ專任職員並ニ書記ニハ手當ヲ支給スヘシ
 三、會計 規 程
 第一條 本會ノ會計ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム
 豫算ハ款項目ニ分チ毎年評議員會ノ議決ヲ經ヘシ
 第二條 歳入ヲ管長割寺數割ノ二種トシ毎年一月之ヲ本部ニ徵收ス
 第三條 決算ハ翌年二月迄ニ之ヲ終了シ次期ノ評議員會ニ之ヲ提出ス
 但シ
 第四條 決算剩餘金ハ次ノ年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第五條 歳出ノ各款ハ彼此流用スルコトヲ得ス
 第六條 歳出豫算ニ豫備費ヲ置キ項目金額ノ不足並ニ項目以外ノ臨時
 支出ニ充ツ 豫備費ノ支出ハ本部並ニ出張所幹事會ノ決議ヲ經ヘシ
 第七條 本部出張所ノ常務幹事ハ現金保管並ニ收支一切ノ責ニ任ス
 第八條 年度代前ニ評議員會ヲ開會スル能ハス若クハ止ムヲ得サル事
 故ニ依リ豫算ヲ決議セサルトキハ前年度ノ豫算ヲ踏襲シ次ノ評議員
 會ノ承認ヲ經ヘシ

四、支部設置規程

第一條 支部ハ本會ノ趣旨ニ基キ地方ニ於ケル各宗派寺院ノ協調親睦
 ヲ圖リ共通ノ事項ヲ審議處辨スルヲ以テ目的トス
 但シ地方ノ事情ニ依リ一般ノ教化、社會事業ヲ行フコトヲ得
 第二條 支部ハ一市若クハ一郡ヲ區域トシテ之ヲ設置ス但シ地方ノ機
 宜ニ依リ衆議院議員選舉區ヲ標準トシテ隣接ノ數市郡聯合シテ設置
 スルコトヲ得
 第三條 本部ハ支部ニ對シ寺院數並ニ事業ノ成績ヲ考查シ豫算ノ範圍
 ニ於テ若干ノ補助ヲ爲スモノトス
 第四條 本部ハ支部ノ要求ニ依リ政教關係ノ調査及ヒ中央官衙トノ交
 渉ノ任ニ當ル
 第五條 地方ニ於ケル各宗派協同ノ既設團體ニシテ本規程第一條第二條
 ニ該當スルモノハ之ヲ支部ト見做スコトヲ得
 第六條 支部規約ハ地方ノ適宜ニ之ヲ制定シテ本部ニ届出ツヘシ
 第七條 支部職員ハ支部ノ希望ニ依リ本部ヨリ任免ノ辭令ヲ交付スル
 コトヲ得

五、府縣支部規則

第一條 本支部ハ佛教聯合會何々府縣○○(地方名又ハ同府縣内ニ二
 以上アル時ハ第一第二冠ス)支部(以下單ニ支部ト稱ス)ト稱ス
 第二條 支部ハ常ニ本部ト聯絡協調シテ支部區域内ニ於ケル各宗派寺

院ノ共通事項ヲ審議處辨スルモノトス
 第三條 支部事務所ハ何々縣何々市何々町ニ置ク
 第四條 支部ハ何々郡市區域内寺院ヲ以テ組織ス
 第五條 支部ニ理事○○名ヲ置キ支部ノ事務一切ノ責ニ任セシム
 理事會ハ常務理事ニ於テ必要ヲ認メタルトキ若クハ理事三名以上ノ
 請求アリタルトキ之ヲ開會ス
 第六條 理事ハ支部區域内各宗派寺院數ニヨリ其員數ヲ定メ地方宗務
 職員若クハ寺院住職者中ヨリ之ヲ選任ス
 第七條 支部ハ常務理事二人ヲ置キ庶務會計ノ常務ニ從事セシム
 常務理事ハ理事ノ互選ニ依リ選出シ其ノ任期ハ〇箇年トス
 第八條 支部ハ理事會ニ於テ必要ヲ認メタルトキ若クハ區域内寺院五
 分ノ一以上ノ要求アルトキハ寺院總會ヲ開クモノトス
 第九條 支部經費ハ區域内寺院住職者ノ負擔トシ其ノ徵收率ハ毎年豫
 算ニ依リ理事會ノ決議ヲ以テ定ム
 第十條 理事ハ無報酬トス
 但シ旅費其ノ他ノ實費ハ支給スルコトアルヘシ
 第十一條 常務理事ハ毎年一回事業並會計ニ關シ報告書ヲ作り理事會
 ノ承認ヲ經テ寺院一般ニ公表シ且ツ之ヲ本部ニ提出スルモノトス
 第十二條 此ノ規則施行ニ關シ必要ノ細則ハ理事會ニ於テ別ニ之ヲ定
 ム
 附 則
 第一條 此ノ規則ノ改正變更ハ理事會ノ議決ニ依リ之ヲ行フ
 第二條 此ノ規則ハ昭和 年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

○國寶保存法

- 法律第十七號
- 第一條 建造物、寶物其他ノ物件ニシテ特ニ歴史ノ證據又ハ美術ノ模範ト爲ルヘキモノハ主務大臣國寶保存會ニ諮問シ之ヲ國寶トシテ指定スルコトヲ得
- 第二條 主務大臣前條ノ規定ニ依リ指定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ官報ヲ以テ告示シ且當該物件ノ所有者ニ通知ス
- 第三條 國寶ハ之ヲ輸出又ハ移出スルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 國寶ノ現狀ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 主務大臣前條ノ規定ニ依リ許可ヲ爲サントスルトキハ國寶保存會ニ諮問スヘシ
- 第六條 國寶ノ所有者ニ付變更アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所有者ヨリ主務大臣ニ届出ヲ爲スヘシ國寶滅失又ハ毀損シタルトキ亦同シ
- 第七條 國寶ノ所有者ハ主務大臣ノ命令ニ依リ一年ノ期間ヲ限リ帝室官立又ハ公立ノ博物館又ハ美術館ニ其ノ國寶ヲ出陳スル義務アルモノトス但シ祭祀法用又ハ公務執行ノ爲ニ必要アルトキ其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 前項ノ命令ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ爲スコトヲ得
- 第九條 前條ノ規定ニ依リテ國寶ヲ出陳シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ國庫ヨリ補助金ヲ交付ス
- 第十條 第七條ノ規定ニ依リテ出陳シタル國寶其ノ出陳中滅失又ハ毀損シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ國庫ヨリ其ノ所有者ニ對シ通常生スヘキ損害ヲ補償ス但シ不可抗力ニ因リタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 前項ノ損害補償額ハ主務大臣之ヲ決定ス其ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ決定通知ノ日ヨリ三月内ニ通常裁判所ヨリ出訴スルコトヲ得
- 第十條 第七條ノ規定ニ依リテ出訴シタル國寶ニ付其ノ出陳中所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ當該國寶ニ關シ本法ニ規定スル舊所有者ノ權利義務ヲ承繼ス
- 第十一條 公益上其ノ他特殊ノ事由ニ依リ必要アルトキハ主務大臣國寶保存會ニ諮問シ國寶ノ指定解除ヲ爲スコトヲ得
- 第十二條 主務大臣前項ノ規定ニ依リ指定解除ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ官報ヲ以テ告示シ且當該物件ノ所有者ニ通知ス
- 第十三條 神社又ハ寺院(官國幣社ニ在リテハ宮司、府縣郷社ニ在リテハ社司、村社以下ニ在リテハ社掌)寺院ニ在リテハ住職(佛堂ニ在リテハ受持僧侶)之ヲ管理ス但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケ別ニ管理者ヲ定ムルコトヲ得
- 第十四條 神社又ハ寺院ノ所有ニ屬スル國寶ハ之ヲ處分シ、擔保ニ供シ又ハ擔保フルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケ處分シ又ハ擔保ニ供スルハ此ノ限ニ在ラス
- 第十五條 主務大臣前項ノ規定ニ依リ許可ヲ爲サントスルトキハ國寶保存會ニ諮問スヘシ
- 第十六條 主務大臣ノ許可ヲ受ケスシテ神社又ハ寺院ノ所有ニ屬スル國寶ヲ處分シ又ハ擔保ニ供シタルトキハ之ヲ無効トス
- 第十七條 神社又ハ寺院其ノ所有ニ屬スル國寶ヲ維持修理スルコト能ハサルトキハ主務大臣國寶保存會ニ諮問シ之ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得
- 第十八條 必要アルトキハ神社又ハ寺院以外ノモノノ所有ニ屬スル國寶ニ付前項ノ規定ヲ準用ス
- 第十九條 補助金ハ豫算額ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テ精算ノ上剩餘アルトキハ之ヲ還付セシムルコトヲ得

- 第十六條 補助金及補給金トシテ國庫ヨリ支出スヘキ金額ハ毎年度十五萬圓以上二十萬圓以下トス
- 第十七條 前項ノ金額ノ外特ニ必要アルトキハ豫算ノ定ムル所ニ依リ臨時ニ補助金又ハ補給金ヲ支出スルコトヲ得
- 第十八條 國寶保存會ノ組織及權限ニ關スル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十九條 神社又ハ寺院ノ所有ニ屬スル國寶ノ管理ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二十條 國ノ所有ニ關スル國寶ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
- 第二十一條 主務大臣ノ許可ナクシテ國寶ヲ輸出又ハ移出シタル者ハ五年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千萬圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十二條 國寶ヲ損壞、毀棄又ハ隱匿シタル者ハ五年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百萬圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十三條 前項ノ國寶自己ノ所有ニ係ルトキハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百萬圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス
- 第二十四條 第四條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケヘキ者之ヲ受ケスシテ國寶ノ現狀ヲ變更シタルトキハ五百萬圓以下ノ過料ニ處ス
- 第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲ササル者ハ百圓以下ノ科料ニ處ス
- 第二十六條 第七條ノ規定ニ依リテ出陳シタル國寶ノ管理者又ハ神社若ハ寺院ノ所有ニ屬スル國寶ノ管理者怠慢ニ因リ其ノ管理スル國寶ヲ滅失又ハ毀損スルニ至ラシメタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス
- 第二十七條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本法ニ規定スル過料ニ付之ヲ準用ス

附 則

- 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 古社寺保存法ハ之ヲ廢止ス
- 古社寺保存法ニ依リテ特別保護建造物又ハ國寶ノ資格アルモノト定メラレタル物件ハ之ヲ本法ニ依リテ國寶トシテ指定セラレタル物件ト見做ス古社寺保存法ニ依リテ下付シタル保存金ハ之ヲ本法ニ依リテ交付シタル補助金ト見做ス

○國寶保存法施行令

- (昭和四年六月二十八日勅令第二百十號)
(昭和四年七月一日實施)
- 第一條 國寶保存法第七條ノ規定ニ依リテ國寶ヲ官立又ハ公立ノ博物館又ハ美術館ニ出陳セシメタルトキハ當該博物館又ハ美術館ノ長、當該博物館又ハ美術館ノ長故障アルトキハ當該職制ノ定ムル所ニ依リ其ノ職務ヲ代理スル者ニ於テ出陳國寶ヲ管理ス
- 第二條 前項ノ管理ニ關シテハ文部大臣之ヲ監督ス
- 第三條 國寶保存法第七條ノ規定ニ依リテ博物館又ハ美術館ニ出陳シタル國寶ノ出陳ニ要スル荷造運搬費等ハ當該博物館又ハ美術館ニ於テ負擔スルモノトス返送ニ要スル荷造運搬費等亦同シ
- 第四條 國寶保存法第十四條ノ規定ニ依リテ補助金ノ交付ヲ受ケタル國寶ノ維持修理ニ關シテハ文部大臣之ヲ監督ス
- 第五條 文部大臣前項ノ規定ニ依リテ地方長官ニ委任スルコトヲ得
- 第六條 文部大臣國ノ所有ニ屬スル物件ヲ國寶トシテ指定シタルトキハ其ノ旨ヲ官報ヲ以テ告示シ且當該物件ノ所管大臣ニ通知スヘシ國ノ所有ニ屬スル國寶ノ指定解除ヲ爲シタルトキ亦同シ
- 第七條 國カ其ノ所有ニ屬スル國寶ヲ處シ、輸出又ハ移出シ又ハ其

ノ現状ヲ變更セントスルトキハ所管大臣ニ於テ文部大臣ノ同意ヲ得ヘシ

第六條 文部大臣前條ノ規定ニ依ル同意ヲ爲サントスルトキハ國寶保存會ニ諮問スヘシ

第七條 國ノ所有ニ屬スル國寶ニ付滅失、毀損又ハ管理換アリタルトキハ其ノ旨ヲ所管大臣ヨリ文部大臣ニ通知スヘシ國力國寶ヲ取得シタルトキ亦同シ

○國寶保存法施行規則

(昭和四年六月二十九日文部省令第三十七號)
(昭和四年七月一日施行)

第一條 文部省ニ國寶臺帳ヲ備ヘ國寶ヲ登錄ス

第二條 國寶臺帳ニハ左ノ事項記載シ寫眞ヲ添付ス
建造物ノ類ニ付テハ
一、名稱及所在地
二、所有者ノ氏名(名稱)及住所
三、員數
四、構造及形式
五、大 小
六、創建及沿革
七、其ノ他參考トナル可キ事項
賣物ノ類ニ付テハ
一、名 稱
二、所有者ノ氏名(名稱)及住所
三、種 類
四、員 數
五、品 質
六、形 狀

七、法 量
八、作者及傳來
九、其他參考トナルヘキ事項

第三條 國寶ヲ輸出又ハ移出セントスルトキハ所有者ニ於テ其ノ事由並ニ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ
一、國寶ノ名稱及員數
二、輸出又ハ移出ノ期間(運搬ノ期間ヲ含ム)
三、輸出先又ハ移出先ノ場所及其ノ所在地
四、荷造運搬ノ方法
五、輸出又ハ移出期間中ニ於ケル保管ノ方法
六、保險ノ方法(補償ノ意味)
七、模寫模造等ニ關スル約束アラハ之ニ關スル事項(寫眞、實測、拓本、スケッチ等ハ差支ナシ)

第四條 國寶ノ輸出又ハ移出ノ許可ヲ受ケタル者當該國寶ヲ持還リ又ハ其ノ返還ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク文部大臣ニ届出ツヘシ

第五條 國寶ノ現狀ヲ變更セントスルトキハ所有者ニ於テ其ノ事由並ニ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ
一、國寶ノ名稱及員數
二、現狀ノ變更ニ關スル設計仕様計畫圖並ニ工事擔當者ノ氏名(名稱)(技師名)
三、建造物ノ類ニシテ位置ノ變更ヲ生スル場合ニ在リテハ其ノ移轉先
四、着手ノ時期及竣成期限

第六條 國寶ノ現狀變更ノ許可ヲ受ケタル者當該國寶ノ現狀變更ヲ竣リタルトキハ實施仕様書寫眞並ニ圖面ヲ添ヘ遲滞ナク文部大臣ニ届出ツヘシ

第七條 國寶ノ所有者其ノ氏名(名稱)又ハ住所ヲ變更シタルトキハ變更ノ日ヨリ十四日以内ニ文部大臣ニ届出ツヘシ國寶ヲ取得シタル者ハ當該國寶ノ名稱及員數ヲ具シ取得ノ事實ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添ヘ取得ノ日ヨリ十四日以内ニ文部大臣ニ届出ツヘシ

第八條 國寶滅失又ハ毀損シタルトキハ國寶保存法第七條ノ規定ニ依リ出陳中ニ係ル場合ヲ除クノ外所有者ヨリ其ノ事由實況並ニ當該國寶ノ名稱及員數ヲ具シ滅失又ハ毀損ノ事實ヲ知りタル日ヨリ五日以内ニ文部大臣ニ届出ツヘシ

第九條 國寶保存法第七條ノ規定ニ依リテ出陳シタル國寶ヲ受領シタルトキハ當該博物館又ハ美術館ハ所有者ニ受領證書ヲ交付シ返付スルトキハ之ヲ引換フヘシ

第十條 前條ノ國寶ヲ受領又ハ返付シタルトキハ當該博物館又ハ美術館ハ其ノ都度文部大臣ニ報告スヘシ神社寺院又ハ公共團體ノ所有ニ屬スル國寶ナルトキハ尙當該地方長官ニ報告スヘシ

第十一條 第八條ノ國寶滅失又ハ毀損シタルトキハ當該博物館又ハ美術館ハ其ノ事由實況並ニ當該國寶ノ名稱及員數ヲ具シ直ニ文部大臣ニ報告シ且所有者ニ通知スヘシ神社寺院又ハ公共團體ノ所有ニ屬スル國寶ナルトキハ尙當該地方長官ニ報告スヘシ

第十二條 國寶保存法第八條ノ規定ニ依リテ支給スヘキ補給金ハ國寶一件ニ付一年六圓以上百圓以下トシ文部大臣ニ於テ出陳ノ命算シ一月ニ滿タサル日數ハ之ヲ一月ト看做ス

第十三條 國寶保存法第九條ノ規定ニ依リテ補償ヲ受ケントスルトキハ滅失又ハ毀損シタル國寶ノ所有者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ遲滞ナク文部大臣ニ申請スヘシ
一、國寶ノ名稱及員數
二、國寶ヲ出陳シタル博物館又ハ美術館ノ名稱及所在地

第十三條 國寶ノ指定解除アリタルトキハ國寶臺帳ヨリ當該國寶ノ登錄ヲ抹消ス

第十四條 國寶保存法第十二條但書ノ規定ニ依リテ別ニ管理者ヲ定メントスルトキハ當該神職又ハ住職(佛堂ニ在リテハ受持僧侶)ニ於テ其ノ事由ヲ具シ新ニ管理者ト爲ルヘキ者ト運署ノ上文部大臣ニ申請スヘシ

第十五條 神社又ハ寺院其ノ所有ニ屬スル國寶ヲ處分セントスルトキハ其ノ事由並ニ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ
一、國寶ノ名稱及員數
二、處分ノ方法
三、對價報酬又ハ之ニ準スヘキモノ
四、處分ノ相手方ノ氏名(名稱)及住所
五、出願者ノ資力ヲ證スルニ足ルヘキ事項

第十六條 神社又ハ寺院其ノ所有ニ屬スル國寶ヲ擔保ニ供セントスルトキハ其ノ事由並ニ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ
一、國寶ノ名稱及員數
二、擔保ノ期間
三、擔保者ノ氏名(名稱)及住所
四、出願者ノ資力ヲ證スルニ足ルヘキ事項

第十七條 國寶ヲ擔保ニ供スル許可ヲ受ケタル神社又ハ寺院當該國寶ヲ擔保ニ供シ又ハ擔保契約ヲ解除シタルトキハ遲滞ナク文部大臣ニ届出ツヘシ

第十八條 國寶保存法第十四條ノ規定ニ依リテ補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ其事由並ニ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一、維持修理スヘキ國寶ノ名稱及員數
 二、維持修理ニ要スル工事豫算設計仕様並ニ計畫圖及寫眞
 三、着手ノ時期及竣成期限
 四、出願者ノ資力ヲ證スルニ足ルヘキ事項

第十九條 國寶ノ維持修理費ニ對シ國庫ヨリ補助金ヲ交付スル場合ニ於テハ當該國寶ノ所有者ハ少クテモ維持修理費總額ノ百分ノ五十ヲ負擔スヘキモノトス但シ特別ノ事情アルモノニ限リ其ノ負擔ヲ輕減スルコトヲ得

第二十條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ其ノ管理方法ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二十一條 補助金ノ交付後ニ於テ設計仕様又ハ着手ノ時期若ハ竣成期限ノ變更ヲ要スルトキハ其事由及變更設計仕様並ニ計畫圖ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

文部大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス設計仕様ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十二條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ其ノ國寶ノ維持修理竣リタルトキヨリ二月内ニ實施仕様書寫眞圖面並ニ精算書ヲ添ヘ文部大臣ニ届出ツヘシ

第二十三條 本令ノ規定若ハ補助金交付ノ條件ニ違反シ又ハ補助金交付ノ目的ヲ達行スルコト能ハスト認ムルトキハ文部大臣ハ補助金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 神社又ハ寺院ノ所有ニ屬スル國寶ノ管理ニ適當ニシテ滅失又ハ毀損ノ虞アリト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ管理方法ヲ指定スルコトヲ得

第二十五條 神社又ハ寺院其ノ所有ニ屬スル國寶ヲ博物館美術館又ハ之ニ準スヘキ場所ニ出陳シ其ノ他當該神社又ハ寺院外ニ搬出セントスルトキハ其事由並ニ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一、國寶ノ名稱及員數
 二、搬出ノ期間
 三、搬出先ノ場所及其ノ所在地
 四、荷造運搬ノ方法
 五、搬出期間中ニ於ケル保管ノ方法

第二十六條 前條ノ規定ニ依リテ許可ヲ受ケタル神社又ハ寺院當該國寶再ヒ當該神社又ハ寺院内ニ搬入シタルトキハ運搬ナク文部大臣ニ届出ツヘシ

第二十七條 神社又ハ寺院其ノ所有ニ屬スル國寶ヲ模寫模造シ又ハ模寫模造ヲ承認セントスルトキハ其ノ事由並ニ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一、國寶ノ名稱及員數
 二、模寫模造ノ期間
 三、模寫模造ノ方法
 四、模寫模造ニ從事スル者ノ氏名及住所

第二十八條 國寶ノ維持修理現狀變更等ノ場合ニ於テ佛像經文物物銘文棟札埋藏物ノ類ヲ發見シタルトキハ當該國寶ノ所有者ヨリ其ノ實況ヲ具シ運搬ナク文部大臣ニ届出ツヘシ

第二十九條 本令ノ規定ニ依リテ神社寺院又ハ公共團體ヨリ文部大臣ニ差出ス書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ第十八條第二十一條及第二十二條ノ規定ニ依リテ神社寺院又ハ公共團體以外ノモノヨリ文部大臣ニ差出ス書類ニ付亦同シ

○國寶保存會官制
 (昭和四年六月二十八日勅令第二百一十一號)
 (昭和四年七月一日施行)

第一條 國寶保存會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ國寶保

存法第一條、第五條、第十一條、第十三條及第十四條ニ規定スル事項其ノ他國寶保存ニ關スル重要ノ事項ヲ調査審議スル國寶保存會ハ國寶保存ニ關スル事項ニ付文部大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 國寶保存會ハ會長一人副會長一人及委員三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲ニ必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長副會長委員及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 會長ハ會務ヲ統理シ會議ヲ決議ヲ文部大臣ニ具申ス
 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
 會長及副會長共ニ事故アルトキハ文部大臣ノ指名シタル委員共ノ職務ヲ代理ス

第五條 會長及副會長ハ會議ニ於テ意見ヲ陳述シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得

第六條 國寶保存會ニ常務委員會ヲ置ク國寶保存會ノ委任ヲ受ケ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ處理ス
 常務委員會ハ國寶保存會ノ會長及副會長並ニ國寶保存會ノ委員ニシテ文部大臣ノ指名シタル者十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
 文部大臣ハ必要ニ依リ又ハ國寶保存會ノ要求アルトキハ文部省高等官其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ會議ニ出席シ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得

第七條 國寶保存會ノ議事ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 國寶保存會ニ幹事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第九條 幹事ハ會長及副會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條 國寶保存會ニ書記ヲ置ク文部大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

各宗本山並宗務所々在地一覽表

| 宗派 | 寺格 | 寺號 | 所在地 (括弧内は宗務所々在地) |
|-----|-----|-------|--|
| 天台宗 | 總本山 | 延曆寺 | 滋賀縣滋賀郡坂本村 (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 園城寺 | 滋賀縣大津市別所 (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 圓滿院 | 滋賀縣大津市別所 (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 聖護院 | 京都市左京區聖護院中町 |
| 天台宗 | 總本山 | 實相院 | 京都市左京區實相寺村大字岩倉 (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 西教寺 | 滋賀縣滋賀郡坂本村大字坂本 (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 金剛峯寺 | 和歌山縣伊都郡高野町高野山 (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 仁和寺 | 京都市右京區御室大内 |
| 天台宗 | 總本山 | 大覺寺 | 京都市右京區嵯峨大澤町 (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 醍醐寺 | 京都市伏見區醍醐町 (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 三寶院 | 京都市下京區九條町 (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 教王護國寺 | 京都市東山区山科鶴岡寺仁王堂町 (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 泉涌寺 | 京都市東山区山科鶴岡寺仁王堂町 (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 勸修寺 | 京都市東山区大和大路七條通東 (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 善通寺 | 香川縣仲度郡善通寺町 (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 智積院 | 京都市東山区東大路七條通東 (京都市芝區愛宕町) (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 長谷寺 | 奈良縣磯城郡磯城郡初瀬町初瀬 (京都市小石川區大塚坂下町) (右同所) |
| 天台宗 | 總本山 | 大傳法院 | 和歌山縣那智郡那智町大字西坂本 (奈良縣生駒郡伏見村大字西大寺) (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 永源寺 | 滋賀縣愛知郡高野村 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 方廣寺 | 靜岡縣引佐郡奥山村 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 佛通寺 | 廣島縣豐田郡高坂村大字御許 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 國泰寺 | 富山縣水見郡太田村大字太田 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 向嶽寺 | 山梨縣東山梨郡鹽山町 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 永平寺 | 福井縣吉田郡志比谷村大字志比 (京都市芝區新堀) (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 持壽寺 | 京都市下京區堀川通七條上ル (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 萬福寺 | 京都市下京區烏丸通七條上ル (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 願壽寺 | 三重縣河野郡一身田町 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 專修寺 | 京都市下京區醜ヶ井通北小路下ル (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 興正寺 | 京都市中京區高倉通佛光寺下ル (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 佛光寺 | 滋賀縣野洲郡中里村大字木部 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 錦織寺 | 福井縣今立郡味真野村大字清水頭 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 毫攝寺 | 福井縣今立郡新橋江村大字横越 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 證誠寺 | 福井縣今立郡新橋江村大字横越 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 照照寺 | 福井縣今立郡新橋江村大字横越 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 誠照寺 | 福井縣今立郡新橋江村大字横越 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 山專照寺 | 福井縣今立郡新橋江村大字横越 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 久遠寺 | 山梨縣南巨摩郡身延町 (京都市芝區二本松) (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 妙顯寺 | 京都市大森區池上本町 |
| 臨濟宗 | 總本山 | 本門寺 | 京都市上京區寺ノ内通新町西入 |
| 臨濟宗 | 總本山 | 妙顯寺 | 京都市下京區五條通堀川南入 |
| 臨濟宗 | 總本山 | 永源寺 | 滋賀縣愛知郡高野村 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 方廣寺 | 靜岡縣引佐郡奥山村 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 佛通寺 | 廣島縣豐田郡高坂村大字御許 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 國泰寺 | 富山縣水見郡太田村大字太田 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 向嶽寺 | 山梨縣東山梨郡鹽山町 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 永平寺 | 福井縣吉田郡志比谷村大字志比 (京都市芝區新堀) (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 持壽寺 | 京都市下京區堀川通七條上ル (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 萬福寺 | 京都市下京區烏丸通七條上ル (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 願壽寺 | 三重縣河野郡一身田町 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 專修寺 | 京都市下京區醜ヶ井通北小路下ル (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 興正寺 | 京都市中京區高倉通佛光寺下ル (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 佛光寺 | 滋賀縣野洲郡中里村大字木部 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 錦織寺 | 福井縣今立郡味真野村大字清水頭 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 毫攝寺 | 福井縣今立郡新橋江村大字横越 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 證誠寺 | 福井縣今立郡新橋江村大字横越 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 照照寺 | 福井縣今立郡新橋江村大字横越 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 誠照寺 | 福井縣今立郡新橋江村大字横越 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 山專照寺 | 福井縣今立郡新橋江村大字横越 (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 久遠寺 | 山梨縣南巨摩郡身延町 (京都市芝區二本松) (右同所) |
| 臨濟宗 | 總本山 | 妙顯寺 | 京都市大森區池上本町 |
| 臨濟宗 | 總本山 | 本門寺 | 京都市上京區寺ノ内通新町西入 |
| 臨濟宗 | 總本山 | 妙顯寺 | 京都市下京區五條通堀川南入 |

各宗本山並宗務所々在地一覽表

| 宗派 | 寺格 | 寺號 | 所在地 (括弧内は宗務所々在地) |
|----|-----|-------|-------------------------------------|
| 律宗 | 總本山 | 唐招提寺 | 奈良縣生駒郡葛城村大字五條 (右同所) |
| 律宗 | 總本山 | 知恩院 | 京都市東山区新橋通東大路東入 (京都市芝區公園地) (右同所) |
| 律宗 | 總本山 | 金戒光明寺 | 京都市左京區墨谷町 |
| 律宗 | 總本山 | 知恩寺 | 京都市左京區田中門前町 |
| 律宗 | 總本山 | 清淨華院 | 京都市上京區寺町通清和院口上ル |
| 律宗 | 總本山 | 増上寺 | 京都市芝區芝公園地 |
| 律宗 | 總本山 | 禪林寺 | 京都市左京區水鏡堂町 (右同所) |
| 律宗 | 總本山 | 光明寺 | 京都府乙訓郡乙訓村大字粟生 (右同所) |
| 律宗 | 總本山 | 誓願寺 | 京都市中京區新京極橋ノ町 (右同所) |
| 律宗 | 總本山 | 圓福寺 | 愛知縣額田郡岩津町岩津 (京都市右京區嵯峨天龍寺芒馬場町) (右同所) |
| 律宗 | 總本山 | 天龍寺 | 京都市上京區相國寺門前町 (右同所) |
| 律宗 | 總本山 | 相國寺 | 京都市東山区大和大路通四條下ル (右同所) |
| 律宗 | 總本山 | 建仁寺 | 京都市左京區南禪寺福地町 (右同所) |
| 律宗 | 總本山 | 南禪寺 | 京都市右京區花園妙心寺町 (右同所) |
| 律宗 | 總本山 | 妙傳寺 | 神奈川縣鎌倉郡小坂村大字山ノ内 (右同所) |
| 律宗 | 總本山 | 報恩寺 | 和歌山縣真砂町 |
| 律宗 | 總本山 | 鏡忍寺 | 千葉縣安房郡東條村 |
| 律宗 | 總本山 | 本土寺 | 千葉縣東葛飾郡小金町平賀 |
| 律宗 | 總本山 | 弘法寺 | 千葉縣東葛飾郡市川町眞間 |
| 律宗 | 總本山 | 海長寺 | 清水市村松町 |
| 律宗 | 總本山 | 蓮永寺 | 靜岡縣安倍郡千代田村大字香谷 |
| 律宗 | 總本山 | 實相寺 | 靜岡縣富士郡岩松村大字岩本 |
| 律宗 | 總本山 | 妙覺寺 | 千葉縣夷隅郡興津町興津 |
| 律宗 | 總本山 | 妙法寺 | 新潟縣三島郡島田村大字村田 |
| 律宗 | 總本山 | 孝勝寺 | 京都市上京區小川通御藥前下ル |
| 律宗 | 總本山 | 妙宜寺 | 仙臺市東九番町 |
| 律宗 | 總本山 | 照照寺 | 新潟縣佐渡郡真野村大字阿佛房 |
| 律宗 | 總本山 | 正法寺 | 新潟縣佐渡郡二宮村大字市ノ深 |
| 律宗 | 總本山 | 國前寺 | 千葉縣山武郡大和田村大字小西 |
| 律宗 | 總本山 | 本滿寺 | 廣島市長尾町 |
| 律宗 | 總本山 | 妙純寺 | 京都市上京區寺町通今出川上ル |
| 律宗 | 總本山 | 佛現寺 | 神奈川縣愛甲郡依知村大字金田 |
| 律宗 | 總本山 | 法華經寺 | 靜岡縣田方郡伊東町須美 |

| | | | | | | | |
|-----|----|-------|------------------------|-----|----|-------|--|
| 日蓮宗 | 本山 | 山本覺寺 | 靜岡市池田 | 本門宗 | 本山 | 山本門寺 | 靜岡縣富士郡北山村 (右同所) |
| 同 | 本山 | 山久昌寺 | 茨城縣久慈郡豊田村大字新富 | 同 | 本山 | 山要法寺 | 京都市左京區孫橋通新高倉 (右同所) |
| 同 | 本山 | 山日本寺 | 千葉縣香取郡中村 | 同 | 本山 | 山實成寺 | 靜岡縣田方郡中大見村大字柳瀬 |
| 同 | 本山 | 山光勝寺 | 佐賀縣小城郡小城町松尾 | 同 | 本山 | 山妙遠寺 | 京都市上京區寺ノ内通大宮東入 |
| 同 | 本山 | 山妙成寺 | 石川縣羽咋郡上甘田村 | 同 | 本山 | 山久遠寺 | 靜岡縣富士郡富士根村大字小泉 |
| 同 | 本山 | 山本立寺 | 靜岡縣田方郡菟山村 | 同 | 本山 | 山妙本寺 | 千葉縣安房郡保田町吉濱 |
| 同 | 本山 | 山妙顯寺 | 神奈川縣鎌倉郡鎌倉大字 | 同 | 本山 | 山本門寺 | 靜岡縣富士郡芝宮村大字西山 靜岡縣東郡金岡村大字岡宮 (東京市本郷區駒込淺草町) |
| 同 | 本山 | 山根本寺 | 栃木縣阿蘇郡堀米町 | 同 | 本山 | 山光長寺 | 靜岡縣東郡高野町繁果 |
| 同 | 本山 | 山立本寺 | 新潟縣佐渡郡新穂村大字大野 | 同 | 本山 | 山鷲山寺 | 千葉縣長生郡茂原町繁果 |
| 同 | 本山 | 山本國寺 | 京都市上京區仁和寺街道七本松東入 | 同 | 本山 | 山妙遠寺 | 京都市上京區寺ノ内通大宮東入 |
| 同 | 本山 | 山妙國寺 | 堺市材木町 | 同 | 本山 | 山本興寺 | 尼崎市開明町 |
| 同 | 本山 | 山妙遠寺 | 山梨縣南巨摩郡身延町 | 同 | 本山 | 山本能寺 | 京都市中京區寺町通御池下ル |
| 同 | 本山 | 山妙興寺 | 千葉縣千葉郡白井村大字野呂 | 同 | 本山 | 山本成寺 | 新潟縣南蒲原郡三條町西本成寺 (右同所) |
| 同 | 本山 | 山妙覺寺 | 京都市上京區新町頭御堂上ル | 同 | 本山 | 山本隆寺 | 京都市上京區智惠光院通五辻上ル西 入(右同所) |
| 同 | 本山 | 山妙法華寺 | 靜岡縣田方郡錦田村大字玉澤 | 同 | 本山 | 山清淨光寺 | 神奈川縣高座郡藤澤町 (右同所) |
| 同 | 本山 | 山頂妙寺 | 京都市左京區仁王門通川端東入 | 同 | 本山 | 山蓮華寺 | 滋賀縣坂田郡息郷村大字香壽 |
| 同 | 本山 | 山龍口寺 | 千葉縣安房郡小湊町小湊 | 同 | 本山 | 山無量光寺 | 神奈川縣高座郡藤澤村大字當麻 |
| 同 | 本山 | 山誕生寺 | 神奈川縣鎌倉郡川口村大字片瀬 | 同 | 本山 | 山金蓮寺 | 京都市上京區豐ヶ峯東林町 |
| 同 | 本山 | 山傳燈寺 | 靜岡縣富士郡上野村大字上條 (右同所) | 同 | 本山 | 山法興寺 | 京都市東山區清閑寺殿中山 |
| 同 | 本山 | 山奉先寺 | 同 | 同 | 本山 | 山永明寺 | 大阪府住吉區平野上町 |
| 同 | 本山 | 山龍珠寺 | 同 | 同 | 本山 | 山法興寺 | 奈良市東大路町 |
| 同 | 本山 | 山法住寺 | 同 | 同 | 本山 | 山普賢寺 | 奈良市東大路町 奈良縣生駒郡法隆寺村大字法隆寺 (右同所) |
| 同 | 本山 | 山威鳳寺 | 同 | 同 | 本山 | 山乾鳳寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 山寶石寺 | 同 | 同 | 本山 | 山清風寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 山仙嚴寺 | 同 | 同 | 本山 | 山月清寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 山松廣寺 | 同 | 同 | 本山 | 山釋王寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 山大興寺 | 同 | 同 | 本山 | 山歸州寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 山白羊寺 | 同 | 同 | 本山 | 山貝葉寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 山銀海寺 | 同 | 同 | 本山 | 山成佛寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 山祇林寺 | 同 | 同 | 本山 | 山成佛寺 | 同 |

門跡寺院一覽表

| | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----------------------------------|------|----|------|---|
| 法相宗 | 大本山 | 藥師寺 | 奈良縣生駒郡郡跡村大字西ノ京 奈良市雜司町 (右同所) | 朝鮮佛教 | 本山 | 山孤雲寺 | 同 |
| 華嚴宗 | 大本山 | 東大寺 | 奈良縣東大寺郡吉野面温泉水 | 同 | 本山 | 山金龍寺 | 同 |
| 朝鮮佛教 | 本山 | 奉恩寺 | 朝鮮京畿道廣州郡廣州面 | 同 | 本山 | 山桐華寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 傳燈寺 | 京畿道楊州郡楊州面 | 同 | 本山 | 山通度寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 先燈寺 | 京畿道水原郡安龍面 | 同 | 本山 | 山梵魚寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 龍珠寺 | 同 | 同 | 本山 | 山海印寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 法住寺 | 忠清南道公州郡寺谷面 | 同 | 本山 | 山永明寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 威鳳寺 | 忠清南道公州郡寺谷面 | 同 | 本山 | 山法興寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 寶石寺 | 全羅北道全州郡所屬面 | 同 | 本山 | 山普賢寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 仙嚴寺 | 全羅北道鎭山郡南二面 | 同 | 本山 | 山乾鳳寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 松廣寺 | 全羅南道求禮郡馬山面 | 同 | 本山 | 山月清寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 大興寺 | 全羅南道順天郡松光面新坪里 | 同 | 本山 | 山釋王寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 白羊寺 | 全羅南道海南郡三山面 | 同 | 本山 | 山歸州寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 銀海寺 | 全羅南道長城郡北下面 | 同 | 本山 | 山貝葉寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 祇林寺 | 同 | 同 | 本山 | 山成佛寺 | 同 |
| 同 | 本山 | 祇林寺 | 同 | 同 | 本山 | 山成佛寺 | 同 |

由緒寺院一覽表

| 宗派 | 寺號 | 異稱 | 所在地 | 宗派 | 寺號 | 異稱 | 所在地 |
|---------|-------|------|-----------------|---------|-----|------|------------------|
| 眞言宗普通寺派 | 隨心院 | 小野 | 京都市東山区山科小野御薮町 | 天台宗寺門派 | 圓滿院 | 三井 | 大津市別所 |
| 天台宗 | 妙法院 | 新日吉 | 京都市東山区東大路通邊谷下ル | 同 | 實相院 | 岩倉 | 京都市東山区新橋通東大路東入 |
| 同 | 青蓮院 | 栗田口 | 京都市東山区神宮道三條南入 | 淨土宗 | 知恩院 | 華頂 | 京都市東山区新橋通東大路東入 |
| 同 | 三千院 | 梶井 | 京都市府受宿郡大原村大字大原 | 眞宗本願寺派 | 本願寺 | 淳風 | 京都市下京區堀川通七條上ル |
| 同 | 曼殊院 | 竹内 | 京都市左京區一乘寺竹ノ内町 | 眞宗大谷派 | 本願寺 | 光德 | 京都市下京區烏丸通七條上ル |
| 同 | 毘沙門堂 | 山科 | 京都市東山区山科安來毘沙門堂町 | 眞宗高田派 | 專修寺 | 一身田 | 三重縣河勢郡一身田町 |
| 同 | 輪王寺 | 日光 | 京都市下谷區上野櫓木町 | 眞宗佛光寺派 | 佛光寺 | 谷 | 京都市下京區高倉通佛光寺下ル |
| 同 | 輪王寺 | 日光 | 京都市下谷區上野櫓木町 | 眞宗興正寺派 | 興正寺 | 汁谷 | 京都市下京區鷹ヶ井通北小路下ル |
| 同 | 輪王寺 | 日光 | 京都市下谷區上野櫓木町 | 眞宗木邊派 | 錦織寺 | 木部 | 滋賀縣野洲郡中里村大字木部 |
| 天台宗寺門派 | 聖護院 | 森 | 京都市左京區聖護院中町 | | | | |
| 天台宗眞盛派 | 本光院 | 藏人御所 | 京都市上京區今小路通七本松西入 | 眞言宗相國寺派 | 大聖寺 | 御寺御所 | 京都市上京區烏丸通上立賣下ル |
| 眞言宗泉涌寺派 | 泉涌寺 | | 京都市東山区今熊野泉山 | 同 | 寶鏡寺 | 百々御所 | 京都市上京區寺ノ内通堀川東入 |
| 眞言宗泉涌寺派 | 中宮寺 | 斑鳩御所 | 奈良縣生駒郡法隆寺村大字法隆寺 | 同 | 總持院 | 薄雲御所 | 京都市上京區寺ノ内通堀川東入 |
| 眞言律宗 | 法華寺 | 氷室御所 | 奈良縣添上郡佐保村 | 同 | 寶鏡寺 | 千代御所 | 京都市上京區新町通寺ノ内上ル |
| 淨土宗 | 三時智恵寺 | 入江御所 | 京都市上京區新町通上立賣下ル | 眞言宗南禪寺派 | 靈鑑寺 | 谷御所 | 京都市左京區鹿谷御所ノ段町 |
| 同 | 光照院 | 常盤御所 | 京都市上京區新町通寺ノ内下ル | 眞言宗妙心寺派 | 禪智院 | 高島御所 | 滋賀縣高島郡高島村大字拜戸 |
| 同 | 曇華院 | 竹之御所 | 京都市右京區嵯峨北堀町 | 眞言宗 | 圓照寺 | 山村御所 | 奈良縣添上郡帶解町 |
| 眞言宗天龍寺派 | 林丘寺 | 菅羽御所 | 京都市左京區豐樂院町 | 眞言宗 | 瑞龍寺 | 村雲御所 | 京都市上京區西堀川通元豐願寺上ル |

西國三十三所

| 俗稱 | 山寺號 | 宗派 | 所在地 | 詠歌 |
|----------|---------|----------|------------------|-----------------------------|
| 一 青岸渡寺 | 那智山 | 天台宗 | 和歌縣東牟婁郡那智村 | 補陀落や岸うつ波は三熊野の那智の御山に響く瀧津潮。 |
| 二 紀三井寺 | 名草山金剛寶寺 | 眞言宗山階派 | 同 海草郡紀三井寺村大字紀三井寺 | 故郷をばるるこゝに紀三井寺の花の都も近くなるらん。 |
| 三 粉河寺 | 補陀落山施音寺 | 天台宗 | 同 那智郡粉河町粉河 | 父母のめぐみも深き粉河寺はとけの誓ひ頼もしきかな。 |
| 四 檜尾寺 | 巻尾山施福寺 | 天台宗 | 大阪府泉北郡檜山村大字檜尾山 | 深山踏や檜原松原わけ行けば檜の尾寺に駒ぞいまめる。 |
| 五 葛井寺 | 紫雲山剛琳寺 | 古義眞言宗 | 同 南河内郡葛井寺村 | まゐるよりのみを懸くる藤井寺花のうてなに紫の雲。 |
| 六 壺坂寺 | 壺坂山南法華寺 | 新義眞言宗豐山派 | 奈良縣高市郡高取町壺坂 | 岩をたて水を流して壺坂の庭のいさごも浄土なるらん。 |
| 七 岡谷寺 | 東光山觀音寺 | 法相宗 | 同 高市郡高市村大字岡 | 今朝見れば露岡寺の庭の苔さながら硝子の光なるらん。 |
| 八 長谷寺 | 豐山初瀬寺 | 融通念佛宗 | 同 磯城郡初瀬町初瀬 | いくたびも参るこゝろは初瀬寺やまし誓もふかき谷川。 |
| 九 南圓堂 | (興福寺内) | 法相宗 | 奈良市登大路町 | 春の日は南圓堂にかゞやきてみかきの山に晴る、薄雲。 |
| 一〇 三室戸寺 | 妙星山 | 天台宗寺門派 | 京都市府守治郡宇治村大字免道 | よもすがら月を三室と分け行けば宇治の川瀬にたつは白波。 |
| 一一 上醍醐寺 | 深雪山 | 眞言宗醍醐派 | 京都市伏見區醍醐町 | 遊縁も濡らさで救ふ願なれば准既だうは頼もしきかな。 |
| 一二 岩間寺 | 岩間山正法寺 | 眞言宗醍醐派 | 滋賀縣滋賀郡石山町内瀬 | みなかみはいづくなるらん岩間寺岸うつ波は松風の音。 |
| 一三 石山寺 | 石光山 | 眞言宗東寺派 | 同 滋賀郡石山町寺邊 | 後の世をねがふ心はかるくとも佛のちかひおもしろし。 |
| 一四 三井寺 | 長等山圓城寺 | 天台宗寺門派 | 大津市別所 | いでいるや涙間の月は三井寺の鐘のひびきに明くる朝。 |
| 一五 觀音寺 | 眞言宗泉涌寺派 | 眞言宗泉涌寺派 | 京都市東山区今熊野泉山 | 昔よりたつとも知らぬいま熊の佛の誓ひたのもしきかな。 |
| 一六 清水寺 | 音羽山 | 法相宗 | 同 東山区清水一丁目 | まつ風や音羽の瀧の清水をむすぶ心はすゞしかららん。 |
| 一七 六波羅蜜寺 | 補陀落山 | 眞言宗智山派 | 同 東山区松原通大和大路東入 | 重くとも五ツの罪はよもあらじ六波羅堂に参る身なれば。 |
| 一八 六角堂 | 紫雲山頂法寺 | 天台宗 | 同 中京區六角通烏丸東入 | わが思ふ心の内は六ツのかごとく圓かたを祈るなりけり。 |
| 一九 草堂 | 行願寺 | 天台宗 | 同 中京區寺町通竹屋町 | 花とみて今は望もかうだうの庭のちぐさも盛りなりけり。 |
| 二〇 善峰寺 | 西山瓦峰寺 | 天台宗 | 京都府乙訓郡大原野村大字小鹽 | 野をしす山路に向ふ雨のそら瓦峰よりも晴る、夕立。 |
| 二一 穴太寺 | 菩提寺 | 天台宗 | 同 南桑田郡曾我郡村大字穴太 | 斯る世に生れあふみのあなうやと思はで頼め十聲一聲。 |
| 二二 總持寺 | 補陀落山 | 古義眞言宗 | 大阪府三島郡三島村大字總持寺 | おしなべて高き卑しき總持寺の佛の誓ひたのよめはなし。 |

| | | | | | |
|-----|------|-----|--------|---|----------------|
| 二三番 | 勝尾寺 | 應頂山 | 古義眞言宗 | 同 | 三島郡豊川村大字栗生勝尾山 |
| 二四番 | 中山寺 | 紫雲山 | 古義眞言宗 | 同 | 兵庫縣川邊郡長尾村大字中山寺 |
| 二五番 | 清水寺 | 御嶽山 | 天宗 | 同 | 加東郡嶋川村大字平木 |
| 二六番 | 一乗寺 | 法華山 | 天宗 | 同 | 加西郡下里村大字坂本 |
| 二七番 | 圓教寺 | 書寫山 | 天宗 | 同 | 御磨郡曾佐村大字書寫 |
| 二八番 | 成相寺 | 成相山 | 古義眞言宗 | 同 | 京都府與謝郡府中村大字成相寺 |
| 二九番 | 松尾寺 | 青葉山 | 眞言宗醍醐派 | 同 | 加佐郡志樂村大字松尾 |
| 三〇番 | 寶巖寺 | 眞言宗 | 眞言宗醍醐派 | 同 | 滋賀縣東浅井郡竹生村大字早崎 |
| 三一番 | 長命寺 | 眞言宗 | 眞言宗醍醐派 | 同 | 蒲生郡島村大字長命寺 |
| 三二番 | 觀音正寺 | 眞言宗 | 眞言宗醍醐派 | 同 | 蒲生郡老蘇村大字石寺 |
| 三三番 | 華嚴寺 | 眞言宗 | 眞言宗醍醐派 | 同 | 岐阜縣揖斐郡横蔵村大字神原 |

坂東三十三所

| | | | | | |
|---|-------|--------|--------|---|---------------|
| 一 | 杉本寺 | 大藏山 | 天宗 | 同 | 神奈川縣鎌倉郡鎌倉町二階堂 |
| 二 | 岩殿寺 | 海前山 | 曹洞宗 | 同 | 三浦郡逗子町久木 |
| 三 | 田代堂 | 紙園山長樂寺 | 不詳 | 同 | 鎌倉郡鎌倉町 |
| 四 | 長谷寺 | 海光山 | 淨土宗 | 同 | 鎌倉郡鎌倉町長谷 |
| 五 | 飯泉觀音堂 | 飯泉山勝福寺 | 眞言宗東寺派 | 同 | 足柄下郡豊川村大字飯泉 |
| 六 | 飯山觀音堂 | 飯上山長谷寺 | 古義眞言宗 | 同 | 愛甲郡小杉村大字飯山 |
| 七 | 金目觀音堂 | 金目山光明寺 | 天宗 | 同 | 高座郡座間村 |
| 八 | 星谷寺 | 妙法山 | 古義眞言宗 | 同 | 埼玉縣比企郡平村 |

詠歌

頼ある印なりける杉本の誓は末の世にも替らじ。
 極樂を此に見浦の岩殿や向ゆく末の頼もしきかな。
 たちよりにてあまの岩戸をおし開き佛を拜む身こそやすけれ。
 枯樹にも花咲く誓ひ田代堂世をのぶつな跡ぞ久しき。
 一たびは誰も歩み長谷寺の誓ひにふける由井の濱風。
 はせ寺へまゐりておきを臨むれば由井のみぎはにたつは白波。
 せめてはと捧ぐるあそこの標に有餘の實を誦す飯泉。
 かなはればたすけ給へと祈る身に船に實をつむはいづみ。
 飯山寺たち初しよりつせめは入相ひやく松風の音。
 なに事も今は金目の觀世音二世安樂を誰か祈らん。
 さはりなきまよひの雲を吹拂ひ月もろこもに拜む星谷。

| | | | | | |
|----|-------|---------|----------|---|----------------|
| 九 | 慈光寺 | 都賀山 | 天台宗 | 同 | 比企郡高坂村大字西平 |
| 一〇 | 正法寺 | 岩殿山 | 新義眞言宗豐山派 | 同 | 比企郡高坂村大字岩殿 |
| 一一 | 安樂寺 | 岩殿山 | 新義眞言宗豐山派 | 同 | 比企郡西吉見村大字黒岩 |
| 一二 | 慈恩寺 | 華林山 | 天台宗 | 同 | 東京市淺草區淺草公園地 |
| 一三 | 淺草寺 | 金龍山 | 天台宗 | 同 | 横濱市中區弘明寺町 |
| 一四 | 弘明寺 | 瑞應山 | 古義眞言宗 | 同 | 群馬縣群馬郡久留島村大字白岩 |
| 一五 | 長谷寺 | 白岩山 | 不詳 | 同 | 群馬縣群馬郡伊香保町水澤 |
| 一六 | 水澤寺 | 五徳山 | 天台宗 | 同 | 群馬縣下都賀郡寺尾村大字出流 |
| 一七 | 滿願寺 | 出流山 | 新義眞言宗豐山派 | 同 | 栃木縣下都賀郡日光町 |
| 一八 | 立木觀音堂 | 補陀落山中禪寺 | 天台宗 | 同 | 上野郡日光町 |
| 一九 | 大谷寺 | 天開山 | 天台宗 | 同 | 河内郡城山村大字荒針 |
| 二〇 | 西明寺 | 瑞結山 | 新義眞言宗豐山派 | 同 | 芳賀郡益子町 |
| 二一 | 八溝觀音堂 | 日輪寺 | 天台宗 | 同 | 茨城縣久慈郡黒澤村大字上野 |
| 二二 | 佐竹寺 | 妙福山 | 新義眞言宗豐山派 | 同 | 久慈郡佐竹村大字天神林 |
| 二三 | 正福寺 | 佐白山 | 曹洞宗 | 同 | 西茨城郡笠間町 |
| 二四 | 雨引觀音堂 | 雨引山樂法寺 | 新義眞言宗豐山派 | 同 | 眞壁郡雨引村大字本木 |
| 二五 | 大御堂 | | 新義眞言宗豐山派 | 同 | 筑波郡筑波町 |
| 二六 | 清瀧寺 | 南明山 | 新義眞言宗豐山派 | 同 | 新治郡山ノ莊村 |
| 二七 | 圓福寺 | 飯沼山 | 新義眞言宗豐山派 | 同 | 千葉縣海上郡本鏡子町 |

きくからに大慈大悲の慈光で誓ひをもしにふかき岩殿。
 誰で来る浮世の人を渡さじと誓ひの綱をひきの岩殿。
 後の世の道をひきよみの觀世音この世を共にたすけ給へや。
 よし見よと法の磐戸を押し開き照す惠の際無きかな。
 よし見よと法の磐戸を押し開き大慈大悲の誓ひ頼もし。
 法の華ふ林の寺の池沈める身さへ浮む七島。
 慈恩寺へ参る我身もたのもしや浮む七島を見るにつけても。
 深きとが今より後ほよもあらじつみ淺草に参る身なれば。
 ありがたや誓ひの海を傾けてそよぐ惠に醒る煩悩。
 この度は君の仰のぐみやうじへ江戸品川をうらにみてゆく。
 皆人の祈る意はしらいはの朽ちの誓ひの頼もしきかな。
 頼もみな祈る意は白岩のはつせの誓ひの頼もしきかな。
 頼み来る心も清き水澤の深き誓ひを流むぞうれしき。
 頼み来る心も清き水澤のふるされがひをうるぞうれしき。
 古里をはるく、こゝに立出る我行床はいづくなるらん。
 補陀落や上りて拜む湖水の岩に立木の誓ひ久しき。
 ちうぜんじのほりて拜む湖水のうたのはまらにたつは白波。
 名を聞くも深き誓ひ大谷寺祈る信のしなるかな。
 名を聞くもめぐみおほはの觀世音導きたまへしるらん。
 尋ねくる人に惠の登り山終の住へ引接の寺。
 さみやうじちかひをこゝに尋ねれば終の住は西こそ聞け。
 ふみ違ふやみぞの嶺の雲はれて月の光を見るぞ嬉しき。
 連ふ身が今はやみぞへまゐりて佛の光山もかやく。
 いつまでか直ぐなる御代の佐竹寺法の榮も際りなきかな。
 ひとふしにちよまをこめたる佐竹寺かすみかくれに見ゆる村松。
 はるくこのほりて拜む佐白山の法や響く松風。
 はるくこのほりて拜む佐白山の法や響く松風。
 隔なき誓ひを誰も仰ぐべし佛の道にあまびきの寺。
 常陸なる佛の山を打越えてあまびきでらこいはこのたび。
 驚の山飛び来てこゝにつくばの神や佛の淨刹とぞなる。
 大御堂がれつくばの臺にたつてかた夕ぐれにこゝにひしき。
 我が心今よりのちは濁らじな清瀧寺へまゐる身なれば。
 頼なき誓ひを何と飯沼のふかき誓ひは流む人ぞしる。
 この程はよるづつこのまにきくも誓ひは波の音かな。

| | | | | | |
|-----|-------|--------|----------|---------------|------------|
| 二八番 | 滑河觀音堂 | 滑川山 | 天台宗 | 同 | 香取郡滑河町滑川 |
| 二九番 | 千葉寺 | 海上山 | 新義真言宗豐山派 | 千葉市千葉寺 | |
| 三〇番 | 高倉觀音堂 | 平野山高藏寺 | 新義真言宗豐山派 | 千葉縣君津郡鎌足村大字矢那 | |
| 三一番 | 笠森寺 | 大悲山 | 天台宗 | 同 | 長生郡水上村大字笠森 |
| 三二番 | 清水寺 | 音羽山 | 天台宗 | 同 | 夷隅郡中根村大字鴨根 |
| 三三番 | 那古寺 | 補陀落山 | 新義真言宗豐山派 | 同 | 安房郡那古町那古 |

涌き出る水の水をながめがはの淵に誓ひの船ぞうかべる。
音に聞く滑河寺のけきさが淵あみころもにてすくふなりけり。
法のため三界六道に華咲きて普賢門に匂ふ千葉寺。
ちばでらへまあるわが身したのもしや摩うつ波に船ぞ浮ぶる。
雲はれて阿彌を照す月影の光をこゝに仰ぐ高倉。
はるんと登りて拜む高倉やふちにつらうあさはなるらん。
日は暮るゝ雨は降り野に我ひとり斯る旅には頼む笠森。
日は暮るゝ雨は降り野に我ひとり斯る旅には頼む笠森。
濁る世に妙なる法の音羽山聞き來る人の心清水。
にこる雲ちひろの底はすみにけりきよ水寺にむすぶあかねけ。
補陀落は餘所にはあらじ那吳の寺岸うつ瀝も法の聲々。
説きおくも佛の誓ひ及擲を獲世もかけてあはの那吳寺。
補陀落は餘所にはあらじ那吳の寺岸うつ瀝も法の聲々。

(百觀音) 西國三十三所、坂東三十三所、秩父三十四所を合して百觀音と云ふ。

秩父三十四所

| 俗稱 | 山寺號 | 宗派 | 所在地 | 詠歌 |
|-------------|-----------|----------|---------------|---|
| 一 四萬部寺 | 講經山妙音寺 | 曹洞宗 | 埼玉縣秩父郡高藤村大字橋谷 | 有難や一巻ならぬ法の花敷は四萬部の寺のいにしへ。 めぐり来て頼なかけし六棚の誓ひもふかき谷川の水。 補陀落は岩本寺と拜むべし峯の松風ひびく鶴津瀨。 あらたかに参りて拜む觀世音二世安樂とたれも祈らん。 父母の墓も深きこかの堂大慈大悲の誓ひたのもし。 初秋に風吹むすお获の堂やごかりの世の夢ぞさめける。 六道なかれてめぐりて拜むべしまた後の世を聞くも牛伏。 たゞ頼め誠のまきは西善寺來りむかへん彌陀の三尊。 廻り来てその名を聞けば明智寺心の月ばくらさるらん。 ひたすらに頼なかけよ大悲寺六のちまたの苦にかはるべし。 罪咎もきえよと祈る坂永朝日はさよ夕日輝く。 老の身に苦しきものは野坂寺今思ひしれ後の世の道。 御手にもつはらすの藤のこりなく浮世の塵をはげの下寺。 昔より立つともしらす今宮に参る心や淨土なるらん。 みどり子の母そのもりの藏福寺父もるこもに誓ひたのもし。 西光寺誓ひを人に尋ればついのすみかは西こそききけ。 あらしを思ひ定めし林寺かれ聞あへす夢ぞ覺めける。 唯たのめ六則ともに大悲をば神門にたちてたすけたまへる。 天地を動すほどの龍石寺まある人には利生あるべし。 苦むしろしきてもとまれ岩の上玉の産もくちはつる身を。 梓弓いる矢の堂に詣て来て願ひし法にあたる婦しきさ。 極樂を此所に見初めて童子堂後の世までも頼もしきかな。 |
| 二 眞福寺 | 大欄山 | 曹洞宗 | 秩父郡高藤村大字山田 | |
| 三 岩本觀音堂 | 岩本山常泉寺 | 曹洞宗 | 秩父郡高藤村大字山田 | |
| 四 嘉木十一面堂 | 高谷山金昌寺 | 曹洞宗 | 秩父郡高藤村 | |
| 五 語歌堂 | 南清山長興寺 | 臨濟宗南禪寺派 | 秩父郡横瀬村 | |
| 六 荻堂觀音 | 向陽山ト雲寺 | 曹洞宗 | 秩父郡横瀬村 | |
| 七 牛伏觀音堂 | 青苔山法長寺 | 曹洞宗 | 秩父郡横瀬村 | |
| 八 西善寺 | 青苔山 | 臨濟宗南禪寺派 | 秩父郡横瀬村 | |
| 九 明智寺 | 明星山(長興寺内) | 臨濟宗南禪寺派 | 秩父郡横瀬村 | |
| 一〇 大慈寺 | 萬松山 | 曹洞宗 | 秩父郡横瀬村 | |
| 一一 坂水觀音堂 | 南石山常樂寺 | 天台宗 | 秩父郡秩父町 | |
| 一二 野坂寺 | 佛道山 | 臨濟宗南禪寺派 | 秩父郡秩父町 | |
| 一三 慈眼寺 | 旗下山 | 曹洞宗 | 秩父郡秩父町 | |
| 一四 今宮坊金剛寺 | 長岳山 | 曹洞宗 | 秩父郡秩父町 | |
| 一五 藏福寺 | 五葉山 | 同 | 秩父郡秩父町 | |
| 一六 西光寺 | 無量山 | 同 | 秩父郡秩父町 | |
| 一七 林寺 | 寶正山 | 同 | 秩父郡秩父町 | |
| 一八 神門不動寺 | 白道山 | 同 | 秩父郡秩父町 | |
| 一九 龍石寺 | 飛瀨山 | 曹洞宗 | 秩父郡秩父町 | |
| 二〇 岩上觀音堂 | 飛瀨山 | 曹洞宗 | 秩父郡尾田村大字寺尾 | |
| 二一 觀音寺(矢堂) | 要光山 | 新義真言宗豐山派 | 秩父郡尾田村大字寺尾 | |
| 二二 永福寺(童子堂) | 西陽山 | 新義真言宗豐山派 | 秩父郡尾田村大字寺尾 | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二 | 音 | 樂 | 寺 | 松 | 風 | 山 | 臨 | 所 | 在 | 地 | 詠 | 歌 | |
| 三 | 法 | 泉 | 寺 | 光 | 智 | 山 | 曹 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 音 |
| 四 | 久 | 那 | 岩 | 井 | 堂 | 岩 | 曹 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 天 |
| 五 | 圓 | 融 | 寺 | 萬 | 松 | 山 | 曹 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 水 |
| 六 | 大 | 淵 | 寺 | 龍 | 河 | 山 | 曹 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 上 |
| 七 | 橋 | 立 | 觀 | 音 | 堂 | 石 | 曹 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 霧 |
| 八 | 長 | 泉 | 寺 | 藤 | 月 | 山 | 曹 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 立 |
| 九 | 法 | 雲 | 寺 | 瑞 | 龍 | 山 | 曹 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 佛 |
| 一〇 | 觀 | 音 | 院 | 鷲 | 窟 | 山 | 曹 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 身 |
| 一一 | 法 | 性 | 寺 | 石 | 船 | 山 | 曹 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 自 |
| 一二 | 長 | 福 | 寺 | 延 | 命 | 山 | 曹 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 佛 |
| 一三 | 水 | 潛 | 寺 | 日 | 澤 | 山 | 曹 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 身 |
| 一四 | 水 | 潛 | 寺 | 日 | 澤 | 山 | 曹 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 自 |

四國八十八所靈場

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一 | 靈 | 山 | 寺 | 竺 | 和 | 山 | 古 | 所 | 在 | 地 | 詠 | 歌 | |
| 二 | 極 | 樂 | 寺 | 日 | 照 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 音 |
| 三 | 金 | 泉 | 寺 | 金 | 龜 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 水 |
| 四 | 大 | 日 | 寺 | 無 | 慮 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 上 |
| 五 | 地 | 藏 | 寺 | 無 | 慮 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 霧 |
| 六 | 瑞 | 運 | 寺 | 驛 | 路 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 立 |
| 七 | 十 | 樂 | 寺 | 光 | 明 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 佛 |
| 八 | 熊 | 谷 | 寺 | 普 | 明 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 身 |
| 九 | 法 | 輪 | 寺 | 正 | 覺 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 自 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一〇 | 切 | 幡 | 寺 | 得 | 度 | 山 | 古 | 所 | 在 | 地 | 詠 | 歌 | |
| 一一 | 藤 | 井 | 寺 | 金 | 剛 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 音 |
| 一二 | 燒 | 山 | 寺 | 摩 | 羅 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 水 |
| 一三 | 大 | 日 | 寺 | 大 | 栗 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 上 |
| 一四 | 常 | 樂 | 寺 | 盛 | 壽 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 霧 |
| 一五 | 國 | 分 | 寺 | 樂 | 王 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 立 |
| 一六 | 觀 | 音 | 寺 | 光 | 耀 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 佛 |
| 一七 | 井 | 戶 | 寺 | 瑞 | 瑞 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 身 |
| 一八 | 恩 | 山 | 寺 | 瑞 | 瑞 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 自 |
| 一九 | 立 | 江 | 寺 | 橋 | 池 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 音 |
| 二〇 | 鶴 | 林 | 寺 | 寶 | 鷺 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 水 |
| 二一 | 大 | 龍 | 寺 | 捨 | 心 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 上 |
| 二二 | 平 | 等 | 寺 | 白 | 水 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 霧 |
| 二三 | 藥 | 王 | 寺 | 醫 | 王 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 立 |
| 二四 | 最 | 御 | 寺 | 室 | 王 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 佛 |
| 二五 | 津 | 照 | 寺 | 寶 | 珠 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 身 |
| 二六 | 金 | 剛 | 寺 | 龍 | 頭 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 自 |
| 二七 | 神 | 峯 | 寺 | 竹 | 林 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 音 |
| 二八 | 大 | 日 | 寺 | 法 | 界 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 水 |
| 二九 | 國 | 分 | 寺 | 摩 | 尼 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 上 |
| 三〇 | 安 | 樂 | 寺 | 摩 | 尼 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 霧 |
| 三一 | 竹 | 林 | 寺 | 百 | 々 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 立 |
| 三二 | 禪 | 師 | 寺 | 八 | 葉 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 佛 |
| 三三 | 雪 | 巖 | 寺 | 小 | 林 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 身 |
| 三四 | 種 | 間 | 寺 | 本 | 尼 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 自 |
| 三五 | 清 | 瀧 | 寺 | 醫 | 王 | 山 | 古 | 同 | 秩 | 父 | 郡 | 久 | 音 |

| | | | | | |
|-----|------|------|----------|---|---------------|
| 三六番 | 青龍寺 | 天養真山 | 古義真言宗 | 同 | 高岡郡宇佐町龍 |
| 三七番 | 岩本寺 | 密教山 | 真言宗東派 | 同 | 高岡郡窪川町窪川 |
| 三八番 | 金剛福寺 | 石鏡山 | 古義真言宗 | 同 | 輪多郡清水町伊佐 |
| 三九番 | 延光寺 | 赤龜山 | 新義真言宗豐山派 | 同 | 輪多郡平田村大字中山 |
| 四〇番 | 觀自在寺 | 赤龜山 | 新義真言宗豐山派 | 同 | 輪多郡平田村大字中山 |
| 四一番 | 龍光寺 | 赤龜山 | 古義真言宗 | 同 | 愛媛縣南宇和郡御莊町平城 |
| 四二番 | 佛木寺 | 赤龜山 | 古義真言宗 | 同 | 北宇和郡成妙村大字戸雁 |
| 四三番 | 明石寺 | 赤龜山 | 太古宗寺門派 | 同 | 北宇和郡成妙村大字則 |
| 四四番 | 大寶寺 | 赤龜山 | 新義真言宗豐山派 | 同 | 東宇和郡田之筋村大字明石 |
| 四五番 | 岩屋寺 | 赤龜山 | 新義真言宗豐山派 | 同 | 上浮穴郡久万町菅生 |
| 四六番 | 淨瑠璃寺 | 赤龜山 | 新義真言宗豐山派 | 同 | 上浮穴郡住七川村大字七島 |
| 四七番 | 八坂寺 | 赤龜山 | 真言宗醍醐派 | 同 | 温泉郡坂本村大字淨瑠璃寺 |
| 四八番 | 西林寺 | 赤龜山 | 新義真言宗豐山派 | 同 | 温泉郡坂本村大字淨瑠璃寺 |
| 四九番 | 淨土寺 | 赤龜山 | 新義真言宗豐山派 | 同 | 温泉郡久米村大字高井 |
| 五〇番 | 繁多寺 | 赤龜山 | 新義真言宗豐山派 | 同 | 温泉郡久米村大字高井 |
| 五一番 | 石手寺 | 赤龜山 | 新義真言宗豐山派 | 同 | 温泉郡桑原村大字如寺 |
| 五二番 | 太山寺 | 赤龜山 | 新義真言宗豐山派 | 同 | 温泉郡道後湯ノ町石手 |
| 五三番 | 圓明寺 | 赤龜山 | 新義真言宗豐山派 | 同 | 温泉郡和氣村大字大山寺 |
| 五四番 | 延明寺 | 赤龜山 | 新義真言宗豐山派 | 同 | 温泉郡和氣村大字和氣濱 |
| 五五番 | 南光坊 | 赤龜山 | 古義真言宗 | 同 | 今治市 |
| 五六番 | 泰山寺 | 赤龜山 | 真言宗醍醐派 | 同 | 愛媛縣越智郡日高村大字小泉 |
| 五七番 | 榮福寺 | 赤龜山 | 古義真言宗 | 同 | 越智郡清水村大字五十嵐 |
| 五八番 | 仙遊寺 | 赤龜山 | 古義真言宗 | 同 | 越智郡鴨部村大字別所 |
| 五九番 | 國分寺 | 赤龜山 | 真言律宗 | 同 | 越智郡櫻井町國分 |
| 六〇番 | 橫峯寺 | 赤龜山 | 古義真言宗 | 同 | 周桑郡千足山村 |
| 六一番 | 香園寺 | 赤龜山 | 古義真言宗 | 同 | 周桑郡小松町南川 |

わづかなる泉にすめる青龍は佛法守護のちかひこそ聞く。
六つの塵五つの社あらはして深きにあたの神のたのしみ。
浮陀落やこいばみさきの舟のさほさるもすつるも法のまた山。
南無薬師諸病悉除の願こめて参る我身を助けまじませ。
心願や自在のほるに花咲きてうき世道れてすむや散も。
このかみは三國流布の密教を守りたまはらんちかひこそ聞く。
草も木も佛に成れる佛木寺なほたのもしき鬼畜人天。
聞くならく千手不思議の力には大磐石もかろくあげいし。
今の世は大悲のめぐみすがふさんつひには彌陀の誓をぞ待つ。
大聖の祈るちからの實に岩屋石の中にも極樂ぞある。
極樂の淨瑠璃世界たぐらべは受くるくわうくは報ならまし。
花を見て歌よむ人は八坂でら微佛業のえんこそ聞け。
彌陀佛の世界を尋ね聞きたくは西のはやし寺へ参れよ。
十羅の我身をすてすそのまに淨土の寺へ参りこそすれ。
よろづよの繁多なるこそ思ふす諸病なかれと望み祈れよ。
西方をよそは見え安養の寺へ参りて受くる十樂。
たいさんへ登れば汗のいでけれど後の世思へば何の苦もなし。
來迎の彌陀のひかりの圓明寺てりそふ影は夜な月の。
くもりなき鏡の縁とながむればのこさす影を映すものかな。
このころ見しまに夢のさめぬれば別宮とてもおなじ遊跡。
みな人の参りてやがてたいさん寺來世の引導頼みおきつ。
この世には弓矢を守るやばたなり來世は人を救ふみだ佛。
たよりて作禮のみ堂に休みつ、六字を唱へ經をよむべし。
守護のためたて、崇むる國分寺いよ、一、惠む藥師なりけり。
たて横に峰や山邊にてら建て、あまれく人を救ふものかな。
後の世をおもる、人はかうをん寺とめてまらぬ白龍の糸。

| | | | | | |
|-----|------|--------|---------|---|-------------|
| 六二番 | 寶壽寺 | 天養真山 | 古義真言宗 | 同 | 周桑郡小松町新屋敷 |
| 六三番 | 吉祥寺 | 密教山 | 真言宗東派 | 同 | 新居郡水見町 |
| 六四番 | 前神寺 | 石鏡山 | 古義真言宗 | 同 | 新居郡神戶村大字洲ノ内 |
| 六五番 | 三角寺 | 石鏡山 | 古義真言宗 | 同 | 宇摩郡金田村大字三角寺 |
| 六六番 | 雲邊寺 | 石鏡山 | 古義真言宗 | 同 | 徳島縣三好郡佐馬地村 |
| 六七番 | 大興寺 | 小松尾山 | 古義真言宗 | 同 | 香川縣三豊郡辻村 |
| 六八番 | 琴彈八幡 | (觀音寺内) | 古義真言宗 | 同 | 三豊郡觀音寺町 |
| 六九番 | 觀音寺 | 七寶山 | 古義真言宗 | 同 | 三豊郡觀音寺町 |
| 七〇番 | 本山寺 | 七寶山 | 古義真言宗 | 同 | 三豊郡本山村大字寺家 |
| 七一番 | 彌谷寺 | 七寶山 | 真言宗善通寺派 | 同 | 三豊郡大見村 |
| 七二番 | 曼茶羅寺 | 我拜師山 | 真言宗善通寺派 | 同 | 仲多度郡吉原村 |
| 七三番 | 出釋迦寺 | 我拜師山 | 真言宗善通寺派 | 同 | 仲多度郡吉原村大字吉原 |
| 七四番 | 甲山寺 | 我拜師山 | 真言宗善通寺派 | 同 | 仲多度郡兼岡村大字弘田 |
| 七五番 | 善通寺 | 五岳山 | 真言宗善通寺派 | 同 | 仲多度郡兼岡村大字弘田 |
| 七六番 | 金倉寺 | 五岳山 | 真言宗善通寺派 | 同 | 仲多度郡兼岡村大字弘田 |
| 七七番 | 道隆寺 | 桑田山 | 天台宗寺門派 | 同 | 仲多度郡兼岡村大字弘田 |
| 七八番 | 郷照寺 | 佛光山 | 古義真言宗 | 同 | 仲多度郡兼岡村大字北鴨 |
| 七九番 | 高照院 | 佛光山 | 古義真言宗 | 同 | 綾歌郡宇津町 |
| 八〇番 | 國分寺 | 牛花山 | 古義真言宗 | 同 | 綾歌郡西庄村 |
| 八一番 | 白峯寺 | 綾松山 | 古義真言宗 | 同 | 綾歌郡兼岡村大字國分 |
| 八二番 | 根香寺 | 青峯山 | 天台宗寺門派 | 同 | 綾歌郡松山村大字青海 |
| 八三番 | 大寶院 | 神峯山 | 天台宗寺門派 | 同 | 香川郡下笠井村大字中山 |
| 八四番 | 屋島寺 | 南面山 | 古義真言宗 | 同 | 香川郡一宮村大字一宮 |
| 八五番 | 八栗寺 | 五劍山 | 古義真言宗 | 同 | 木田郡屋島村 |
| 八六番 | 志度寺 | 補陀山 | 古義真言宗 | 同 | 木田郡幸禮村大字幸禮 |
| 八七番 | 長尾寺 | 補陀山 | 天台宗寺門派 | 同 | 大川郡志度町志度 |
| 八八番 | 大窪寺 | 醫王山 | 古義真言宗 | 同 | 大川郡長尾町長尾西 |

さみだれの音に出でたる玉の井は白龍なるや一の宮かは。
みの中のあしきひぼうを打捨て、みな吉祥を望み祈れよ。
前は神うしろは佛ごらくのよろづの罪をくだく石づら。
怖ろしや三つの角にもなるならば心をまろく彌陀を念ぜよ。
はるく、雲のほのぼのの寺に來て月日を今はふもごに見る。
植えおきし、まつを寺をながむれば法の教の風が吹きぬる。
首の音も松も風も、こびくも歌ふも舞ふも法のひこく。
觀音の大悲の力つよければ重き罪をもひきあげてたべ。
も山にたれが植えける花なれや春、こそ手折れ手向にぞなる。
聖人さ行きつれなんもいやたに唯かりそめの善き友ぞよき。
わづかにも曼茶羅拜む人はたゞ二たび三度かへらざらまし。
迷ひぬる六道衆生救はんさたふさき山に出づる釋迦でら。
十二神みかたに持てる軍にはおのれさ、ころ甲山かな。
我すまば世も消え果てじ善通寺深き誓の法のこもし火。
誠にもしんぶつさを聞ければ真言加持の不思議なりけり。
れがひをば佛道隆に入り果て、菩提の月を見くまほしきに。
踊りばれ念佛申す道場寺拍手をそろへ、鉦をうつなり。
じやらくの浮世の中を尋ねべし天皇さへぞさすらへぞする。
國を分け野山をしのぎ寺々にまゐれる人を助けまじませ。
霜さむく露しらすたへの寺のうら御名を唱ふる法のこんん。
背のまのたへふる霜の消えぬればあそこそ鉦の動行のこえ。
さぬき一の宮の御前にあふき來て神の心を誰かしらゆふ。
あづさ弓屋島のみやに詣てつ、祈をかけて勇むものいふ。
煩惱を胸の智火にてやくりをば修行者ならで誰か知るべき。
いざさらば今宵はこゝに志度の寺のりの聲を耳に觸れつ。
あし曳の山島の尾のなが尾寺秋の夜すがら彌陀を唱へよ。
南無薬師諸病なかれと願ひつゝまゐれる人はおほくばの寺。

| 寺 | 號 | 所 | 在 | 地 | 詠 | 歌 |
|----|-------|------------------------|---|---|-------------------------------|---|
| 一 | 誕生寺 | 岡山縣久米郡福河村 | | | 二體の天降ます椋の水は代々に朽ちせぬ法師の跡。 | |
| 二 | 法然寺 | 香川縣香川郡佛生山町 | | | おぼつかぬ誰かひひけん小松を雲を支ふる高松の枝。 | |
| 三 | 十來院 | 兵庫縣加古郡高砂町 | | | うまれてはまつ思ひ出んふるさくに契りしもの深きまことを。 | |
| 四 | 如來堂 | 尼ヶ崎市別所村 | | | 身と口と心の外の彌陀なれば我をばなれて稱へこそすれ。 | |
| 五 | 念佛堂 | 大阪府三島郡豐川村大字東生(佛尾寺内) | | | 柴の戸に明け暮かゝる白雲をいつ紫の色に見なさむ。 | |
| 六 | 一心堂 | 大坂市天王寺區元町(四天王寺内) | | | 阿彌陀佛と西に心は空蟬のもゆけ果てたる聲ぞすしき。 | |
| 七 | 報恩講寺 | 同 天王寺區逢坂上之町 | | | 阿彌陀佛といふより外は津の國のなにはのこもあしかりぬべし。 | |
| 八 | 往生院 | 和歌山縣海草郡加太町大川 | | | 阿彌陀佛とまうすばかりなつとめにて淨土の莊嚴見るぞ嬉しき。 | |
| 九 | 法然院 | 奈良縣北葛城郡當麻村大字當麻(當麻寺奥ノ院) | | | 香久山や麓の寺は狭けれどたかき御法を説きひろめむ。 | |
| 一〇 | 龍松院 | 奈良市鐘司町(東大寺内) | | | やはらぐる神の光のかげみちて秋に變らぬみじか夜の月。 | |
| 一一 | 欣淨寺 | 宇治山田市使町 | | | 清水の浦へ參れば自ら現世安穩後生極樂。 | |
| 一二 | 瀧山寺 | 京都市東山区清水一丁目(清水寺内) | | | 千歳ふる小松のもを住かにて無量壽佛の迎へをぞ待つ。 | |
| 一三 | 正林寺 | 同 東山区渡邊通東大路東入 | | | 一聲も雨無阿彌陀佛といふ人の蓮臺の上ののぼらぬはなし。 | |
| 一四 | 光源寺 | 京都市右京區嵯峨二尊院門前長神町 | | | 露の身はこゝかしこにて消えぬとも心は同じ花の露ぞ。 | |
| 一五 | 月光寺 | 京都市右京區嵯峨清涼月輪町 | | | 足曳の山鳥の尾のしだりをながくし世を斬る此の寺。 | |
| 一六 | 二月輪寺 | 同 右京區嵯峨清涼月輪町 | | | 月影のいたらぬ里はなけれどもながむる人の心にぞ澄む。 | |
| 一七 | 法然寺 | 同 中京區寺町通鏡小路南入 | | | たゞたのめよるづの罪は深くともわが本願のあらんかざりば。 | |
| 一八 | 警願寺 | 同 中京區新京極橋ノ町 | | | 極樂はるける程と聞きしかどつとめて至る所なりける。 | |
| 一九 | 勝林寺 | 京都市左京區大原村大字大原 | | | 阿彌陀佛にそむる心の色に出れば秋の楡のたぐひならまし。 | |
| 二〇 | 知恩寺 | 京都市左京區田中門前町 | | | われはたゞ佛にいつかあふひ草心につまにかげぬ日ぞなき。 | |
| 二一 | 清淨院 | 同 上京區寺町通清和院口上ル | | | 雪のうちに佛の御名を稱ふれば積る罪もやがて消えぬる。 | |
| 二二 | 金戒光明院 | 同 左京區黒谷町 | | | 池の水人の心に似たりけり濁り澄むこそ定めなければ。 | |
| 二四 | 知恩院 | 同 東山区新橋通東大路東入 | | | 草も木も枯れたる野邊に唯だひさり松のみ残る彌陀の本願。 | |

眞宗二十四輩

| 寺 | 號 | 所 | 在 | 地 |
|----|------|-----------------|---|---|
| 一 | 報恩寺 | 富山縣西礪波郡戸出町 | | |
| 二 | 稱名寺 | 茨城縣結城郡結城町結城 | | |
| 三 | 無量壽寺 | 同 鹿島郡巴村大字富田 | | |
| 四 | 安養寺 | 宇都宮市西原町 | | |
| 五 | 弘徳寺 | 神奈川縣愛甲郡小鮎村大字飯山 | | |
| 六 | 願手寺 | 茨城縣結城郡岡田村 | | |
| 七 | 宗願寺 | 同 猿島郡古河村町古河 | | |
| 八 | 青蓮寺 | 同 久慈郡山田村大字東連地 | | |
| 九 | 長命寺 | 長野縣上水内郡朝陽村大字南堀 | | |
| 一〇 | 善證寺 | 秋田縣仙北郡六郷町 | | |
| 一一 | 稱念寺 | 仙臺市新坂通 | | |
| 一二 | 善徳寺 | 茨城縣那珂縣總郷村大字鷺子 | | |
| 一三 | 慈願寺 | 栃木縣那須郡烏山町 | | |
| 一四 | 觀專寺 | 宇都宮市西原町 | | |
| 一五 | 稱福寺 | 滋賀縣伊香郡水原村 | | |
| 一六 | 壽命寺 | 茨城縣那珂郡野口村大字野口 | | |
| 一七 | 康善寺 | 福島市西裏三丁目 | | |
| 一八 | 法得寺 | 栃木縣下都賀郡野木村大字佐川野 | | |

| 寺 | 號 | 所 | 在 | 地 |
|----|------|-----------------|---|---|
| 一 | 報恩寺 | 東京市淺草區北清島町 | | |
| 二 | 光照寺 | 茨城縣西茨城郡笠間町 | | |
| 三 | 無量壽寺 | 同 鹿島郡巴村大字鳥栖 | | |
| 四 | 如來寺 | 同 新治郡神岡町 | | |
| 五 | 弘徳寺 | 同 結城郡安積村大字新地 | | |
| 六 | 妙安寺 | 前橋市立川町 | | |
| 七 | 西念寺 | 茨城縣猿島郡岩井町邊田 | | |
| 八 | 蓮生寺 | 福島縣東白川郡棚倉町 | | |
| 九 | 東弘寺 | 茨城縣結城郡石下町大房 | | |
| 一〇 | 本誓寺 | 岩手縣巖手郡米内村 | | |
| 一一 | 無爲信寺 | 新潟縣北蒲原郡水原町下條 | | |
| 一二 | 善重寺 | 茨城縣東茨城郡酒門村大字酒門 | | |
| 一三 | 慈願寺 | 栃木縣那須郡烏山町 | | |
| 一四 | 阿彌陀寺 | 茨城縣那珂郡額田村大字額田南郷 | | |
| 一五 | 枕石寺 | 同 久慈郡幸久村大字上河合 | | |
| 一六 | 妙安寺 | 同 猿島郡森戸村大字一ノ谷 | | |
| 一七 | 照願寺 | 同 那珂郡總郷村大字鷺子 | | |
| 一八 | 常福寺 | 同 筑波郡大穂村大字大曾根 | | |

| | | | |
|------------|----------------|------------|----------------|
| 一九番 上宮寺 | 茨城縣那珂郡神崎村大字本米崎 | 一九番 法專寺 | 同 那珂郡玉川村大字東野 |
| 二〇番 常弘寺 | 同 那珂郡靜村大字石澤 | 二〇番 本誓寺 | 長野縣埴科郡松代町 |
| 二一番 淨光寺 | 同 那珂郡湊町 | 二一番 眞光寺 | 秋田縣仙北郡六郷町 |
| 二二番 長專寺 | 東京市京橋區築地 | 二二番 唯信寺 | 同 西茨城郡茨戸町太田町 |
| 二三番 信願寺 | 水戸市常磐町河和田横町 | 二三番 長稱寺 | 同 松本市上横田町 |
| 二四番 願照寺 | 愛知縣碧海郡長瀬村 | 二四番 西光寺 | 茨城縣久慈郡佐竹村大字谷河原 |

眞宗關東七箇寺

| | | | |
|---------|---------------|---------|-----------------|
| 勝願寺(大派) | 茨城縣猿島郡香取村大字磯部 | 善福寺(本派) | 東京市麻布區本行町 |
| 稱名寺(本派) | 同 結城郡結城町結城 | 永勝寺(大派) | 神奈川縣鎌倉郡豊田村大字下倉田 |
| 光明寺(大派) | 同 眞壁郡下妻町下妻 | 福專寺(本派) | 千葉縣東葛飾郡二川村 |
| 三月寺(大派) | 同 結城郡總上村大字小島 | | |

洛陽四十八願所

| | | | |
|-----|----------------|-----|---------------|
| 聖德寺 | 京都市中京區綾小路通大宮西入 | 西方寺 | 同 上京區今出川通大宮西入 |
| 休務寺 | 同 中京區錦小路通大宮西入 | 大超寺 | 同 上京區千本通一條北入 |
| 淨篤院 | 同 上京區下立賣通七本松西入 | 淨福寺 | 同 上京區淨福寺通一條北入 |
| 東光寺 | 同 上京區御前通一條南入 | 石像寺 | 同 上京區千本通上立賣北入 |

| | | | |
|-------|----------------|------|--|
| 無量寺 | 同 上京區寺ノ内通千本西入 | 西彌陀寺 | 同 東山區松原通大和大路東入 |
| 稱念寺 | 同 上京區寺ノ内通淨福寺西入 | 阿彌陀寺 | (廢滅す) |
| 超勝寺 | 同 上京區大宮通寺ノ内北入 | 本覺寺 | 同 下京區下寺町通五條南入 |
| 報恩寺 | 同 上京區上立賣通小川西入 | 上德寺 | 同 下京區下寺町通五條南入 |
| 寶慈院 | 同 上京區新町通寺ノ内北入 | 遠光寺 | 同 下京區下寺町通市姫南入 |
| 西園寺 | 同 上京區寺町通鞍馬口南入 | 長講堂 | 同 下京區下寺町通五條南入 |
| 光明寺 | 同 上京區寺町通今出川北入 | 延壽寺 | 同 下京區下寺町通五條南入 |
| 阿彌陀寺 | 同 上京區寺町通今出川北入 | 金運寺 | 同 上京區鷹ヶ峰東林町 |
| 佛陀寺 | 同 上京區寺町通今出川北入 | 長伯寺 | (元因幡樂師附近にありしも廢滅す) |
| 眞如堂 | 同 左京區淨土寺眞如町 | 乘願寺 | 同 下京區寺町通高辻北入 |
| 清淨華院 | 同 上京區寺町通清知院口上ル | 空也寺 | 同 下京區寺町通佛光寺南入 |
| 救安寺 | 同 左京區東大路通仁王門北入 | 淨教寺 | 同 中京區寺町通綾小路北入 |
| 大恩寺 | 同 左京區仁王門通東大路角 | 大雲院 | 同 中京區寺町通綾小路北入 |
| 長德寺 | 同 左京區東大路通二條南入 | 了運寺 | 同 中京區寺町通四條南入 |
| 知恩寺 | (廢滅す) | 安養寺 | 同 左京區田中門前町 |
| 金戒光明寺 | 同 左京區田中門前町 | 圓福寺 | 同 中京區新京極通錦小路北入 |
| 禪林寺 | 同 左京區黒谷町 | 警願寺 | (元中京區新京極東側町にありしが明治十六年三河の妙心寺と寺號を交換し同地に移る) |
| 金剛寺 | 同 左京區永觀堂町 | | 同 中京區新京極標ノ町 |
| 知恩院 | 同 左京區三條通白川橋東入 | | |
| 一心院 | 同 東山區新橋通東大路東入 | | |
| 正法寺 | 同 東山區新橋通東大路東入 | | |
| | 同 東山區今熊野町 | | |

洛陽日蓮宗十六本山

| | | | |
|-----|------------------|-----|----------------|
| 寺號 | 所在 | 寺號 | 所在 |
| 本圓寺 | 京都市下京區五條通堀川南入 | 本禪寺 | 同 上京區寺町通廣小路上ル |
| 立本寺 | 同 上京區仁和寺街道七本松東入 | 妙滿寺 | 同 中京區寺町通二條下ル |
| 本隆寺 | 同 上京區智恵光院通五辻上ル西入 | 頂能寺 | 同 中京區寺町通御池下ル |
| 瑞龍寺 | 同 上京區西堀川通元誓願寺上ル | 寂妙寺 | 同 左京區仁王門通川端東入 |
| 妙速寺 | 同 上京區寺之内通大宮東入 | 妙泉寺 | 同 左京區仁王門通新高倉東入 |
| 妙顯寺 | 同 上京區寺之内通新町西入 | 要法寺 | 同 左京區仁王門通新高倉東入 |
| 妙覺寺 | 同 上京區新町通御靈前上ル | 妙傳寺 | 同 左京區孫橋通新高倉 |
| 本法寺 | 同 上京區小川通御靈前下ル | | |
| 本滿寺 | 同 上京區寺町通今出川上ル | | |

洛陽七觀音

| | | | |
|-----|------------------|-------|---------------|
| 寺號 | 所在 | 寺號 | 所在 |
| 華崎堂 | 京都市中京區寺町通竹屋町 | 六波羅蜜寺 | 同 東山區松原通大和路東入 |
| 河崎堂 | 同 上京區一條通七本松東入 | 六角堂 | 同 中京區六角通鳥丸東入 |
| 吉田寺 | (近世金戒光明寺内に本尊を移す) | 三十三間堂 | 同 東山區三十三間堂廻 |
| 清水寺 | 同 東山區清水一丁目 | | |

洛陽六地藏

| | | | |
|-----|----------------|-----|--------------|
| 寺號 | 所在 | 寺號 | 所在 |
| 大善寺 | 京都市伏見區桃山町東町 | 淨禪寺 | 同 下京區上鳥羽岩ノ本町 |
| 上善寺 | 同 上京區鞍馬口通寺町東入 | 地藏堂 | 同 右京區桂春日町 |
| 德林庵 | 同 東山區山科町四ノ宮泉水町 | 源光庵 | 同 右京區太秦馬塚町 |

東都六地藏

| | | | |
|-----|-------------|-----|-------------|
| 寺號 | 所在 | 寺號 | 所在 |
| 瑞泰寺 | 京都市本郷區駒込蓬萊町 | 心行寺 | 同 下谷區池端七軒町 |
| 專念寺 | 同 本郷區駒込千駄木町 | 地藏寺 | 同 下谷區上野慈眼堂内 |
| 淨光寺 | 同 荒川區日暮里町 | 正智院 | 同 淺草區淺草寺雷門内 |

東都鑄銅六地藏

| | | | |
|-----|------------|------|------------|
| 寺號 | 所在 | 寺號 | 所在 |
| 品川寺 | 京都市品川區南品川町 | 靈巖寺 | 同 深川區靈岸町 |
| 東禪寺 | 同 淺草區榮久町 | 淨名院 | 同 下谷區上野山内 |
| 眞性寺 | 同 豊島區巢鴨町 | 大正宗寺 | 同 四谷區新宿二丁目 |

東都五色不動

| 寺號 | 所在 | 寺號 | 所在 |
|------|-----------------|------|------------------|
| 目青不動 | 東京市世田谷區世田谷町教學院內 | 目白不動 | 同 小石川區關口駒井町新長谷寺內 |
| 目黃不動 | 同 下谷區三之輪町永久寺內 | 目黒不動 | 同 目黒區下目黒三丁目瀧泉寺內 |
| 目赤不動 | 同 本地區駒込淺嘉町南谷寺內 | | |

南都七大寺

| 寺號 | 所在 | 寺號 | 所在 |
|-----|-----------------|-----|-----------------------------------|
| 東大寺 | 奈良市雜司町 | 藥師寺 | 同 生駒郡都跡村大字西ノ京 |
| 興福寺 | 同 登大路町 | 西大寺 | 同 生駒郡伏見村大字西大寺 |
| 元興寺 | 同 芝新屋町 | 法隆寺 | 同 生駒郡法隆寺村大字法隆寺 |
| 大安寺 | 奈良縣添上郡大安寺村大字大安寺 | | 尙ほ此の外に弘興寺、四天王寺、崇福寺の三箇寺を加へ南都十大寺と稱す |

五山十刹 (京都、鎌倉)

| 山號 | 寺號 | 所在 | 山號 | 寺號 | 所在 |
|-------|-----|----------------|-------|-----|-----------------|
| 上 瑞龍山 | 南禪寺 | 京都市左京區南禪寺顯地町 | 四 慧日山 | 東福寺 | 同 東山區本町十五丁目 |
| 一 靈龜山 | 天龍寺 | 同 右京區嵯峨天龍寺芒馬場町 | 五 九重山 | 萬壽寺 | 同 東山區本町十五丁目 |
| 二 萬年山 | 相國寺 | 同 上京區相國寺門前町 | 一 鳳凰山 | 等持寺 | (元三條坊門にありしも廢滅す) |
| 三 東山 | 建仁寺 | 同 東山區大和大道通四條下丸 | | | |

東都六阿彌陀

| 寺號 | 所在 | 寺號 | 所在 |
|-----|------------|-----|-------------|
| 西福寺 | 東京市王子區王子町 | 興樂寺 | 同 瀧野川區田畑町 |
| 惠明寺 | 同 足立區下沼田町 | 常樂院 | 同 下谷區上野廣小路町 |
| 無量寺 | 同 瀧野川區西ヶ原町 | 常光寺 | 同 城東區龜戸町 |

| 寺號 | 所在 | 寺號 | 所在 |
|-------|-----|--------|---------------|
| 二 靈龜山 | 臨川寺 | 四 金峯山 | 淨智寺 |
| 三 萬年山 | 具如寺 | 五 稻荷山 | 淨妙寺 |
| 四 神龜山 | 安國寺 | | 同 鎌倉郡小坂村大字山ノ内 |
| 五 覺雄山 | 寶幢寺 | 一 福源山 | 禪興寺 |
| 六 凌雲山 | 普門寺 | 二 錦屏山 | 瑞泉寺 |
| 七 大明山 | 廣覺寺 | 三 青龍山 | 東勝寺 |
| 八 正覺山 | 妙光寺 | 四 乾明山 | 萬壽寺 |
| 九 龍寶山 | 大德寺 | 五 靈桐山 | 東漸寺 |
| 十 瑞鳳山 | 龍翔寺 | 六 海雲山 | 萬福寺 |
| 一 巨福山 | 建長寺 | 七 龜松山 | 大慶寺 |
| 二 瑞鹿山 | 圓覺寺 | 八 功臣山 | 興聖寺 |
| 三 萬壽山 | 壽福寺 | 九 竹園山 | 法泉寺 |
| | | 十 世良田山 | 長樂寺 |